Syllabus
シラバス

２０２４年度

Nagasaki
University
School
of
Dentistry

長崎大学歯学部

歯学部の授業内容は歯科大学学長・歯学部長会議で定めた「歯科医学教授要綱」にそって行われており、さらに授業方法は担当教員一人ひとりの創意、工夫に委ねられている。したがって、それぞれの科目の授業の特色を知って出席することが、授業を実り多いものにするのに欠かせない。

「シラバス」syllabus（授業計画書）とは、学生諸君が初めて出会う授業に戸惑わないよう、その内容や方法をあらかじめ伝え、一方通行ではない、大学らしい授業を行うために各担当者により執筆されたガイドブックである。

ここに盛られているのは、授業の概要及び位置づけ、授業の到達目標、授業の方法、教科書と参考書、成績評価の方法、注意事項、それに順を追った授業計画である。「シラバス」に目を通すことによって、担当教員がこの授業によって何を伝えようとしているのか、どういう進め方をするのか、学生に何を準備して授業に参加してほしいと期待しているかがわかるはずである。授業を受ける前に熟読すれば、効果的な予習の役に立ち、また復習や試験勉強の格好のガイドにもなる。教員の要求する準備をして授業に臨めば、共通のベースに立脚した質疑応答が活発に行われ、双方向的な授業の展開が可能になるだろう。

さらに、全学的な授業評価アンケートも実施しているので、学生側からの意思表示もより明確にできると考える。

なお、臨床実習を開始するに十分な知識の有無を問う共用試験（CBT・OSCE）は、教育ガイドラインである歯学教育モデル・コア・カリキュラムに対応し実施されている。

臨床実習に関しては、別に用意した詳細な「臨床開始前実習の手引」及び「臨床実習の手引」が「シラバス」に相当するので、本冊子には含まれていない。

授業を受けるにあたって、該当科目の「シラバス」を十分に活用し、下記の歯学部の理念を念頭に、教育目標を達成してほしい。

歯学部の理念

基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を修得し、今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓くとともに社会に信頼される歯科医師および研究者を養成する。

歯学部の教育目標

(1)　責任感、社会性を持ち、歯科医師としての倫理観と豊かな人間性を身につけている。
(2)　コミュニケーション能力と協調性を身につけている。
(3)　生命科学へのリサーチマインドを身につけている。
(4)　離島等の地域歯科医療について、保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる。
(5)　先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけている。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、各授業の担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談ください。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

（TEL）095-819-2006　（E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp

歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版） 概要

○学生が卒業時までに身に付けておくべき、必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
○学生の学修時間数の6割程度を目安としたもの
○「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

【各大学のアドミッション・ポリシー】　【各大学のカリキュラム・ポリシー】　【各大学のディプロマ・ポリシー】

多様なニーズに対応できる歯科医師の養成

A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力

- 医学知識と問題対応能力
- 診療技能と患者ケア
- コミュニケーション能力
- チーム医療の実践
- プロフェッショナリズム
- 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- 科学的探究
- 社会における医療の実践
- 医療の質と安全の管理

B 社会と歯学

- 健康の概念
- 予防と健康管理
- 健康と社会、環境
- 疫学・保健医療統計

C 生命科学

- 基礎自然科学
- 生命の分子的基盤
- 人体の構造と機能
- 感染と免疫
- 病因と病態
- 生体と薬物

D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）

- 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途
- 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法

E 臨床歯学

- 診療の基本
- 口腔・顎顔面領域の常態と疾患
- 歯と歯周組織の常態と疾患
- 矯正歯科・小児歯科治療
- 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患
- 医師と連携するために必要な医学的知識

F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））

- 診療の基本
- 基本的診察法
- 基本的臨床技能

G 診療参加型臨床実習

- 診療の基本
- 基本的診察法
- 基本的臨床技能
- チーム医療・地域医療
- 患者中心の医療
- （別表）臨床実習の内容と分類

診療参加型臨床実習開始前の「共用試験」CBT（知識）及びOSCE（技能・態度）

診療参加型臨床実習終了時の技能・態度評価

各大学の特色ある独自のカリキュラム（学生の学修時間数の4割程度）
※ 各大学が教育理念に基づいて設置する独自の教育内容（学生が自主的に選択できるプログラムを含む）

歯科医師法に基づく歯科医師国家試験（知識）

医学/歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの。
- 初版は平成13年3月に策定。医療を取り囲む環境変化に伴い改訂（平成19年度、22年度、28年度）。
- 学生が**卒業時までに身に付けておくべき必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）**に関する学修目標を**明確化。**
- 学生の学修時間数の**医学:3分の2程度、歯学:6割程度**を目安としたもの （残りは各大学の特色ある独自のカリキュラムを実施）。

キャッチフレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

人口減地域の増加

新興感染症・災害リスクの増大

高齢化率の上昇

新規科学技術の台頭

「医師/歯科医師に求められる基本的な資質・能力」を共通化（赤字は新設）

- PR. プロフェッショナリズム
- **GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢**
- LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- RE. 科学的探究
- PS. 専門知識に基づいた問題解決能力
- **IT. 情報・科学技術を活かす能力**
- CS. 患者ケアのための診療技能
- CM. コミュニケーション能力
- IP. 多職種連携能力
- SO. 社会における医療の役割の理解

令和６年度歯学部行事予定表

ー　前　期　ー

学年開始	４月　１日（月）
入学式	４月　２日（火）
新入生学部オリエンテーション	４月　３日（水）
授業開始（１年）	４月　８日（月）
授業開始（２～６年）	４月　１日（月）
臨床開始前実習（５年）	５月　７日（火）～１０月３日（木）
ＣＢＴ（５年）	６月１４日（金）
ＯＳＣＥ（５年）	７月２０日（土）
定期試験時間割発表	７月１０日（水）
授業終了（１年）	７月２９日（月）
授業終了（２～４年）	７月２２日（月）
授業終了（５年）	７月１９日（金）
定期試験期間（１年）	８月　５日（月）～　６日（火）
定期試験期間（２～４年）	７月２３日（火）～２９日（月）
定期試験期間（５年）	８月１６日（金）～２２日（木）
夏季休業（１年）	８月　７日（水）～　９月２７日（金）
夏季休業（２～４年）	７月３０日（火）～　９月２７日（金）
夏季休業（５年）	７月２２日（月）～　８月１５日（木）
	８月２３日（金）～　９月２４日（火）
ＣＢＴ追再試験（５年）	８月　６日（火）
ＯＳＣＥ追再試験（５年）	８月２４日（土）
追試験願提出締切（１年）	８月　８日（木）
追試験願提出締切（２～４年）	８月　６日（火）
追試験願提出締切（５年）	８月２３日（金）
追試験時間割発表（１年）	８月　９日（金）
追試験時間割発表（２～４年）	８月　８日（木）
追試験時間割発表（５年）	８月２６日（月）
追試験期間（１年）	８月１９日（月）～２０日（火）
追試験期間（２～４年）	８月１９日（月）～２０日（火）
追試験期間（５年）	８月２７日（火）～２８日（水）
再試験期間（１年）	８月２６日（月）～２７日（火）
再試験期間（２～４年）	８月２６日（月）～２８日（水）
再試験期間（５年）	９月　２日（月）～　４日（水）
前期成績発表	１０月の指定する日

ー　後　期　ー

授業開始	９月３０日（月）
臨床実習（５年）	１０月　７日（月）～翌年度９月末
解剖体慰霊祭	１０月２４日（木）
歯学部祭	１１月中旬～下旬頃
冬季休業（１～４年）	１２月２５日（水）～１月３日（金）
定期試験時間割発表	１月１７日（金）
授業終了（１年）	１月２８日（火）
授業終了（２～４年）	１月３１日（金）
定期試験期間（１年）	２月　３日（月）～４日（火）
定期試験期間（２～４年）	２月　３日（月）～７日（金）
追試験願提出締切（１年）	２月　６日（木）
追試験願提出締切（２～４年）	２月１０日（月）
追試験時間割発表（１年）	２月　７日（金）
追試験時間割発表（２～４年）	２月１２日（水）
追試験期間（１年）	２月１０日（月）～１７日（月）
追試験期間（２～４年）	２月１３日（木）～１４日（金）
再試験期間（１年）	２月１８日（火）～２５日（火）
再試験期間（２～４年）	２月１９日（水）～２１日（金）
卒業式	３月２５日（火）
学年終了	３月３１日（月）
後期成績発表	３月の指定する日

令和6年度歯学部カレンダー（1年次）

前期：4月8日（月）～8月6日（火）
1Q：4月8日～6月4日
2Q：6月10日～8月6日

	日	月	火	水	木	金	土
R6年4月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
5月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
8月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	後期30					
回数	－	15	15	－	－	－	－

後期：9月30日（月）～2月4日（火）
3Q：9月30日～11月26日
4Q：12月2日～2月4日

	日	月	火	水	木	金	土
9月	29	30	1	2	3	4	5
10月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
R7年1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
回数	－	15	15	－	－	－	－

注：9月30日（月）は後期の授業開始日

休業日等（1/21(火)は共通テスト試験監督等振替、1/24(金)は学校推薦型選抜Ⅱ当日）

授業日

補講日（補講を実施しない場合は定期試験日として利用可能）

振替日：5/7(火)及び11/5(火)は月曜日の授業を実施

定期試験日

追試験日

再試験日

入学式、教養教育オリエンテーション

学部オリエンテーション

注：1年次授業は月～火曜日が専門教育、水～金曜日は教養教育である。
1年次の教養教育の授業開始日は4月10日（水）から。

令和6年度歯学部カレンダー（2～4年次）

前期：4月1日（月）～7月29日（月）
1Q：4月1日～5月31日(5月29, 30日を除く)
2Q：5月29日～7月29日（5月31日を除く）

	日	月	火	水	木	金	土
R6年 4月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
5月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
8月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	後期30					
回数	－	15	15	15	15	15	－

後期：9月30日（月）～2月7日（金）
3Q：9月30日～11月26日
4Q：11月27日～2月7日

	日	月	火	水	木	金	土
9月	29	30	1	2	3	4	5
10月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
R7年 1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
回数	－	15	15	15	15	15	－

注：9月30日（月）は後期の授業開始日

休業日等（1/21(火)は共通テスト試験監督等振替、1/24(金)は学校推薦型選抜Ⅱ当日）
※ただし一部科目では講義を実施する場合があるので注意すること。

授業日

補講日（補講を実施しない場合は定期試験日として利用可能）

振替日：5/7(火)及び11/5(火)は月曜日の授業を実施

定期試験日

追試験日

再試験日

令和6年度歯学部カレンダー（5年次）

前期：4月1日（月）～9月27日（金）

	日	月	火	水	木	金	土
R6年4月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
5月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
8月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

後期：9月30日（月）～3月31日（月）

	日	月	火	水	木	金	土
9月	29	30	1	2	3	4	5
10月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
R7年1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

授業日

定期試験日

追試験日

再試験日

CBT試験日（前日の6月13日（木）午後はCBT体験テスト）

CBT追再試験日

OSCE試験日

OSCE追再試験日

（令和6年度）歯学部授業時間割

（ 前 期 ）（ 1Q･2Q ）

曜日	校時	Ⅰ 8:50–10:20	Ⅱ 10:30–12:00	Ⅲ 13:00–14:30	Ⅳ 14:40–16:10	Ⅴ 16:20–17:50
	年次	1 8:50–9:50	2 10:00–11:00 / 3 11:10–12:10	4 13:00–14:00 / 5 14:10–15:10	6 15:20–16:20	7 16:30–17:30 / 8 17:40–18:40
月	1	歯科学のための物理科学（講3B）	細胞生物学入門Ⅰ（講3B） / 歯学展望（講3B）	骨学及び同実習（歯解実･講3B･医2講･医1実）		初年次セミナー（文教･坂本）
	2	教養教育		教養教育（全学モジュールⅡ）		教養教育
	3		微生物学･口腔微生物学（講3A）	薬理学及び同実習（講3A･実5C）		
	4	歯科矯正学及び同実習（講6A･臨4B）		予防歯科学及び同実習（講6A･臨4B）		基礎歯学研究
	5	統合科目（講6B）				
	6	臨床実習				基礎歯学輪講（講3A）
火	1	（1Q)学内･学外早期体験実習 /（2Q)歯科医師のコンピテンシーⅠ（講3B）		細胞生物学プラクシス（講3B）		初年次セミナー（文教･坂本）
	2	教養教育		教養教育（全学モジュールⅡ）		教養教育
	3	薬理学及び同実習（講3A･実5C）	（1Q)微生物学･口腔微生物学（講3A）／（2Q)病理学総論及び同実習（講3A･実5B）	病理学総論及び同実習（講3A･実5B）		
	4	歯科矯正学及び同実習（講6A）	保存修復学（講6A）	保存修復学実習（臨4B）		
	5	統合科目（講6B）				歯学研究
	6	臨床実習				
水	1	教養教育				
	2	生理学（講3B）/生理学実習（実5C）				
	3	歯科理工学Ⅰ/歯科理工学Ⅱ/歯科理工学Ⅲ（講3A）		口腔組織学及び同実習（講3A･実5B）		
	4	（1Q)災害口腔医学 /（2Q)小児歯科学･小児歯科学実習（講6A）	歯内治療学（講6A）	歯内治療学実習（臨4B）		
	5	統合科目（講6B）				
	6	臨床実習				歯学研究
木	1	教養教育				
	2	解剖学及び同実習（講3B･歯解実）			歯科医師のコンピテンシーⅡ（講3B）	
	3	内科学総論（講3A）	歯科東洋医学（講3A）／Scientific and Practical English（講3A）			
	4	障害者歯科学（講6A）	歯科医師のコンピテンシーⅣ（講6A）	冠橋義歯学及び同実習（講6A･臨4B）		
	5	統合科目（講6B）				
	6	臨床実習				
金	1	教養教育				
	2	生化学（講3B）	発生学（講3B）	生理学（講3B）/生理学実験（実5C）		
	3	外科学総論（講3A）	口腔解剖学及び同実習（歯解実･講3A）	コミュニティー教育･実習（講3A）	（1Q)基礎歯学研究概論（講3A）／（2Q)基礎歯学研究	
	4	歯科麻酔学及び同実習（講6A）		有床義歯補綴学及び同実習（講6A･臨4B）		
	5	統合科目（講6B）				
	6	臨床実習				基礎歯学輪講（講3A）

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A･･･講義室3A（C棟3階）
講2･･･講義室3B（C棟3階）
講6A･･･講義室6A（C棟6階）
講6B･･･講義室6B（C棟6階）
実5A･･･実習室5A（C棟5階）
実5B･･･実習室5B（C棟5階）
実5C･･･実習室5C（C棟5階）
歯解実･･･歯学部解剖実習室（A棟7階）
臨4B･･･臨床実習室4B（C棟4階）
医2講･･･医学部第2講義室
医1実･･･医学部第1実習室

時間割

90分授業	60分授業
1校時 8:50-10:20	1校時 8:50-9:50
2校時 10:30-12:00	2校時 10:00-11:00
3校時 13:00-14:30	3校時 11:10-12:10
4校時 14:40-16:10	4校時 13:00-14:00
5校時 16:20-17:50	5校時 14:10-15:10
	6校時 15:20-16:20
	7校時 16:30-17:30
	8校時 17:40-18:40

（令和6年度）歯学部授業時間割

（ 後 期 ）（ 3Q･4Q ）

曜日	校時	Ⅰ 8:50–10:20	Ⅱ 10:30–12:00	Ⅲ 13:00–14:30	Ⅳ 14:40–16:10	Ⅴ 16:20–17:50
	年次	1 8:50–9:50	2 10:00–11:00	3 11:10–12:10	4 13:00–14:00	5 14:10–15:10
						6 15:20–16:20
						7 16:30–17:30
						8 17:40–18:40
月	1		細胞生物学入門Ⅱ（講3B）	歯学展望（講3B）	歯科学のための生物科学（講3B）／（4Q)歯科学のための化学(講3B）	
月	2	長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（講6B）			長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（オンライン自主学習）	
月	3	内科学各論（講3A）		微生物学・口腔微生物学（講3A）	外科学各論（講3A）	隣接医学Ⅱ（講3A） （4Q)歯科法医学(講3A）
月	4	歯周病学（講6A）		統合科目〈スポーツ歯学〉/統合科目〈総合歯科学Ⅰ〉（講6A）	歯周病学実習（臨4B）	基礎歯学研究
月	5	臨床実習				
月	6	臨床実習／高次口腔医療学				(3Q) 歯科医療管理学（講3A）
火	1		学内・学外早期体験実習（講3B）			
火	2	長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（講6B）			生化学実験（実5A）	
火	3	(3Q)医学統計学/(4Q)コンピテンシーⅢ（講3A）	口腔病理学及び同実習(講3A ・実5B）			
火	4	統合科目〈臨床解剖学〉（講6A・歯解実・医解実）			口腔外科学Ⅰ及び同実習（講6A・臨4B）	実践臨床歯科英会話（講6A）
火	5	臨床実習				(3Q)コンピテンシーⅤ /臨床歯学セミナー（講6B）
火	6	臨床実習／高次口腔医療学				(3Q) 歯科医療管理学（講3A）
水	1	教養教育				
水	2	(3Q)長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム(講6B）			(3Q)長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（オンライン自主学習）	
水		(4Q)解剖学及び同実習（講6B・歯解実・医解実）				
水	3	隣接医学Ⅰ・Ⅱ（講3A）		(3Q)歯科理工学実験（講3A・実5C）		(4Q)隣接医学Ⅱ（講3A）
水	4	高齢者歯科学（講6A）		小児歯科学/小児歯科学実習（講6A・臨4B）		
水	5	臨床実習				歯学研究
水	6	臨床実習／高次口腔医療学				(3Q) 歯科医療管理学（講3B）
木	1	教養教育（全学モジュールⅠ）		教養教育		
木	2	解剖学及び同実習（講6B・歯解実・医解実）				
木	3	(3Q)隣接医学Ⅲ（講3A）	(3Q)口腔微生物学実習（講3A・実5A）			
木		(4Q)隣接医学Ⅰ・Ⅱ（講3A）		(4Q)衛生学及び同実習（講3A・実5A）		隣接医学Ⅰ（講3A）
木	4	歯科放射線学及び同実習（講6A）		冠橋義歯学及び同実習（講6A・臨4B）		臨床歯学研究概論（講6A）
木	5	臨床実習				
木	6	臨床実習／高次口腔医療学				(3Q) 歯科医療管理学（講3B）
金	1	教養教育（全学モジュールⅠ）		教養教育		
金	2	組織学及び同実習（講6B・実5B）				
金	3	歯科薬理学（講3A）/口腔生理学（講3A）		口腔生化学（講3A）		基礎歯学研究
金	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習（講6A・臨4B）		有床義歯補綴学及び同実習（講6A・臨4B）		
金	5	臨床実習／ 医哲学・医療倫理（医学部記念講堂）（9/27(金)・10/18(金)の2日間）				
金	6	臨床実習／高次口腔医療学				(3Q) 歯科医療管理学（講3B）

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A（C棟3階）
講3B・・・講義室3B（C棟3階）
講6A・・・講義室6A（C棟6階）
講6B・・・講義室6B（C棟6階）
実5A・・・実習室5A（C棟5階）
実5B・・・実習室5B（C棟5階）
実5C・・・実習室5C（C棟5階）
歯解実・・・歯学部解剖実習室（A棟7階）
臨4B・・・臨床実習室4B（C棟4階）
医解実・・・医学部解剖実習室
医講4・・・医学部第4講義室（病院2階）

時間割

90分授業	60分授業
1校時 8:50–10:20	1校時 8:50–9:50
2校時 10:30–12:00	2校時 10:00–11:00
3校時 13:00–14:30	3校時 11:10–12:10
4校時 14:40–16:10	4校時 13:00–14:00
5校時 16:20–17:50	5校時 14:10–15:10
	6校時 15:20–16:20
	7校時 16:30–17:30
	8校時 17:40–18:40

令和6年度歯学部　　統合科目等時間割（5年次）前期

前期：4月1日（月）～9月27日（金）

	日	月	火	水	木	金	土
4月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
5月	28	29	30	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
8月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

月

	日	1	2	3	4	5	6	7	8
4月	1	インプ1（講6B）	インプ2（講6B）	インプ3（講6B）	インプ4（講6B）	インプ5（講6B）	インプ6（講6B）	インプ7（講6B）	インプ8（講6B）
	8	総合歯科1(角)	接着1（講6B）	接着2（講6B）	インプ9（講6B）	インプ10（講6B）	インプ11（講6B）	インプ12（講6B）	インプ13（講6B）
	15				インプ14（講6B）	インプ15（臨4B）	インプ16（臨4B）	インプ17（臨4B）	
	22	インプ18（臨4B）	インプ19（臨4B）	インプ20（臨4B）	接着7（臨4B）	接着8（臨4B）	接着9（臨4B）		
5月	29	祝祭日							
	6	祝祭日							
	13				臨床開始前実習			う蝕6	う蝕7
	20		う蝕8	う蝕9	臨床開始前実習				
	27	唾液腺10	唾液腺11	唾液腺12	臨床開始前実習				
6月	3	臨器薬1	臨器薬2	臨器薬3	臨床開始前実習			う蝕15	う蝕16
	10	臨器薬7	臨器薬8	臨器薬9	臨床開始前実習			成育2	
	17	臨器薬13	臨器薬14	臨器薬15	臨床開始前実習			成育3	成育4
	24			医療倫理5	臨床開始前実習			成育5	
7月	1	睡眠1	睡眠2	睡眠3	臨床開始前実習				
	8	睡眠7	睡眠8	睡眠9	臨床開始前実習			成育6	成育7
	15	祝祭日							
	22	夏季休業							
	29	夏季休業							
8月	5	夏季休業							
	12	祝祭日							
	19	定期試験（本試）							
	26	夏季休業							
9月	2	定期試験（再試）							
	9	夏季休業							
	16	祝祭日							
	23	祝祭日							

火

	日	1	2	3	4	5	6	7	8
4月	2	唾液腺1	唾液腺2	唾液腺3	唾液腺4				
	9		接着3（講6B）	接着4（講6B）	唾液腺5	唾液腺6			
	16		接着5（講6B）	接着6（講6B）	学生健康診断				
	23				接着10（講6B）	接着11（講6B）	接着12（講6B）		
5月	30	周術期1	周術期2	周術期3			う蝕1	う蝕2	う蝕3
	7		デジタル1（講6B）	デジタル2（講6B）	臨床開始前実習オリエンテーション				
	14	デジタル3（講6B）	デジタル4（講6B）	デジタル5（講6B）	臨床開始前実習				
	21	唾液腺7	唾液腺8	唾液腺9	臨床開始前実習			う蝕10	う蝕11
	28	唾液腺13	唾液腺14	唾液腺15	臨床開始前実習				う蝕12
6月	4	臨器薬4	臨器薬5	臨器薬6	臨床開始前実習				
	11	臨床開始前実習			臨器薬10	臨器薬11	臨器薬12		
	18	臨床開始前実習			医療面接2(俣木)	医療面接3(俣木)	医療面接4(俣木)	臨器薬16	
	25	臨床開始前実習			医療面接8(近藤・多田)	医療面接9(近藤・多田)	医療面接10(近藤・多田)		
7月	2	臨床開始前実習			睡眠4	睡眠5	睡眠6		
	9	臨床開始前実習			睡眠10	睡眠11	睡眠12		
	16	臨床開始前実習			在宅5	在宅6			
	23	夏季休業							
	30	夏季休業							
8月	6	CBT追再試験							
	13	夏季休業							
	20	定期試験（本試）							
	27	追試験							
9月	3	定期試験（再試）							
	10	夏季休業							
	17	夏季休業							
	24	夏季休業							

水

	日	1	2	3	4	5	6	7	8
4月	3	顎口腔1（講6B）	顎口腔2（講6B）	顎口腔3（講6B）	社会歯科1	社会歯科2		生活習慣1	
	10	顎口腔4（臨4B）	顎口腔5（臨4B）	顎口腔6（臨4B）	社会歯科3	社会歯科4		生活習慣2	
	17	顎口腔7（臨4B）	顎口腔8（臨4B）	顎口腔9（臨4B）	社会歯科5	社会歯科5		生活習慣3	
	24	顎口腔10（臨4B）	顎口腔11（臨4B）	顎口腔12（臨4B）	腫瘍（講6B）	腫瘍（講6B）	腫瘍（講6B）	生活習慣4	
5月	1	顎口腔13（臨4B）	顎口腔14（臨4B）	顎口腔15（臨4B）	周術期4	周術期5	周術期6		
	8	顎口腔16（臨4B）	顎口腔17（臨4B）	顎口腔18（臨4B）	臨床開始前実習			摂食嚥下1	
	15	顎口腔19（講6B）	顎口腔20（講6B）	顎口腔21（講6B）	臨床開始前実習			摂食嚥下5	
	22		医療倫理1	医療倫理2	臨床開始前実習			摂食嚥下9	
	29	社会歯科7	社会歯科8	総合歯科6(講6B)	臨床開始前実習			う蝕13	う蝕14
6月	5	臨床開始前実習			統合医療1(和気)	統合医療2(和気)	成育1		
	12	臨床開始前実習			統合医療5(今村)	統合医療6(藤山)	医療面接1(角)		
	19	臨床開始前実習			周術期12	在宅2	在宅3		
	26	臨床開始前実習			周術期PBL1	周術期PBL2	周術期PBL3		
7月	3	臨床開始前実習			医療面接13(実習)	医療面接14(実習)	医療面接15(実習)		
	10	臨床開始前実習			医療面接16(実習)	医療面接17(実習)	医療面接18(実習)		
	17		在宅7	在宅8	統合医療11(常田)				
	24	夏季休業							
	31	夏季休業							
8月	7	夏季休業							
	14	夏季休業							
	21	定期試験（本試）							
	28	追試験							
9月	4	定期試験（再試）							
	11	夏季休業							
	18	夏季休業							
	25	臨床開始前実習第3期							

木

	日	1	2	3	4	5	6	7	8
4月	4	腫瘍PBL1	腫瘍PBL2	腫瘍PBL3	腫瘍PBL4	腫瘍PBL5	腫瘍PBL6	腫瘍PBL7	腫瘍PBL8
	11	腫瘍PBL9	腫瘍PBL10	腫瘍PBL11	腫瘍PBL12	腫瘍PBL13	腫瘍PBL14	腫瘍PBL15	
	18	成育PBL8	成育PBL9	成育PBL10	成育PBL11	成育PBL12	成育PBL13	成育PBL14	
	25				腫瘍4（講6B）	腫瘍5（講6B）			
5月	2	周術期7	周術期8	周術期9	う蝕4	う蝕5			
	9	臨床開始前実習			摂食嚥下2	摂食嚥下3	摂食嚥下4		
	16	臨床開始前実習			摂食嚥下6	摂食嚥下7	摂食嚥下8		
	23	臨床開始前実習			摂食嚥下10	摂食嚥下11	摂食嚥下12		
	30	臨床開始前実習			摂食嚥下13	摂食嚥下14	摂食嚥下15	周術期10	周術期11
6月	6	臨床開始前実習			統合医療3(岡安)	摂食嚥下16	摂食嚥下17	摂食嚥下18	
	13	臨床開始前実習			CBT体験テスト				
	20	臨床開始前実習			統合医療7(松尾)	統合医療8(坂井)	摂食嚥下19	摂食嚥下20	
	27	臨床開始前実習			離島1	離島2	離島3	摂食嚥下21	
7月	4	臨床開始前実習			離島5	離島6	離島7		
	11	臨床開始前実習			統合医療9(三谷)	統合医療10(三谷)	摂食嚥下22	摂食嚥下23	
	18				統合医療12(川口)	統合医療13(角)	医療倫理8		
	25	夏季休業							
	1	夏季休業							
8月	8	夏季休業							
	15	夏季休業							
	22	定期試験（本試）							
9月	5	夏季休業							
	12	夏季休業							
	19	夏季休業							
	26	臨床開始前実習第3期							

金

	日	1	2	3	4	5	6	7	8
4月	5	成育PBL1	成育PBL2	成育PBL3	成育PBL4	成育PBL5	成育PBL6	成育PBL7	
	12	臨薬PBL1	臨薬PBL2	臨薬PBL3	臨薬PBL4	臨薬PBL5	臨薬PBL6	臨薬PBL7	
	19	学生健康診断			臨薬PBL8	臨薬PBL9	臨薬PBL10	臨薬PBL11	
	26	成育PBL15	成育PBL16	成育PBL17	成育PBL18	成育PBL19	成育PBL20	成育PBL21	
5月	3	祝祭日							
	10	臨床開始前実習			生活習慣5(西村)	生活習慣6(西村)	生活習慣7(西村)	生活習慣8	
	17	臨床開始前実習			総合歯科2(講6B)	総合歯科3(小山田)		急性期1	
	24	臨床開始前実習			総合歯科4(藤田)	総合歯科5(阿部)		急性期2	
	31	臨床開始前実習			総合歯科7(倉田)	総合歯科8(講6B)	在宅1	急性期3	
6月	7	臨床開始前実習			統合医療4(松島)	医療倫理3	医療倫理4	急性期4	
	14	CBT本試験							
	21	臨床開始前実習			医療面接5(服巻)	医療面接6(服巻)	医療面接7(服巻)	急性期5	
	28	臨床開始前実習			医療面接11(野中)	医療面接12(野中)	在宅4	急性期6	離島4
7月	5	臨床開始前実習			医療倫理6(長谷)	医療倫理7(長谷)		急性期7	
	12	臨床開始前実習			睡眠13	睡眠14	睡眠15	急性期8	
	19								
	26	夏季休業							
	2	夏季休業							
8月	9	夏季休業							
	16	定期試験（本試）							
	23	夏季休業							
	30	夏季休業							
9月	6	夏季休業							
	13	夏季休業							
	20	夏季休業							
	27	医哲学・医療倫理講義							

土

	土
4月	6
	13
	20
	27
5月	4
	11
	18
	25
	1
6月	8
	15
	22
	29
7月	6
	13
	OSCE本試験
	27
	3
8月	10
	17
	OSCE追再試験
	31
9月	7
	14
	21
	28

	統合科目（略語）4年次	回数 講義/PBL	回数 演習
1	臨床解剖学		33
2	スポーツ歯学	5	
3	総合歯科学Ⅰ	8	

	統合科目（略語）	回数 講義/PBL	回数 演習
1	総合歯科学Ⅱ（総合歯科）	8	
2	臨床歯科器材・薬剤学（臨器薬）	16	
3	臨床薬理学（臨薬）	10	1
4	デジタルデンティストリー（デジタル）	5	
5	齲蝕・歯周病学（う蝕）	16	
6	接着歯学（接着）	12	
7	顎口腔機能・解析学（顎口腔）	21	
8	成育歯学（成育）	21	7
9	口腔腫瘍学（腫瘍）	15	5
10	唾液腺障害と疾患（唾液腺）	15	

	統合科目（略語）	回数 講義/PBL	回数 演習
11	周術期口腔機能管理学（周術期）	15	
12	生活習慣病と口腔（生活習慣）	8	
13	睡眠障害と疾患（睡眠）	15	
14	離島歯科医学（離島）	7	
15	医療面接（医療面接）	18	
16	医療倫理・プロフェッショナリズム論（医療倫理）	8	
17	急性期医療（急性期）	8	
18	在宅介護医療（在宅介護）	8	
19	統合医療学（統合医療）	13	

	統合科目以外の科目（略語）	回数 講義/PBL	回数 演習
11	口腔インプラント学（インプ）		20
12	摂食嚥下リハビリテーション学（摂食嚥下）		23
15	社会歯科学（社会歯科）		8

目　　次

１．　総合科目（1年次生～5年次生）

(1)　学内・学外早期体験実習　（1年）　2
(2)　学内・学外早期体験実習　（1年）　5
(3)　歯学展望　（1年）　8
(4)　コミュニティー教育・実習　（3年）　12
(5)　歯科東洋医学　（3年）　15
(6)　Scientific and Practical English　（3年）　18
(7)　歯科医師のコンピテンシーⅠ　（1年）　21
(8)　歯科医師のコンピテンシーⅡ　（2年）　23
(9)　歯科医師のコンピテンシーⅢ　（3年）　26
(10) 歯科医師のコンピテンシーⅣ　（4年）　29
(11) 歯科医師のコンピテンシーⅤ　（5年）　32

２．　口腔生命科学総論（1年次生、2年次生、3年次生）

(1)　骨学及び同実習　（1年）　36
(2)　解剖学及び同実習　（2年）　38
(3)　発生学　（2年）　44
(4)　組織学及び同実習　（2年）　47
(5)　生理学　（2年）　50
(6)　生理学実習　（2年）　53
(7)　生化学　（2年）　56
(8)　生化学実験　（2年）　58
(9)　歯科理工学Ⅰ　（3年）　60
(10) 歯科理工学Ⅱ　（3年）　62
(11) 歯科理工学Ⅲ　（3年）　64
(12) 病理学総論及び同実習　（3年）　66
(13) 微生物学・口腔微生物学　（3年）　71
(14) 薬理学及び同実習　（3年）　75
(15) 歯科学のための化学　（1年）　79
(16) 歯科学のための生物科学　（1年）　81
(17) 歯科学のための物理科学　（1年）　84
(18) 細胞生物学プラクシス　（1年）　87
(19) 細胞生物学入門Ⅰ　（1年）　89
(20) 細胞生物学入門Ⅱ　（1年）　91

３．　口腔生命科学各論Ⅰ（3年次生）

(1)　口腔解剖学及び同実習　94
(2)　口腔組織学及び同実習　96
(3)　口腔生理学　99
(4)　口腔生化学　101
(5)　歯科理工学実験　104
(6)　口腔病理学及び同実習　107
(7)　口腔微生物学実習　112
(8)　歯科薬理学　114
(9)　医学統計学　116
(10) 歯科法医学　118

４．　口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生、5年次生）

(1)　衛生学及び同実習　（3年）　122
(2)　予防歯科学及び同実習　（4年）　126
(3)　歯科矯正学及び同実習　（4年）　131
(4)　小児歯科学／小児歯科学実習　（4年）　137
(5)　保存修復学　（4年）　141
(6)　保存修復学実習　（4年）　144
(7)　歯内治療学　（4年）　147
(8)　歯内治療学実習　（4年）　150
(9)　歯周病学　（4年）　153
(10) 歯周病学実習　（4年）　156
(11) 冠橋義歯学及び同実習　（4年）　159
(12) 有床義歯補綴学及び同実習　（4年）　163
(13) 口腔外科学Ⅰ及び同実習　（4年）　167
(14) 口腔外科学Ⅱ及び同実習　（4年）　170
(15) 歯科放射線学及び同実習　（4年）　172
(16) 歯科麻酔学及び同実習　（4年）　175
(17) 高齢者歯科学　（4年）　178
(18) 障害者歯科学　（4年）　182
(19) 災害口腔医学　（4年）　185
(20) 口腔インプラント学　（5年）　188
(21) 摂食嚥下リハビリテーション学　（5年）　191
(22) 社会歯科学　（5年）　194

５．　関連臨床医学（3年次生）

(1)　内科学総論（歯薬・90分/コマ）　197
(2)　外科学総論（歯薬・60分/コマ）　200
(3)　内科学各論（歯薬・90分/コマ）　内科学1　203
内科学3　205
血液学　207
(4)　外科学各論（歯・60分/コマ）　外科学1　209
外科学2　211
(5)　隣接医学Ⅰ（歯薬・90分/コマ）　皮膚科学　213
眼科学　215
耳鼻咽喉科学　217
整形外科学　219
形成外科学　221
(6)　隣接医学Ⅱ（歯薬・90分/コマ）　小児科学　223
産科婦人科学　225
泌尿器科学　227
精神神経科学　229
脳神経外科学　231
(7)　隣接医学Ⅲ（歯・60分/コマ）　人類遺伝学　233

６．　統合科目（4年次生、5年次生）

(1)　臨床解剖学　（4年）　236
(2)　スポーツ歯学　（4年）　239
(3)　総合歯科学Ⅰ　（4年）　241
(4)　総合歯科学Ⅱ　（5年）　243
(5)　臨床歯科器材・薬剤学　（5年）　245
(6)　臨床薬理学　（5年）　248
(7)　デジタルデンティストリー　（5年）　250
(8)　齲蝕・歯周病学　（5年）　252
(9)　接着歯学　（5年）　255
(10) 顎口腔機能・解析学　（5年）　258
(11) 成育歯学　（5年）　261
(12) 口腔腫瘍学　（5年）　265
(13) 唾液腺疾患と障害（旧口腔感染症及び免疫学）　（5年）　268
(14) 周術期口腔機能管理学（旧：臨床検査学）　（5年）　271
(15) 生活習慣病と口腔　（5年）　274
(16) 睡眠障害と疾患　（5年）　276
(17) 離島歯科医学　（5年）　279
(18) 医療面接　（5年）　282
(19) 医療倫理・プロフェッショナリズム論　（5年）　285
(20) 急性期医療　（5年）　288
(21) 在宅介護医療　（5年）　290
(22) 統合医療学　（5年）　292

７．　特別科目（6年次生）

歯科医療管理学　296
基礎歯学輪講　298
高次口腔医療学　300

８．　専門教養科目

(1)　長崎大学歯学部
グローカルインターンシップ・プログラム　（2年）　303
(2)　実践臨床歯科英会話　（4年）　306

９．　臨床実習（5年次、6年次）

臨床実習　309

１０．研究科目（3年次生、4年次生、5年次生、6年次生）　※ 歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論　（3年）　315
基礎歯学研究　（3・4年）　317
臨床歯学研究概論　（4年）　320
歯学研究　（5・6年）　323

総合科目（1 年次生～5 年次生）

（1）学内・学外早期体験実習　(1 年)・・・・・・・・・・・・・2
（2）学内・学外早期体験実習　(1 年)・・・・・・・・・・・・・5
（3）歯学展望　(1 年)・・・・・・・・・・・・・8
（4）コミュニティー教育・実習　(3 年)・・・・・・・・・・・・・12
（5）歯科東洋医学　(3 年)・・・・・・・・・・・・・15
（6）Scientific and Practical English　(3 年)・・・・・・・・・・・・・18
（7）歯科医師のコンピテンシーⅠ　(1 年)・・・・・・・・・・・・・21
（8）歯科医師のコンピテンシーⅡ　(2 年)・・・・・・・・・・・・・23
（9）歯科医師のコンピテンシーⅢ　(3 年)・・・・・・・・・・・・・26
（10）歯科医師のコンピテンシーⅣ　(4 年)・・・・・・・・・・・・・29
（11）歯科医師のコンピテンシーⅤ　(5 年)・・・・・・・・・・・・・32

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時　火・1～2	必修選択　必修	単位数　(3.5)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064401 DNGD11011098 学内・学外早期体験実習/(Early Exposure)		
対象年次　1 年次	講義形態　講義・実習形式	教室　講義室 3B	
対象学生(クラス等)	科目分類　総合科目		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角　忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時　※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角　忠輝、住田吉慶、五月女さき子、吉田教明、田上直美、吉村篤利、澤瀬　隆、村田比呂司、平　曜輔、山田朋弘、角　美佐、倉田眞治、

授業の概要
歯学部の臨床分野の様子を早期に見学し、今後の講義・実習への学習意欲を高める。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯学に興味をもち、今後の歯学部の講義・実習の学習意欲を高める。

個別行動目標 SBOs:	【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
○医療職として必要な態度をもつことができる。	C-1-1
○大学病院の歯科臨床(歯科診療部門)の実情を説明できる。	C-1-3

対応するディプロマポリシー

DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)
臨床歯学分野の見学を中心にローテートする。

授業内容

1-2 回目　オリエンテーション, 総合歯科臨床教育(口腔検診)、
3 回目　歯周歯内治療学
4-5 回目　歯科麻酔学、口腔診断・情報科学(歯科放射線学)
6-8 回目　歯科矯正学、小児歯科学
9-10 回目　口腔保健学、口腔顎顔面外科学
11-13 回目　口腔インプラント学、歯科補綴学、歯科補綴学(修復学)
14 回目　先進口腔医療開発学

キーワード	歯科部門, 早期体験
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	**医療関係者としての態度を重視するので, 原則欠席, 遅刻は認めない。**
備考(学生へのメッセージ)	第1回目は、説明と患者体験実習として6年生による口腔検診を受ける。
実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝／長崎大学病院における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・住田　吉慶／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・五月女　さき子／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・吉田　教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・田上　直美／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・吉村　篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する

	・村田　比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・平　曜輔／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・山田　朋弘／長崎大学病院における口腔外科診療業務を継続中／診療経験を活かし、口腔外科分野における臨床の実情を説明する ・角　美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する ・倉田　眞治／長崎大学病院における歯科麻酔業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する。

学内早期体験実習　日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1-2回	4	9	火	1～2	オリエンテーション，総合歯科臨床教育（口腔検診）	各教員	講義室3B
3回	4	16	火	2	2限：歯周歯内治療学	各教員	講義室3B
4-5回	4	23	火	1～2	1限：歯科麻酔学 2限：口腔診断・情報科学	各教員	講義室3B
6-8回	4	30	火	1～3	1～3限 歯科矯正学、小児歯科学　合同 **※白衣を持参すること**	各教員	講義室3B スキルスラボ 臨床実習室4A
9-10回	5	14	火	1～2	1限：口腔保健学 2限：口腔顎顔面外科学	各教員	講義室3B
11-13回	5	21	火	1～3	1～3限 口腔インプラント学、歯科補綴学、歯科補綴学（修復学）　合同	各教員	講義室3B
14回	5	28	火	2	2限：先進口腔医療開発学	各教員	講義室3B

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時　火・2～7	必修選択　必修	単位数　(3.5)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064401 DNGD11011098 学内・学外早期体験実習/(Early Exposure)		
対象年次 1 年次	講義形態　講義・実習形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと/学生 12～13 名に1名の教員をチューターとして配属しているので、実習期間中は連絡を密にとること。

担当教員(オムニバス科目等)	歯学部教員, 大学病院教職員, 学外非常勤講師

授業の概要
専門的知識の乏しい1年次に地域歯科医療の最前線である開業歯科医院および病院歯科等へ出向き、先入観のない視点から歯科医療を見つめ、今後の専門教育への動機付けとする。
また歯科と連携を図らなければならない多職種(看護師, 栄養士, 作業療法士など)の業務を体験, 理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科医療を理解し、専門教育に興味をもつ。

個別行動目標 SBOs:	【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1　社会的に歯科医師に求められているものを議論できる。	C-2-1、2、3、4
2　各自の将来の歯科医師像を想像することができる。	C-1-2-1、2、3、4
3　患者中心の多職種連携を体感する。	C-1-3、D-6-1、D-6-2
4　医療職として必要な態度をもつことができる。	D-2-1-1

対応するディプロマポリシー
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)
受け入れ歯科医院へ学生が出向き、指定の時間を診療室での見学を行い、診療設備、歯科医師-患者-スタッフ間でのコミュニケーションの重要性を観察する。また、長崎市の歯科医療の実態や歯科以外のコメディカル・コデンタルの業務を見聞する。

授業内容
1 回目　オリエンテーション1
2 回目　オリエンテーション2
3 回目　オリエンテーション3
4 回目　多職種による講義1
5 回目　多職種による講義2
6 回目　多職種による講義3
7 回目　グループ討論と発表会1
8 回目　学外実習1
9 回目　学外実習2
10 回目　学外実習3
11 回目　グループ討論と発表会2
12 回目　グループ討論と発表会3
13 回目　グループ討論と発表会4
14 回目　学内・学外体験実習振り返り・総括
15 回目　まとめ

キーワード	臨床現場、多職種連携、歯科医師像
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	事前・事後レポート、最後の発表会も内容及び最終報告レポートを加味して評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。

受講要件(履修条件)	**医療関係者としての態度を重視するので，原則欠席，遅刻は認めない．** **特に１回目のオリエンテーションを受けてない学生は学外実習には参加させない。**
備考(学生へのメッセージ)	学研災に必ず加入すること。 長崎県歯科医師会や大学病院看護部等の全面的な後援のもとに実施可能となっているので、配属先の歯科医院および病院に失礼のないように十分注意する。（挨拶、態度、時間厳守）
実務経験のある教員による授業科目	・市内の歯科医院等／市中の歯科医院での一般歯科診療を見学、体験させることで地域歯科医療の現場を理解させる実習を行っている。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	2～7	多職種による講義1	非常勤講師	講義室3B
2回	10	8	火	2～7	多職種による講義2	非常勤講師	講義室3B
3回	10	15	火	2～7	多職種による講義3	非常勤講師	講義室3B
4回	10	22	火	2～7	学外実習1	市内歯科医院	講義室3B
5回	10	29	火	2～7	学外実習2	市内歯科医院	講義室3B
6回	11	12	火	2～7	グループ討論と発表会1	歯学部教員	講義室3B
7回	11	19	火	2～7	グループ討論と発表会2	歯学部教員	講義室3B
8回	11	26	火	2～7	学外実習3	市内歯科医院	講義室3B
9回	12	3	火	2～7	学外実習4	市内歯科医院	講義室3B
10回	12	10	火	2～7	グループ討論と発表会3	歯学部教員	講義室3B
11回	12	17	火	2～7	グループ討論と発表会4	歯学部教員	講義室3B
12回	12	24	火	2～7	多職種による講義4	非常勤講師	講義室3B
13回	1	7	火	2～7	多職種による講義5	非常勤講師	講義室3B
14回	1	14	火	2～7	多職種による講義6	非常勤講師	講義室3B
15回	1	28	火	2～7	まとめ (レポート・個人発表等)	教務委員長	講義室3B

年度 2024 学期 通年	曜日・校時　前期:月・3 後期:月・3	必修選択　必修	単位数　2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064403 DNGD11021098 歯学展望/(Dental Outlook)		
対象年次 1 年次	講義形態　講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)	科目分類　総合科目		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	中村渉、門脇 知子、藤田修一、庄子幹郎、バラネザハド、筑波隆幸、伊藤公成、小山田常一、山下裕美、松下祐樹、五月女さき子、吉田教明、田上直美、吉村篤利、澤瀬隆、村田比呂司、平 曜輔、住田吉慶、山田朋弘、角美佐、倉田眞治、久松徳子、真方信明、非常勤講師

授業の概要

歯科医師になるため、これから 6 年間学ぶ歯学教育・研究の専門的内容を分かりやすく説明し、歯学生としての自覚を養う。

授業到達目標
一般目標 GIO:
6 年間学ぶ歯学教育・研究の専門的内容を理解し、歯学生としての自覚を養う。　【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs:
1　歯学教育・研究の基本的な概要を説明できる。　A-9-1)
2　基礎及び臨床科目の基本的な内容を説明できる。　A-9-1)

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)

歯学教育・研究・臨床に関する主要テーマについて、主に歯学部の教員によるオムニバス方式の講義を行う。

授業内容

(前期)
1 回目　長崎大学歯学部の教育
2 回目　予備日
3 回目　生体材料学分野
4 回目　歯科薬理学分野
5 回目　口腔病理学分野
6 回目　加齢口腔生理学分野
7 回目　口腔病原微生物学分野
8 回目　フロンティア口腔科学分野
9 回目　分子腫瘍生物学分野
10 回目　顎顔面解剖学分野
11 回目　細胞生物学分野
12 回目　歯科法医学分野
13 回目　小児歯科学分野
14 回目　口腔インプラント学分野
15 回目　予備日

(後期)
1 回目　保存修復学部門
2 回目　歯周歯内治療学分野
3 回目　口腔保健学分野
4 回目　歯科矯正学分野
5 回目　口腔診断・情報科学分野
6 回目　特別講義
7 回目　先進口腔医療開発学分野
8 回目　口腔顎顔面外科学
9 回目　特別講義
10 回目　歯科麻酔学分野
11 回目　摂食嚥下リハビリテーション
12 回目　特殊歯科総合治療部
13 回目　歯科補綴学分野
14 回目　特別講義
15 回目　予備日

キーワード	
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	前期・後期の定期試験期間中に求める講義内容に関するレポートで評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 2/3 以上の出席が求められる。

備考(学生へのメッセージ)	歯学部に入学した、将来歯科医師になる歯学生としての自覚を養ってほしい。 卒業後、国民に有益・有用な歯科医師となるよう入学時から真摯な態度で学習してほしい。
実務経験のある教員による授業科目	・門脇　知子/九州大学病院における診療実務経験臨床経験を活かし歯学教育・研究に係る基礎知識を教授する。 ・藤田　修一/長崎大学熱帯医学研究所での病理解剖業務と長崎大学病院での口腔病理専門医としての実務経験/基礎医学である病理学と臨床医学の病理診断学との関連を病理業務の経験を含めて解説する。 ・山下　裕美/剖検、検案時及び生体鑑定における実務経験/法医実務経験を活かし社会医学としての歯科法医学に係る基礎知識を教授する。 ・五月女さき子/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・吉村　篤利/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・平　曜輔/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・吉田　教明/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・澤瀬　隆/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・田上　直美／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・村田　比呂司/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・住田　吉慶/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・山田　朋弘/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・角　美佐/長崎大学病院における診療実務経験臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・倉田　眞治/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・久松　徳子/長崎大学病院における診療実務経験臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・真方　信明/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。 ・永田　康浩/医師としての診療実務経験/臨床経験を活かし地域医療に関する基礎知識を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	8	月	3	長崎大学歯学部の教育 本学歯学部のディプロマ・ポリシー、教育の概要等について説明する。	学部長	講義室3B
2回	4	15	月	3	予備日		講義室3B
3回	4	22	月	3	生体材料学分野 生体材料と歯科材料 歯科医療に果たす歯科材料の役割	バラネザハド 有礼左	講義室3B
4回	5	7	火	3	歯科薬理学分野 薬はリスク 薬理学とはどのような学問か	筑波 隆幸	講義室3B
5回	5	13	月	3	口腔病理学分野 病気の形態 がんはどのように診断されるか	藤田 修一	講義室3B
6回	5	20	月	3	加齢口腔生理学分野 生体リズムの生理学 生体リズムを制御する体内時計の神経回路と生理学的意義について概説する。	中村 渉	講義室3B
7回	5	27	月	3	口腔病原微生物学分野 口腔細菌の意義 口腔常在菌の役割、口腔細菌と疾患	庄子 幹郎	講義室3B
8回	6	3	月	3	フロンティア口腔科学分野 「口腔生化学」って？ 生体・口腔内の生命現象を分子レベルで明らかにする学問への挑戦	門脇 知子	講義室3B
9回	6	10	月	3	分子腫瘍生物学分野 「がん」をどのように研究するか，その試みを紹介する。	伊藤 公成	講義室3B
10回	6	17	月	3	顎顔面解剖学分野 解剖学と人類学	小山田常一	講義室3B
11回	6	24	月	3	細胞生物学分野 骨の幹細胞がどのように骨の再生に貢献し、がんを引き起こすのか、 骨の幹細胞の運命を追跡する。	松下 祐樹	講義室3B
12回	7	1	月	3	歯科法医学分野 歯科法医学とは	山下 裕美	講義室3B
13回	7	8	月	3	小児歯科学分野 小児の歯科診療 小児と成人の違い、小児歯科とは	田上 直美	講義室3B
14回	7	22	月	3	口腔インプラント学分野 人工物で作る歯 人工物による歯質・歯牙欠損の修復・回復	澤瀬 隆	講義室3B
15回	7	29	月	3	予備日		講義室3B

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	3	保存修復学部門 う蝕をはじめとする歯の疾患と治療 接着材を使ったできるだけ歯を削らない治療	平　曜輔	講義室3B
2回	10	7	月	3	歯周歯内治療学分野 歯周疾患と治療 歯周疾患とは？現状と未来	吉村　篤利	講義室3B
3回	10	21	月	3	口腔保健学分野 予防歯科と全身の健康 全身の健康につながる歯科保健	五月女さき子	講義室3B
4回	10	28	月	3	歯科矯正学分野 矯正歯科の未来 美と機能のトータルなハーモニーを生み出す矯正治療	吉田　教明	講義室3B
5回	11	5	火	3	口腔診断・情報科学分野 歯科・口腔領域の画像診断 最新の画像診断とその役割	角　美佐	講義室3B
6回	11	11	月	3	特別講義 歯科医療の未来とイノベーション	米澤　大地	講義室3B
7回	11	18	月	3	先進口腔医療開発学分野 臨床研究とトランスレーショナル・リサーチ 口腔領域の再生医療開発	住田　吉慶	講義室3B
8回	11	25	月	3	口腔顎顔面外科学 口腔外科の臨床と研究 安全・確実な治療を目指して	山田　朋弘	講義室3B
9回	11	25	月	6	特別講義	Pedro de Sousa Gomes （松下先生）	講義室3B
10回	12	9	月	3	歯科麻酔学分野 歯科医療と全身管理	倉田　眞治	薬学部 講義室1B （C棟1階）
11回	12	16	月	3	摂食嚥下リハビリテーション 摂食嚥下リハビリテーションについて	久松　徳子	講義室3B
12回	12	23	月	3	特殊歯科総合治療部 障害者の歯科診療	真方　信明	講義室3B
13回	1	6	月	3	歯科補綴学分野 歯科補綴学と健康長寿 有床義歯の役割	村田　比呂司	講義室3B
14回	1	20	月	3	特別講義 これからの地域医療連携で歯科に求められること	永田 康浩	講義室3B
15回	1	27	月	3	予備日		講義室3B

年度 2024　学期 1・2Q	曜日・校時　金 4～5(一部5～6)	必修選択　必修	単位数　0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064408 DNGD11041098 コミュニティー教育・実習/(Community education・practice)		
対象年次　3年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角　忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時　※来室前に確認のこと/当日に各担当者へ直接尋ねること。

担当教員(オムニバス科目等)	非常勤講師(岡幸江、西川研、山口和浩、片山健太、岩本諭)

授業の概要及び位置づけ

本授業が提案するのは現代において分断された仕事と価値意識を「つなぐ」知であり、それによる「全体的視野の獲得」です。他の歯学部授業のなかでは経験できない、みなさんの経験に基づく思考と学びの時間の提供を、意識していきます。

授業到達目標

一般目標 GIO:
コミュニティにおける多様な人々との対話の重要性を理解し、対話に臨みその力量を形成していく構えを身に着ける

個別行動目標 SBOs	【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1　多様な価値観を持つ人で形成される、コミュニティとは何かを提起する	A-4-1-①,②
2　異なる経験を持つ人の生きざまを想起し、その社会的位置にへの新たな認識を獲得する	A-4-1-①,②
3　コミュニティのかかわりの中に生きる自己を新たに認識する	A-4-1-①,②
4　スキル的に獲得する知にとどまらない、対話と経験から獲得する知を理解する	A-4-1-①,②
5　対話への新たな経験と、さらなる対話への構えを獲得する	A-4-1-①,②
6　市民としての歯科医師のありようについて考える	A-4-1-①,②

対応するディプロマポリシー
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

本講義では、みなさん自身の日々の生活のなかから「暮らしのまなざし」や暮らしをなりたたせる「関わりのまなざし」をほりおこしていくことからスタートします。そのうえで、実社会において困難をかかえる人・困難をかかえる地域とむきあうとりくみ、こうした「実践」の底に流れる「もうひとつの知」について提示していきます。授業のなかでは、そうした提示をどう受け止め合うのかをお互いに交し合うための工夫にも、皆さんとの対話を通して、可能なかぎりとりくんでいきます。

授業内容

第 1 回目　5 月 17 日 4-5 時限目:オリエンテーション　ー社会を感じる・隣人を感じる(担当:岡幸江(九州大学))

第 2 回目　5 月 17 日 5-6 時限目:暮らしとしてのボランティア　ー山本いま子さんの姿から(担当:岡)

第 3 回目　5 月 24 日 4-5 時限目:対人援助とコミュニケーション-聞こえない人々との出会い
(担当:西川研(長崎県聴覚障害者情報センター))

第 4 回目　5 月 31 日 4-5 時限目:生と死にむきあう(担当:山口和浩(NPO 法人自死遺族支援ネットワーク Re 代表)

第 5 回目　6 月7日 4-5 時限目:かっちぇてという場と子どもたち　(担当:片山健太(自然と暮らしの学校「手つなぐ」))

第 6 回目　6 月 14 日 4-5 時限目:仲間とともに「日常」をつくる(担当:岩本諭(斜面地・空き家活用団体つくる代表))

第 7 回目　6 月 21 日 4-5 時限目:未来への地域のつながりの変化を考える(担当:岡、片山)

第 8 回目　6 月 21 日 5-6 時限目:振り返りとシェア(担当:岡、片山、岩本)

キーワード	実践における「もうひとつの知」

教科書・教材・参考書	教科書　なし
成績評価の方法・基準等	出席、レポートで評価する。（レポートの評価は教務委員長が行う。）
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・西川　研（第 3 回）／手話通訳士としての活動／手話通訳士としての活動経験や体験をもとに講義を実施する。 ・山口　和浩（第4回）／NPO 法人における自殺対策、遺族支援等の活動／NPO 補人での活動経験や体験を基に講義を実施する。 ・片山　健太（第 5,7,8 回）／NPO法人等における子ども・大人の場づくり活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する。 ・岩本　諭（第 6,8 回）／NPO 法人におけるまちづくり支援活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	17	金	4-5	オリエンテーション　ー社会を感じる・隣人を感じる	岡	講義室3A
2回	5	17	金	5-6	暮らしとしてのボランティア　ー山本いま子さんの姿から	岡	講義室3A
3回	5	24	金	4-5	対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い	西川	講義室3A
4回	5	31	金	4-5	生と死に向き合う	山口	講義室3A
5回	6	7	金	4-5	かっちぇてという場と子どもたち	片山	講義室3A
6回	6	14	金	4-5	仲間とともに「日常」をつくる	岩本	講義室3A
7回	6	21	金	4-5	未来への地域のつながりの変化を考える	岡、片山	講義室3A
8回	6	21	金	5-6	振り返りとシェア	岡、片山、岩本	講義室3A

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時　木・3－7(時間割を参照)	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064409 DNGD11051941 歯科東洋医学/(Oriental Dental Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類　総合科目		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 亀山敦史(非常勤講師), 前川靖裕(非常勤講師), 池田裕明(腫瘍医学), 林 眞実, 多田浩晃, 戸田一雄(非常勤講師), 田頭澄人(非常勤講師), 金子 篤(非常勤講師), 坂井詠子, 筑波隆幸

授業の概要

東洋医学では, 人は大自然(大宇宙)のなかの一つで, 自然界のすべてのものと, お互いに関連し, 影響しあっているとみなしている。西洋医学では, 組織, 器官はそれぞれ独立して異なるものとするが, 東洋医学では, 異なった機能を持ちながらも全体として有機的につながりをもった共有体とされている。その根底となる思想が陰陽論と五行論である。このような東洋医学の理論的背景を認識しつつ実際の東洋医学的治療法の主な方法を, 座学および体験を通して学習する。

授業到達目標

一般目標 GIO: 患者満足度の高い良質な歯科医療を提供するために, 東洋医学の概念を西洋医学に対比して理解し, 統合医療を実践するために必要な基本的知識, および態度を修得する。

個別行動目標 SBOs:

1. 東洋医学体系の基礎理論と診断法を説明できる。
2. 各種東洋医学的治療法(鍼灸・漢方)のメカニズムを説明できる。
3. エイジングや免疫に及ぼす東洋医学的治療法の役割を説明できる。
4. 経絡および歯科領域で重要な経穴の部位を列挙し, 説明できる。
5. 漢方の歴史的背景に関心を持つ。
6. 各種代替医療を列挙し, その概要を説明できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(直接該当するコアカリ番号は無いが平成 28 年度より「薬物」の定義に(和漢薬を含む)と付記されている)
C-6 生体と薬物
C-6-1) 薬物と医薬品
C-6-2) 薬理作用
C-6-3) 薬物の適用と体内動態
C-6-4) 薬物の副作用と有害作用

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

輪講形式。スライド, ビデオ等を用いて講義する。必要に応じて実地学習を取り入れる。プリント等は必要な時に配布する。アクティブラーニングにおいては, グループ学習の他, 発表討論を行う。

授業内容

1 回目　統合医療学総論
2 回目　補完代替医学1
3 回目　補完代替医学2
4 回目　日本人は何故冷え性になったのか？1
5 回目　日本人は何故冷え性になったのか？2
6 回目　がん免疫治療の最前線
7 目目　薬膳料理1
8 回目　薬膳料理2
9 回目　先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)1
10 回目　先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)2
11 回目　先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)3
12 回目　耳鍼法, アロマセラピー
13 回目　鍼鎮痛のメカニズム
14 回目　歯科鍼灸
15 回目　鍼灸の実際
16 回目　漢方最前線
17 回目　漢方薬理

キーワード	東洋医学, 伝統医学, 代替医学, 統合医療, 鍼, 灸, 漢方, 食養, アロマセラピー, EBM

教科書・教材・参考書	参考書: 歯科漢方医学，歯科漢方医学教育協議会監修，永末書店 続今日からあなたも口腔漢方医，王宝禮・王龍三編，医歯薬出版 入門歯科東洋医学（第 2 版），日本歯科東洋医学会編
成績評価の方法・基準等	出席率，講義内の小テスト，アクティブラーニングへの参加態度，および筆記試験またはレポートにより総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合，成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	東洋医学関係の一般書に目を通しておくことが望ましい。学外講師による講義は日頃接することのできない貴重な機会であり，礼を失することが無いように心がけること。
実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝（第 1 回）/大学病院における歯科診療行為/自らの診療経験を元に，統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている ・亀山　敦史（第 2・3 回）/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に統合医療の概念と実際について講義形式の授業を行っている ・前川　靖裕（第 4・5 回）/診療所における診療行為/自らの診療経験を元に，漢方の概念について講義形式の授業を行っている ・池田　裕明（第 6 回）/大学病院等における診療行為/自らの診療経験を元に，がん免疫治療についての講義を行っている。 ・多田　浩晃（第 9・10・11 回）/大学病院等における診療行為/大学病院における歯科診療行為自らの診療経験を元に，統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている ・田頭　澄人（第 15 回）/歯科診療所における歯科診療行為/鍼灸師の資格を持つ当該教員が，鍼灸理論・実際の歯科医療への応用について実習形式で授業を行っている。 ・金子　篤（第 16 回）/ 研究職/製薬会社での研究職の経験を活かし，漢方薬理の基本について講義形式の授業を行っている。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	9	木	3	統合医療学総論	角　忠輝	講義室3A
2回	5	9	木	4	補完代替医学1	亀山敦史	講義室3A
3回	5	9	木	5	補完代替医学2	亀山敦史	講義室3A
4回	5	15	水	6	日本人は何故冷え性になったのか？1	前川靖裕	講義室3A
5回	5	15	水	7	日本人は何故冷え性になったのか？2	前川靖裕	講義室3A
6回	5	23	木	3	がん免疫治療の最前線	池田裕明	講義室3A
7回	5	30	木	4	薬膳料理1	林　眞実	講義室3A
8回	5	30	木	5	薬膳料理2	林　眞実	講義室3A
9回	5	30	木	6	先人から学ぶ漢方の知恵1	多田浩晃	講義室3A
10回	6	6	木	4	先人から学ぶ漢方の知恵2	多田浩晃	講義室3A
11回	6	6	木	5	先人から学ぶ漢方の知恵3	多田浩晃	講義室3A
12回	6	20	木	4	耳鍼法、アロマセラピー	戸田一雄	講義室3A
13回	6	20	木	5	鍼鎮痛のメカニズム	戸田一雄	講義室3A
14回	6	20	木	6	歯科鍼灸	戸田一雄	講義室3A
15回	6	20	木	7	鍼灸の実際	田頭澄人	講義室3A
16回	6	27	木	3	漢方最前線	金子　篤	講義室3A
17回	7	4	木	5	漢方薬理	坂井詠子	講義室3A

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 木･4 ～6 （一部 7）	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25064417 DNGD11031098 Scientific and Practical English		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/授業後に当日の担当者に質問すること。

担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド･アリレザ、David Atwood （非常勤講師）、

授業の概要及び位置づけ

本科目で学ぶのは、英語のリテラシーである。専門知識を学習するうえで不可欠な基礎的語学力を自己点検する。その上で、基本的な英語のリテラシーを学ぶ。

授業到達目標

一般目標 GIO:
国際化に対応した歯科医師養成を目指す。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:
基本的な英語の知識･技能を習得し、国際コミュニケーション英語能力を身に付ける

該当なし

対応するディプロマポリシー
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)

3 年次に再受験が必須の TOEIC 試験について、試験内容の概要説明や試験対策(Listening and Reading)を行う。

授業内容

1 回目 TOEIC試験内容の概要
2 回目 TOEIC対策①
3 回目 TOEIC対策②
4 回目 TOEIC対策③
5 回目 TOEIC対策④
6 回目 TOEIC対策⑤
7 回目 TOEIC対策⑥
8 回目 TOEIC対策⑦
9 回目 TOEIC対策⑧
10 回目 TOEIC対策⑨
11 回目 TOEIC対策⑩
12 回目 TOEIC対策⑪
13 回目 TOEIC対策⑫
14 回目 TOEIC対策⑬
15 回目 TOEIC対策⑭
16 回目 TOEIC対策⑮
17 回目 TOEIC対策⑯
18 回目 TOEIC対策⑰
19 回目 TOEIC対策⑱
20 回目 TOEIC対策⑲
21 回目 TOEIC対策⑳
22 回目 TOEIC対策㉑
23 回目 TOEIC対策㉒
24 回目 TOEIC対策㉓
25 回目 TOEIC対策㉔
26 回目 TOEIC対策㉕
27 回目 TOEIC対策㉖
28 回目 TOEIC対策㉗
29 回目 TOEIC対策㉘
30 回目 TOEIC対策㉙(アンケートなど)

キーワード	実践英語
教科書･教材･参考書	TOEIC 新公式問題集3，4，5，6
成績評価の方法･基準等	TOEIC本試験にて評価する。 ※TOEIC 本試験は9月28日(土)、追再試験は11月9日(土)実施予定
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	TOEIC 対策は Web Class と併用したハイブリッド型クラスとする。各自課題など期限までに On-line で提出を済ませること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
2回	4	4	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
3回	4	4	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
4回	4	11	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
5回	4	11	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
6回	4	11	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
7回	4	18	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
8回	4	18	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
9回	4	18	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
10回	4	25	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
11回	4	25	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
12回	4	25	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
13回	5	2	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
14回	5	2	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
15回	5	2	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	23	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
17回	5	23	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
18回	5	23	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
19回	6	6	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
20回	6	6	木	7	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
21回	6	13	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
22回	6	13	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
23回	6	13	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
24回	6	27	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
25回	6	27	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
26回	6	27	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
27回	7	4	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
28回	7	4	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
29回	7	11	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
30回	7	11	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A

年度 2024 学期 2Q	曜日・校時 火・1～2	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064418 DNGD11071098 歯科医師のコンピテンシーⅠ/(Competence for Dentist I)		
対象年次 1年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 総合科目	

担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 平田創一郎(東京歯科大学)

授業の概要
歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために, 各学年においてスパイラル形式で講義, 実習を積み重ねて行く。

一般目標 GIO:	【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1 医療、歯科医療及び医学・歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理・研究倫理に関する知識と態度を身に付ける。 2 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。 3 発展し続ける歯科医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療(evidence-based medicine <EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。 個別行動目標 SBOs: 右記のコアカリキュラム参照	PR:プロフェッショナリズム(Professionalism) C-1 医の倫理、生命倫理と患者中心の歯科医療 患者中心の歯科医療を提供するために、プロフェッショナリズムを身に付ける。 C-2 課題探求と解決能力 発展し続ける歯科医学の中で必要な知識を身に付け、疫学と根拠に基づいた医療(EBM)を基盤に、広い症候、病態、疾患に対応する。 C-3 医療の質と患者安全の確保 患者の安全を最優先に確保した上で、良質な歯科医療を提供するために必要な知識を身に付ける。 C-4 健康と社会、環境 将来にわたり質の高い医療を継続して提供するために、その実践に必要な幅広い知識を身につけ、変化に対応する能力を涵養する。

対応するディプロマポリシー
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義, グループ討議など

授業内容
1. コンピテンシーとは, 歯科医学教育とは, 学修のあり方 入門
2. 歯学教育モデル・コア・カリキュラム
3. プロフェションとは
4. 歯科医師としての責務と裁量 (プロフェショナリズム)
5. 医と生命倫理
6. 医と生命倫理
7. アンプロフェッショナルとは
8. まとめ

キーワード	倫理, プロフェッショナリズム, 歯科医師
教科書・教材・参考書	参考書:プロフェッションワークブック (日本歯科医学教育学会編 医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	レポート, グループ討議を中心に, 必要に応じて筆記試験も行う
受講要件(履修条件)	**自身の健康管理も歯科医師として必須事項である. したがって, 学生健康診断未受験の学生には単位を与えない**
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・角 忠輝 (第1～4・7・8回) /長崎大学病院における歯科臨床/医療倫理についての講義 ・平田 創一郎 (第5・6回) /元厚生労働省医政局歯科保健課歯科医師臨床研修専門官、総務課医療安全推進室・経済課併任/厚生労働省での勤務経験を元に医療行政の仕組みについて講義形式の授業を行っている。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	11	火	1	コンピテンシーとは，歯科医学教育とは，学修のあり方 入門	角	講義室3B
2回	6	11	火	2	歯学教育モデル・コア・カリキュラム	角	講義室3B
3回	6	18	火	1	プロフェッションとは	角	講義室3B
4回	6	18	火	2	歯科医師としての責務と裁量（プロフェショナリズム）	角	講義室3B
5回	6	25	火	1	医と生命倫理	平田	講義室3B
6回	6	25	火	2	医と生命倫理	平田	講義室3B
7回	7	2	火	1	アンプロフェッショナルとは	角	講義室3B
8回	7	9	火	2	まとめ	角	講義室3B

年度 2024 学期 1～2Q	曜日・校時　木・6	必修選択　必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064419 DNGD11081098 歯科医師のコンピテンシーⅡ/(Competence for Dentist II)		
対象年次 2 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 住田吉慶/ y-sumita@nagasaki-u.ac.jp/ 先進口腔医療開発学分野教授室/ 095-819-7706/ 火曜日 13～17 時			
担当教員(オムニバス科目等)	住田吉慶(先進口腔医療開発学分野)、山下利佳(口腔管理センター)、井隆司(先進口腔医療開発学分野)、叶井里歩(先進口腔医療開発学分野)		

授業の概要

歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために，各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる

一般目標 GIO:

1 患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つとともに、患者の主体的治療参加を促すために、患者の権利を熟知し、その現状と問題点を理解する。

2 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。

3 信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために、医療上の事故等(インシデントや医療関連感染を含む)は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止し、患者の安全確保を最優先するために必要な知識を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:

右記コアカリキュラム参照

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

A-1-2) 患者中心の視点

1 患者の権利を説明できる。

2 患者の自己決定権を説明できる。

3 患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。

4 インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。

A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権

2 患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。

3 医療サービスの特殊性(情報の非対称性・医療の不確実性)や治療の限界を説明できる。

4 歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任(刑事責任、民事責任、行政処分)を説明できる。

A-6-1) 安全性の確保

1 医療上の事故等の発生要因(ヒューマンエラー、システムエラー等)を説明できる。

2 医療上の事故等に対する防止策を説明できる。

3 医療現場における報告・連絡・相談および診療録記載の重要性について説明できる。

4 医療の安全性に関する情報の共有、分析の重要性を説明できる。

5 医療機関に求められる医療安全管理体制を概説できる。

7 歯科医療における事故の具体例を列挙できる。

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義、グループ発表、ビデオ学習、レポート作成など

医療安全概論，課題提示

WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide

Topic1 What is Patient Safety?

Topic2 Why applying human factors ins important for patient safety

Topic3 Systems and the effect of complexity on patient care

Topic4 Being an effective team player

Topic5 Learning from errors to prevent harm

キーワード	インフォームド・コンセント，医療安全，医療事故
教科書・教材・参考書	WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&ua=1
成績評価の方法・基準等	課題の提出，レポート，ポートフォリオ等を中心に，必要に応じて筆記試験も行う
受講要件(履修条件)	**自身の健康管理も歯科医師として必須事項である．したがって，学生健康診断未受験の学生には単位を与えない**
備考(学生へのメッセージ)	

実務経験のある教員による授業科目	・住田　吉慶／名古屋大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／口腔外科学や臨床研究、医療安全についての講義 ・叶井　里歩／長崎大学の病院義歯治療室における診療経験、歯科補綴学についての講義 ・井　隆司／長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／口腔外科学や臨床研究、医療安全についての講義

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	16	木	6	医療安全概説	住田	講義室3B
2回	5	23	木	6	医療安全の実際Ⅰ （Topic 1 What is Patient Safety?）・課題提示	井	講義室3B
3回	5	30	木	6	医療安全の実際Ⅱ (ビデオ学習)	井・叶井	講義室3B
4回	6	6	木	6	課題発表準備 (グループ学習)	叶井	講義室3B
5回	6	20	木	6	課題発表Ⅰ・Ⅱ （Topic2 Why applying human factors ins important for patient safety） （Topic3 Systems and the effect of complexity on patient care）	住田・井	講義室3B
6回	6	27	木	6	課題発表Ⅲ・Ⅳ （Topic4 Being an effective team player） （Topic5 Learning from errors to prevent harm）	住田・井	講義室3B
7回	7	4	木	6	医療安全の実際Ⅲ (医療安全の基本知識と実際・大学病院での取り組みなど)	山下	講義室3B
8回	7	11	木	6	授業のまとめ (レポート作成)	住田	講義室3B

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時　火・1	必修選択　必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064420 DNGD11091098 歯科医師のコンピテンシーⅢ/(Competence for Dentist III)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘		

授業の概要
歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために，各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる

一般目標 GIO:
1 科学や社会の中で歯科医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合・整理し、表現する基本的能力(知識、技能、態度・習慣)・リベラルアーツを身に付ける。

2 患者および医療者にとって、良質で安全な医療を提供する事，とくに院内感染対策について理解する
個別行動目標 SBOs:
右記参照

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-2-2) 学修の在り方
1 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
2 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
3 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。

A-6-1) 安全性の確保
6 医療関連感染の原因と対策を概説できる
7 薬剤耐性に配慮した適切な抗菌薬使用ができる（ARM, AMS)。
8 歯科医療における事故の具体例を列挙できる。

A-6-3) 医療従事者の健康と安全
1 医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる
2 標準予防策を説明できる。
3 感染経路別予防策を説明できる。
4 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)
講義，グループ討議，実習(見学)など

授業内容
1 回目　イントロダクション，課題提示
2 回目　院内感染対策 1 医療関連感染とは，感染経路，滅菌と消毒
3 回目　院内感染対策 2 エビデンスに基づく院内感染対策，標準予防策
4 回目　院内感染対策 3 院内感染で問題となる微生物
5 回目　院内感染対策 4 職業感染予防策
6 回目　院内感染対策 5 耐性菌問題(AMR)
7 回目　課題発表 WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide
Topic9 Infection prevention and control
8 回目　まとめ

キーワード	学術論文，EMB，院内感染，スタンダードプレコーション，AMR
教科書・教材・参考書	**参考書：公衆衛生がみえる 2020-2021　(Medic Media, ISBN978-4-89632-687-1)** 病院感染対策ガイドライン（じほう)， 院内感染対策実践マニュアル（永末書店) WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&ua=1

成績評価の方法・基準等	出席，レポート，ポートフォリオ等を中心に，必要に応じて筆記試験も行う
受講要件(履修条件)	**自身の健康管理も歯科医師として必須事項である．したがって，学生健康診断未受験の学生には単位を与えない**
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／臨床経験に基づいた院内感染対策/医療安全について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	10	火	1	イントロダクション，課題提示	山田	講義室3A
2回	12	17	火	1	院内感染対策1 医療関連感染とは，感染経路，滅菌と消毒	山田	講義室3A
3回	12	24	火	1	院内感染対策2 エビデンスに基づく院内感染対策，標準予防策	山田	講義室3A
4回	1	7	火	1	院内感染対策3 院内感染で問題となる微生物，	山田	講義室3A
5回	1	14	火	1	院内感染対策4 職業感染予防策	山田	講義室3A
6回	1	21	火	1	院内感染対策5 耐性菌問題（AMR）	山田	講義室3A
7回	1	21	火	2	課題発表 Topic9 Infection prevention and control	山田	講義室3A
8回	1	28	火	1	まとめ	山田	講義室3A

年 度 2024 学 期 1･2Q	曜日･校時　木･3	必修選択　必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25064421 DNGD11101098 歯科医師のコンピテンシーⅣ/(Competence for Dentist IV)		
対象年次　4年次	講義形態　講義形式	教室　講義室6A	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
住田吉慶/ y-sumita@nagasaki-u.ac.jp/ 先進口腔医療開発学分野教授室/ 095-819-7706/ 火曜日13時～17時

担当教員(オムニバス科目等)	住田吉慶(先進口腔医療開発学分野)、五月女さき子(口腔保健学分野)、井隆司(先進口腔医療開発学分野)、黒嶋伸一郎(北海道大学)、朝比奈泉(順天堂大学)、相田潤(東京医科歯科大学)、各務秀明(愛知医科大学)

授業の概要
歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために，各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる

授業到達目標
一般目標GIO:
医療、歯科医療および医学･歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理に関する知識を身につける。(研究倫理を中心に)

個別行動目標SBOs:	【平成28年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。	A-1-1)、G-5-①
2 医の倫理に関する規範･国際規範(ヘルシンキ宣言等)を概説できる。	A-1-1)
3 臨床(生と死に関わる問題を含む)に関する倫理的問題を説明できる。	A-1-1)
4 医学研究に関する倫理的問題を説明できる。	A-8-1)
5 情報倫理に関わる問題を説明できる。	A-9-1)
6 研究を、医学･医療の発展や患者利益の増進を目的に配慮できる。	A-8-1)、A-9-1)

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義、ビデオ学習、レポート作成など

授業内容
1回目: 臨床研究概説(臨床研究とは)／医療倫理(医の倫理･生命倫理)
2回目: 臨床研究総論
3回目: 臨床研究各論Ⅰ (研究倫理)
4回目: 臨床研究各論Ⅱ (研究の枠組みと研究デザイン)
5回目: 臨床研究各論Ⅲ (非臨床試験から臨床試験･治験の進め方)
6回目: 臨床研究各論Ⅳ (安全性の確保･法規制･再生医療等確保法や臨床研究法下での臨床研究)
7回目: 診療における Evidence-Based Dentistry (EBD) Ⅰ
8回目: 診療における Evidence-Based Dentistry (EBD) Ⅱ
9回目: 介入研究の実際Ⅰ (口腔領域で実施されている臨床試験や治験)
10回目: 臨床研究各論Ⅴ (研究の企画:クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ)
11回目: 臨床研究論文の統計解釈
12回目: 研究計画書と説明同意書作成、被験者への説明の実際
13回目: 介入研究の実際Ⅰ (再生医療で実施されている臨床試験)
14回目: 観察研究の実際 (口腔領域で実際されている観察研究)
15回目: まとめ (トランスレーショナルリサーチ／リバーストランスレーショナルリサーチ)

キーワード	研究倫理, 情報倫理
教科書･教材･参考書	

成績評価の方法・基準等	レポート，ポートフォリオ等を中心に，必要に応じて筆記試験も行う
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	住田　吉慶／名古屋大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・臨床研究や研究倫理についての講義 五月女 さき子／長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／頭頸部腫瘍研究・口腔外科学についての講義 黒嶋　伸一郎／長崎大学の病院補綴科における診療経験、歯科医学研究の実務／細胞治療研究・口腔インプラント学についての講義 井　隆司／長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・口腔外科学や臨床研究についての講義 朝比奈　泉／東京医科歯科大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・口腔外科学についての講義 相田　潤／東北大学・東京医科歯科大学の病院臨床研究部門における実務経験、歯科医学研究実務／統計学的研究・臨床研究や統計学についての講義 各務秀明／東京大学、松本歯科大学、愛知医科大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／口腔領域の臨床試験についての講義

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	木	3	臨床研究概説（医学の発展における臨床研究の重要性を説明できる。） ・（医の倫理・生命倫理）医と生命の倫理の原則を概説できる。 ・患者の権利、国際的な医療倫理に関する宣言を説明できる。 ・歯科医師の責務を説明できる。	住田	講義室6A
2回	4	11	木	3	臨床研究総論 ・EBMを実践する上での臨床研究の必要性を概説できる。	住田	講義室6A
3回	4	18	木	3	臨床研究各論Ⅰ（研究倫理） ・臨床研究に関する歴史上の重要事項から生じてきた倫理的な諸問題を解決するための研究倫理・生命倫理について説明できる。 ・ヒト医学研究の倫理指針について説明できる。	住田	講義室6A
4回	4	25	木	3	臨床研究各論Ⅱ（臨床研究の枠組みと研究デザイン） ・基礎研究、臨床研究、臨床試験、治験を説明できる。 ・医療技術や医薬品、医療機器開発の流れが説明できる。 ・研究デザインを概説できる。	住田	講義室6A
5回	5	2	木	3	臨床研究各論Ⅲ（非臨床試験から臨床試験・治験の進め方） ・CMCや非臨床研究開発について概説できる。 ・臨床試験や治験の相について概説できる。	住田	講義室6A
6回	5	9	木	3	臨床研究各論Ⅳ（安全性の確保・法規制・再生医療安全確保法や臨床研究法での臨床研究） ・有害事象と副作用を説明できる。 ・GCPについて説明できる。	住田	講義室6A
7回	5	16	木	3	診療におけるEvidence-Based Dentistry (EBD) Ⅰ ・診療の中でのEBDの確保について概説できる。 ・臨床ガイドライン、メタアナリシス、システマティックレビューを概説できる。	黒嶋（北海道大学）	講義室6A
8回	5	23	木	3	診療におけるEvidence-Based Dentistry (EBD) Ⅱ ・診療の中でのEBDの確保について概説できる。 ・臨床ガイドライン、メタアナリシス、システマティックレビューを概説できる。	黒嶋（北海道大学）	講義室6A
9回	5	30	木	3	介入研究の実際Ⅰ ・口腔領域で実施されている臨床試験や治験を説明できる。	朝比奈（順天堂大学）	講義室6A
10回	6	6	木	3	臨床研究各論Ⅴ（研究の企画：クリニカルクエスチョンCQからリサーチクエスチョンRQへ） ・CQとRQを概説できる。 ・RQから研究立案までの流れを概説できる。	井	講義室6A
11回	6	13	木	3	臨床研究論文の統計解釈 ・臨床研究論文のデータを理解するための統計の重要事項を理解する。	相田（東京医科歯科大学）	講義室6A
12回	6	20	木	3	研究計画書と説明同意文書作成、被験者への説明の実際 ・計画書や説明同文書作成上の重要点を説明できる。 ・被験者への説明で重要な点を説明できる。	住田	講義室6A
13回	6	27	木	3	介入研究の実際Ⅱ ・再生医療で実施されている臨床試験を説明できる。	各務（愛知医科大学）	講義室6A
14回	7	4	木	3	観察研究の実際 ・口腔領域で実施されている様々な観察研究を説明できる。	五月女	講義室6A
15回	7	11	木	3	まとめ ・トランスレーショナルリサーチとリバーストランスレーショナルリサーチを概説できる。	住田	講義室6A

年 度 2024 学 期 3Q	曜日・校時　火・7	必修選択　必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064422 DNGD11111098 歯科医師のコンピテンシーⅤ/(Competence for Dentist V)		
対象年次 5 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角　忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内7750)/随時　※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角　忠輝

授業の概要
歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために，各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる

授業到達目標　【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
一般目標 GIO：
医療人として求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する。
個別行動目標 SBOs：
下記参照　下記参照

対応するディプロマポリシー
DP6：多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP9：多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10：離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法（学習指導法）
講義，グループ討議，実習（見学）など

A-4-2) 患者と歯科医師の関係
1 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
2 患者に分かりやすい言葉で対話できる。
3 患者の心理的・社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・ 整理できる。
4 医療行為は患者と歯科医師との高度な信頼関係を基礎とする契約に基づいていることを説明で 35 きる。
5 患者の要望(診察・転医・紹介)への対処の仕方を説明できる。
6 患者のプライバシーに配慮できる。
7 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱ができる。
A-7-1) 地域医療への貢献
1 地域社会(へき地・離島を含む)における歯科医療の現状について概説できる。
2 医療計画(医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病院・診療所・薬局の連携等)および地域医療構想について説明できる。
3 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健(地域保健、母子保健、成人・高齢者保健、精神保健、学校保健)・医療・福祉・介護の分野間および多職種間(行政を含む)の連携の必要性について説明できる。
4 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける。
5 地域における、訪問歯科診療、救急医療および離島・へき地医療の体制を説明できる。
6 災害医療(災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team <DMAT>)、災害拠点病院、トリアージ等)について説明できる。
A-7-2) 国際医療への貢献
1 患者の文化的背景を尊重し、異なる言語に対応することができる。
2 地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することがで きる。
3 保健、医療に関する国際的課題について理解し、説明できる。
4 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。
5 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みについて説明できる。

キーワード	離島医療，地域包括ケア，災害医療，臨床研究，　EBM
教科書・教材・参考書	

成績評価の方法･基準等	レポート，ポートフォリオ等を中心に，必要に応じて筆記試験も行う
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・未定/現役歯科医師が歯科医院における実務経験/歯科医院における診療経験を元に地域医療に関する講義を実施する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	7	地域歯科医療概説①	角町	講義室3A
2回	10	8	火	7	地域歯科医療概説①	松尾	講義室3A
3回	10	22	火	7	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	岩永	講義室6B
4回	10	29	火	7	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	松永	講義室3A
5回	11	5	火	7	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	吉田	講義室3A
6回	11	12	火	7	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	東	講義室3A
7回	11	19	火	7	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	江頭	講義室3A
8回	12	17	火	7	地域歯科医療概説①	高﨑	講義室3A

口腔生命科学総論（1 年次生、2 年次生、3 年次生）

（1）骨学及び同実習　(1 年)・・・・・・・・・・・・・36
（2）解剖学及び同実習　(2 年)・・・・・・・・・・・・・38
（3）発生学　(2 年)・・・・・・・・・・・・・44
（4）組織学及び同実習　(2 年)・・・・・・・・・・・・・47
（5）生理学　(2 年)・・・・・・・・・・・・・50
（6）生理学実習　(2 年)・・・・・・・・・・・・・53
（7）生化学　(2 年)・・・・・・・・・・・・・56
（8）生化学実験　(2 年)・・・・・・・・・・・・・58
（9）歯科理工学Ⅰ　(3 年)・・・・・・・・・・・・・60
(10) 歯科理工学Ⅱ　(3 年)・・・・・・・・・・・・・62
(11) 歯科理工学Ⅲ　(3 年)・・・・・・・・・・・・・64
(12) 病理学総論及び同実習　(3 年)・・・・・・・・・・・・・66
(13) 微生物学・口腔微生物学　(3 年)・・・・・・・・・・・・・71
(14) 薬理学及び同実習　(3 年)・・・・・・・・・・・・・75
(15) 歯科学のための化学　(1 年)・・・・・・・・・・・・・79
(16) 歯科学のための生物科学　(1 年)・・・・・・・・・・・・・81
(17) 歯科学のための物理科学　(1 年)・・・・・・・・・・・・・84
(18) 細胞生物学プラクシス　(1 年)・・・・・・・・・・・・・87
(19) 細胞生物学入門Ⅰ　(1 年)・・・・・・・・・・・・・89
(20) 細胞生物学入門Ⅱ　(1 年)・・・・・・・・・・・・・91

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時 月・4～6	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014119 DNGD22011901 骨学及び同実習/(Osteology and Practice)		
対象年次 1 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室、歯学部講義室 3B、医学部第 4 講義室(病院)	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	歯学部:小山田常一 oyamada@ 医学部:高村敬子、佐伯和信、村井清人、遠藤大輔		

授業の概要

系統解剖学の基礎である骨格系について理解する。骨格系の構成とその機能について把握した上で、各骨の詳細な形態・構造について理解する。靭帯・関節・筋・脈管・神経・体腔などとの関係を考慮に入れて、骨の形態・構造を理解していくことが重要である。特に受動的運動器官として、靭帯・関節・筋との機能的関係について、運動学の立場から理解を深めることが不可欠である。

授業到達目標

一般目標 GIO:

骨格系について、関節・筋・神経・血管・内臓・感覚器などとの関連性を含めて理解する。 【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

(1) 骨格系の構成を説明できる。	A-3-1-2-1
(2) 各骨の形態と構造を機能的観点から説明できる。	A-3-1-2-1
(3) 各骨の連結様式について説明できる。	A-3-1-2-1
(4) 関節の構造と運動様式について説明できる。	A-3-1-2-1
(5) 筋の起始・停止について説明できる。	A-3-1-3-1
(6) 脳・脳神経・視覚器・聴覚器・鼻腔・口腔・咽頭と頭蓋骨との形態学的関係について 3 次元的に説明できる。	A-3-2-2, A-3-2-3, A-3-2-6, A-3-2-8

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。

DP7:患者中心の歯科口腔医学を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義で理解した内容を、人体骨格標本を用いた骨学実習で視察・触察し、3 次元的構造を理解する。プリント、スライド、標本、iOS アプリ等を使用する。

授業内容

1-3 回目 骨学 (講義・実習) 解剖学総論と骨学総論、
4-6 回目 骨学【医学部 1 年と共修】(講義) 上肢の骨・脊椎、下肢の骨・胸郭、(実習) 上肢の骨・脊椎
7-9 回目 骨学 (実習) 上肢の骨・脊椎、下肢の骨・胸郭
10-12 回目 骨学 (講義) 頭蓋①、(実習) 頭蓋①
13-15 回目 骨学 (講義) 頭蓋②、(実習) 頭蓋②
16-18 回目 骨学 (講義) まとめ、骨学実習のまとめ及び筆記試験

キーワード	骨学、骨格、関節、運動器
教科書・教材・参考書	教科書:グレイ解剖学 第4版 (学生版) 塩田浩平他訳 エルゼビアジャパン 参考書:分担解剖学(森於兎ら著、金原出版)、骨学実習の手引き(寺田春水ら著、南山堂)等 ※実習内容は、教科書の内容に限定されることはないものとする。
成績評価の方法・基準等	筆記試験を行い、総合評価が 100 点満点で 60 点以上の者を合格とする。なお、総合評価は筆記試験に提出物の評価を加味して総合的に判定する。また必要に応じて、追加の試験を行う。 ※試験内容は、教科書の内容に限定されることはないものとする。
受講要件(履修条件)	講義・実習には毎回出席し、ノートを取ること。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。
備考(学生へのメッセージ)	参考書などで十分に予習を行っておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・小山田 常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	4	8	月	4～6	骨学（講義・実習）解剖学総論と骨学総論	小山田常一	解剖実習室 または講義室3B
4～6回	4	15	月	4	骨学（講義）上肢の骨・脊椎 【医学部1年と共修】	佐伯和信	病院 第4講義室
				5	骨学（講義）下肢の骨・胸郭 【医学部1年と共修】	佐伯和信	病院 第4講義室
				6	骨学（実習）上肢の骨・脊椎	小山田常一	解剖実習室 または講義室3B
7～9回	4	22	月	4	骨学（実習）上肢の骨・脊椎	小山田常一	解剖実習室 または講義室3B
				5～6	骨学（実習）下肢の骨・胸郭	小山田常一	解剖実習室 または講義室3B
10～12回	5	7	火	4～6	骨学（講義・実習）頭蓋①	小山田常一	解剖実習室 または講義室3B
13～15回	5	13	月	4～6	骨学（講義・実習）頭蓋②	小山田常一	解剖実習室 または講義室3B
16～18回	5	27	月	4	骨学（講義）まとめ	小山田常一	講義室3B
				5～6	骨学実習のまとめ及び筆記試験	小山田常一	講義室3B

年度 2024 学期 通年	曜日・校時 1・2Q 木・1～5, 3Q 木 1～7, 4Q 水～木・1～7	必修選択 必修	単位数 6
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014101 DNGD22021901 解剖学及び同実習/(Human Anatomy and Dissection Practice)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室、医学部解剖実習室、講義室 3B、講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一 oyamada@、真鍋義孝 manabe@		

授業の概要

骨格、筋、血管、神経より構成される運動器の構造と機能を理解する。また、胸部内臓、腹部内臓、骨盤内臓の外景、相互の立体的位置関係さらに血管及び神経の分布を明らかにし、人体構造の理解への基礎を作る。

授業到達目標

一般目標 GIO:
人体の各系統解剖について深く理解した上で、解剖学実習によって各系統の知識を統合し、臨床に応用可能な 3 次元立体構造を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

(1)	人体構造を表現する解剖学一般用語、人体の各部と体位を示す用語を理解する。	C-3-1)-①, C-3-4)-(2)-①, E-2-1)-①
(2)	骨の形態学的分類及び関節の種類を列記できる。頭頸部、体肢、体幹の骨格の形態学的特徴と連結を理解し、説明できる。	C-3-1)-①, C-3-4)-(2)-①, C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-②, E-2-1)-③, E-2-1)-⑥
(3)	頭頸部、体幹、体肢の筋の形態学的特徴を観察し、筋の起始、停止、支配神経、作用を説明できる。	C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-③・⑥
(4)	頭頸部、体幹、体肢の動静脈系を観察し、それらの名称、走行、分布が正確に説明できる。	C-3-4)-(4)-②, C-3-4)-(5)-⑤, E-2-1)-④
(5)	脳神経、脊髄神経の走行と分布を観察し、それらの走行、分布、機能を説明できる。自律神経の分布を観察し、機能が理解できる。	C-3-4)-(5)-①・②・③・④・⑤, C-3-4)-(6)-①・③, C-3-4)-(9)-①, E-2-1)-⑤, E-2-2)-⑨
(6)	頸部、胸部、腹部、骨盤内臓の位置、相互関係、外景、内景を観察し、その構造及び機能の概略を説明できる。	C-3-4)-(6)-①・③, C-3-4)-(9)-①, C-3-4)-(7)-①・②・③, C-3-4)-(8)-①・②, C-3-4)-(10)-①, C-3-4)-(11)-①, E-2-1)-①・⑪・⑫, E-2-2)-①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医学を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義によって知識を修得し、実習によって知識の確認を行う。講義及び実習は系統解剖学と局所解剖学を織りまぜながら行う。教室作成の冊子を配付する。適宜、プリント、スライド等を使用する。講義は、原則として標本または模型を提示しながら行う。

授業内容

全 208 校時を次の配分で行う。(各授業日時等は日程表を参照)

第 1・第 2 クォーターでは解剖学総論に始まり、骨学、筋系・関節学、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系をそれぞれの総論・各論に関して解説する。

循環器系 12 回に関しては非常勤講師の真鍋担当として、最新の研究成果を含めて解説する。

またこれらと並行して、骨学実習(10 回)では、人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、脈管系・筋系との関連を観察及び描写することで理解を深める。

第 3・第 4 クォーターの系統解剖学実習(130 回)では、体表観察に始まり、自らの手で徐々に深部へと解き開いていく事で、三次元的に人体の形態、構造、各器官の位置関係、関連性についての知識修得を目指すと共に、医療に携わることの難しさ、重要性と倫理観について体得する。

キーワード	人体解剖、系統解剖学、生命の尊厳

教科書・教材・参考書	教科書：口腔解剖学（脇田稔ら監修、医歯薬出版株式会社）、 解剖実習の手引き（寺田春水ら著、南山堂） 参考書：分担解剖学（森　於兎ら著、金原出版）、グレイ解剖学（学生版）塩田浩平他訳 エルゼビアジャパン、歯科学生のための解剖学実習（小林茂夫ら著、南江堂）、骨学実習の手引き（寺田春水ら著、南山堂）等 ※講義内容は、参考書の内容に限定されることはないものとする。
成績評価の方法・基準等	各系統の講義について筆記試験を行う。実習への取り組みと理解度について実習試験（骨学実習・中間試問、最終試問等）を行う。筆記試験に実習試験（骨学実習・中間試問・最終試問）及び提出物を加味して総合的に評価を行い、成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。また必要に応じて追加の試験を行う。※ 試験内容は、参考書の内容に限定されることはないものとする。
受講要件(履修条件)	講義には毎回出席し、ノートを取ること。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。
備考(学生へのメッセージ)	参考書などで十分に予習を行っておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・小山田　常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～5回	4	4	木	1～4	解剖学総論(1～4) 人体の構成、人体の区分、方向用語、骨学の総論	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				5	筋系・関節学(1) 筋系の総論、筋系の各論(体幹の筋) 骨の連結の種類と構造、顎関節の構造	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
6～10回	4	11	木	1～5	骨学実習(1～5) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、 位置関係並びに、脈管系・筋系との関連を観察及び描写	小山田常一	解剖実習室(歯)
11～15回	4	18	木	1～5	骨学実習(6～10) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、 位置関係並びに、脈管系・筋系との関連を観察及び描写	小山田常一	解剖実習室(歯)
16～20回	4	25	木	1	骨学実習 筆記試験	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～5	筋系・関節学(2～5) 筋系の総論、筋系の各論(体幹の筋) 骨の連結の種類と構造、顎関節の構造	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
21～25回	5	2	木	1	筋系・関節学(6) 筋系の総論、筋系の各論(体幹の筋) 骨の連結の種類と構造、顎関節の構造	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～3	消化器系(1～2) 消化器系の各論(咽頭、食道、胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	循環器系(1～2) 循環器系の総論、心臓、心膜、 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	講義室3B または 解剖実習室
26～30回	5	9	木	1～3	消化器系(3～5) 消化器系の各論(咽頭、食道、胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	循環器系(3～4) 循環器系の総論、心臓、心膜、 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	講義室3B または 解剖実習室
31～35回	5	16	木	1～3	消化器系(6～8) 消化器系の各論(咽頭、食道、胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	循環器系(5～6) 循環器系の総論、心臓、心膜、 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	講義室3B または 解剖実習室
36～40回	5	23	木	1	消化器系(9) 消化器系の各論(咽頭、食道、胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～3	呼吸器系(1～2) 呼吸器系の総論、 各論(鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜、縦隔)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	循環器系(7～8) 循環器系の総論、心臓、心膜、 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	講義室3B または 解剖実習室

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
41～45回	5	30	木	1	筆記試験1	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～3	呼吸器系(3～4) 呼吸器系の総論、 各論(鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜、縦隔)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	循環器系(9～10) 循環器系の総論、心臓、心膜、 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	講義室3B または 解剖実習室
46～50回	6	6	木	1～3	泌尿生殖器系(1～3) 泌尿器、生殖器	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	循環器系(11～12) 循環器系の総論、心臓、心膜、 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	講義室3B または 解剖実習室
51～55回	6	13	木	1	泌尿生殖器系(4) 泌尿器、生殖器	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～5	神経系(1～4) 中枢神経系の総論と内景、 末梢神経(総論、脊髄神経の各論と脳神経)、自律神経の各論	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
56～60回	6	20	木	1	筆記試験2	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～5	神経系(5～8) 中枢神経系の総論と内景、 末梢神経(総論、脊髄神経の各論と脳神経)、自律神経の各論	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
61～65回	6	27	木	1～3	神経系(9～11) 中枢神経系の総論と内景、 末梢神経(総論、脊髄神経の各論と脳神経)、自律神経の各論	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	感覚器系(1～2) 視覚器、平衡聴覚器	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
66～70回	7	4	木	1～3	感覚器系(3～5) 視覚器、平衡聴覚器	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				4～5	内分泌系(1～2) 内分泌系の総論、 各論(下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎　等)	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
71～75回	7	11	木	1	筆記試験3	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室
				2～5	総括	小山田常一	講義室3B または 解剖実習室

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
76～82回	10	17	木	1～3	実習前講義	小山田常一	~~講義室6B または~~ 解剖実習室(歯)
				4～7	系統解剖学実習(1) オリエンテーション	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
83～89回	10	31	木	1～3	系統解剖学実習(2) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・浅筋膜の剖出	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(3) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・浅筋膜の剖出	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
90～96回	11	7	木	1～3	系統解剖学実習(4) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・浅筋膜の剖出	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(5) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頚神経叢、腋窩、上肢屈側、下肢伸側　等)剖出	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
97～103回	11	14	木	1～3	系統解剖学実習(6) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頚神経叢、腋窩、上肢屈側、下肢伸側　等)剖出	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(7) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頚神経叢、腋窩、上肢屈側、下肢伸側　等)剖出	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
104～110回	11	21	木	1～3	系統解剖学実習(8) 剖査の確認	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(9) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・浅筋膜の剖出、浅層の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
111～117回	11	27	水	1～3	系統解剖学実習(10) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・浅筋膜の剖出、浅層の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(11) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・浅筋膜の剖出、浅層の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
118～124回	11	28	木	1～3	系統解剖学実習(12) 胸壁、腹壁の披開、各部の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(13) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、下肢伸側の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
125～131回	12	4	水	1～3	系統解剖学実習(14) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、下肢伸側の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(15) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、下肢伸側の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
132～138回	12	5	木	1～3	系統解剖学実習(16) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、下肢伸側の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(17) 剖査の確認	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
139～145回	12	11	水	1～3	系統解剖学実習(18) 中間口頭試問	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(19) 中間口頭試問	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
146～152回	12	12	木	1～3	系統解剖学実習(20) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、会陰部の皮剥、肛門部の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(21) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、会陰部の皮剥、肛門部の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
153～159回	12	18	水	1～3	系統解剖学実習(22) 前面の剖査、頭部離断、頭部切半、縦隔の剖査、 骨盤内部の剖査、上肢離断、上肢・下肢の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(23) 前面の剖査、頭部離断、頭部切半、縦隔の剖査、 骨盤内部の剖査、上肢離断、上肢・下肢の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
160～166回	12	19	木	1～3	系統解剖学実習(24) 脊髄の摘出、頭頸部の剖査、骨盤の切半、骨盤内臓の剖査、 下肢離断、上肢・下肢の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(25) 脊髄の摘出、頭頸部の剖査、骨盤の切半、骨盤内臓の剖査、 下肢離断、上肢・下肢の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
167～173回	1	8	水	1～3	系統解剖学実習(26) 頭頸部(咽頭・鼻腔・口腔・喉頭)の剖査、骨盤内臓の剖査、 上肢・下肢の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(27) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、外耳・中耳・ 内耳の剖査、各部の細部の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
174～180回	1	9	木	1～3	系統解剖学実習(28) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(29) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、外耳・中耳・ 内耳の剖査、各部の細部の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
181～187回	1	15	水	1～3	系統解剖学実習(30) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、外耳・中耳・ 内耳の剖査、各部の細部の剖査　等	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(31) 剖査の確認	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
188～194回	1	16	木	1～3	系統解剖学実習(32) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(33) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
195～201回	1	22	水	1～3	系統解剖学実習(34) 剖査の確認	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(35) 総括的な剖査、関節の剖査	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
202～208回	1	23	木	1～3	系統解剖学実習(36) 納棺式	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)
				4～7	系統解剖学実習(37) 納棺式	小山田常一 真鍋義孝	解剖実習室(医)

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 金・3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014102 DNGD22031901 発生学/(Embryology)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
松下祐樹/yukimatsushita@nagasaki-u.ac.jp /教授室 /095-819-7630(内 7630)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	松下祐樹、森石武史、野口東美、大庭伸介(非常勤講師)、山口博之(非常勤講師)

授業の概要

人体の構造の知識・理解の上に、受精卵から諸器官が形成される“過程”と“メカニズム”に関する基礎的知識を習得し、人体の正常な構造と機能の“成り立ち”に関して理解を深めることを目的とする。

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

人体の構造における肉眼解剖学的・顕微解剖学的な諸器官形態についての基本的な形態形成過程を系統発生また個体発生学的に説明できるとともに、その分子的制御機構およびその異常に起因する様々な先天異常や疾患の発症メカニズムを理解する。

個別行動目標 SBOs:

1. 原始生殖細胞、卵子・精子の形成、性の決定機構、染色体異常による先天異常を説明できる。	C-3-2)-①
2. 排卵、受精、卵割、胚盤胞、着床、卵巣・子宮の組織変化を説明できる。	C-3-2)-①, ②
3. 二層性胚盤、三層性胚盤の形成および栄養膜の発達を説明できる。	C-3-2)-①
4. 外胚葉(神経管)、中胚葉(体節分節・体節)、内胚葉及び神経堤細胞からの組織・器官形成を説明できる。	C-3-2)-①
5. 胎児の発育、胎盤の変化、先天異常の原因、出生前診断の種々の方法、胎児治療を説明できる。	C-3-2)-①, ③
6. 骨・軟骨の形成機構、頭蓋・四肢・脊柱の形成、四肢発生の分子的制御を説明できる。	C-3-2)-①, ③
7. 筋板からの筋パターン形成、上分節・下分節・頭部・顔面の筋形成、漿膜・胸心膜・横隔膜の形成を説明できる。	C-3-2)-①, ③
8. 心臓ループの形成、心房・心室・心球への分化、心房・心室中隔形成、胎児循環を説明できる。	C-3-2)-①, ③
9. 鰓弓由来の骨・筋・血管・神経、鰓弓・鰓溝・咽頭嚢由来の諸器官の形成を説明できる。	C-3-2)-①, ③ E-2-3)-①
10. 顔面・舌・上顎骨・下顎骨の形成発育、歯の発生の概略を説明できる。	C-3-2)-①, ③ E-2-3)-①
11. 脳胞の形成、神経細胞の分化と脊髄の発生、髄脳・後脳・中脳・間脳・終脳の発生、脳神経・自律神経の発生を説明できる。	C-3-2)-①, ③
12. 内耳・中耳・外耳の発生、網膜・虹彩・毛様体・水晶体・脈絡膜・強膜・角膜・硝子体の発生、表皮・真皮・毛・汗腺・乳腺の発生を説明できる。	C-3-2)-①, ③

対応するディプロマポリシー

ＤＰ１:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

教科書を中心に、授業中に配布するプリントを用いて、パワーポイントを用いた講義を行う。

授業内容

1 回目	生殖子形成	9 回目	筋系と体腔
2 回目	発生第 1 週	10 回目	特別講義
3 回目	発生第 2 週、第 3 週	11 回目	頭・頸部-1
4 回目	胚子期	12 回目	頭・頸部-2
5 回目	胎児期、先天異常と出生前診断	13 回目	心臓と脈管
6 回目	総論のまとめ 発生初期から胎児期までを整理し、統合的に理解を深める。	14 回目	中枢神経系
7 回目	骨格系	15 回目	平衡聴覚器、視覚器、外皮系
8 回目	四肢発生		

キーワード	生殖子発生、細胞分化、組織発生、器官形成、胎盤形成、発生の分子的制御、発生異常
教科書・教材・参考書	教科書:ラングマン人体発生学(安田峯生・山田重人訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル) 参考書:人体発生学講義ノート 第 2 版 (塩田浩平著、金芳堂)
成績評価の方法・基準等	中間試験および定期試験の成績で評価する。

受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	図・説明・文章をもとに、組織が作られる様子を頭の中でイメージするようにしてください。 教科書を中心に授業中に配布するプリントを用いて授業を進めるため、各自で教科書を準備してください。
実務経験のある教員による授業科目	松下　祐樹／神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科、東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科、長崎大学病院口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、人体の諸器官の発生過程とその異常に起因する様々な先天異常や疾患に関する講義を行う。 大庭　伸介／東京大学医学部附属病院顎口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、人体の諸器官の発生過程とその異常に起因する様々な先天異常や疾患に関する講義を行う。 山口　博之／東京医科歯科大学歯学部附属病院矯正歯科における歯科診療の実務経験を踏まえ、人体の諸器官の発生過程とその異常に起因する様々な先天異常や疾患に関する講義を行う。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	3	生殖子形成 原始生殖細胞、卵子・精子の形成、性の決定機構、染色体異常による 先天異常について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
2回	4	12	金	3	発生第1週 排卵、受精、卵割、胚盤胞、着床、卵巣・子宮の組織変化について理解する。	松下 大庭	講義室3B
3回	4	19	金	3	発生第2週、第3週 発生第2週におこる二層性胚盤の形成、発生第3週におこる三層性胚盤の 形成および栄養膜の発達について理解する。	松下 大庭	講義室3B
4回	4	26	金	3	胚子期 外胚葉(神経管)、中胚葉(体節分節・体節)、内胚葉及び神経堤細胞からの 組織・器官形成について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
5回	5	10	金	3	胎児期、先天異常と出生前診断 胎児の発育、胎盤の変化、先天異常の原因、出生前診断の種々の方法、胎 児治療について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
6回	5	17	金	3	総論のまとめ 発生初期から胎児期までを整理し、統合的に理解を深める。	松下 森石 野口	講義室3B
7回	5	24	金	3	骨格系 骨・軟骨の形成機構、頭蓋・四肢・脊柱の形成について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
8回	5	31	金	3	四肢発生 四肢発生の分子的制御について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
9回	6	7	金	3	筋系と体腔 筋板からの筋パターン形成、上分節・下分節・頭部・顔面の筋形成、 漿膜・胸心膜・横隔膜の形成について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
10回	6	14	金	3	特別講義 細胞だってコミュニケーションが大切！？ ～細胞のアンテナのお話～	松下 山口	講義室3B
11回	6	21	金	3	頭・頸部-1 鰓弓由来の骨・筋・血管・神経、鰓弓・鰓溝・咽頭嚢由来の諸器官の形成 について理解する。	松下 山口	講義室3B
12回	6	28	金	3	頭・頸部-2 顔面・舌・上顎骨・下顎骨の形成発育、歯の発生の概略について理解する。	松下 山口	講義室3B
13回	7	5	金	3	心臓と脈管 心臓ループの形成、心房・心室・心球への分化、心房・心室中隔形成、 胎児循環について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
14回	7	12	金	3	中枢神経系 脳胞の形成、神経細胞の分化と脊髄の発生、髄脳・後脳・中脳・間脳・終脳 の発生、脳神経・自律神経の発生について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B
15回	7	19	金	3	平衡聴覚器、視覚器、外皮系 内耳・中耳・外耳の発生、網膜・虹彩・毛様体・水晶体・脈絡膜・強膜・角膜・ 硝子体の発生、表皮・真皮・毛・汗腺・乳腺の発生について理解する。	松下 森石 野口	講義室3B

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 金･1～7	必修選択 必修	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014103 DNGD22041901 組織学及び同実習/(Histology and Practice)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義･実習形式	教室 講義室 6B、実習室 5B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
松下祐樹/yukimatsushita@nagasaki-u.ac.jp /教授室 /095-819-7630(内 7632)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	講義:松下祐樹、森石武史、野口東美、折笠紫音(非常勤講師)、奥山紘平(非常勤講師) 実習:松下祐樹、森石武史、野口東美

授業の概要

組織学とは、顕微鏡を用いて正常組織の構造と機能を解析する学問である。本科目では、将来歯科医師として病理変化を正確に判断できるように、正常な細胞組織の構造や形態に関する知識の習得を目指す。

授業到達目標

一般目標 GIO:

人体諸器官の正常な構造及び生理的機能とその機序を理解する。

個別行動目標 SBOs:

	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。	C-3-4)-(1)-①
2. 皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(1)-②
3. 腺の構造と分布及び分泌機構を説明できる。	C-3-4)-(1)-③
4. 支持組織の分類と構成する細胞と細胞間質を説明できる。	C-3-4)-(2)-②
5. 骨と軟骨の組織構造と構成する細胞を説明できる。	C-3-4)-(2)-③
6. 骨発生(軟骨内骨化と膜内骨化)、骨成長及びリモデリングの機序と調節機構を説明できる。	C-3-4)-(2)-④
7. 筋組織の分類と分布を説明できる。	C-3-4)-(3)-①
8. 筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。	C-3-4)-(3)-②
9. リンパ管とリンパ系組織･器官の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(4)-⑤
10. 体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(5)-②
11. 体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(6)-②
12. 肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。	C-3-4)-(7)-②
13. 膵臓(外分泌部と内分泌部)の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(7)-③
14. 気道系の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(8)-①
15. 肺の構造･機能と呼吸運動を説明できる。	C-3-4)-(8)-②
16. 内分泌器官･組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。	C-3-4)-(9)-①
17. 腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(10)-①
18. 男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を説明できる。	C-3-4)-(11)-①

対応するディプロマポリシー

ＤＰ１:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

パワーポイントとプリントを用いた講義、および組織標本の観察とスケッチを行う。

授業内容

1 回目: 組織学とは･組織標本の作り方と顕微鏡	9 回目: リンパ性器官 (リンパ節･胸腺･脾臓)
2 回目: 上皮組織	10 回目: 消化器系付属器官 (肝臓･胆嚢･膵臓)
3 回目: 支持組織 (結合組織)	11 回目: 呼吸器系 (喉頭･気管･肺)
4 回目: 支持組織 (軟骨･骨)	12 回目: 泌尿器系 (腎臓･尿管)
5 回目: 筋組織	13 回目: 生殖器系 (精巣･卵巣)
6 回目: 神経組織	14 回目: 内分泌系 (下垂体･甲状腺･副腎)
7 回目: 循環器系 (血液･リンパ液･血管)	15 回目: 感覚器系 (手掌･眼球･内耳)
8 回目: 総論のまとめ	

キーワード	細胞、組織、器官、顕微鏡
教科書･教材･参考書	教科書:入門組織学(牛木辰男著、南江堂) 参考書:バーチャルスライド組織学(駒崎伸二著、羊土社) 標準組織学総論･各論(藤田恒夫、藤田尚男著、医学書院) 教材:授業プリント、ヒトおよび各種動物の組織標本
成績評価の方法･基準等	筆記試験と実習試験を、それぞれ中間試験と定期試験に分けて行う。また、実習のミニテストやスケッチの評価も行い、総合的に評価する。詳細は講義開始時、および LACS で提示する。実習試験はパワーポイントによる出題形式で行う。
受講要件(履修条件)	なし

備考(学生へのメッセージ)	教科書を読み、各回の授業内容を予習しておきましょう。 教科書・図譜の写真や図だけを見て覚えるのではなく、組織標本を自分の目で観察することで、細胞・組織の種類や構造を識別できるようになって下さい。
実務経験のある教員による授業科目	・松下　祐樹／神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科、東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科、長崎大学病院口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、組織学に関する講義を行う。 ・折笠　紫音／東京医科歯科大学歯学部附属病院むし歯科における歯科診療の実務経験を踏まえ、組織学に関する講義を行う。 ・奥山　紘平／東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科、長崎大学病院口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、組織学に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	金	1-7	組織学総論:組織学とは・組織標本の作り方と顕微鏡 講義:組織学の概説、顕微鏡観察のための標本の作り方、顕微鏡の種類 実習:顕微鏡の使い方	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
2回	10	11	金	1-7	組織学総論：上皮組織 講義:上皮組織の分類、構成する細胞の組織学的と特徴 実習:各種上皮組織の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
3回	10	18	金	1-7	組織学総論：支持組織（結合組織） 講義:結合組織の分類、構成成分および機能 実習:各種結合組織の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
4回	10	25	金	1-7	組織学総論：支持組織（軟骨・骨） 講義:軟骨の分類と構成成分の特徴、骨組織の特徴、軟骨と骨の形成過程 実習:各種軟骨組織および骨組織の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
5回	11	1	金	1-7	組織学総論：筋組織 講義:筋組織の分類、組織学的特徴および機能 実習:各種筋組織の標本の顕微鏡観察	松下・森石・折笠	講義室6B・実習室5B
6回	11	8	金	1-7	組織学総論：神経組織 講義:神経細胞体、神経線維、膠細胞の組織学的特徴と機能 実習:神経組織の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
7回	11	15	金	1-7	組織学総論：脈管系・血液・骨髄 講義:血液細胞の組織学的特徴・機能・発生、血管・リンパ管の組織学的特徴 実習:血液塗抹標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
8回	11	22	金	1-7	組織学総論のまとめ	松下・森石・野口	実習室5B
9回	11	29	金	1-7	組織学各論：リンパ性器官 講義:リンパ性器官の組織学的特徴と機能 実習:リンパ節、胸腺、脾臓の標本の顕微鏡観察	松下・森石・奥山	講義室6B・実習室5B
10回	12	6	金	1-7	組織学各論：消化管付属器 講義:肝臓、胆嚢、膵臓の組織学的特徴と機能 実習:肝臓、胆嚢、膵臓の標本の顕微鏡観察	松下・森石・奥山	講義室6B・実習室5B
11回	12	13	金	1-7	組織学各論：呼吸器系 講義:気道を構成する呼吸器官の組織学的特徴 実習:喉頭、気管、肺の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
12回	12	20	金	1-7	組織学各論：泌尿器系 講義:泌尿器の組織学的特徴と機能 実習:腎臓と尿管の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
13回	1	10	金	1-7	組織学各論：生殖器系 講義:精巣と卵巣の組織学的特徴と機能 実習:精巣と卵巣の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B
14回	1	17	金	1-7	組織学各論：内分泌系 講義:内分泌器官の組織学的特徴と機能 実習:下垂体、甲状腺、副腎の標本の顕微鏡観察	松下・森石・折笠	講義室6B・実習室5B
15回	1	31	金	1-7	組織学各論：皮膚・感覚器系 講義:皮膚および感覚器系の組織学的特徴 実習:手掌と眼球の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室6B・実習室5B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･1～3 or 金･4～6	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014104 DNGD22051902 生理学(Physiology)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
中村渉/wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A 棟 4 階 401 号室/095-819-7636(内 7636)/16:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	中村渉

授業の概要
身体を構成する細胞、組織と器官の機能を理解し、生体として統合的に理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科口腔医学において、全身の正常な機能を知り、疾患の予防･診断を適切に行い、機能維持を図れるようになるために、生体の特性を理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 生命科学者としの探求心を養成する。	1. A-8-1)
2. 能動的な学びへの鍛錬を行う。	2. A-9-1)
3. 生体を構成する細胞、組織と器官の機能を理解する。	3. C-3-3), C-3-4), E-2-1), E-2-2)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
教員-学生相互のアクティブラーニングにより、世界水準の生理学教科書を通読する。

授業内容

①1～3 回目	生理学序説	４月 ３日（水）	中村 渉
②4～6 回目	細胞機能の基礎	４月 ５日（金）	中村 渉
③7～9 回目	血液・心臓・循環	４月１０日（水）	中村 渉
④10～12 回目	神経伝達	４月１２日（金）	中村 渉
⑤13～15 回目	自律神経・内分泌	４月１７日（水）	中村 渉
⑥16～18 回目	生殖・水分調整	４月１９日（金）	中村 渉
⑦19～21 回目	呼吸・環境生理	４月２４日（水）	中村 渉
⑧22～24 回目	中枢神経	４月２６日（金）	中村 渉
⑨25～27 回目	温度・血糖調節	５月 ８日（水）	中村 渉
⑩28～30 回目	生理学(講義・実習)まとめ	６月１９日（水）	中村 渉

キーワード	ホメオスタシス, 神経, 興奮, 反射, 感覚, 運動, 脳, 心臓, 血管, 肺, 腎臓, ホルモン
教科書･教材･参考書	教科書: Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 14th Edition 参考書: 1. 標準生理学、第 9 版、本間研一監修、医学書院 2. 基礎歯科生理学、第 7 版、岩田･井上･船橋･加藤編、医歯薬出版
成績評価の方法･基準等	期末試験の成績により評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	世界中で読まれている「Guyton Physiology」を通読しましょう。
実務経験のある教員による授業科目	中村 渉/ 北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき生理学講義を担当する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	1	生理学①生理学概論、生理学の位置づけ	中村 渉	講義室3B
2回	4	3	水	2	生理学①生理学概論、ホメオスタシスと動的恒常性	中村 渉	講義室3B
3回	4	3	水	3	生理学①細胞間および細胞内の恒常性維持機構	中村 渉	講義室3B
4回	4	5	金	4	生理学②細胞の基本構造と機能	中村 渉	講義室3B
5回	4	5	金	5	生理学②神経細胞の構造と機能	中村 渉	講義室3B
6回	4	5	金	6	生理学②血液成分，赤血球の働き，白血球の働き，血液型，血液凝固機序	中村 渉	講義室3B
7回	4	10	水	1	生理学③心臓の構造と機能	中村 渉	講義室3B
8回	4	10	水	2	生理学③全身各部の血流量、血管系の機能的区分	中村 渉	講義室3B
9回	4	10	水	3	生理学③血行力学、動脈血圧、微小循環、循環調節、特殊部位の循環	中村 渉	講義室3B
10回	4	12	金	4	生理学④興奮伝導機構、活動電位、伝導速度、神経線維の分類	中村 渉	講義室3B
11回	4	12	金	5	生理学④神経シナプスの構造，神経筋接合部の構造と機能	中村 渉	講義室3B
12回	4	12	金	6	生理学④神経筋接合部の生理学と筋収縮機構	中村 渉	講義室3B
13回	4	17	水	1	生理学⑤遺伝子の基本構造・機能とタンパク質の合成	中村 渉	講義室3B
14回	4	17	水	2	生理学⑤自律神経系の構造と機能	中村 渉	講義室3B
15回	4	17	水	3	生理学⑤内分泌系の構造と機能	中村 渉	講義室3B
16回	4	19	金	4	生理学⑥体液-腎臓系の構造と機能	中村 渉	講義室3B
17回	4	19	金	5	生理学⑥男性生殖器系の構造と機能	中村 渉	講義室3B
18回	4	19	金	6	生理学⑥女性生殖器系の構造と機能	中村 渉	講義室3B
19回	4	24	水	1	生理学⑦呼吸器系：肺の構造と機能	中村 渉	講義室3B
20回	4	24	水	2	生理学⑦血液中のガス運搬，呼吸運動の調節機序，酸塩基平衡	中村 渉	講義室3B
21回	4	24	水	3	生理学⑦呼吸器系の環境生理学	中村 渉	講義室3B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
22回	4	26	金	4	生理学⑧中枢神経系と末梢神経系の構成と機能	中村　渉	講義室3B
23回	4	26	金	5	生理学⑧特殊感覚器系の構成と機能	中村　渉	講義室3B
24回	4	26	金	6	生理学⑧体性感覚の構成と機能	中村　渉	講義室3B
25回	5	8	水	1	生理学⑨末梢性体温調節機構	中村　渉	講義室3B
26回	5	8	水	2	生理学⑨中枢性体温調節機構	中村　渉	講義室3B
27回	5	8	水	3	生理学⑨血糖調節機構	中村　渉	講義室3B
28回	6	19	水	1	生理学⑩生理学(講義・実習)まとめ1	中村　渉	講義室3B
29回	6	19	水	2	生理学⑩生理学(講義・実習)まとめ2	中村　渉	講義室3B
30回	6	19	水	3	生理学⑩生理学(講義・実習)まとめ3	中村　渉	講義室3B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 水・1～3 or 金・4～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014126 DNGD22061902 生理学実習/ (Physiology Practice)		
対象年次 2 年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5C、講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中村渉/wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A 棟 4 階 25 号室/095-819-7636(内 7636)/16:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中村渉、介田 圭(保存修復学部門)		

授業の概要

身体を構成する細胞、組織と器官の機能を理解し、生体として統合的に理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯科口腔医学において、全身の正常な機能を知り、疾患の予防・診断を適切に行い、機能維持を図れるようになるために、生体の特性を理解する。

個別行動目標 SBOs:

1. 生命科学者としの探求心を養成する。
2. 能動的な学びへの鍛錬を行う。
3. 生体を構成する細胞、組織と器官の機能を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

1. A-8-1)
2. A-9-1)
3. C-3-3), C-3-4), E-2-1), E-2-2)

授業方法(学習指導法)

3 グループに分かれ、6 課題をローテーションする。

授業内容

①	オリエンテーション	5月10日(金)4～6	担当:中村・介田
②	1-1「循環 I」「内分泌 I」「体性感覚」	5月15日(水)1～3	担当:中村・介田
③	1-2「循環 I」「内分泌 I」「体性感覚」	5月17日(金)4～6	担当:中村・介田
④	1-3「循環 I」「内分泌 I」「体性感覚」	5月22日(水)1～3	担当:中村・介田
⑤	2-1「呼吸」「内分泌 II」「循環 II」	5月24日(金)4～6	担当:中村
⑥	2-2「呼吸」「内分泌 II」「循環 II」	5月29日(水)1～3	担当:中村
⑦	2-3「呼吸」「内分泌 II」「循環 II」	5月31日(金)4～6	担当:中村
⑧	発表割り振り・レポート作成	6月 5日(水)1～3	担当:中村・介田
⑨	実習成果発表会	6月12日(水)1～3	担当:中村
⑩	生理学(講義・実習)総括問題演習	6月14日(金)4～6	担当:中村

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

キーワード	内分泌、生体リズム、感覚、呼吸・循環、酵素
教科書・教材・参考書	各実習用レジメを配布する。 参考書 1 Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 14th Edition 2 基礎歯科生理学、第 7 版、岩田・井上・船橋・加藤編、医歯薬出版 3 新訂生理学実習書、日本生理学会教育委員会、南江堂 4 標準生理学、第 9 版、本間研一監修、医学書院
成績評価の方法・基準等	レポート・実習に臨む姿勢(特に遅刻および無断欠席は減点の対象とする)と定期試験の成績により評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	1) 3 グループに分かれ、6 課題についてローテーションする。 2) 事前に実験項目を参考書等で予習し、実験の目的・方法を理解しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	中村 渉/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき生理学実習を担当する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	10	金	4	生理学実習①オリエンテーション1 生理学実習を行う際の注意事項について説明する。	中村渉・介田圭	実習室5A/C
2回	5	10	金	5	生理学実習①オリエンテーション2 レジメを配付し、各実験の内容および手順を解説する。	中村渉・介田圭	実習室5A/C
3回	5	10	金	6	生理学実習①オリエンテーション3 レジメを配付し、各実験の内容および手順を解説する。	中村渉・介田圭	実習室5A/C
4回	5	15	水	1	生理学実習②実習(1-1) 3グループに分かれ「口腔感覚」「内分泌I」「循環I」に関する実習説明 「口腔感覚」「内分泌I」「循環I」に関する実習	中村渉・介田圭	実習室5A/C
5回	5	15	水	2		中村渉・介田圭	実習室5A/C
6回	5	15	水	3		中村渉・介田圭	実習室5A/C
7回	5	17	金	4	生理学実習③(1-2) 3グループに分かれ「口腔感覚」「内分泌I」「循環I」に関する実習説明 「口腔感覚」「内分泌I」「循環I」に関する実習	中村渉・介田圭	実習室5A/C
8回	5	17	金	5		中村渉・介田圭	実習室5A/C
9回	5	17	金	6		中村渉・介田圭	実習室5A/C
10回	5	22	水	1	生理学実習④(1-3) 3グループに分かれ「口腔感覚」「内分泌I」「循環I」に関する実習説明 「口腔感覚」「内分泌I」「循環I」に関する実習	中村渉・介田圭	実習室5A/C
11回	5	22	水	2		中村渉・介田圭	実習室5A/C
12回	5	22	水	3		中村渉・介田圭	実習室5A/C
13回	5	24	金	4	生理学実習⑤(2-1) 3グループに分かれ「呼吸」「内分泌II」「循環II」に関する実習説明 「呼吸」「内分泌II」「循環II」に関する実習	中村渉	実習室5A/C
14回	5	24	金	5		中村渉	実習室5A/C
15回	5	24	金	6		中村渉	実習室5A/C
16回	5	29	水	1	生理学実習⑥(2-2) 3グループに分かれ「呼吸」「内分泌II」「循環II」に関する実習説明 「呼吸」「内分泌II」「循環II」に関する実習	中村渉	実習室5A/C
17回	5	29	水	2		中村渉	実習室5A/C
18回	5	29	水	3		中村渉	実習室5A/C

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
19回	5	31	金	4	生理学実習⑦(2-3) 3グループに分かれ「呼吸」「内分泌II」「循環II」に関する実習説明 「呼吸」「内分泌II」「循環II」に関する実習	中村渉	実習室5A/C
20回	5	31	金	5		中村渉	実習室5A/C
21回	5	31	金	6		中村渉	実習室5A/C
22回	6	5	水	1	生理学実習⑧まとめ 各項目で作成したレポートまとめ、プレゼンテーションの割り振り、各班プレゼンテーションの作成を行う。	中村渉	実習室5A/C
23回	6	5	水	2		中村渉	実習室5A/C
24回	6	5	水	3		中村渉	実習室5A/C
25回	6	12	水	1	生理学実習⑨成果プレゼンテーション1「口腔感覚」「内分泌I」	中村渉	講義室3B
26回	6	12	水	2	生理学実習⑨成果プレゼンテーション2 「循環I」「呼吸」	中村渉	講義室3B
27回	6	12	水	3	生理学実習⑨成果プレゼンテーション3 「内分泌II」「循環II」	中村渉	講義室3B
28回	6	14	金	4	生理学実習⑩(講義・実習)総括問題演習1	中村渉	講義室3B
29回	6	14	金	5	生理学実習⑩(講義・実習)総括問題演習2	中村渉	講義室3B
30回	6	14	金	6	生理学実習⑩(講義・実習)総括問題演習3	中村渉	講義室3B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 金・1～2	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014106 DNGD22071905 生化学/ (Biochemistry)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義・演習形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
伊藤公成 / itok@nagasaki-u.ac.jp / A 棟 7 階 707 号室 / 095-819-7487(内 7487) / 12:00～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	伊藤公成/itok@, 大谷昇平／s-otani@ 武田弘資 (非常勤講師/医歯薬系(薬)教授)／takeda-k@

授業の概要
生命現象の基本となる生体分子の構造と機能, 及び生化学反応の原理や代謝反応を学び, 生命活動を分子レベルの現象として理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:一般目標 GIO: 生化学の知識を習得するとともに、科学的論理的な考え方の重要性を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

(1) アミノ酸, 単糖, 脂肪酸, ヌクレオチドの構造や代謝系を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)
(2) それらの重合体である生体高分子の構造と機能, 及びその代謝系を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-2), C-2-4)
(3) 基礎的な化学平衡, 化学反応速度論, 熱力学を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1)
(4) 遺伝情報の流れを説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-2-1), C-2-2)
(5) 細胞内微小構造とその間での物質やエネルギーの移動を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-3) C−2−3)
(6) ミトコンドリアの構造と機能を説明できる。	

対応するディプロマポリシー
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
2つの教科書の内容を中心にプロジェクターを用いたアクティブラーニング。
1年次 細胞生物学入門で既習の章は演習問題が中心となる。

授業内容

1 回目	細胞:生命の基本単位 細胞の化学成分	伊藤 公成
2 回目	糖質・脂質の基本	伊藤 公成
3 回目	酵素	大谷 昇平
4 回目	ビタミン	大谷 昇平
5 回目	糖質の代謝-1	伊藤 公成
6 回目	糖質の代謝-2	伊藤 公成
7 回目	脂質の代謝-1	伊藤 公成
8 回目	脂質の代謝-2	伊藤 公成
9 回目	DNA と染色体	伊藤 公成
10 回目	DNA の複製と修復	伊藤 公成
11 回目	DNA からタンパク質へ	伊藤 公成
12 回目	アミノ酸の代謝	伊藤 公成
13 回目	モノヌクレオチドの代謝	伊藤 公成
14 回目	(特別講義) ミトコンドリアの生化学	武田 弘資
15 回目	現在の組換え DNA 技術	伊藤 公成

キーワード	生体高分子, 遺伝子, 酵素, 核酸, タンパク質, 糖質, 脂質
教科書・教材・参考書	教科書: Essential 細胞生物学 (南江堂) シンプル生化学 (南江堂) 参考書: メディカル化学: 医歯薬系のための基礎化学 (裳華房) 口腔生化学 (医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	2 回の筆記試験で評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	教科書や LACS での予習復習が重要。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	1, 2	Essential 細胞生物学 1, 2 細胞:生命の基本単位　細胞の化学成分	伊藤公成	講義室3B
2回	4	12	金	1, 2	シンプル生化学 2, 3 糖質・脂質の基本	伊藤公成	講義室3B
3回	4	19	金	1, 2	シンプル生化学　6 酵素	大谷昇平	講義室3B
4回	4	26	金	1, 2	シンプル生化学　7 ビタミン	大谷昇平	講義室3B
5回	5	10	金	1, 2	シンプル生化学　10 糖質の代謝-1	伊藤公成	講義室3B
6回	5	17	金	1, 2	シンプル生化学　10 糖質の代謝-2	伊藤公成	講義室3B
7回	5	24	金	1, 2	シンプル生化学　11 脂質の代謝-1	伊藤公成	講義室3B
8回	6	31	金	1, 2	シンプル生化学　11 脂質の代謝-2	伊藤公成	講義室3B
9回	6	7	金	1, 2	Essential 細胞生物学 5 DNAと染色体	伊藤公成	講義室3B
10回	6	14	金	1, 2	Essential 細胞生物学 6 DNAの複製と修復	伊藤公成	講義室3B
11回	6	21	金	1, 2	Essential 細胞生物学 7 DNAからタンパク質へ	伊藤公成	講義室3B
12回	6	28	金	1, 2	シンプル生化学　12 アミノ酸の代謝	伊藤公成	講義室3B
13回	7	5	金	1, 2	シンプル生化学　13 モノヌクレオチドの代謝	伊藤公成	講義室3B
14回	7	12	金	1, 2	特別講義 ミトコンドリアの生化学	武田弘資	講義室3B
15回	7	19	金	1, 2	Essential 細胞生物学 10 現在の組換えDNA技術	伊藤公成	講義室3B

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 火･4～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014107 DNGD22081905 生化学実験/(Practice of Biochemistry)		
対象年次 2 年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤公成 / itok@nagasaki-u.ac.jp / A 棟 7 階 707 号室 / 095-819-7487(内 7487) / 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	伊藤公成, 大谷昇平, 上野智也		

授業の概要

分光測光法, ゲルクロマトグラフィー, タンパク質の SDS-PAGE, PCR による遺伝子増幅を実践し, その技術を身につける。
ライフサイエンスの発展に寄与してきた基本的な実験手技を経験し, その原理を理解し, 重要性を実感する。
実験ノート･レポートの作成を通じて, 論理性を養う。

授業到達目標

一般目標 GIO:
実験を通して, 論理的な考え方の重要性を理解し, 科学的に証明する能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:
1.各実習内容を説明できる。
2.生化学の基礎的技術を用いて実験が遂行できる。
3.実験結果をまとめ, レポートや口頭で発表できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1)
C-2-2)
A-9-1)

対応するディプロマポリシー
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

グループによる実験を行う。実験内容を理解と整理のため, 実験後, 期日までにレポートを提出する。

授業内容

1 回目 オリエンテーション:実習に関するガイダンス, 実験器具の準備
2 回目 分光光度計の使用法を学び, 分光測光法の原理を理解する。
3 回目 ゲルクロマトグラフィーの原理と手法を学ぶ。
4 回目 SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動(SDS-PAGE)の理論を学ぶ。
5 回目 SDS-PAGE の手技を学ぶ。
6 回目 遺伝子型の決定と PCR 法について学ぶ。
7 回目 PCR 法の手技について学ぶ。
8 回目 増幅 DNA をアガロースゲルで電気泳動し, 遺伝子型を判別する方法を学ぶ
9 回目 追加実験･再実験
10 回目 実験･実習のまとめ

キーワード	定量実験, PCR, クロマトグラフィー, ゲル電気泳動, 分光光度計
教科書･教材･参考書	教科書:オリジナルの生化学実験テキストを配布 参考書:Essential 細胞生物学 (南江堂), シンプル生化学 (南江堂)
成績評価の方法･基準等	レポートおよび定期試験により評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	事前に実習書を読み, 実習の意味と流れをつかむ。実習手順のプロトコールを作成し, 実習に臨むこと。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	8	火	4～6	オリエンテーション 実習器具や装置の取り扱い方，レポートの書き方等のガイダンス 実習器具や装置の準備	伊藤 大谷 上野	実習室5A
2回	10	15	火	4～6	（前半グループ）分光測光法 溶液の希釈法や分光光度計の使用法を学び，測定法の原理を理解する。 （後半グループ）SDS電気泳動法によるタンパク質の分子量決定1 還元及び非還元状態で電気泳動を行う。	伊藤 大谷 上野	実習室5A
3回	10	22	火	4～6	（前半グループ）ゲルクロマトグラフィー ゲルクロマトグラフィーで混合物を分離する。 （後半グループ）SDS電気泳動法によるタンパク質の分子量決定2 ゲル上でタンパク質を染色し，検出・観察する。	伊藤 大谷 上野	実習室5A
4回	10	29	火	4～6	（前半グループ）SDS電気泳動法によるタンパク質の分子量決定1 還元及び非還元状態で電気泳動を行う。 （後半グループ）分光測光法 溶液の希釈法や分光光度計の使用法を学び，測定法の原理を理解する。	伊藤 大谷 上野	実習室5A
5回	11	12	火	4～6	（前半グループ）SDS電気泳動法によるタンパク質の分子量決定2 ゲル上でタンパク質を染色し，検出・観察する。 （後半グループ）ゲルクロマトグラフィー ゲルクロマトグラフィーで混合物を分離する。	伊藤 大谷 上野	実習室5A
6回	11	19	火	4～6	PCRと遺伝子型決定についての説明	伊藤 大谷 上野	実習室5A
7回	11	26	火	4～6	ゲノムDNAの調製と表現型・遺伝子型1 細胞からDNAを精製し，PCRにより遺伝子を増幅する。	伊藤 大谷 上野	講義室3B
8回	12	3	火	4～6	ゲノムDNAの調製と表現型・遺伝子型2 制限酵素処理及びアガロースゲル電気泳動を行い，遺伝子型を判定する。	伊藤 大谷 上野	実習室5A
9回	12	10	火	4～6	追加実験および再実験	伊藤 大谷 上野	実習室5A
10回	12	17	火	4～6	実験・実習のまとめ （予備日）	伊藤 大谷 上野	実習室5A

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･1	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014108 DNGD22101985 歯科理工学Ⅰ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅰ)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00

担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、阿部薫明、バラネザハド有礼左

授業の概要
歯科材料の組成，構造，特性を通して材料選択の指針を理解させるとともに，歯科材料ならびに器械･器具類の適切な取り扱い方法に関する正しい知識を身につけさせる。これにより，臨床家としての材料選択や使用方法に関する価値判断ができるようになるものであり，患者ならびに医療スタッフへの説得力ある説明が可能になる。
様々な修復物の作製工程で必要になる各種の歯科材料，器械･器具類に関する基本的知識を習得する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科理工学という歯科医療における材料および器機･器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
○ 歯科材料の基本的性質(物理的性質，機械的性質，化学的性質)を説明できる。	D-1
○ 接着の機構，接着強さの測定法，接着部材の破壊様式を説明できる。	D-2
○ 模型用材料，埋没材，歯科用陶材の組成，性質，成形技術を説明できる。	D-1, D-2
○ 修復物の技工技術を使用機器と関連づけて説明できる。	D-1, D-2

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
授業中に配付するプリントと教科書に基づいて講義する。課題を与えてレポートの提出を求めることがある。

授業内容
1 回目:歯科材料の物理的性質について説明する。①
2 回目:歯科材料の機械的性質について説明する。②(1)
3 回目:歯科材料の機械的性質について説明する。③(2)
4 回目:歯科材料の化学的性質について説明する。④
5 回目:歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。
6 回目:接着の機構，接着強さの測定法，および接着部材の破壊様式を解説する。
7 回目:模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。①
8 回目:模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。②
9 回目:歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。①
10 回目:歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。②
11 回目:歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。③
12 回目:特殊な歯科用材料について解説する。
13 回目:特殊な歯科用材料について解説する。
14 回目:歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。①
15 回目:歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。②

キーワード	歯科材料，状態図，接着，模型用材料，埋没材，レジン，陶材
教科書･教材･参考書	○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○スキンナー歯科材料学(上，中，下)，医歯薬出版 ○歯科材料学事典，山根正次監修，学建書院 ○コア歯科理工学，医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法･基準等	筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配付するプリントと教科書を中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で参考書等を準備すること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	1	歯科材料の一般的性質① 歯科材料の物理的性質について説明する。	阿部	実習室5C
2回	4	10	水	1	歯科材料の一般的性質② 歯科材料の機械的性質について説明する。(1)	阿部	講義室3A
3回	4	17	水	1	歯科材料の一般的性質③ 歯科材料の機械的性質について説明する。(2)	阿部	講義室3A
4回	4	24	水	1	歯科材料の一般的性質④ 歯科材料の化学的性質について説明する。	阿部	講義室3A
5回	5	1	水	1	合金の状態図 歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。	阿部	講義室3A
6回	5	8	水	1	材料の接着 接着の機構，接着強さの測定法，および接着部材の破壊様式を解説する。	阿部	講義室3A
7回	5	15	水	1	模型用材料① 模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。	阿部	講義室3A
8回	5	22	水	1	模型用材料② 模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。	阿部	講義室3A
9回	5	29	水	1	埋没材① 歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。	阿部	講義室3A
10回	6	5	水	1	埋没材② 歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。	阿部	講義室3A
11回	6	12	水	1	埋没材③ 歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。	阿部	講義室3A
12回	6	19	水	1	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	講義室3A
13回	6	26	水	1	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	講義室3A
14回	7	3	水	1	歯科用陶材① 歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。①	阿部	講義室3A
15回	7	10	水	1	歯科用陶材② 歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。②	阿部	講義室3A

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･2	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014109 DNGD22091985 歯科理工学Ⅱ/（Dental Materials Science and Engineering Ⅱ）		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00

担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、阿部薫明

授業の概要
種々の歯科材料の機械的，物理的，化学的性質を正しく理解するために必要な基礎的知識を身につける。また，歯科精密鋳造法と鋳造関連諸材料の特性を理解する。
口腔内や口腔外で使用される種々の歯科材料の性質を正しく理解し，優れた性質を引き出すために必要な基礎知識を習得する。／種々の歯科材料や生体材料の組成，構造，性質を説明できる。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科理工学という歯科医療における材料および器機･器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:
- ○ 歯科材料と生体材料(金属材料，セラミック材料，高分子材料，複合材料)の構造と特徴を説明できる。 D-1, D-2
- ○ 歯科精密鋳造法の原理と特徴，鋳造欠陥の防止法を説明できる。 D-1, D-2
- ○ 各種歯科材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明できる。 D-1, D-2

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
授業中に配付するプリントに基づいて講義する。理解を深めるため，OHP や液晶プロジェクターなどを適宜利用する。授業中に質問したり，課題を与えてレポート提出を求める場合がある。

授業内容
1 回目:歯科材料と生体材料について概説し，歯科材料の所要性質を解説する。
2 回目:印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。①
3 回目:印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。②
4 回目:歯科用ワックスの種類，所要性質，取扱方法を説明する。
5 回目:歯科精密鋳造の工程と種々の鋳造法について説明する。
6 回目:合金の融解方法と鋳造収縮の要因を説明するとともに，鋳造収縮を補償するための具体的方法を解説する。
7 回目:鋳造欠陥の種類，成因，およびその防止策を解説する。
8 回目:成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。①
9 回目:成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。②
10 回目:予防歯科材料と歯冠補綴用材料の概要，種類，所要性質，取扱い方法を説明する。
11 回目:人工歯根，骨補填材料の種類と所要性質について説明する。
12 回目:合着･接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途，所要性質を説明する。①
13 回目:合着･接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途，所要性質を説明する。②
14 回目:義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。①
15 回目:義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。②

キーワード	歯科材料，生体材料，接着，陶材，骨補填材料，歯科精密鋳造
教科書･教材･参考書	○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○スキンナー歯科材料学(上，中，下)，医歯薬出版 ○歯科材料学事典，山根正次監修，学建書院 ○コア歯科理工学，医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法･基準等	筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	2	歯科材料概論 歯科材料と生体材料について概説し，歯科材料の所要性質を解説する。	渡邊	実習室5C
2回	4	10	水	2	印象材① 印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
3回	4	17	水	2	印象材② 印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
4回	4	24	水	2	歯科用ワックス 歯科用ワックスの種類，所要性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
5回	5	1	水	2	歯科精密鋳造法 歯科精密鋳造の工程と種々の鋳造法について説明する。	渡邊	講義室3A
6回	5	8	水	2	合金の融解・鋳造収縮 合金の融解方法と鋳造法について説明する。鋳造収縮の要因を説明するとともに、鋳造収縮を補償するための具体的方法を解説する。	渡邊	講義室3A
7回	5	15	水	2	鋳造欠陥 鋳造欠陥の種類，成因，およびその防止策を解説する。	渡邊	講義室3A
8回	5	22	水	2	成形修復材料① 成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
9回	5	29	水	2	成形修復材料② 成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
10回	6	5	水	2	予防歯科材料と歯冠補綴用レジン材料 予防歯科材料の概要，種類，所要性質について説明する。 歯科用レジン材料の種類，所要性質，硬化機構，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
11回	6	12	水	2	人工歯根と骨補填材料 人工歯根，骨補填材料の種類と所要性質について説明する。	渡邊	講義室3A
12回	6	19	水	2	合着・接着用材料・歯科用セメント① 合着・接着用材料（歯科用セメント）の種類と用途，所要性質を説明する。	渡邊	講義室3A
13回	6	26	水	2	合着・接着用材料・歯科用セメント② 合着・接着用材料（歯科用セメント）の種類と用途，所要性質を説明する。	渡邊	講義室3A
14回	7	3	水	2	義歯用材料① 義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。	渡邊	講義室3A
15回	7	10	水	2	義歯用材料② 義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。	渡邊	講義室3A

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014110 DNGD22111985 歯科理工学Ⅲ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅲ)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、阿部薫明		

授業の概要

日進月歩する歯科材料，機械･器具ならびに技工技術について，科学的な判断力と応用能力を高めることを目標とする。
金合金，金銀パラジウム合金，チタンなどの各種修復用合金の諸性質と，優れた性能を引き出すための正しい取り扱い方について学ぶ。さらに，技工技術の点で重要なろう付けや研磨方法を理解するための基礎知識を身につける。／各種歯科用合金の組成，性質，用途，利点･欠点，熱処理法等が説明できる。ろう付けや研磨作業を行う上で注意すべき点を説明できる。

授業到達目標

一般目標 GIO:
　歯科理工学という歯科医療における材料および器機･器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
○歯科用金属材料の種類と性質，ならびに適切な取り扱い方を説明できる。	D-1, D-2
○切削，研磨，摩耗の理論を説明できる。	D-1, D-2
○歯科用金属材料の接合方法を説明できる。	D-1, D-2

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

授業中に配布するプリントと教科書を中心に講義を進める。課題を与えてレポートを提出させることがある。

授業内容

1 回目:金属の接合方法の種類とそれぞれの原理，特徴を説明する。①
2 回目:金属の接合方法の種類とそれぞれの原理，特徴を説明する。②
3 回目:切削と研磨の理論を説明し，研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。
4 回目:歯科用純チタンとチタン合金の用途，特徴，性質を説明する。
5 回目:鋳造用金合金の分類，性質，用途を説明するとともに，各種添加元素の効果を説明する。
6 回目:鋳造用金合金の熱処理法と，熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。
7 回目:歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに，耐硫化性の改善法を説明する。
8 回目:金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質，取り扱い上の注意点を説明する。
9 回目:陶材焼付用合金の分類，所要性質，陶材／合金間の接合機構を説明する。
10 回目:歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。①
11 回目:歯科用磁性材料の分類、用途，特徴，性質を説明する。
12 回目:歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。②
13 回目:歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。
14 回目:歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。
15 回目:歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。

キーワード	金属材料，ろう付け，研磨，摩耗
教科書･教材･参考書	○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○R.W. Phillips, Skinner's Science of Dental Materials, W.B. Saunders Company ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典，学建書院 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法･基準等	筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	3	金属の接合① 金属の接合方法を説明する。	渡邊	実習室5C
2回	4	10	水	3	金属の接合② 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室3A
3回	4	17	水	3	切削と研磨 切削と研磨の理論を説明し，研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。	渡邊	講義室3A
4回	4	24	水	3	チタンとチタン合金 歯科用純チタンとチタン合金の用途，特徴，性質を説明する。	渡邊	講義室3A
5回	5	1	水	3	金合金① 鋳造用金合金の分類，性質，用途を説明するとともに，各種添加元素の効果を説明する。	阿部	講義室3A
6回	5	8	水	3	金合金② 鋳造用金合金の熱処理法と，熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。	阿部	講義室3A
7回	5	15	水	3	銀合金 歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに，耐硫化性の改善法を説明する。	阿部	講義室3A
8回	5	22	水	3	金銀パラジウム合金と低融銀合金 金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質，取り扱い上の注意点を説明する。	阿部	講義室3A
9回	5	29	水	3	陶材焼付用合金 陶材焼付用合金の分類，所要性質，陶材／合金間の接合機構を説明する。	阿部	講義室3A
10回	6	5	水	3	非貴金属合金① 歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。	阿部	講義室3A
11回	6	12	水	3	歯科用磁性材料 歯科用磁性材料の分類、用途，特徴，性質を説明する。	渡邊	講義室3A
12回	6	19	水	3	非貴金属合金② 歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。	阿部	講義室3A
13回	6	26	水	3	歯内療法関連材料 歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A
14回	7	3	水	3	歯科矯正用材料 歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A
15回	7	10	水	3	歯科用器械 歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 火・1Q: 4～6, 2Q: 2～6	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014117 DNGD22121909 病理学総論及び同実習/(General Pathology Lecture and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤田 修一/fujishu@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野准教授室/095-819-7645(内 7645)/17:00～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	藤田修一、片瀬直樹、永野健一		

授業の概要及び位置づけ

歯科を含めた医療の従事者または研究者になるためには、「病気」を十分に理解することが必要である。病理学は病気の原因、異常が生じる機構、機能・構造上の変化、病気の経過を解明する学問である。病理学総論の講義では、顎口腔領域に限定せず、代表的な全身での疾患を取り上げながら、基本的な病理変化を解説する。実習では講義した種々の疾患の病理組織標本の顕微鏡像の観察を通して、組織・細胞レベルでその成り立ちを理解する。講義と実習は互いにリンクしており、講義内容を実習の組織標本で確かめ、理解を深める。この授業で示す全身でみられる疾患の基本的病理変化は、口腔領域での疾患でも起こっている。従って本授業は後期で学ぶ「口腔病理学及び同実習」で学習する疾患の理解にも必要である。

授業到達目標

一般目標 GIO:
病理学総論の講義では、疾病の原因・発生機構・病態・予後を理解する。実習では各種疾病の組織学的変化を病理学的に解釈する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 病因を分類し、それによる疾患を列挙できる。	C-5-1)-②
2. 遺伝性疾患について説明できる。	C-5-1)-①
3. 奇形を分類し、疾患例を列挙できる。	C-5-1)-①
4. 萎縮・変性・壊死・アポトーシスを理解し、疾患との関係を説明できる。	C-5-2)-①～④, C-2-3)-④
5. 物質代謝異常と代表的疾患を説明できる。	C-5-2)-②, E-6
6. 肥大・過形成・化生・再生・肉芽組織・創傷治癒・異物の処理(器質化を含む)を説明できる。	C-5-3)-①～⑤
7. 充血・うっ血・虚血・出血・血栓症・塞栓症・梗塞・高血圧・ショック・傍側循環・浮腫を説明できる。	C-5-4)-①～⑥, E-6-①
8. 炎症の定義を理解し、炎症の変遷、諸型の臨床的・組織学的特徴を説明できる。	C-5-5)-①～④, E-2-4)-(3)-②
9. アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全症・移植と拒絶反応を説明できる。	C-4-2)-③, C-4-2)-⑤・⑥, E-6
10. 腫瘍の定義を理解し、腫瘍の形態・動態、発生を説明できる。	C-5-6)-①・②・④・⑥
11. 腫瘍を分類し、組織型を列挙できる。	C-5-6)-⑤
12. 老化と個体死を説明できる。	C-5-7)-①

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

病理学総論として、基本的病態の概念を講義し、各種疾患の原因・成り立ち・病態を解説する。実習標本の観察を通して疾患の成り立ちや臨床病態などについて総合的に考えさせる。講義、実習によって学生が授業で得た知識を深め、将来の臨床医学で役立てることができるように指導する。講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは授業前に LACS に提示するので各自、印刷して授業に持参すること。実習はバーチャルスライドの学生間に差異のない画像によって行う。バーチャルスライドが使用不可の場合は、配布された標本の顕微鏡観察を行う。いずれもスケッチをとり、その所見を記載する。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本を解説する。学生は資料を LACS から印刷して持参し、不明な点は随時教員に質問すること。実習中にそれまでに終了した講義分の小テストを行うことがある。

授業内容

講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照
L (Lecture): 講義(講義室 3A 及び 3B)、P (Practice): 実習(実習室5B)

1 週	L1 病理学序論	L2, 3 病因論	
2 週	L4～6 染色体・遺伝子及び発生の異常		
3 週	L7～9 細胞・組織傷害		
4 週	L10, 11 代謝異常	L12 修復と再生	
5 週	L13～15 循環障害		
6 週			P1～3 実習方法説明、細胞・組織傷害
7 週			P4～6 細胞・組織障害、修復と再生
8 週	L16 循環障害		P7～9 修復と再生、循環障害
9 週	L17, 18 炎症		P10～12 循環障害
10 週	L19 炎症	L20 感染症	P13～15 炎症
11 週	L21, 22 免疫異常		P16～18 炎症
12 週	L23 免疫異常	L24 腫瘍	P19～21 炎症、感染症、免疫異常
13 週	L25, 26 腫瘍		P22～24 腫瘍
14 週	L27 腫瘍	L28 老化と個体死	P25～27 腫瘍
15 週	L29 病理検査	L30 病理組織検査の実際	P28～30 腫瘍

キーワード	病因、染色体・遺伝子異常、発生異常、細胞・組織傷害、代謝障害、修復と再生、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍、老化と個体死、病理検査、病理組織標本作製法
教科書・教材・参考書	1. 標準病理学 第 7 版 (医学書院) 2. ロビンス基礎病理学 原著 10 版 (エルセビア・ジャパン) 3. カラー ルービン病理学 (西村書店) 4. 組織病理アトラス(文光堂) など一般的な病理組織学アトラス 授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能
成績評価の方法・基準等	主に定期試験(筆記試験)の得点で評価するが、小テストの成績も考慮する。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の 3/4 以上の出席
備考(学生へのメッセージ)	病理学を理解する上で、「正常」を対象とする解剖学、組織学などの基礎知識が必要となります。
実務経験のある教員による授業科目	・藤田 修一/長崎大学熱帯医学研究所での病理解剖業務と長崎大学病院での病理業務(組織診断・細胞診)/病理解剖並びに病理診断科・病理部での組織診断・細胞診の実務経験をもとに、疾患の基本的病理変化を解説する。 ・片瀬 直樹/長崎大学病院での病理診断実務経験/長崎大学病院での病理診断業務の勤務経験をもとに、臨床病理診断学上重要なポイントを踏まえて病理学の解説を行うとともに、医療人としてふさわしい態度を習得させる。 ・永野健一／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務経験を元に、疾患による組織学的変化の解説を行い、医療者として必要な知識、学習態度を習得させる。

日程表　講義

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	火	4	病理学序論 ・ 人体病理と実験病理 ・ 臨床医学としての病理診断学	藤田	講義室3A
2回	4	2	火	5	病因論 ・ 分類 ・ 内因	藤田	講義室3A
3回	4	2	火	6	病因論 ・ 外因	藤田	講義室3A
4回	4	9	火	4	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 遺伝子異常に基づく疾患	藤田	講義室3A
5回	4	9	火	5	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 染色体異常とその関連疾患	藤田	講義室3A
6回	4	9	火	6	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 奇形	藤田	講義室3A
7回	4	16	火	4	細胞・組織障害 ・ 細胞・組織障害の概念 ・ 萎縮	藤田	講義室3A
8回	4	16	火	5	細胞・組織障害 ・ 変性	藤田	講義室3A
9回	4	16	火	6	細胞・組織障害 ・ 細胞死（壊死とアポトーシス）	藤田	講義室3A
10回	4	23	火	4	代謝異常 ・ 糖質代謝障害、蛋白質代謝障害、核酸代謝障害、脂質代謝障害	藤田	講義室3A
11回	4	23	火	5	代謝異常 ・ 無機質代謝障害、生体内色素代謝障害 修復と再生 ・ 修復と再生の概念、肥大と過形成	藤田	講義室3A
12回	4	23	火	6	修復と再生 ・ 化生、再生、肉芽組織、創傷治癒、異物の処理	藤田	講義室3A
13回	4	30	火	4	循環障害 ・ 正常循環の概要 ・ 充血、うっ血、虚血	藤田	講義室3A
14回	4	30	火	5	循環障害 ・ 出血、血栓症、塞栓症、梗塞	藤田	講義室3A
15回	4	30	火	6	循環障害 ・ 水腫（浮腫）、傍側循環（側副循環）	藤田	講義室3A
16回	5	28	火	3	循環障害 ・ ショック、播種性血管内凝固症候群、高血圧症	藤田	講義室3A
17回	6	4	火	2	炎症 ・ 定義と5大徴候 ・ 炎症性滲出とケミカルメディエータ	藤田	講義室3A
18回	6	4	火	3	炎症 ・ 炎症での組織学的変化 ・ 急性炎と慢性炎	藤田	講義室3A

19回	6	11	火	2	炎症 ・ 炎症の分類と諸型	藤田	講義室3A
20回	6	11	火	3	感染症 ・ 感染様式 ・ ウイルス性肝炎、レンサ球菌感染症	藤田	講義室3A
21回	6	18	火	2	免疫異常 ・ 免疫の概要 ・ アレルギー	藤田	講義室3A
22回	6	18	火	3	免疫異常 ・ 自己免疫疾患 ・ 後天性免疫不全症候群	藤田	講義室3A
23回	6	25	火	2	免疫異常 ・ 移植 ・ 拒絶反応と移植片対宿主病	藤田	講義室3A
24回	6	25	火	3	腫瘍 ・ 腫瘍の定義 ・ 腫瘍の形態と動態	藤田	講義室3A
25回	7	2	火	2	腫瘍 ・ 良性腫瘍と悪性腫瘍 ・ 腫瘍の原因と発生	藤田	講義室3A
26回	7	2	火	3	腫瘍 ・ がん遺伝子とがん抑制遺伝子 ・ 悪性腫瘍の進行度分類	藤田	講義室3A
27回	7	9	火	2	腫瘍 ・ 腫瘍の組織学的分類 ・ 腫瘍の各組織型	藤田	講義室3A
28回	7	9	火	3	老化と個体死 ・ フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア ・ 心臓死、脳死、死後変化	藤田	講義室3A
29回	7	16	火	2	病理検査 ・ 病理検査の種類と適応	藤田	講義室3A
30回	7	16	火	3	病理組織検査の実際 ・ 病理組織標本作製法	藤田	講義室3A

日程表　実習

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	5	14	火	4～6	病理学実習説明、細胞・組織傷害 ・　黄疸、アミロイドーシス、異所性石灰化、過角化症	藤田 片瀬 永野	実習室5B
4～6回	5	21	火	4～6	細胞・組織障害、修復と再生 ・　褐色萎縮 ・　前立腺肥大、扁平上皮化生、異物性肉芽腫、石綿症	藤田 片瀬 永野	実習室5B
7～9回	5	28	火	4～6	修復と再生、循環障害 ・　肺扁平上皮化生 ・　肝うっ血、肺うっ血・水腫・出血、食道静脈瘤、大動脈粥状硬化症	藤田 片瀬 永野	実習室5B
10～12回	6	4	火	4～6	循環障害 ・　血栓症、新鮮心筋梗塞、陳旧性心筋梗塞、腎梗塞、肺出血性梗塞	藤田 片瀬 永野	実習室5B
13～15回	6	11	火	4～6	炎症 ・　慢性活動性肝炎、線維素性心外膜炎、皮膚膿瘍、虫垂炎、肝硬変	藤田 片瀬 永野	実習室5B
16～18回	6	18	火	4～6	炎症 ・　気管支肺炎、間質性肺炎、胃消化性潰瘍、扁桃炎、肺結核	藤田 片瀬 永野	実習室5B
19～21回	6	25	火	4～6	炎症、感染症、免疫異常 ・　サルコイドーシス、腎カンジダ症、肺巨細胞性封入体症 ・　橋本病、リウマチ性心筋炎	藤田 片瀬 永野	実習室5B
22～24回	7	2	火	4～6	腫瘍 ・　大腸腺腫症、大腸腺癌、皮膚基底細胞癌、食道扁平上皮癌、 肺乳頭腺癌、胃低分化腺癌	藤田 片瀬 永野	実習室5B
25～27回	7	9	火	4～6	腫瘍 ・　胃印環細胞癌、肝細胞癌、腺癌肝転移、甲状腺乳頭癌リンパ節転移、 神経鞘腫、乳腺線維腺腫	藤田 片瀬 永野	実習室5B
28～30回	7	16	火	4～6	腫瘍 ・　骨肉腫、平滑筋腫、平滑筋肉腫、悪性黒色腫、多発性骨髄腫、 悪性リンパ腫	藤田 片瀬 永野	実習室5B

年度 2024 学期 通年(1･2Q)	曜日･校時 1Q 月火･2～3, 2Q 月･2～3	必修選択 必修	単位数 4(通年)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014116 DNGD22131981 微生物学･口腔微生物学/ (Microbiology･Oral Microbiology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、大原直也(非常勤講師)

授業の概要
1)微生物の種類と特性を理解する。2)寄生･感染と生体の防御機構を理解する。3)防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
病原微生物の特徴と宿主の防御反応を理解する。また感染症対策の手技と抗生物質を含む化学療法薬の作用機序を理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
(感染)1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状、さらにヒトに対する感染機構と病原性を説明する。	C-4-1)
2. 感染症の種類、予防、診断及び治療を説明する。	C-4-1)
3. 滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。	C-4-1)
4. 化学療法の原理、化学療法薬の作用機序、薬剤耐性機序を説明する。	C-4-1)
(免疫)1. 自然免疫と獲得免疫の機構とその異同、さらに粘膜免疫を説明する。	C-4-2)
2. 免疫担当細胞の種類と働き、抗原提示機能と免疫寛容を説明する。	C-4-2)
3. アレルギー疾患の種類、発症機序及び病態を説明する。	C-4-2)
4. 免疫不全症･自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明する。	C-4-2)
5. ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明する。	C-4-2)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
液晶プロジェクター及び板書を中心とした講義を行う。毎回、重要語句を空欄にしたプリントを配布、講義内容を書き込んでいくことで各々が要点整理を行う。また、各自の理解度の確認を兼ねた LACS テストと学生による発表会を行う。

授業内容
1- 4 回目 生物の歴史と発展、微生物の基礎、微生物の分類と性状(基本構造)について説明する。
5- 8 回目 微生物の遺伝学: 微生物遺伝子の進化と変化、微生物遺伝子の応用について説明する。
感染制御: 感染症の検出と診断、感染と発病のメカニズム、感染の免疫について説明する。
9-10 回目 発表会1:歴史的に重要な感染症について発表、説明する。
11-14 回目 滅菌と消毒:物理的方法、科学的方法、薬剤による消毒について説明する。
15-18 回目 感染症の治療: 化学療法と化学療法薬 化学療法薬の作用機序について説明する。
薬剤耐性: 薬剤耐性化の仕組みと化学療法薬の臨床的使用について説明する。
19-20 回目 発表会 2:免疫の種類と免疫関連疾患について発表、説明する。
21-24 回目 免疫の基礎: 自然免疫、微生物の認識と排除機構について補体系を含めて説明する。
25-28 回目 体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫、過敏症(アレルギー)、について説明する。
29-30 回目 発表会 3:主要な感染症について(細菌性疾患)について発表、説明する。
31-33 回目 免疫不全、自己免疫疾患、ワクチンによる感染予防について説明する。
34-37 回目 各論:グラム陽性球菌: レンサ球菌属、ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。
38-39 回目 各論:主要な抗酸菌感染症について、説明する。また免疫反応についての総括を行う。
40-41 回目 発表会 4:主要な感染症について(ウイルス性疾患)について発表、説明する。
42-45 回目 各論:グラム陽性桿菌とグラム陰性球菌、グラム陰性桿菌に含まれる病原細菌について説明する。
特に非芽胞形成性の病原菌について説明する。

キーワード	感染･微生物･免疫
教科書･教材･参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学･免疫学
成績評価の方法･基準等	微生物学･口腔微生物学･免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題発表等の評価を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	前期での講義への出席が 2/3 以上
備考(事前･事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に教科書を用いて予習をすること。また知識の定着の為に受講時に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。
実務経験のある教員による授業科目	大原 直也/国立感染症研究所にて結核対策および研究に従事した経験あり/日本の結核の対策および研究に携わった経験をもとに、微生物学の各論として結核についての解説を行う

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1,2回	4	1	月	2、3	微生物の歴史と発展、微生物の基礎について説明する。 微生物の分類と性状: 細菌の基本構造、物質代謝について説明する。	内藤	講義室3A
3,4回	4	2	火	2、3	微生物の分類と性状: ウイルス、真菌、原虫について説明する。	内藤	講義室3A
5,6回	4	8	月	2、3	微生物の遺伝学: 微生物遺伝子の進化と変化、微生物遺伝子の応用について説明する。	内藤	講義室3A
7,8回	4	9	火	2、3	感染制御:　感染と発病のメカニズム、感染の免疫について説明する。	内藤	講義室3A
9,10回	4	15	月	2、3	発表会1:歴史的に重要な感染症	内藤	講義室3A
11,12回	4	16	火	2、3	滅菌と消毒: 物理的方法、科学的方法、薬剤による消毒について説明する。	内藤	講義室3A
13,14回	4	22	月	2、3	感染症の検出と診断、感染における病原因子について説明する。	内藤	講義室3A
15,16回	4	23	火	2、3	感染症の治療: 化学療法と化学療法薬　化学療法薬の作用機序について説明する。	内藤	講義室3A
17,18回	4	30	火	2、3	薬剤耐性: 薬剤耐性化の仕組みと化学療法薬の臨床的使用について説明する。	内藤	講義室3A
19,20回	5	7	火	2、3	発表会2:免疫の種類と免疫関連疾患	内藤	講義室3A
21,22回	5	13	月	2、3	免疫の基礎: 自然免疫、微生物の認識と排除機構について補体系を含めて説明する。	内藤	講義室3A
23,24回	5	14	火	2、3	自然免疫から獲得免疫: 抗原処理と提示、免疫担当細胞について説明する。	内藤	講義室3A
25,26回	5	20	月	2、3	体液性免疫について説明する。 細胞性免疫、粘膜免疫について説明する。	内藤	講義室3A
27,28回	5	21	火	2、3	過敏症(アレルギー)について説明する。	内藤	講義室3A
29,30回	5	27	月	2、3	発表会3:主要な感染症について(細菌性疾患1)	内藤	講義室3A
31回	5	28	火	2	免疫不全、自己免疫疾患について説明する。	内藤	講義室3A
32,33回	6	3	月	2、3	ワクチンによる感染予防について説明する。 ワクチンの問題点と副反応、抗原非特異的免疫療法について説明する。	内藤	講義室3A
34,35回	6	10	月	2、3	各論:グラム陽性球菌: レンサ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	内藤	講義室3A
36,37回	6	17	月	2、3	各論:グラム陽性球菌: ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	内藤	講義室3A
38,39回	6	24	月	2、3	抗酸菌の特徴とその感染症:　結核菌とらい菌について説明する。	大原	講義室3A
40,41回	7	1	月	2、3	発表会4:主要な感染症について(ウイルス性疾患)	内藤	講義室3A
42,43回	7	8	月	2、3	各論:グラム陽性桿菌とグラム陰性球菌: 非芽胞形成性グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌に含まれる病原細菌について説明する。	内藤	講義室3A
44,45回	7	22	月	2、3	各論:グラム陰性桿菌: 腸内細菌科に含まれる菌について説明する。また含まれる病原微生物(大腸菌、コレラ菌等)について説明する。	内藤	講義室3A

年度 2024 学期 通年(3・4Q)	曜日・校時 月・3	必修選択 必修	単位数 4(通年)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014116 DNGD22131981 微生物学・口腔微生物学/ (Microbiology・Oral Microbiology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、庄子幹郎、哲翁ふみ、小松澤均(非常勤講師)		

授業の概要

1)微生物の種類と特性を理解する。2)寄生・感染と生体の防御機構を理解する。3)防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

病原微生物の特徴と宿主の防御反応を理解する。またワクチンを含めた感染症対策の手技と抗生物質を含む化学療法薬の作用機序を理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(感染)1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状、さらにヒトに対する感染機構と病原性を説明する。	C-4-1)
2. 感染症の種類、予防、診断及び治療を説明する。	C-4-1)
3. 滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。	C-4-1)
4. 化学療法の原理、化学療法薬の作用機序、薬剤耐性機序を説明する。	C-4-1)
5. 歯周病、う蝕の発症機序を説明する。	C-4-2)
(免疫)1. ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明する。	

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクター及び板書を中心とした講義を行う。毎回、重要語句を空欄にしたプリントを配布、講義内容を書き込んでいくことで各々が要点整理を行う。また、出席と各自の理解度の確認を兼ねた LACS テストも行う。

授業内容

46 回目 各論:グラム陰性桿菌、らせん菌に属する病原菌とその感染症について説明する。
47 回目 有芽胞細菌とその感染症について説明する。特産生する毒素の作用機序について説明する・
48 回目 う蝕における微生物の役割について説明する。とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。
49 回目 性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。
50 回目 口腔の常在微生物叢; 人体の正常フローラ、特に口腔内微生物、口腔免疫について説明する。
51 回目 デンタルプラーク:形成と機能、特徴について説明する。
52 回目 歯周病における微生物の役割について説明する。特に red complex について説明する。
53 回目 う蝕、歯周病の免疫学、病因論に基づいた予防と治療について説明する。
54 回目 マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、による感染症と病原真菌、原虫について説明する。
55 回目 ウイルスの特性、構造、分類について説明する。
56 回目 ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。
57 回目 ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。
58 回目 カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。
59 回目 がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。
60 回目 口腔関連感染症、口腔微生物と全身疾患について説明する。

キーワード	感染・微生物・免疫
教科書・教材・参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学・免疫学
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題発表等の評価を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	後期での講義への出席が 2/3 以上
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に教科書を用いて予習をすること。また知識の定着の為に受講時に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。
実務経験のある教員による授業科目	

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
46回	9	30	月	3	各論:グラム陰性桿菌、らせん菌 らせん菌、緑膿菌、百日咳菌、レジオネラ等の病原菌にについて説明する。	内藤	講義室3A
47回	10	7	月	3	有芽胞細菌とその感染症について説明する。とくに破傷風菌とボツリヌス菌についてはその産生毒素の作用機構について説明する。	内藤	講義室3A
48回	10	21	月	3	う蝕における微生物の役割について説明する。 とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。	小松澤	医学部 第4講義室
49回	10	28	月	3	性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。	内藤	講義室3A
50回	11	5	火	3	口腔の常在微生物叢 人体の正常フローラ、特に口腔内微生物について説明する。 また口腔における免疫についても説明する。	内藤	講義室3A
51回	11	11	月	3	デンタルプラーク:形成と機能、特徴について説明する。	内藤	講義室3A
52回	11	18	月	3	歯周病における微生物の役割について説明する。 歯周病関連細菌について、とくに*P. gingivalis, A. actinomycetemcomitans, T. forsythia*について説明する。	内藤	講義室3A
53回	11	25	月	3	う蝕、歯周病の免疫学、病因論に基づいた予防と治療について説明する。	内藤	講義室3A
54回	12	2	月	3	マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、による感染症と病原真菌、原虫について説明する。	内藤	薬学部 講義室1C (C棟1階)
55回	12	9	月	3	ウイルスの特性、構造、分類について説明する。	内藤	薬学部 講義室1C (C棟1階)
56回	12	16	月	3	ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。	内藤	講義室3A
57回	12	23	月	3	ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	内藤	講義室3A
58回	1	6	月	3	カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。	哲翁	講義室3A
59回	1	20	月	3	がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	哲翁	講義室3A
60回	1	27	月	3	口腔関連感染症、口腔微生物と全身疾患について説明する。	内藤	講義室3A

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 月・4～6 火・1	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014118 DNGD22141904 薬理学及び同実習/ (Pharmacology and it's experiments)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5C	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 5 階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	筑波隆幸、坂井詠子、山口優、佐藤友昭 (鹿児島大学教授)

授業の概要
薬物を生体に投与した時の生体の反応、すなわち薬理作用を学び、その作用の発現や機序を論理的に理解することを目標にする。これらの知識は将来、医療における薬物治療の基盤となる。

授業到達目標:
一般目標 GIO:
薬物の生体に対する作用(薬力学)と薬物を分解、排泄する現象(薬物動態学)を理解し、病気の治療に役立てる知識を得ることを目標とする

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.医薬品の分類ならびに薬物と医薬品との関係を理解し説明できる。	C-6-1)-①～③,
2.薬物の作用に関する基本的事項を理解し説明できる。	C-6-2)-①～⑤
3.種々の方法で適用された薬物の生体内運命を理解し説明できる。	C-6-3)-①～②,
4.薬物の副作用・有害作用の種類とその予防対策を理解し説明できる。	C-6-4)-①～②
5.小児, 妊婦, 高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。	C-6-3)-②, E-1-4)-(1)-⑤,⑥

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行なう。教科書を用いるので, 該当する項目に関して予習をしてもらいたい。

授業内容 **(講義)**

1 回目 【総論】薬理学序論
2 回目 薬理作用の機序
3 回目 用量と薬理作用
4 回目 生理活性物質
5 回目 細胞内情報伝達(1)
6 回目 細胞内情報伝達(2)
7 回目 受容体と薬物(1)
8 回目 受容体と薬物(2)
9 回目 イオンチャネルと薬物
10 回目 酵素と薬物
11 回目 トランスポーターと薬物
12 回目 薬物動態(1)
13 回目 薬物動態(2)
14 回目 薬物動態(3)
15 回目 薬物の作用因子
16 回目 薬物の連用と併用、相互作用
17 回目 副作用と有害作用
18 回目 薬物と医薬品(1)
19 回目 薬物と医薬品(2)
20 回目 【各論】末梢神経薬理(1)
21 回目 末梢神経薬理(2)
22 回目 末梢神経薬理(3)
23 回目 末梢神経薬理(4)
24 回目中枢神経薬理(1)
25 回目 中枢神経薬理(2)
26 回目 中枢神経薬理(3)
27 回目 中枢神経薬理(4)
28 回目 局所麻酔薬
29 回目 内分泌系薬理
30 回目 消化器系薬理
31 回目 循環器系薬理
32 回目 オータコイド
33 回目 平滑筋薬理
34 回目 ビタミン
35 回目 腎臓・泌尿系薬理(1)
36 回目 腎臓・泌尿系薬理(2)
37 回目 救急薬理
38 回目 まとめ及び問題演習

(実習)

39-41 回目 生物学的検定法(1－3)
42-44 回目中枢神経興奮薬・抑制薬(1－3)
45-47 神経筋接合部の薬物(1－3)
48-50 自律神経薬理(1－3)
51-53 回目 薬物による疼痛除去(1－3)
54-56 回目 防腐薬・腐食薬(1－3)
57 回目 発表会の準備と注意点
58-60 回目実習発表会(1－3)

キーワード	薬物, 薬理作用, 作用機序
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第 7 版):医歯薬出版 実習書:配布する
成績評価の方法	3 年前期末の定期試験で, 筆記試験を行ない, 60 点以上得点すれば合格である。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。実習は特別な理由がない限り、欠席をしないこと
備考(学生へのメッセージ)	授業は原則的にシラバスに沿って行う。講義で受けた知識を、薬理学実験において, 君たちの手で確認する。講義の邪魔になると判断したときには, 厳格に対応します。お互い気持ちの良い講義・実習になるように, 協力をお願いします。
実務経験のある教員による授業科目	山口 優/歯科医院における診療経験／一般歯科において実際に薬剤がどのように使用されているかの実践的な情報提供を行う。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	月	4	【総論】薬理学序論 薬理学の歴史、薬理学の概念、薬理学はどういう学問であるのか	筑波	講義室3A
2回	4	1	月	5	薬理作用の機序 薬理作用の様式、薬理作用の分類について	筑波	講義室3A
3回	4	1	月	6	用量と薬理作用 用量―反応曲線、有効量、中毒量、致死量、ED50、LD50,治療係数	筑波	講義室3A
4回	4	2	火	1	生理活性物質 神経伝達物質・オータコイド・ホルモン・サイトカイン・成長因子について	筑波	講義室3A
5回	4	8	月	4	細胞内情報伝達(1)	筑波	講義室3A
6回	4	8	月	5	細胞内情報伝達(2)	筑波	講義室3A
7回	4	8	月	6	受容体と薬物(1) 薬物と受容体の概念およびその情報伝達について	筑波	講義室3A
8回	4	9	火	1	受容体と薬物(2) 薬物と受容体の概念およびその情報伝達について	筑波	講義室3A
9回	4	15	月	4	イオンチャネルと薬物 イオンチャネルに作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
10回	4	15	月	5	酵素と薬物 酵素に作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
11回	4	15	月	6	トランスポーターと薬物 トランスポーターに作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
12回	4	16	火	1	薬物動態(1) 薬物動態学の概念、生体膜通過機構、薬物トランスポーター、	筑波	講義室3A
13回	4	22	月	4	薬物動態(2) 薬物の適用について	筑波	講義室3A
14回	4	22	月	5	薬物動態(3) 体内における薬物の動きを吸収、分布、代謝、排泄の各段階について	筑波	講義室3A
15回	4	22	月	6	薬物の作用因子 薬物耐性、脱感作、薬物依存、薬物の蓄積について	筑波	講義室3A
16回	4	23	火	1	薬物の連用と併用、相互作用 協力作用、拮抗作用、薬物の相互作用、薬力学的相互作用、 薬物動態学的相互作用について	筑波	講義室3A
17回	4	30	火	1	副作用と有害作用 一般的有害作用、歯科領域における副作用と有害作用、 副作用の予知と回避	筑波	講義室3A
18回	5	7	火	4	薬物と医薬品(1) 医薬品の適応、開発および薬害について	坂井	講義室3A
19回	5	7	火	5	薬物と医薬品(2) 医薬品の適応、開発および薬害について	坂井	講義室3A
20回	5	7	火	6	【各論】末梢神経系薬理(1) 末梢神経系の分類	筑波	講義室3A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
21回	5	13	月	4	末梢神経系薬理(2) 神経節、神経筋接合部に作用する薬物について	筑波	講義室3A
22回	5	13	月	5	末梢神経系薬理(3) コリン作動性神経、コリン作動性薬物、コリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室3A
23回	5	13	月	6	末梢神経系薬理(4) アドレナリン作動性神経、アドレナリン作動性薬物、 アドレナリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室3A
24回	5	14	火	1	中枢神経薬理(1) 全身麻酔薬、アルコール、催眠薬および鎮静薬について	筑波	講義室3A
25回	5	20	月	4	中枢神経薬理(2) 麻薬性鎮痛薬、向精神薬について	筑波	講義室3A
26回	5	20	月	5	中枢神経薬理(3) 中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬について	筑波	講義室3A
27回	5	20	月	6	中枢神経薬理(4) 脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬について	筑波	講義室3A
28回	5	21	火	1	局所麻酔薬 局所麻酔薬の作用機序と臨床応用、使用時の注意点について 実習の注意点	坂井	講義室3A
29回	5	27	月	4	生物学的検定法(1) 全身麻酔薬投与によるアップアンドダウン法の実験	全教員	実習室5C
30回	5	27	月	5	生物学的検定法(2) ED50、LD50の計算、副作用の予知と回避	全教員	実習室5C
31回	5	27	月	6	生物学的検定法(3) 薬物の併用効果、相乗作用、相加作用についての実験	全教員	実習室5C
32回	5	28	火	1	内分泌系薬理 代表的なホルモンと，それらの過剰症および欠乏症， ホルモン製剤 について	筑波	講義室3A
33回	6	3	月	4	中枢神経興奮薬・抑制薬(1) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
34回	6	3	月	5	中枢神経興奮薬・抑制薬(2) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
35回	6	3	月	6	中枢神経興奮薬・抑制薬(3) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
36回	6	4	火	1	消化器系薬理 消化ホルモン、健胃薬、消化薬、潰瘍治療薬、下痢薬	筑波	講義室3A
37回	6	10	月	4	神経筋接合部の薬物(1) 骨格筋を用いて、アセチルコリンによる収縮作用を観察する。	全教員	実習室5C
38回	6	10	月	5	神経筋接合部の薬物(2) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
39回	6	10	月	6	神経筋接合部の薬物(3) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
40回	6	11	火	1	循環系薬理 心不全治療薬、不整脈治療薬、狭心症治療薬、高血圧薬治療薬について	筑波	講義室3A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
41回	6	17	月	4	自律神経薬理(1) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋収縮作用を観察する	全教員	実習室5C
42回	6	17	月	5	自律神経薬理(2) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
43回	6	17	月	6	自律神経薬理(3) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
44回	6	18	火	1	オータコイド オータコイドとは何か、化学反応、生合成、生体内の役割について 生体アミン、エイコサノイド、ポリペプチド類について	筑波	講義室3A
45回	6	24	月	4	薬物による疼痛除去(1) 動物を用いて、麻薬性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬の違いを観察する	全教員	実習室5C
46回	6	24	月	5	薬物による疼痛除去(2) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
47回	6	24	月	6	薬物による疼痛除去(3) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
48回	6	25	火	1	平滑筋・呼吸筋薬理 平滑筋に作用する生理活性物質と薬理、呼吸興奮薬、 呼吸鎮静薬について	坂井	講義室3A
49回	7	1	月	4	防腐薬・腐食薬(1) 酸、アルカリ、重金属、フェノール類、アルデヒド類、 ハロゲン等の消毒薬の粘膜に対する作用を観察する	全教員	実習室5C
50回	7	1	月	5	防腐薬・腐食薬(2) 大腿骨からのカルシュウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
51回	7	1	月	6	防腐薬・腐食薬(3) 大腿骨からのカルシュウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
52回	7	2	火	1	発表会の準備と注意点・グループ分け　進行係、発表の順番等をきめる	坂井	講義室3A
53回	7	8	月	4	実習発表会(1) 生物学的検定法、中枢神経興奮薬に関する発表と質疑応答	全教員	講義室3A
54回	7	8	月	5	実習発表会(2) 中枢神経抑制薬、自律神経薬理に関する発表と質疑応答 発表と質疑応答	全教員	講義室3A
55回	7	8	月	6	実習発表会(3) 薬物による疼痛除去、防腐薬および腐食薬に関する発表と質疑応答	全教員	講義室3A
56回	7	9	火	1	ビタミン ビタミンの概説、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンについて	坂井	講義室3A
57回	7	16	火	1	救急薬理 救急時に使用する薬物、救急用薬物と適応症	山口	講義室3A
58回	7	22	月	4	腎臓・泌尿系薬理　(1) 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	佐藤	講義室3A
59回	7	22	月	5	腎臓・泌尿系薬理　(2) 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	佐藤	講義室3A
60回	7	22	月	6	まとめ及び問題演習	筑波	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 月 5～6（一部 4～6）	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064423 DNGD11121052 歯科学のための化学/(Chemistry for Dental Sciences)		
対象年次 1 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤公成 / itok@nagasaki-u.ac.jp / A 棟 7 階 707 号室 / 095-819-7487(内 7487) / 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子／mnaito@、住田吉慶／y-sumita@、小野寺貴恵／takae-o@、伊藤公成／itok@		

授業の概要

歯学生として人体を治療するための化学的な基礎知識を習得する。そのために高校で習得すべき化学的基礎知識および歯学部での生化学、微生物学、薬理学の基礎的な化学的知識を身に付ける。

授業到達目標

1）生命科学の基本的概念が説明できる。2）無機化学の基本的概念が説明できる。3）有機化合物の基本的概念が説明できる

一般目標 GIO：高校で習得すべき化学的基礎知識および歯学部での生化学、微生物学、薬理学の基礎的な化学的知識を身に付ける。

個別行動目標 SBOs：	【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1）化学反応と酸・塩基の基本原理を説明する	A-1-1-1, -2, -3
2）有機化合物の性質と機能を説明する	A-1-1-1, -2, -3
3）生体内高分子（脂質、糖質、タンパク質、核酸）の性質を説明する	A-1-2-1, -2, -3, A-1-3-2

対応するディプロマポリシー

DP1：歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法（学習指導法）

教科書、液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行なう。必要に応じてプリントを配布して，情報の追加を行う。

授業内容

1 回目 原子の構造と性質
2 回目 化学結合と混成軌道
3 回目 結合のイオン性と分子間力
4 回目 配位結合と有機金属化合物
5 回目 溶液の化学
6 回目 酸・塩基と酸化・還元
7 回目 反応速度と自由エネルギー
8 回目 有機化合物の構造と種類
9 回目 有機化合物の異性体
10 回目 有機化学反応
11 回目 脂質―生体をつくる分子1
12 回目 糖質―生体をつくる分子2
13 回目 アミノ酸とタンパク質―生体をつくる分子3
14 回目 核酸―生体をつくる分子4
15 回目 環境と化学

キーワード	化学
教科書・教材・参考書	メディカル化学―医歯薬系のための基礎化学 齋藤 勝裕/太田 好次/山倉 文幸/八代 耕児/馬場 猛【共著】 裳華房
成績評価の方法・基準等	定期試験で，筆記試験を行ない，60 点以上得点すれば合格である。再試験は 1 回行う。本試験の満点は 100 点，再試験以降の満点は 60 点とする。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。
備考(学生へのメッセージ)	授業は原則的にシラバスに沿って行う。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	2	月	5	原子の構造と性質	小野寺	講義室6A
2回	12	2	月	6	化学結合と混成軌道	小野寺	講義室6A
3回	12	9	月	5	結合のイオン性と分子間力	小野寺	講義室6A
4回	12	9	月	6	配位結合と有機金属化合物	小野寺	講義室6A
5回	12	16	月	5	溶液の化学	伊藤	講義室3B
6回	12	16	月	6	酸・塩基と酸化・還元	伊藤	講義室3B
7回	12	23	月	5	反応速度と自由エネルギー	内藤	講義室3B
8回	12	23	月	6	有機化合物の構造と種類	内藤	講義室3B
9回	1	6	月	5	有機化合物の異性体	内藤	講義室3B
10回	1	6	月	6	有機化学反応	内藤	講義室3B
11回	1	20	月	5	脂質―生体をつくる分子1	住田	講義室3B
12回	1	20	月	6	糖質―生体をつくる分子2	住田	講義室3B
13回	1	27	月	4	アミノ酸とタンパク質―生体をつくる分子3	住田	講義室3B
14回	1	27	月	5	核酸―生体をつくる分子4	住田	講義室3B
15回	1	27	月	6	環境と化学	伊藤	講義室3B

年度 2024 学期 3Q・4Q	曜日・校時 月 4～5(3Q) 月 4(4Q)	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064424 DNGD11131067 歯科学のための生物科学/Biological Science for Dentistry		
対象年次 1年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 総合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤山理恵/ rierika@nagasaki-u.ac.jp /総合歯科臨床教育学/095-819-7760(内 7760)/16:00-17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	講義: 藤山理恵	実習: 藤山理恵	

授業の概要

厚生省(現 厚生労働省)と日本歯科医師会が平成元年に提唱し、国民に呼びかけてきた「8020 運動」により 2018 年の歯科疾患実態調査では 8020 達成者は 51.2%となり、80 歳の 2 人に1人以上となった。そのため、今後は全身的有病者への歯科治療はさらに増加する。歯科医師として全身的病態を理解した上での歯科治療を行うことはもちろん、多科にわたる医師との連携が必要となる。さらに周術期口腔機能管理の必要性、地域包括ケア・栄養サポートシステムへの参加など歯科医師は多様な対応を求められる時代となった。このような歯科臨床の変化に対応するため、歯学部教育の早期に人間の諸器官の構造と機能の基礎を学ぶ本授業は、医学の専門的知識を身に付ける第一歩に位置づけられる。さらに本授業は、歯科医師として今まで以上に重要となる臨床医学における病態の理解を深めるための橋わたしとなる。。

授業到達目標

一般目標 GIO:

人間のミクロからマクロにいたる諸器官の構造と機能の基礎を学び、ヒトの生命について理解する。

人体の正常構造と機能の基礎的知識を習得し、病態への興味をもつ。

習得した知識から、病態について自らの力で考えることにより探求・解決能力を身に付ける。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.得られた知識を統合して自分の考えを表現し、病態を分析できる。	PR-01,04 RE-01,02,03 PS-01,02,05
2.細胞の構造と機能・情報伝達機構を説明できる。	A-1-4-1,2,3
3.血液・リンパと循環器系の基本構造と機能を説明できる。	A-3-1-4-1,2,3,4,5,6,7,8 A-4-2-1,2,3,6
4.神経系の基本構造と機能を説明できる。	A-3-1-5-1,2,3,4,5,6,7,8
5.感覚器系の基本構造と機能を説明できる。	A-3-1-6-1,2,3,4
6.消化器系の基本構造と機能を説明できる。	A-1-2-1,2,3,4,5,6,7,8,9 A-3-1-7-1,2
7.呼吸器系の基本構造と機能を説明できる。	A-3-1-7-1,2
8.内分泌系の基本構造と機能を説明できる。	A-3-1-9-1,2,3,4,5
9.泌尿器系の基本構造と機能を説明できる。	A-3-1-10-1,2,3
10.唾液腺および味覚の構造と機能、味覚伝達のメカニズムを説明できる。	A-3-1-1-3 A-3-1-6-1
11.味覚障害の原因、診察、検査、診断および治療方針を説明できる。	D-3-1-11-4 E-2-2-6
12.味覚障害の体験実習などから患者の精神的・身体的苦痛に配慮できる。	CM-01

対応するディプロマポリシー

・歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

・歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

・多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯にわたり自己主導型学修を継続できる。

授業方法(学習指導法)

各項目ごとにプリントを配布する。教科書、液晶プロジェクター、および板書を用いて、人体の構造と機能を体系的に学習する。

各項目ごとに小テストを行い、各項目における機能の基本的なメカニズムの理解および説明ができる思考が習得できているか確認する。

正常構造と機能を理解する中で、学生自身が疾患を理論的に考えられるようなお題を出題する。また各項目の講義終了後、知識の定着を目的に、グループ単位で発表し、各自レポートを提出する。

患者に寄り添う歯科医師の第一歩として、感覚疾患(味覚障害)を体験する実習を行う。

知識習得確認のため、各器官ごとの授業にて CBT や歯科医師国家試験などの問題演習を行う。

授業は規制がない限り、すべて対面形式で行う。

授業内容	
1 回目 歯科学のための生物科学 序論 2 回目 人体の成り立ち，ホメオスタシス， 味覚修飾物質を用いた味覚体験実習(1) 3 回目 味覚の基礎と臨床 4 回目 細胞の興奮 5 回目 心臓血管系 1 （心電図を含む） 6 回目 心臓血管系 2 7 回目 心臓血管系に関するグループ発表， 心臓血管系の疾患を考える 8 回目 血液・免疫系 1 9 回目 血液・免疫系 2 10 回目 呼吸器系 1 11 回目 血液・免疫系に関するグループ発表， 呼吸器系 2	12 回目 呼吸器系 3，呼吸器系の疾患を考える 13 回目 呼吸器系に関するグループ発表， 消化器系 1 14 回目 消化器系 2 15 回目 消化器系 3，味覚体験実習 (2) 16 回目 泌尿器系 1 17 回目 消化器系に関するグループ発表， 泌尿器科系 2 18 回目 泌尿器系に関するグループ発表， 内分泌系 1 19 回目 内分泌系 2 20 回目 内分泌系に関するグループ発表， 自律神経系 21 回目 感覚器系 1 22 回目 感覚器系 2 自律神経系・内分泌系の疾患を考える 23 回目 総 括（最終回のみ 7 校時）

キーワード	人体、心臓血管系、血液・免疫系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、自律神経系、感覚器系
教科書・教材・参考書	教科書:トートラ人体解剖生理学（原著11版）、佐原由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 翻訳（丸善出版） 参考書:カラー図解 人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版 第 4 版、坂井建雄・河原克雅（日本医事新報社）
成績評価の方法・基準等	グループ単位での発表・レポート(20 点)＋第 23 回総括で行う筆記試験(80 点)=合計 100 点のうち 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	出席数が講義数の 2/3 に満たないものはを第 23 回総括で行う筆記試験を受けることは出来ません。
備考(学生へのメッセージ)	授業内容の項目を必ず教科書にて予習すること。教科書は必ず持参すること。また講義終了後は教科書あるいは配布資料を復習すること。講義の途中または最後に小テストを行うので、理解の確認をすること。
実務経験のある教員による授業科目	・藤山 理恵/大学病院での味覚外来担当による診療経験/歯科学で必要な生理学を中心とした知識を習得し、病態への興味を引き出す。その際に味覚外来での診療経験を基にした感覚疾患（味覚障害）の体験実習を実施し、その機能・構造について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	4	序論 歯科医師の社会的な役割 歯科医師となるために学ぶべきこと	藤山	講義室3B
2回	9	30	月	5	人体の成り立ち ホメオスタシス 味覚修飾物質を用いた味覚体験実習(1)	藤山	講義室3B
3回	10	7	月	4	味覚の基礎と臨床	藤山	講義室3B
4回	10	7	月	5	細胞の興奮	藤山	講義室3B
5回	10	21	月	4	心臓血管系 1（心電図を含む）	藤山	講義室6A
6回	10	21	月	5	心臓血管系 2	藤山	講義室6A
7回	10	28	月	4	心臓血管系に関するグループ発表 心臓血管系の疾患を考える	藤山	講義室3B
8回	10	28	月	5	血液・免疫系 1	藤山	講義室3B
9回	11	5	火	4	血液・免疫系 2	藤山	講義室3B
10回	11	5	火	5	呼吸器系 1	藤山	講義室3B
11回	11	11	月	4	血液・免疫系に関するグループ発表 呼吸器系 2	藤山	講義室3B
12回	11	11	月	5	呼吸器系 3 呼吸器系の疾患を考える	藤山	講義室3B
13回	11	18	月	4	呼吸器系に関するグループ発表 消化器系 1	藤山	講義室3B
14回	11	18	月	5	消化器系 2	藤山	講義室3B
15回	11	25	月	4	消化器系 3 味覚修飾物質を用いた味覚体験実習(2)	藤山	講義室3B
16回	11	25	月	5	泌尿器系 1	藤山	講義室3B
17回	12	2	月	4	消化器系に関するグループ発表 泌尿器系 2	藤山	講義室6A
18回	12	9	月	4	泌尿器系に関するグループ発表 内分泌系 1	藤山	講義室6A
19回	12	16	月	4	内分泌系 2 内分泌系の疾患を考える	藤山	講義室3B
20回	12	23	月	4	内分泌系に関するグループ発表 自律神経系	藤山	講義室3B
21回	1	6	月	4	感覚器系 1	藤山	講義室3B
22回	1	20	月	4	感覚器系 2 自律神経系・内分泌系の疾患を考える	藤山	講義室3B
23回	1	27	月	7	総 括 （最終回のみ7校時）	藤山	講義室3B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時　月・1 (5 月 7 日のみ火・1)	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064416 DNMC22011098 歯科学のための物理科学/(Physical Science for Dentistry)		
対象年次　1年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3B	
対象学生(クラス等)　歯学部	科目分類　口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角　美佐/misa@nagasaki-u.ac.jp/口腔診断・情報科学分野　医局/095-819-7709 (PHS 98912)/16 時～			
担当教員(オムニバス科目等)	第 1 部:角　美佐, 第 2 部:田代　茂樹, 第 3 部:阿部　薫明, 第 4 部:村田　比呂司		

授業の概要

歯科学(歯科放射線学, 歯科理工学, 歯科補綴学)を学ぶために必要な物理科学の講義を行い, 歯科学における物理科学的な理解を深める。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯科学(歯科放射線学, 歯科理工学, 歯科補綴学)を学ぶために必要な物理科学の理解を深める。　【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

○ 磁気共鳴撮像法の原理を説明できる。	D-2-5-9
○ 基礎放射線学や生物物理科学の基礎を説明できる。	D-2-5-1～3
○ 歯科材料学の基礎を説明できる。	B-1-1～3
○ レオロジーの基礎を説明できる。	B-2-2

対応するディプロマポリシー

DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクター, パソコン(LACS), プリント類の配付, 板書などにより授業を進める。また, 理解度を測るため小テストを実施し, 担当教員によっては課題レポートの提出を求める。

授業内容

(概要)

本授業は次の 4 部から構成されている。

第 1 部(第 1～4 回): 角　美佐　磁気共鳴撮像法の原理について解説する。

第 2 部(第 5～8 回): 田代　茂樹　歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学について解説する。

第 3 部(第 9～12 回): 阿部　薫明　歯科材料科学を理解するために必要になる基礎的な物理科学について解説する。

第 4 部(第 13～15 回): 村田　比呂司　歯科材料の物性評価に必要なレオロジーについて解説する。

(内容)

1 回目: 磁気共鳴撮像法の基礎(1)　講義
2 回目: 磁気共鳴撮像法の基礎(2)　講義
3 回目: 磁気共鳴撮像法の基礎(3)　講義
4 回目: 磁気共鳴撮像法の基礎(4)　講義と小テスト
5 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と小テスト(1)
6 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と小テスト(2)
7 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と小テスト(3), レポート提出
8 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と小テスト(4)
9 回目: 歯科材料科学の基礎(1)　講義と小テスト
10 回目: 歯科材料科学の基礎(2)　講義と小テスト
11 回目: 歯科材料科学の基礎(3)　講義と小テスト
12 回目: 歯科材料科学の基礎(4)　講義と小テスト
13 回目: レオロジーの基礎(1)　講義と小テスト
14 回目: レオロジーの基礎(2)と応用(1)　講義と小テスト
15 回目: レオロジーの応用(2)　講義と小テスト

キーワード	磁気共鳴撮像法, 基礎放射線学, 生物物理科学, 歯科材料科学, レオロジー
教科書・教材・参考書	教材としてプリント等を配付することがある。
成績評価の方法・基準等	4 名の担当教員が, 授業中に実施する小テストや課題レポート等により, それぞれ 25 点満点で評価し, 各教員の評価において 15 点以上を合格とする。4 名の合計点(100 点満点)で最終評価する。
受講要件(履修条件)	4 名の各教員の講義を 2 回以上かつ全体の 2/3 以上出席しなければ, 成績評価の対象とならない。

備考(学生へのメッセージ)	教材として配付された資料がある場合は確実に予習・復習して授業と小テストに臨むこと。
実務経験のある教員による授業科目	・角　美佐(第 1～4 回)/長崎大学病院における画像診断業務/最も重要な画像診断モダリティである MRI の原理を理解するために必要な核磁気共鳴に関する講義を行う ・村田　比呂司(第 13～15 回)/長崎大学病院における歯科補綴診療業務/歯科補綴学を学ぶ上で必要なレオロジーに関する講義を行う

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	8	月	1	磁気共鳴撮像法の基礎(1) 核磁気共鳴現象について	角	講義室3B
2回	4	15	月	1	磁気共鳴撮像法の基礎(2) 緩和現象について	角	講義室3B
3回	4	22	月	1	磁気共鳴撮像法の基礎(3) MRIにおけるコントラストについて	角	講義室3B
4回	5	7	火	1	磁気共鳴撮像法の基礎(4) 小テストを行う。	角	講義室3B
5回	5	13	月	1	基礎放射線学，生物物理科学を中心とした講義，演習(1) 歯科学，生物学研究に必要な基礎的な物理科学についてLACSを用いて講義し，理解度を確認するための小テストを行う。	田代	講義室3B
6回	5	20	月	1	基礎放射線学，生物物理科学を中心とした講義，演習(2) 歯科学，生物学研究に必要な基礎的な物理科学についてLACSを用いて講義し，理解度を確認するための小テストを行う。レポート課題の提示を行う。	田代	講義室3B
7回	5	27	月	1	基礎放射線学，生物物理科学を中心とした講義，演習(3) 歯科学，生物学研究に必要な基礎的な物理科学についてLACSを用いて講義し，理解度を確認するための計算問題テストを行う。レポートを提出。	田代	講義室3B
8回	6	3	月	1	基礎放射線学，生物物理科学を中心とした講義，演習(4) 歯科学，生物学研究に必要な基礎的な物理科学についてLACSを用いて講義し，理解度を確認するための疑似国試問題テストを行う。	田代	講義室3B
9回	6	10	月	1	歯科材料科学の基礎(1) 歯科材料科学を理解するために必要になる基礎的な物理科学について 解説する。小テストを行う。	阿部	講義室3B
10回	6	17	月	1	歯科材料科学の基礎(2) 歯科材料科学を理解するために必要になる基礎的な物理科学について 解説する。小テストを行う。	阿部	講義室3B
11回	6	24	月	1	歯科材料科学の基礎(3) 歯科材料科学を理解するために必要になる基礎的な物理科学について 解説する。小テストを行う。	阿部	講義室3B
12回	7	1	月	1	歯科材料科学の基礎(4) 歯科材料科学を理解するために必要になる基礎的な物理科学について 解説する。小テストを行う。	阿部	講義室3B
13回	7	8	月	1	レオロジーの基礎(1) 弾性，粘性について 小テストを行う。	村田	講義室3B
14回	7	22	月	1	レオロジーの基礎(2)と応用(1) 静的粘弾性及び動的粘弾性、歯科材料への応用 小テストを行う。	村田	講義室3B
15回	7	29	月	1	レオロジーの応用(2) 歯科材料への応用及びバイオレオロジー 小テストを行う。	村田	講義室3B

年度 2024　学期 1・2Q	曜日・校時　火・4～5	必修選択　必修	単位数　2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064404 DNMC11011098 細胞生物学プラクシス/(Praxis of Cell Biology)		
対象年次　1 年次	講義形態　講義・発表形式	教室　講義室 3B	
対象学生(クラス等)	科目分類　口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤公成/itok@nagasaki-u.ac.jp/A 棟 7 階 707 号室/095-819-7487(内 7487)/12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一/oyamada@、片瀬直樹/katase@、筑波隆幸/tsuta@、 庄子幹郎/m-shoji@、中村渉/wataru_nakamura@、門脇知子/tomokok@、伊藤公成/itok@		

授業の概要

基礎歯科医学を学ぶ上で基本となる細胞生物学について演習形式で学習し、理解を深める。

授業到達目標

細胞の営みの概略を理解し、説明できる。

一般目標 GIO:細胞生物学を中心に、大学で習得すべきライフサイエンスに関する基礎知識を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:

1. 細胞機能の基本を説明する。
2. 細胞構造の基本を説明する。
3. 組織の発生、個体機能の基本を説明する。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

A-1-1, -2, -3, -4, -5
A-1-1, -2, -3, -4, -5
A-2-1, -2, -3, A-2-1, -2, -3

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

細胞生物学に関するテーマについて、小グループで自学自習し、その結果を発表し討論する。

授業内容

1.2 回目　顎顔面解剖学:　顎顔面領域の形態と変化;　講義と発表

3.4 回目　口腔病理学:　細胞の情報伝達, 細胞分裂;　講義と発表

5.6 回目　歯科薬理学:　膜の構造および膜を通した輸送;　演習と発表

7.8 回目　加齢口腔生理学:　体内時計が制御する「規則正しい生活」;　演習と発表

9.10 回目　フロンティア生命科学:　細胞内オルガネラとその機能;　演習と発表

11.12 回目　口腔病原微生物学:　DNA、DNAからタンパク質へ;　演習と発表

13～15 回目　分子硬組織生物学:　正常細胞とがん細胞;　講義と発表

キーワード	細胞生物学、分子生物学、生化学、分子遺伝学
教科書・教材・参考書	Essential 細胞生物学 (南江堂)
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否及びレポートを総合的に判断し評価する。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	9	火	4～5	顎顔面領域の形態と変化／講義	小山田常一	講義室3B
2回	4	16	火	4～5	顎顔面領域の形態と変化／発表	小山田常一	講義室3B
3回	4	23	火	4～5	細胞の情報伝達，細胞分裂／講義	片瀬直樹	講義室3B
4回	4	30	火	4～5	細胞の情報伝達，細胞分裂／発表	片瀬直樹	講義室3B
5回	5	14	火	4～5	膜の構造および膜を通した輸送体／演習	筑波隆幸	講義室3B
6回	5	21	火	4～5	膜の構造および膜を通した輸送体／発表	筑波隆幸	講義室3B
7回	5	28	火	4～5	体内時計の神経科学／演習	中村渉	講義室3B
8回	6	4	火	4～5	体内時計の生理学／発表	中村渉	講義室3B
9回	6	11	火	4～5	細胞内オルガネラとその機能／演習	門脇知子	講義室3B
10回	6	18	火	4～5	細胞内オルガネラとその機能／発表	門脇知子	講義室3B
11回	6	25	火	4～5	DNA,DNA からタンパク質へ／演習	庄子幹郎	講義室3B
12回	7	2	火	4～5	DNA,DNA からタンパク質へ／発表	庄子幹郎	講義室3B
13回	7	9	火	4～5	正常細胞とがん細胞／講義	伊藤公成	講義室3B
14回	7	16	火	4～5	正常細胞とがん細胞／発表	伊藤公成	講義室3B
15回	7	23	火	4～5	正常細胞とがん細胞／発表	伊藤公成	講義室3B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時　月･2 火･2 (4 回目)	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25064406 DNMC11021098 細胞生物学入門Ⅰ/(Essential Cell l Biology Ⅰ)		
対象年次 1 年次	講義形態　講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)	科目分類　口腔生命科学総論		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
伊藤公成/itok@nagasaki-u.ac.jp/A 棟 7 階 707 号室/095-819-7487(内 7487)/12:00～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	大谷昇平／s-otani@, 佐藤啓子／satou@, 庄子幹郎/m-shoji@, 伊藤公成/itok@

授業の概要
歯科医学を学ぶ上で基本となる細胞生物学について理解する。

授業到達目標

細胞の構造･機能の概略を理解し、説明できる。

一般目標 GIO:細胞生物学を中心に、大学で習得すべきライフサイエンスに関する基礎知識を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:	【令和 4 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 細胞機能の基本を理解する。	A-1-1, -2, -3, -4, -5
2. 細胞構造の基本を理解する。	A-1-1, -2, -3, -4, -5
3. 組織、個体機能の基本を理解する。	A-2-1, -2, -3, A-2-1, -2, -3
4. 生命科学の解析法の基本を理解する	A-1-3-5, -6

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
液晶プロジェクター及び板書を中心とし、教科書に沿って単元ごとに講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてきてください。

授業内容

1 回目　生命の基本単位としての細胞について、研究対象としてのモデル生物について学ぶ（1章）

2, 3 回目　細胞の化学成分:生命体はすべて化学と物理学の法則に従う。細胞を構成する分子の化学とそれらの相互作用の基礎を学ぶ（2 章）

4, 5 回目　エネルギー，触媒作用，生合成: 生物におけるエネルギー変換に必須である酵素の触媒作用について学ぶ（3 章）

6, 7 回目　タンパク質の構造と機能:タンパク質の構造はアミノ酸配列によって決まることを理解し，個々のタンパク質の機能構造と密接に関連することを学ぶ。(4 章)

8, 9 回目　DNA と染色体、DNA の複製、修復、組み換え（5, 6 章）

10, 11 回目　DNA からタンパク質へ（7 章）

12, 13 回目　遺伝子発現の調節機構における転写因子の重要性について学ぶ（8 章）

14, 15 回目　現在のライフサイエンスで使用される遺伝子解析手法について学ぶ（10 章）

キーワード	細胞、遺伝子、タンパク質
教科書･教材･参考書	Essential 細胞生物学（南江堂）
成績評価の方法･基準等	定期試験期間中に行う筆記試験の得点により評価する。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	教科書に沿って進められるので，必ず予習をしておくこと。また、質問等は講義終了後あるいは直接担当教員の部屋を訪ねてください。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	8	月	2	生命の基本単位としての細胞について、研究対象としてのモデル生物について学ぶ。(1章)	伊藤公成	講義室3B
2回	4	15	月	2	細胞の化学成分: 生命体はすべて化学と物理学の法則に従う。細胞を構成する分子の化学とそれらの相互作用の基礎を学ぶ。(2章)	伊藤公成	講義室3B
3回	4	22	月	2			講義室3B
4回	5	7	火	2	エネルギー, 触媒作用, 生合成: 生物におけるエネルギー変換に必須である酵素の触媒作用について学ぶ。(3章)	大谷昇平	講義室3B
5回	5	13	月	2			講義室3B
6回	5	20	月	2	タンパク質の構造と機能: タンパク質の構造はアミノ酸配列によって決まることを理解し, 個々のタンパク質の機能は構造と密接に関連することを学ぶ。 (4章)	佐藤啓子	講義室3B
7回	5	27	月	2			講義室3B
8回	6	3	月	2	DNAと染色体、DNAの複製、修復、組替え: DNAと染色体の構造を理解する。またDNAの複製, 修復, 組換え機構を学ぶ。(5,6章)	庄子幹郎	講義室3B
9回	6	10	月	2			講義室3B
10回	6	17	月	2	DNAからタンパク質へ: DNA からタンパク質が作られる仕組みと遺伝情報の流れを理解する。(7章)	庄子幹郎	講義室3B
11回	6	24	月	2			講義室3B
12回	7	1	月	2	遺伝子発現の調節機構における転写因子の重要性について学ぶ。(8章)	伊藤公成	講義室3B
13回	7	8	月	2			講義室3B
14回	7	22	月	2	遺伝子とゲノムの進化、現在のライフサイエンスで使用される遺伝子解析手法について学ぶ。(9, 10章)	伊藤公成	講義室3B
15回	7	29	月	2			講義室3B

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 月･2 火･2 (5 回目)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25064407 DNMC11031098 細胞生物学入門Ⅱ/(Essential Cell Biology Ⅱ)		
対象年次 1 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤公成/itok@nagasaki-u.ac.jp/A 棟 7 階 707 号室/095-819-7487(内 7487)/12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	坂井詠子/eiko-s@、永野健一/k-nagano@、森石武史/moriishi@、 門脇知子/tomokok@、 片瀬直樹/katase@、 伊藤公成/itok@		

授業の概要
歯科医学を学ぶ上で基本となる細胞生物学について理解する。

授業到達目標
細胞の構造･機能の概略を理解し、説明できる。

一般目標 GIO:細胞生物学を中心に、大学で習得すべきライフサイエンスに関する基礎知識を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:	【令和4年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 細胞機能の基本を理解する。	A-1-1, -2, -3, -4, -5
2. 細胞構造の基本を理解する。	A-1-1, -2, -3, -4, -5
3. 組織、個体機能の基本を理解する。	A-2-1, -2, -3, A-2-1, -2, -3
4. 生命科学の解析法の基本を理解する	A-1-3-5, -6

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
液晶プロジェクター及び板書を中心とし、教科書に沿って単元ごとに講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてきてください。

授業内容
1, 2 回目 膜の構造について学ぶ (11 章)

3, 4 回目 膜輸送について学ぶ (12 章)

5, 6 回目 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ:生物におけるエネルギー獲得経路とは何か, またそれらが整然と制御されていることを学ぶ (13 章)

7 回目 ミトコンドリアにおけるエネルギー生産:生物はどのようにしてエネルギー変換機構を獲得したのか, そのエネルギー獲得における膜の役割について学ぶ (14 章)

8, 9 回目 細胞内区画と細胞内輸送:細胞器官の機能とそれぞれの器官にタンパク質が輸送されていくしくみを学ぶ (15 章)

10, 11 回目 細胞の情報伝達、細胞骨格について学ぶ (16, 17 章)

12, 13 回目 細胞周期と細胞分裂について学ぶ (18 章)

14, 15 回目 がん化のメカニズムとがん遺伝子･がん抑制遺伝子について学ぶ (20 章)

キーワード	細胞、遺伝子、タンパク質
教科書･教材･参考書	Essential 細胞生物学 (南江堂)
成績評価の方法･基準等	定期試験期間中に行う筆記試験の得点により評価する。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	教科書に沿って進められるので、必ず予習をしておくこと。また、質問等は講義終了後あるいは直接担当教員の部屋を訪ねてください。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	2	膜の構造: 脂質二重層, 膜タンパク質(11章)	坂井詠子	講義室3B
2回	10	7	月	2			講義室3B
3回	10	21	月	2	膜輸送: 搬体タンパク質とその機能, イオンチャネルと膜電位, 神経細胞のイオンチャネルとシグナル伝達(12章)	永野健一	講義室3B
4回	10	28	月	2			講義室3B
5回	11	5	火	2	細胞が食物からエネルギーを得るしくみ: 生物におけるエネルギー獲得経路とは何か, またそれらは整然と制御されていることを学ぶ。(13章)	森石武史	講義室3B
6回	11	11	月	2			講義室3B
7回	11	18	月	2	ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産: 生物はどのようにしてエネルギー変換機構を獲得したのか。そのエネルギー獲得における膜の役割について学ぶ。(14章)	森石武史	講義室3B
8回	11	25	月	2	細胞内区画と細胞内輸送: 細胞器官の機能とそれぞれの器官にタンパク質が輸送されていくしくみを学ぶ。(15章)	門脇知子	講義室3B
9回	12	2	月	2			薬学部講義室1B(C棟1階)
10回	12	9	月	2	細胞の情報伝達, 細胞骨格(16,17章)	片瀬直樹	薬学部講義室1B(C棟1階)
11回	12	16	月	2			講義室3B
12回	12	23	月	2	細胞周期と細胞分裂(18章)	伊藤公成	講義室3B
13回	1	6	月	2			講義室3B
14回	1	20	月	2	がん化のメカニズムとがん遺伝子・がん抑制遺伝子について学ぶ。(20章)	伊藤公成	講義室3B
15回	1	27	月	2			講義室3B

口腔生命科学各論Ⅰ（3年次生）

（1）口腔解剖学及び同実習　（3年）・・・・・・・・・・・・・ 94
（2）口腔組織学及び同実習　（3年）・・・・・・・・・・・・・ 96
（3）口腔生理学　（3年）・・・・・・・・・・・・・ 99
（4）口腔生化学　（3年）・・・・・・・・・・・・・101
（5）歯科理工学実験　（3年）・・・・・・・・・・・・・104
（6）口腔病理学及び同実習　（3年）・・・・・・・・・・・・・107
（7）口腔微生物学実習　（3年）・・・・・・・・・・・・・112
（8）歯科薬理学　（3年）・・・・・・・・・・・・・114
（9）医学統計学　（3年）・・・・・・・・・・・・・116
（10）歯科法医学　（3年）・・・・・・・・・・・・・118

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 金・2～3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024201 DNGD22151981 口腔解剖学及び同実習/ (Oral Anatomy and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部 解剖実習室、講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一 oyamada@		

授業の概要

口腔領域の基本構造並びに諸器官の相互位置関係を解剖学的に学習する。あわせて、病態や機能と関連付けて思考することができる応用力を養う。また、天然歯の鑑別を通して歯の形態や咬合などの理解を深める。ヒトの歯の一般的な形態を理解し、各歯種の特徴、各歯種間の相違点及び歯種内で各歯を識別する能力を養う。

授業到達目標

一般目標 GIO:

ヒトの歯の形態について、歯列、歯種間、歯種内における各歯の解剖学的特徴を理解したうえで、さらに歯の配列と咬合、歯の異常と年齢的変化について理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(1) 歯の構造と機能を説明できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②
(2) 各歯の特徴を説明できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②
(3) 歯種を鑑別できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②
(4) 歯と顎骨の進化について説明できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②
(5) 乳歯と永久歯の違いを説明できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②
(6) 咬合の定義を説明できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②
(7) 歯の退化について説明できる。	E-2-2)-④, E-3-1)-②

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

義及び歯の鑑別を行う。適宜、プリント、模型、スライド等を使用する。原則として標本または模型を提示しながら行う。

授業内容

1-2 回目 歯の解剖学総論 (1)
3-4 回目 歯の解剖学総論 (2)
5-6 回目 永久歯(切歯)の形態
7-8 回目 永久歯(犬歯)の形態
9-10 回目 永久歯(小臼歯)の形態 (1)
11-12 回目 永久歯(小臼歯)の形態 (2)
13-14 回目 永久歯(大臼歯)の形態 (1)
15-16 回目 永久歯(大臼歯)の形態 (2)
17-18 回目 乳歯の形態 (1)
19-20 回目 乳歯の形態 (2)
21-22 回目 歯の配列と咬合
23-24 回目 歯の異常と歯の年齢的変化
25-27 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (1)
28-30 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (2)
31-33 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (3)
34-36 回目 口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験

教科書・教材・参考書	教科書:歯の解剖学(藤田恒太郎著、金原出版) 参考書:歯の解剖学入門(赤井三千男ら著、医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	3年次前期試験期間中に筆記試験、歯の鑑別試験を行い、成績が100点満点で60点以上の者を合格とする。
受講要件(履修条件)	講義には毎回出席し、ノートを取ること。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分予習を行っておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・小山田 常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～2回	4	5	金	2～3	歯の解剖学総論(1) 歯とは何か、歯の保持、歯の機能、外形、内部構造、歯周組織など	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
3～4回	4	12	金	2～3	歯の解剖学総論(2) 歯の種類と名称、歯の記号、歯式、方向用語、各部の名称、歯に共通する特徴など	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
5～6回	4	19	金	2～3	永久歯(切歯)の形態	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
7～8回	4	26	金	2～3	永久歯(犬歯)の形態	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
9～10回	5	10	金	2～3	永久歯(小臼歯)の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
11～12回	5	17	金	2～3	永久歯(小臼歯)の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
13～14回	5	24	金	2～3	永久歯(大臼歯)の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
15～16回	5	31	金	2～3	永久歯(大臼歯)の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
17～18回	6	7	金	2～3	乳歯の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
19～20回	6	14	金	2～3	乳歯の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
21～22回	6	21	金	2～3	歯の配列と咬合	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
23～24回	6	28	金	2～3	歯の異常と歯の年齢的変化	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
25～27回	7	5	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(1)	小山田常一	解剖実習室(歯)
28～30回	7	12	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(2)	小山田常一	解剖実習室(歯)
31～33回	7	19	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(3)	小山田常一	解剖実習室(歯)
34～36回	7	26	金	1～3	口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験	小山田常一	講義室3A

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･4～7	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25024202 DNGD22161981 口腔組織学及び同実習/ (Oral Histology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義･実習形式	教室 講義室 3A(一部3B)、実習室 5B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松下祐樹/yukimatsushita@nagasaki-u.ac.jp /教授室 /095-819-7630(内 7632)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	講義:松下祐樹、森石武史、野口東美、大庭伸介(非常勤講師)、新井祐貴(非常勤講師) 実習:松下祐樹、森石武史、野口東美		

授業の概要

組織学とは、顕微鏡を用いて正常組織の構造と機能を解析する学問である。口腔組織学では、将来歯科医師として病理変化を正確に判断できるように、口腔内組織と口腔周囲組織の正常な構造と機能に関する知識の習得を目指す。

授業到達目標

一般目標 GIO:

頭頸部、口腔、及び隣接領域、消化管の基本的な構造と機能を理解する。

歯と歯周組織の常態を理解する。

個別行動目標 SBOs:

	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。	C-3-4)-(7)-①
2. 扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。	E-2-1)-⑳
3. 口唇と口腔粘膜の分類と特徴を説明できる。	E-2-2)-②
4. 舌の構造と機能を説明できる。	E-2-2)-③
5. 唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。	E-2-2)-⑥
6. 味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。	E-2-2)-⑩
7. 歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる。	E-3-1)-①
8. 歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる。	E-3-1)-④
9. 歯髄の構造と機能を説明できる。	E-3-1)-⑤
10. 歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。	E-3-1)-⑥

対応するディプロマポリシー

ＤＰ１:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

パワーポイントとプリントを用いた講義、および組織標本の観察とスケッチを行う。

授業内容

1 回目 消化管①－食道･胃(講義･実習)
講義:消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴
実習:ヒト食道･噴門･胃底･幽門の標本の顕微鏡観察

2 回目 消化管②－小腸･大腸(講義･実習)
講義:小腸と大腸の構造的、機能的特徴
実習:ヒト十二指腸･回腸･空腸･虫垂･結腸の標本の顕微鏡観察

3 回目 口腔諸器官①－口腔粘膜･舌･扁桃(講義･実習)
講義:口腔粘膜、舌(味蕾)、扁桃の構造的、機能的特徴
実習:ヒト口唇･頬･舌･硬口蓋、モルモット舌の標本の顕微鏡観察

4 回目 口腔諸器官②－唾液腺(講義･実習)
講義:唾液腺の基本構造、大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴･機能的相違点
実習:ヒト大唾液腺(耳下腺･顎下腺･舌下腺)の標本の顕微鏡観察

5 回目 消化管･口腔諸器官の総括①:消化管･口腔諸器官のまとめ

6 回目 消化管･口腔諸器官の総括②:消化管･口腔諸器官についての知識の確認

7 回目 歯の発生①(講義･実習)
講義:歯の発生の概略、歯牙組織の起源、歯胚発生段階の分類、歯胚発生における上皮間葉相互作用と分子調節
実習:ヒト8週胎児歯胚およびマウス歯胚の標本の顕微鏡観察

8 回目 歯の発生②(講義･実習)
講義:歯冠形成過程における象牙質･エナメル質の形成過程
実習:ヒト4ヶ月および 6 ヶ月胎児の歯胚脱灰標本の顕微鏡観察

9 回目 歯の発生③(講義･実習)
講義:歯根と歯周組織の発生、歯根･歯周組織形成におけるヘルトヴィッヒの上皮鞘と歯小嚢の役割
実習:ヒト6ヶ月胎児歯胚脱灰標本およびマウス歯胚脱灰標本の顕微鏡観察

10 回目 エナメル質(講義･実習)
講義:エナメル小柱の組織学的特徴、エネメル質に特徴的な構造(エナメル紡錘･エナメル叢等)、成長線(横紋等)
実習:ヒト歯牙研磨標本の顕微鏡観察

11 回目 象牙質･歯髄(講義)
象牙細管と基質からなる象牙質の基本構造、場所による象牙質の分類、石灰化に起因する構造･成長線

歯髄の組織学的特徴(象牙質形成層と固有歯髄) 12 回目　象牙質・歯髄(実習) ヒト歯牙研磨標本および脱灰標本の顕微鏡観察 13 回目　歯周組織・顎関節(講義) 歯周組織の組織学的特徴、歯根膜を介した歯と歯槽骨の結合様式の構造的理解、顎関節の組織学的特徴 14 回目　歯周組織(実習) ヒト歯牙脱灰標本の顕微鏡観察 15 回目　歯・歯周組織・顎関節の総括:歯・歯周組織・顎関節の発生および組織学的特徴のまとめ	
キーワード	口腔軟組織、消化管、歯胚、歯牙組織、顕微鏡
教科書・教材・参考書	教科書:入門組織学 改訂第 2 版(牛木辰男著、南江堂)、口腔の発生と組織(田畑純著、南山堂) 参考書:カラーアトラス口腔組織発生学(磯川桂太郎ら編、わかば出版) 口腔組織・発生学 第 2 版(脇田稔ら編、医歯薬出版) バーチャルスライド口腔組織学(田畑純ら著、羊土社) 教材:授業プリント、ヒトおよび各種動物の組織標本
成績評価の方法・基準等	筆記試験と実習試験を、それぞれ中間試験と定期試験に分けて行う。また、実習のミニテストやスケッチの評価も行い、総合的に評価する。詳細は講義開始時、および LACS で提示する。実習試験はパワーポイントによる出題形式で行う。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	2年次の組織学をよく復習しておきましょう。
実務経験のある教員による授業科目	・松下　祐樹／神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科、東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科、長崎大学病院口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験／歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。 ・大庭　伸介／東京大学医学部附属病院顎口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験／歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。 ・新井　祐貴／東京医科歯科大学歯学部附属病院義歯外来における歯科診療の実務経験／歯科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	4～7	消化管①－食道・胃 講義：消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴 実習：ヒト食道・噴門・胃底・幽門の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3B・実習室5B
2回	4	10	水	4～7	消化管②－小腸・大腸 講義：小腸と大腸の構造的、機能的特徴 実習：ヒト十二指腸・回腸・空腸・虫垂・結腸の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
3回	4	17	水	4～7	口腔諸器官①－口腔粘膜・舌・扁桃 講義：口腔粘膜、舌（味蕾）、扁桃の構造的、機能的特徴 実習：ヒト口唇・頬・舌・硬口蓋、モルモット舌の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
4回	4	24	水	4～7	口腔諸器官②－唾液腺 講義：唾液腺の基本構造と大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴 実習：ヒト大唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）の標本の顕微鏡観察	松下・森石・大庭	講義室3A・実習室5B
5回	5	1	水	4～7	消化管・口腔諸器官の総括① 消化管（食道・胃・小腸・大腸）についてのまとめ 口腔諸器官（口腔粘膜・舌・扁桃・唾液腺）についてのまとめ	松下・森石・野口	実習室5B
6回	5	8	水	4～7	消化管・口腔諸器官の総括② 消化管および口腔諸器官に関する知識の確認	松下・森石・野口	実習室5B
7回	5	16	木	4～7	歯の発生① 講義：歯の発生の概略、歯牙組織の起源、歯胚の初期発生 実習：ヒト8週胎児歯胚およびマウス歯胚の標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
8回	5	22	水	4～7	歯の発生② 講義：歯冠形成過程 実習：ヒト4ヶ月および6ヶ月胎児の歯胚脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
9回	5	29	水	4～7	歯の発生③ 講義：歯根形成過程 実習：ヒト6ヶ月胎児歯胚脱灰標本およびマウス歯胚脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
10回	6	5	水	4～7	エナメル質 講義：エナメル質の組織学的特徴 実習：ヒト歯牙研磨標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
11回	6	12	水	4～7	象牙質・歯髄（講義） 講義：象牙質と歯髄の組織学的特徴	松下・森石・野口	講義室3A
12回	6	19	水	4～7	象牙質・歯髄（実習） 実習：ヒト歯牙研磨標本および脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
13回	6	26	水	4～7	歯周組織・顎関節（講義） 講義：歯周組織（セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉）、顎関節の組織学的特徴	松下・森石・野口	講義室3A
14回	7	3	水	4～7	歯周組織（実習） 実習：ヒト歯牙脱灰標本における歯周組織の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
15回	7	10	水	4～7	歯・歯周組織・顎関節の総括 歯・歯周組織・顎関節の発生および組織学的特徴のまとめ	松下・森石・野口	実習室5B

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 金･2～3	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25024203 DNGD22171982 口腔生理学/ (Oral physiology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義･実習形式	教室 講義室 3A(一部3B)	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
中村渉/wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A 棟 4 階 401 号室/095-819-7638(内 7636)/16:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	中村 渉、田原優(広島大学)上野尚雄 (国立がん研究センター中央病院)、小柳 悟 (九州大学薬学部)、柏﨑晴彦 (九大歯学部)、大島昇平(北大歯学部)、三嶋博之 (原爆後障害医療研究所) 金山健夫 (国立がん研究センター中央病院) 内田仁司(富山大医学部)

授業の概要

口腔顔面部位の組織と器官の正常な機能を理解し，これらを生体として統合的に理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯科口腔医学において、口腔領域の正常な機能を知り、疾患の予防･診断を適切に行い、機能維持を図れるようになるために、生体の特性を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1. 生命科学者としの探求心を養成する。	1. A-8-1)
2. 能動的な学びへの鍛錬を行う。	2. A-9-1)
3. 顎顔面口腔領域を構成する細胞、組織と器官の機能を理解する。	3. C-3-3), C-3-4), E-2-1), E-2-2)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクターや板書で授業を進め，必要に応じてプリントを配布する。

授業内容

1 回目	１０月 ４日 (金)	加齢口腔生理学序論
2 回目	１０月１１日 (金)	唾液腺と唾液
3 回目	１０月１８日 (金)	時間栄養学
4 回目	１０月２５日 (金)	発声・言語
5 回目	１１月 １日 (金)	臨床加齢口腔生理学
6 回目	１１月 ８日 (金)	高齢者の生理学的特徴
7 回目	１１月２２日 (金)	咀嚼・嚥下
8 回目	１１月２７日 (水)	特別講義
9 回目	１１月２９日 (金)	顎位・顎運動
10 回目	１２月 ６日 (金)	口腔機能と時間生理学
11 回目	１２月１３日 (金)	痛覚
12 回目	１２月２０日 (金)	口腔遺伝学
13 回目	１月１０日 (金)	口腔生理学から生涯歯科学へ
14 回目	１月１７日 (金)	口腔生理学問題演習
15 回目	１月３１日 (金)	加齢口腔生理学まとめ

キーワード	嚥下，唾液，消化酵素，栄養素，嗅覚，味覚，歯痛，発声，顎運動
教科書･教材･参考書	教科書 ： 基礎歯科生理学 第 7 版，岩田･井上･舩橋･加藤編，医歯薬出版 参考書1: Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 13th Edition 参考書2: 標準生理学 第 9 版，本間研一監修，医学書院
成績評価の方法･基準等	期末試験の成績により評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	生理学を復習しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	･中村 渉/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ･上野 尚雄/国立がん研究センターでの歯科臨床実務経験/国立がん研究センター歯科医長の立場より、臨床加齢口腔生理学の講義を担当している。 ･三嶋 博之/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ･柏﨑 晴彦/九州大学病院高齢者歯科における歯科臨床実務経験/高齢者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ･大島 昇平/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学の講義を担当する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	金	2～3 (II)	口腔生理学序論	中村渉	講義室3B
2回	10	11	金	2～3 (II)	唾液の生理的機能/唾液の分泌機序	内田　仁司 (富山大医学部)	講義室3A
3回	10	18	金	2～3 (II)	時間栄養学	田原優 (広島大学)	講義室3A
4回	10	25	金	2～3 (II)	発声の機序、共鳴と構音について	徳田　功 (立命館大)	講義室6B
5回	11	1	金	2～3 (II)	口腔機能の臨床的加齢変化	上野尚雄 (国立がんセンター中央病院)	講義室3A
6回	11	8	金	2～3 (II)	口腔機能の加齢変化と全身管理	柏崎　晴彦 (九大歯学部)	講義室3B
7回	11	22	金	2～3 (II)	咀嚼・嚥下の概念，咀嚼・嚥下運動のメカニズムと調節	大島昇平 (北大歯学部)	講義室6B
8回	11	27	水	3 (11:10 ～12:10)	Special Lecture on Oral Physiology	Pedro de Sousa Gomes (中村渉)	講義室3A
9回	11	29	金	2～3 (II)	顎位・顎運動・顎反射の生理機構	金山健夫 (国立がんセンター中央病院)	講義室3A
10回	12	6	金	2～3 (II)	口腔機能と時間生理学	中村孝博 (明治大学農学部)	講義室3A
11回	12	13	金	2～3 (II)	痛覚の生理メカニズム	小柳悟 (九大薬学部)	講義室3A
12回	12	20	金	2～3 (II)	口腔生理を制御する分子遺伝学	三嶋博之 (長崎大原研)	講義室3A
13回	1	10	金	2～3 (II)	加齢口腔生理学(成長と発達から機能変容)	中村渉	講義室3A
14回	1	17	金	2～3 (II)	口腔生理学問題演習	中村渉	講義室3A
15回	1	31	金	2～3 (II)	口腔生理学まとめ	中村渉	講義室3A

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 金･4～5	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25024204 DNGD22181982 口腔生化学/(Oral Biochemistry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
門脇知子/tomokok@nagasaki-u.ac.jp / A 棟 2 階フロンティア口腔科学分野教授室/095-819-8504(内 8504)/月-金曜 13:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	門脇知子、佐藤啓子、小野寺貴恵、岡元邦彰(非常勤講師/岡山大･教授)、城戸瑞穂(非常勤講師/佐賀大･教授)

授業の概要

細胞生物学入門、生化学で学んだ知識を元に、口腔領域、結合組織、硬組織に関する生化学を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO: 口腔生化学の知識を習得するとともに、科学的論理的な考え方の重要性を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	分子の構造の特徴と、その結果発揮しうる機能の関係を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)
2.	硬組織の発生と進化を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)
3.	結合組織の構造、機能、成分、及びそれらの特徴を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)
4.	硬組織の構造、石灰化と吸収のメカニズムを説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)
5.	血清カルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-2-1), C-2-4), C-3-4)
6.	唾液成分の働きと齲蝕のメカニズムを説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), E-2-2)
7.	炎症と免疫及び発がん機構を説明できる。	A-8-1), A-9-1), C-1-1), C-2-1), C-2-3)

対応するディプロマポリシー
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

教科書の内容を中心に、プロジェクターや板書を用いた講義を行う。必要に応じてプリントを配布する。予習、復習に LACS を活用する場合もある。

授業内容

1 回目	1 章	口腔機能の分子･細胞生物学的理解のために	門脇 知子
2 回目	4 章	結合組織と上皮組織の生化学 1	門脇 知子
3 回目	4 章	結合組織と上皮組織の生化学 2	門脇 知子
4 回目	5 章	骨、歯と歯周組織の有機成分とその代謝	門脇 知子
5 回目	6 章	骨と歯の無機成分と石灰化の機構	門脇 知子
6 回目	8 章 3 章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構 1 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子
7 回目	8 章 3 章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構2 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子
8 回目	7 章	硬組織の形成と吸収のしくみ	岡元 邦彰
9 回目	9 章	唾液の生化学	門脇 知子
10 回目	10 章	プラークの生化学	佐藤 啓子
11 回目	11 章	齲蝕の生化学	佐藤 啓子
12 回目	2 章	がんはどうしてできるか	小野寺貴恵
13 回目	12 章	炎症と免疫	門脇 知子
14 回目	特別講義	口腔粘膜の再生と温度感受性イオンチャネル	城戸 瑞穂
15 回目	総括	口腔生化学演習	門脇･佐藤

キーワード	結合組織、硬組織、コラーゲン、カルシウム、ヒドロキシアパタイト、酵素反応、齲蝕、免疫、発がん
教科書･教材･参考書	教科書:口腔生化学 第6版 早川太郎他 著 (医歯薬出版) (2018 年発行) 参考書:唾液 歯と口腔の健康 (医歯薬出版)
成績評価の方法･基準等	定期試験および講義前後に提出する課題レポート、小テストを総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	なし

備考(学生へのメッセージ)	重要な事項は小テストが実施される。必要に応じてレポートを提出する。 教科書での予習復習が必須。
実務経験のある教員による授業科目	門脇知子/ 九州大学病院における歯科臨床実務経験/歯周病科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 佐藤啓子/ 九州大学病院および開業医における歯科臨床実務経験/義歯補綴科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 岡元邦彰/ 宮崎大学医学部付属病院における歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	金	4～5	1章 口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	門脇 知子	講義室3B
2回	10	11	金	4～5	4章 結合組織と上皮組織の生化学 1	門脇 知子	講義室3A
3回	10	18	金	4～5	4章 結合組織と上皮組織の生化学 2	門脇 知子	講義室3A
4回	10	25	金	4～5	5章 骨，歯と歯周組織の有機成分とその代謝	門脇 知子	講義室6A
5回	11	1	金	4～5	6章 骨と歯の無機成分と石灰化の機構	門脇 知子	講義室3A
6回	11	8	金	4～5	8章　血清カルシウムの恒常性とその調節機構 1 3章　骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子	講義室3A
7回	11	15	金	4～5	8章　血清カルシウムの恒常性とその調節機構 2 3章　骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子	講義室3A
8回	11	22	金	4～5	7章 硬組織の形成と吸収のしくみ	岡元 邦彰	講義室6B
9回	11	29	金	4～5	9章 唾液の生化学	門脇 知子	講義室3A
10回	12	6	金	4～5	10章 プラークの生化学	佐藤 啓子	講義室3A
11回	12	13	金	4～5	11章 齲蝕の生化学	佐藤 啓子	講義室1C
12回	12	20	金	4～5	2章 がんはどうしてできるか	小野寺貴恵	講義室3A
13回	1	10	金	4～5	12章 炎症と免疫	門脇 知子	講義室3A
14回	1	17	金	4～5	特別講義 口腔粘膜の再生と温度感受性イオンチャネル	城戸 瑞穂	講義室3A
15回	1	31	金	4～5	総括 口腔生化学演習	門脇 知子 佐藤 啓子	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 水・4～7	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024205 DNGD22191985 歯科理工学実験/ (Laboratory Works of Dental Materials Science)		
対象年次 3 年次	講義形態 実験形式	教室 実習室 5C・講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00

担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、阿部薫明、バラネザハド有礼左、岩沼健児(非常勤講師)

授業の概要

各種歯科材料の成分，構造，特性，硬化反応などを理解するとともに，材料の適切な選択基準や取り扱い方法を身につける。
歯科診療のチームリーダーとしての歯科医師が把握していなければならない種々の歯科材料について実習し，知識を確実に自分のものとするための実験科目である。
歯科材料の性質をよく理解し，その特性を活かした使用が出来るようになるための技能を確実に身につける。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科医療における材料ついての各種実験を行い、歯科材料の基礎科学と応用科学に関する学問を習得する
個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
○各種の歯科材料の成分，硬化反応，特性などを説明できる。 D-1, D-2
○歯科材料の使用上ならびに保管上の注意点を説明できる。 D-1, D-2
○修復物作製に必要な器械・器具類を正しく取り扱うことが出来る。 D-1, D-2

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

クラス全体を5班に分け，週ごとに実験テーマをローテーションする。担当教員の指導のもとに，主として修復物の作製工程で用いられる種々の歯科材料の硬化過程および加熱過程における物性変化を測定し，各自でレポートを作成する。

授業内容

五つの実験テーマを各担当教員が同時に開設しており，各グループは毎週それぞれのテーマの実験を行う。

1回目:
歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し，実験に対する心構えを喚起する。さらに実験データのまとめ方，ならびにレポートの作成方法について解説する。
2回目～6 回目:グループ別実験
テーマ①:歯科用レジンの餅状化時間と重合反応
テーマ②:アルジネート印象材のゲル化時間，弾性印象材の弾性比較と硬化挙動
テーマ③:歯科用石膏の硬化時間
テーマ④:歯科用石膏系埋没材の硬化膨張，吸水膨張，歯科用石膏の水和反応の観察
テーマ⑤:歯科用埋没材の熱膨張
7 回目:
グループごとに選択した実験テーマについて，得られた実験結果や考察等をクラス全体に対して液晶プロジェクターなどを用いて発表し，質疑応答する。

キーワード	歯科材料，石膏，埋没材，印象材，レジン，ワックス

教科書・教材・参考書	○歯科理工学実験書，長崎大学・生体材料学分野 ○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典，学建書院 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法・基準等	それぞれの実験テーマに対してレポートを提出させ，採点評価する(90%)。また，グループ別発表会を別個に評価する(10%)。レポートは実験内容の理解度ならびに測定データが十分に議論されているかなどを中心に評価する。
受講要件(履修条件)	実験を実施しなければレポートを作成できないため，必ず出席すること。正当な理由がある場合は，再実験を認める。
備考(学生へのメッセージ)	配布する歯科理工学実験書を必ず予習しておくことが重要である。
実務経験のある教員による授業科目	岩沼　健児／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／自身の診療経験を活かし歯科材料の適切な選択基準や取り扱いについて指導する

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	水	4～7	オリエンテーション 歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し，実験への心構えを喚起する。実験データのまとめ方ならびにレポートの作成方法について解説する。	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
2回	10	9	水	4～7	歯科材料の性質① 五つの実験テーマを同時開設しており，5班に分けた各班が週ごとに実験テーマを順番に回り，消化する。テーマ①：歯科用レジンの餅状化時間と重合反応	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
3回	10	16	水	4～7	歯科材料の性質② テーマ②：アルジネート印象材のゲル化時間，弾性印象材の弾性比較と硬化挙動	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
4回	10	23	水	4～7	歯科材料の性質③ テーマ③：歯科用石膏の硬化時間	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
5回	10	30	水	4～7	歯科材料の性質④ テーマ④：歯科用石膏系埋没材の硬化膨張，吸水膨張，歯科用石膏の水和反応の観察	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
6回	11	6	水	4～7	歯科材料の性質⑤ テーマ⑤：歯科用埋没材の熱膨張	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
7回	11	13	水	4～7	歯科材料の性質①～⑤ まとめ	渡邊・阿部・バラ・岩沼	実習室5C
8回	11	20	水	4～7	歯科材料の性質①～⑤ 実験結果と考察について各グループで液晶プロジェクターを用いてプレゼンテーションする。	渡邊・阿部・バラ・岩沼	講義室3A

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時 火・2～5	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024212 DNGD22201981 口腔病理学及び同実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
藤田 修一/fujishu@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野准教授室/095-819-7645(内 7645)/17:00～18:30

担当教員(オムニバス科目等)	藤田修一、片瀬直樹、永野健一

授業の概要及び位置づけ

前期の「病理学総論及び同実習」で学習した、病因、病理発生、病態、予後の基本的知識をもとに、病理学各論として顎口腔領域の疾患を解説する。4 年次以降に学ぶ臨床科目に直接関係しており、実際の歯科医療で遭遇する顎口腔領域の疾患の知識を習得することは極めて重要である。講義の進行にあわせて病理組織実習を行うが、実習は単に病理診断をつけることではなく、各疾患の講義内容を標本で確かめ、理解を深めることを目的とする。顎口腔病変の病理組織像は CBT や国家試験で視覚素材として用いられるので、十分に学修すること。本授業は基礎歯科医学と臨床歯科医学の橋渡しと位置づけられる。

授業到達目標

一般目標 GIO:
口腔病理学の講義では、歯科医療に関係する顎口腔領域の疾病の原因・発生機構・病態・予後を理解する。実習では各種顎・口腔疾病の組織学的変化を病理学的に解釈する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 唾液腺の非上皮性並びに腫瘍性疾患を列挙し、説明できる。	E-2-4)-(8)-②～⑦, E-2-4)-(10)-⑨, E-2-4)-(11)-⑤
2. 口腔粘膜疾患を原因別に分類し、それぞれを説明できる。	E-2-4)-(4)-①・②, E-2-4)-(3)-②・⑥・⑦, E-2-4)-(10)-①～③・⑤・⑦・⑨・⑩
3. 歯の発育異常を列挙できる。	E-3-1)-③
4. 歯の機械的・化学的損傷を説明できる。	E-3-2)-①, E-3-3)-(1)-①
5. 歯の沈着物と着色を説明できる。	E-3-2)-④
6. 抜歯創の治癒過程と合併症を説明できる。	C-5-3)-④, E-2-4)-(3)-①・④
7. 齲蝕の臨床的特徴、エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕・セメント質齲蝕を説明できる。	E-3-3)-(1)-①
8. 象牙質とセメント質の増生、歯髄と歯根膜の石灰化を説明できる。	C-5-3)-②, C-5-2)-②
9. 歯髄の病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-3-2)-②, E-3-3)-(2)-①
10. 根尖部歯周組織の病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-3-2)-②, E-3-3)-(2)-①
11. 辺縁性歯周組織の病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-3-2)-③, E-3-3)-(3)-①
12. エプーリスを説明できる。	E-2-4)-(4)-①
13. 骨、顎関節病変を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-2-4)-(3)-⑥, E-2-4)-(7)-①・②, E-2-4)-(10)-⑥・⑦, E-2-4)-(2)-③・④
14. 口腔領域の奇形を列挙し、発生を説明できる。	E-2-4)-(1)-①・②
15. 顎口腔領域の老化を説明できる。	E-2-3)-④
16. 顎口腔領域の嚢胞を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-2-4)-(5)-①・②
17. 歯原性腫瘍を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-2-4)-(6)-①～④
18. 顎口腔領域の非歯原性腫瘍を分類し、臨床的・病理組織学的特徴を説明できる。	E-2-4)-(6)-①～④, E-2-4)-(10)-④
19. 口腔潜在的悪性疾患と上皮性異形成を説明できる。	C-5-6)-③, E-2-4)-(6)-⑤～⑥

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは授業前に LACS に提示するので各自、印刷して講義に持参すること。実習はバーチャルスライドの学生間に差異のない画像によって行う。バーチャルスライドが使用不可の場合は、配布された標本の顕微鏡観察を行う。いずれもスケッチをとり、その所見を記載する。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本を解説する。学生は資料を LACS から印刷して持参し、不明な点は随時教員に質問すること。実習中にそれまでに終了した講義分の小テストを行うことがある。

授業内容

講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照
L (Lecture): 講義(講義室 3A)、P (Practice): 実習(実習室5B)

1 週	L1 口腔病理学序論	L2～4 唾液腺疾患		
2 週	L5 口腔粘膜疾患	P1～3 唾液腺非腫瘍性疾患、唾液腺腫瘍		
3 週	L6 口腔粘膜疾患	P4～6 唾液腺腫瘍		
4 週	L7 口腔粘膜疾患	P7～9 口腔粘膜疾患		
5 週	L8 歯の発育異常	L9 歯の機械的・化学的損傷	L10 齲蝕	L11 象牙質とセメント質の増生、歯髄の石灰化
6 週	L12 歯髄の病変、根尖部歯周組織の病変	L13 抜歯創の治癒、抜歯の合併症	L14, 15 辺縁部歯周組織の病変	
7 週	L16 口腔の奇形、発育異常	P10～12 齲蝕、歯髄炎		
8 週	L17 顎骨・顎関節の病変	P13～15 根尖性歯周炎と関連疾患		
9 週	L18 顎骨・顎関節の病変	L19 顎口腔領域の加齢変化	L20, 21 口腔領域の嚢胞	
10 週	L22 細胞診と口腔病変の細胞像	P16～18 辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症、顎骨の病変		
11 週	L23 歯原性腫瘍	P19～21 顎骨の病変、口腔領域の嚢胞		
12 週	L24 歯原性腫瘍	P22～24 口腔領域の嚢胞		
13 週	L25 非歯原性腫瘍	P25～27 歯原性腫瘍	P17, 18 歯原性腫瘍	
14 週	L26 非歯原性腫瘍	P28～30 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍		
15 週	L27 非歯原性腫瘍	P31～33 非歯原性腫瘍		

キーワード	歯の発育異常、歯の機械的・化学的損傷、齲蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎、顎骨・顎関節病変、口腔領域の奇形、粘膜疾患、唾液腺疾患、嚢胞、腫瘍、老化、細胞診
教科書・教材・参考書	1. 新口腔病理学 第 3 版 下野正基、高田隆編 (医歯薬出版) 2. Oral and Maxillofacial Pathology. 3rd ed. Neville BW, et al., eds. (Saunders, Elsevier) 3. 口腔病理アトラス 第 2 版 高木實 編 (医歯薬出版) 4. 口腔病理カラーアトラス 第 2 版 石川梧郎 編 (文光堂) 授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能
成績評価の方法・基準等	主に定期試験(筆記試験)の得点で評価するが、小テストの成績も考慮する。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の 3/4 以上の出席
備考(学生へのメッセージ)	病理学総論の授業内容を理解しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・藤田 修一／長崎大学病院での病理診断実務経験／病理診断科・病理部で行っている病理診断をもとに口腔疾患の組織学的変化を解説する。実習においては適切な症例を学生に提供する。 ・片瀬 直樹／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務の勤務経験をもとに、臨床病理診断学上重要なポイントを踏まえて病理学の解説を行うとともに、医療人としてふさわしい態度を習得させる。 ・永野健一／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務経験を元に、疾患による組織学的変化の解説を行い、医療者として必要な知識、学習態度を習得させる。

日程表　講義

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	2	口腔病理学序論 ・ 口腔病理学の概念と学習方法	藤田	講義室3A
2回	10	1	火	3	唾液腺疾患 ・ 唾液腺の正常構造	藤田	講義室3A
3回	10	1	火	4	唾液腺疾患 ・ 唾液腺の非腫瘍性疾患	藤田	講義室3A
4回	10	1	火	5	唾液腺疾患 ・ 唾液腺の腫瘍性疾患	藤田	講義室3A
5回	10	8	火	2	口腔粘膜疾患 ・ 色素沈着、感染症、アフタ性口内炎	藤田	講義室3A
6回	10	15	火	2	口腔粘膜疾患 ・ 角化性病変、皮膚科的疾患、歯科治療に関連した口内炎	藤田	講義室3A
7回	10	22	火	2	口腔粘膜疾患 ・ 肉芽腫性病変、舌の病変、移植片対宿主病	藤田	講義室6A
8回	10	29	火	2	歯の発育異常 ・ 大きさ、形、構造、数、萌出、位置、咬合の異常	藤田	講義室3A
9回	10	29	火	3	歯の機械的・化学的損傷、歯の沈着物と着色 ・ 咬耗、摩耗、アブフラクション、歯折、侵蝕症 ・ ペリクル、プラーク、歯石、着色	藤田	講義室3A
10回	10	29	火	4	齲触 ・ 病因、誘因、分類 ・ エナメル質齲触、象牙質齲触	藤田	講義室3A
11回	10	29	火	5	齲触、象牙質とセメント質の増生、歯髄の石灰化 ・ セメント質齲蝕 ・ 第二・第三象牙質、象牙質粒、セメント質粒	藤田	講義室3A
12回	11	12	火	2	歯髄の病変、根尖部歯周組織の病変 ・ 歯髄病変の原因、退行性病変、歯髄充血、歯髄炎、歯髄壊疽 ・ 根尖部膿瘍の進展	藤田	講義室3A
13回	11	12	火	3	根尖部歯周組織の病変、抜歯創の治癒、抜歯の合併症 ・ 原因、分類、根尖性歯周炎の各型 ・ 抜歯創の治癒過程、抜歯の合併症、歯性病巣感染	藤田	講義室3A
14回	11	12	火	4	辺縁部歯周組織の病変 ・ 歯周組織の構造 ・ 歯周炎の原因 ・ 辺縁部歯周組織病変の分類、歯肉炎	片瀬	講義室3A
15回	11	12	火	5	辺縁部歯周組織の病変 ・ 慢性歯周炎の進行過程 ・ 慢性歯周炎と全身疾患の関連 ・ エプーリス、薬物性歯肉増殖症 ・ 慢性歯周炎の治療	片瀬	講義室3A
16回	11	19	火	2	口腔の奇形・発育異常 ・ 口腔顎顔面領域の発生と口唇裂、口蓋裂、口腔顔面に異常をきたす症候群 ・ 口唇、舌、頬粘膜の奇形、フォーダイス顆粒	片瀬	講義室3A
17回	11	26	火	2	顎骨・顎関節の病変 ・ 顎骨の骨折、骨髄炎、放射線骨壊死、MRONJ	片瀬	講義室3A
18回	12	3	火	2	顎骨・顎関節の病変 ・ 顎関節の病変、線維性異形成症、骨腫と外骨症	片瀬	講義室3A
19回	12	3	火	3	顎口腔領域の加齢変化 ・ 老化のメカニズム、サルコペニアとフレイル ・ 歯と歯周組織の変化・ 顎骨、粘膜、唾液腺の変化	片瀬	講義室3A
20回	12	3	火	4	口腔領域の嚢胞 ・ 分類、歯原性嚢胞	片瀬	講義室3A
21回	12	3	火	5	口腔領域の嚢胞 ・ 非歯原性嚢胞 ・ 顎骨内偽嚢胞	片瀬	講義室3A
22回	12	10	火	2	細胞診と口腔病変の細胞像 ・ 細胞診概説 ・ 口腔病変の細胞像	藤田	講義室3A
23回	12	17	火	2	歯原性腫瘍 ・ 歯原性腫瘍の特徴と分類 ・ 良性腫瘍	藤田	講義室3A
24回	12	24	火	2	歯原性腫瘍 ・ 悪性腫瘍 ・ 線維-骨性病変 (fibro-osseous lesions)	藤田	講義室3A

日程表　講義

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
25回	1	7	火	2	非歯原性腫瘍 ・ 顎・口腔領域の非歯原性腫瘍の由来と分類 ・ 良性腫瘍と腫瘍様病変	藤田	講義室3A
26回	1	14	火	2	非歯原性腫瘍 ・ 良性腫瘍と腫瘍様病変 ・ 口腔潜在的悪性疾患と上皮性異形成	藤田	講義室3A
27回	1	28	火	2	非歯原性腫瘍 ・ 悪性腫瘍 ・ 口腔がんのTNM分類	藤田	講義室3A

日程表　実習

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	10	8	火	3～5	非腫瘍性唾液腺疾患、唾液腺腫瘍 ・　急性耳下腺炎、慢性顎下腺炎、唾石症、粘液溢出現象（粘液嚢胞） ・　多形腺腫、ワルチン腫瘍	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
4～6回	10	15	火	3～5	唾液腺腫瘍 ・　基底細胞腺腫、オンコサイト腫瘍、腺房細胞癌、粘表皮癌、腺様嚢胞癌 多形腺腫由来癌	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
7～9回	10	22	火	3～5	口腔粘膜病変 ・　アミロイドーシス、扁平苔癬、天疱瘡、類天疱瘡、カンジダ症、褥瘡性潰瘍	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
10～12回	11	19	火	3～5	齲蝕、歯髄炎、象牙質・セメント質の増生 ・　齲蝕、急性化膿性歯髄炎、慢性潰瘍性歯髄炎、セメント質増生、 象牙質粒、びまん性石灰化、セメント質粒	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
13～15回	11	26	火	3～5	根尖性歯周炎と関連疾患 ・　慢性根尖性化膿性歯周炎、歯肉膿瘍、歯性上顎洞炎、歯根肉芽腫、 歯根嚢胞	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
16～18回	12	10	火	3～5	辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症、顎骨の病変 ・　辺縁性歯周炎、肉芽腫性エプーリス、骨形成性エプーリス、 フェニトイン歯肉増殖症　・　骨髄炎	片瀬 藤田 永野	実習室 5B
19～21回	12	17	火	3～5	顎骨の病変、歯原性発育嚢胞 ・　線維性異形成症、外骨症（骨腫） ・　含歯性嚢胞、歯原性角化嚢胞、石灰化歯原性嚢胞	片瀬 藤田 永野	実習室 5B
22～24回	12	24	火	3～5	口腔領域の嚢胞 ・　類皮嚢胞、甲状舌管嚢胞、鰓嚢胞（リンパ上皮性嚢胞）、 鼻口蓋管嚢胞、鼻歯槽嚢胞、術後性上顎嚢胞	片瀬 藤田 永野	実習室 5B
25～27回	1	7	火	3～5	歯原性腫瘍 ・　エナメル上皮腫、腺腫様歯原性腫瘍、石灰化上皮性歯原性腫瘍、 エナメル上皮線維腫、歯牙腫（複雑型・集合型）、セメント芽細胞腫	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
28～30回	1	14	火	3～5	歯原性腫瘍（線維-骨性病変を含む）、非歯原性腫瘍 ・　歯原性粘液腫、エナメル上皮線維肉腫、セメント質骨性異形成症 ・　扁平上皮乳頭腫、疣贅型黄色腫、脂肪腫、セメント質骨形成線維腫	藤田 片瀬 永野	実習室 5B
31～33回	1	28	火	3～5	非歯原性腫瘍 ・　巨細胞性肉芽腫、血管腫、顆粒細胞腫、神経線維腫、上皮性異形成、 扁平上皮癌、扁平上皮癌リンパ節転移	藤田 片瀬 永野	実習室 5B

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 木・2～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024209 DNGD22211981 口腔微生物学実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5A 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、庄子幹郎、哲翁ふみ

授業の概要

1.微生物の種類と特性を理解する。
2.寄生・感染と生体の防御機構を理解する。
3.防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科口腔疾患のなか大きな位置を占める感染症の原因となる微生物について、その特徴を理解し、それらの取扱いを習得する。さらに感染予防の基本手技を身に着ける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明する。	C-4-1)
2. 代表的な病原菌、および口腔内細菌、真菌を分離培養、染色、観察する。	C-4-1)
3. 清潔と不潔の区別及び滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。さらに病原菌の取り扱い、培養ができる。これらの基本的な手技を実施する。	C-4-1)
5. 化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明する。また自己の菌を分離培養、薬剤耐性を検査する。	C-4-1)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
教員の指導のもとで、実際に微生物(病原微生物を含む)を培養、各種の検査を実施する。また顕微鏡を用いた形態観察などの実習を行う。また各自の理解度を確認する為にレポートを課す。

授業内容
1 回目 細菌の染色法(1):*Staphylococcus aureus*(グラム陽性菌)と *Escherichia coli*(グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。
2 回目 細菌の染色法(2):枯草菌で芽胞染色、BCG 菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌を陰性染色にて観察する。
菌数測定法:唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。
手洗い実習:医療従事者として必修の手洗い方法を習得させる。蛍光クリームを用いて、各自手洗い後の洗い残しを観察、各自の問題点を認識させる。そのうえで正しい手洗い方法を習得させる。
3 回目 鼻腔からのブドウ球菌分離:鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。
オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。
4 回目 口腔レンサ球菌:口腔からの歯垢等のサンプルをから口腔レンサ球菌を分離、生化学的性状から菌種を同定する。
5 回目 歯周病原菌の培養:口腔内の歯周病原菌として特に重要な *P. gingivalis, A.actinomycetemcomitans, F. nucleatum* を用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。
6 回目 真菌の培養:口腔内の真菌としてとくに重要な *C. albicans* について口腔から分離、厚膜胞子を観察する。
7 回目 実習テスト (染色、観察実技)

キーワード	感染・微生物・免疫
教科書・教材・参考書	実習書を配布する。
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、実習実技テスト等の評価を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	白衣を各自で準備すること。すべての課題レポートを期限内に提出すること。
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に実習書を用いて予習をすること。またあらかじめレポート課題の資料収集をおこなっておくこと。また知識の定着の為に返却されたレポートを用いて内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患のなかでう蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修していただきたい。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	木	2～6	細菌の染色法(1):Staphylococcus aureus (グラム陽性菌)とEscherichia coli (グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。	内藤・庄子・哲翁	実習室5A
2回	10	10	木	2～6	細菌の染色法(2):枯草菌で芽胞染色、BCG菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌陰性染色にて観察する。菌数測定法:唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。	内藤・庄子・哲翁	実習室5A
3回	10	17	木	2～6	鼻腔からのブドウ球菌分離:鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。	内藤・庄子・哲翁	実習室5A
4回	10	31	木	2～6	口腔レンサ球菌分離同定:口腔からの歯垢等のサンプルをMitis-Salivarius培地に塗抹し、口腔レンサ球菌を分離し、生化学的性状から菌種を同定する。	内藤・庄子・哲翁	実習室5A
5回	11	7	木	2～6	歯周病原菌の培養:口腔内の歯周病原菌として特に重要なP. gingivalis, A.actinomycetemcomitans, F. nucleatumを用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。	内藤・庄子・哲翁	実習室5A
6回	11	14	木	2～6	真菌の培養:口腔内の真菌としてとくに重要なC. albicansについて口腔からのサンプルをカンジダGE培地に塗抹し、分離する。コーンミール培地を用いて培養し、厚膜胞子を観察する。	内藤・庄子・哲翁	実習室5A
7回	11	21	木	2～6	実習テスト(染色、観察実技試験を含む) 10:30開始	内藤・庄子・哲翁	講義室3A

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時 金・1～2	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024210 DNGD22221982 歯科薬理学/ (Dental Pharmacology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A(一部3B)	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp/A 棟5階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	筑波 隆幸、坂井 詠子、兼松 隆(非常勤講師・九州大学・教授)、山口 優

授業の概要
薬理学の講義と連続性を持つが，痛みを止める薬物，抗感染症薬，止血薬，各種消毒薬，歯科専用薬物などを臨床との関連性を持たせながら講義する。登院前教育の一環として重視し、歯科臨床において使用頻度の高い薬物について，薬理作用と作用機序を論理的に理解することをねらいとする。

授業到達目標

一般目標 GIO:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
薬物の生体に対する作用(薬力学)と薬物を分解、排泄する現象(薬物動態学)を理解し、病気の治療に役立てる知識を得ることを目標とする	C-6-2)-①～⑤, C-6-4)-② C-6-2)-①～⑤, E-1-4)-(4)-②
個別行動目標 SBOs:	C-6-2)-①～⑤, E-1-5)-⑥, ⑧
1.化学療法の目的，原理および作用機序を理解し説明できる。	C-6-2)-①～⑤, C-6-3)-①
2.血液の凝固機序および止血薬について理解し説明できる。	C-6-2)-①～⑤, C-6-3)-①
3.滅菌と消毒の意義，原理および代表的な薬物を理解し説明できる。	
4.歯科治療時に留意すべき服用薬物を説明できる。	
5.歯内療法，歯周治療および、う蝕予防に用いる薬物を説明できる。	

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので，該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し，プリントを配布して，新しく確実になった情報の追加を行う。

授業内容
1 回目 化学療法薬(1):総論、作用機序、副作用と副現象
2 回目 化学療法薬(2):抗感染症薬、抗結核薬，抗真菌薬，抗ウイルス薬
3 回目 化学療法薬(3):抗悪性腫瘍薬
4 回目 炎症総論、ステロイド性抗炎症薬，非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤
5 回目 免疫機能に影響する薬物、免疫抑制薬
6 回目 血液凝固:血液凝固機構概論、血栓症とその治療法
7 回目 止血薬と抗凝固薬:止血法および全身性止血薬と局所性止血薬
8 回目 特別講義 兼松 隆 先生 (九州大学・教授)
9 回目 硬組織の薬理:歯と骨の病態薬理学，Ca ホメオスタシス，Ca 摂取と骨吸収，骨粗鬆症の予防と治療
10 回目 消毒薬:フェノール類，アルコール類，アルデヒド類，ハロゲン，及びハロゲン含有化合物，酸化剤
11 回目 腐食薬、収斂薬、重金属化合物、金属拮抗薬、界面活性剤、植物性揮発油類
12 回目 口腔粘膜および唾液腺に作用する薬物
13 回目 歯内療法の薬物
14 回目 歯周疾患の薬物、抗う蝕薬，口腔用特殊薬物
15 回目 まとめ

キーワード	薬物，薬理作用，作用機序
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第 7 版):医歯薬出版 参考書:1.講義に際して示すが，なるべく出版年度の新しい各種参考書を利用の事。 2.図書館にも関連参考書を所蔵している。 3.薬理学講座にも所蔵しているので，利用を申し出てください。
成績評価の方法・基準等	3 年前期末の定期試験で，筆記試験を行い，60 点以上得点すれば合格である。本科目は，3年後期中に合格する事が必要である。再試験は 1 回行う。本試験の満点は 100 点，再試験以降の満点は 60 点とする。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。
備考(学生へのメッセージ)	液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので，該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し，プリントを配布して，新しく確実になった情報の追加を行う。授業はシラバスに沿って行うが，毎年若干の変更を余儀なくされる。講義の邪魔になると判断したときには，厳格に対応します。気持ちの良い講義になるように、協力をお願いします。
実務経験のある教員による授業科目	山口 優/歯科医院における診療経験／一般歯科において実際に薬剤がどのように使用されているかの実践的な情報提供を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	金	1～2（Ⅰ）	化学療法薬(1) 総論、作用機序、副作用と副現象、各種抗生物質について	筑波	講義室3B
2回	10	11	金	1～2（Ⅰ）	化学療法薬(2) 抗感染症薬、ニューキノロン薬、抗結核薬、抗真菌薬、 抗ウイルス薬について	筑波	講義室3A
3回	10	18	金	1～2（Ⅰ）	化学療法薬(3) 抗悪性腫瘍薬について	筑波	講義室3A
4回	10	25	金	1～2（Ⅰ）	抗炎症薬 ステロイド性抗炎症薬，非ステロイド性抗炎症薬	筑波	講義室6B
5回	11	1	金	1～2（Ⅰ）	免疫機能に関する薬物 免疫抑制薬、免疫機能活性化薬	筑波	講義室3A
6回	11	8	金	1～2（Ⅰ）	血液凝固 血液凝固機構概論、血栓症とその治療法 （血液が血管内で凝固しないのはなぜか。血管外ではなぜ凝固するのか。）	坂井	講義室3B
7回	11	15	金	1～2（Ⅰ）	止血薬と抗凝血薬 止血法および全身性止血薬と局所性止血薬 （抜歯後の止血をどう考えるのか。薬物はどのように止血に関与するか。）	坂井	講義室3A
8回	11	22	金	1～2（Ⅰ）	特別講義 細胞内情報伝達と薬理作用	兼松	講義室6B
9回	11	29	金	1～2（Ⅰ）	硬組織の薬理 歯と骨の病態薬理学，Caホメオスタシス，Ca摂取と骨吸収， 骨粗鬆症の予防と治療	坂井	講義室3A
10回	12	6	金	1～2（Ⅰ）	消毒薬 消毒薬総論，消毒効果を左右する因子，消毒力の評価	坂井	講義室3A
11回	12	13	金	1～2（Ⅰ）	腐食薬、収斂薬 消毒薬各論：フェノール類、アルコール類，アルデヒド類，ハロゲン類 酸化剤、重金属化合物，界面活性剤，植物性揮発油類	坂井	講義室3A
12回	12	20	金	1～2（Ⅰ）	口腔粘膜治療薬、唾液腺作用薬 口腔粘膜疾患に用いられる薬物および唾液腺に作用する薬物	筑波	講義室3A
13回	1	10	金	1～2（Ⅰ）	歯科専用薬物(1) 歯内療法に使用する薬物について	山口	講義室3A
14回	1	17	金	1～2（Ⅰ）	歯科専用薬物(2) 歯周疾患に用いる薬物，う蝕の予防に用いる薬物，口腔用特殊薬物	山口	講義室3A
15回	1	31	金	1～2（Ⅰ）	歯科薬理学まとめ 総復習と問題演習	筑波	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 火・1	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024211 DNGD22231098 医学統計学/ (Statistics in Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 五月女さき子/sakiko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教員室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	五月女さき子、佐藤俊太朗(長崎大学病院)		

授業の概要

医学論文の多くは研究対象標本から得られた事実(データ)に基づいて報告される。履修によってデータの成り立ち・見かたができるようになる。それによって、科学論文への理解が深まる。医学的問題を対象とした統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得を意図する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得をする。

個別行動目標 SBOs:

	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.データの種類とその要約について説明できる。推定と検定を説明できる。	B-4-2)
2. 連続、カテゴリカルデータの群比較を説明できる。相関と回帰分析を説明できる。	B-4-2)
3.母集団と標本との関係が説明できる。疫学研究の手法について説明できる。	B-4-1), B-4-3)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

スライドを用いた授業形式。併せて資料を補足するが教科書も必携。理解度の確認のため学生への質問、ならびに定期考査を実施する。

授業内容

1 回目 イントロダクション, 記述統計
2 回目 母集団と標本, 推定, 95%信頼区間
3 回目 診断法の性能評価(感度・特異度等)
4 回目 検定の考え方
5 回目 t 検定
6 回目 Wilcoxon 順位和検定
7 回目 比・割合・率;カイ二乗検定, Fisher の正確確率検定
8 回目 回帰

キーワード	統計的推定・検定、因果関係、EBM、母集団と標本抽出、疫学研究
教科書・教材・参考書	必要に応じて、講義中に指定する。
成績評価の方法・基準等	試験期間に行う定期考査によって総合評価する。 全授業を出題範囲とする。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。
備考(学生へのメッセージ)	回数が少ないので出席には要注意
実務経験のある教員による授業科目	・佐藤俊太朗／長崎大病院臨床研究センターにて統計に関する指導・助言を行っている。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	1	イントロダクション，記述統計	佐藤	講義室3A
2回	10	8	火	1	母集団と標本，推定，95%信頼区間	佐藤	講義室3A
3回	10	15	火	1	診断法の性能評価（感度・特異度等）	佐藤	講義室3A
4回	10	22	火	1	検定の考え方	佐藤	医学部 第4講義室
5回	10	29	火	1	t検定	佐藤	講義室3A
6回	11	12	火	1	Wilcoxon順位和検定	佐藤	講義室3A
7回	11	19	火	1	比・割合・率；カイ二乗検定，Fisherの正確確率検定	佐藤	講義室3A
8回	11	26	火	1	回帰	佐藤	講義室3A
9回					定期考査で疫学・統計学の基本的な考え方が理解できたかを評価する。	五月女	

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 月・5	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024213 DNGD22241934 歯科法医学/ Dental forensic medicine		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
山下 裕美/ hiyamashita@nagasaki-u.ac.jp/歯科法医学分野/095-819-7076(内 7076)/12:00～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	山下 裕美、池松 和哉(医学部法医学)、櫻田 宏一(東京医科歯科大学法歯学)、田中 靖彦(タナカ・デンタル・クリニック)

授業の概要

法医学及び歯科法医学の基礎知識とその応用例を学び、将来、歯科医師としての社会貢献への関心を深め、また、死亡診断書の記載方法や身元不明者に対する歯科所見を用いた個人識別の方法を学んでいく。

授業到達目標

一般目標 GIO:
法医学及び歯科法医学の基礎知識及びそれらに関連する法律を理解し、主に災害時に必要とされる歯科所見を用いた個人識別の方法を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:

	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 法医学・歯科法医学に関連する制度や法律を説明する。(知識;解釈)	B-2-2), B-2-3)
2. 死因論、死体現象、検案・解剖を説明する。(知識;解釈)	C-5-7)
3. 虐待(小児、高齢者)について理解し、歯科医師としての責務を説明する。(知識;想起)	B-2-2), E-4-2), E-5-1)
4. 災害時に必要な歯科医師の役割を説明する。(知識;想起)	B-2-2)
5. 死亡診断書の記載や症例を用いて身元不明者に対する歯科所見を用いた個人識別を実施する。(技能)	B-2-3)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)

プリントとスライドを用いた講義、症例についてはスライドを使用し視覚的に理解を深める。講義内容によっては、学習課題を与え、その都度個人でその課題に取り組んでもらう。死亡診断書や歯科所見を用いた個人識別では、実際に使用している書式を用いて作成方法を習得する。

授業内容

1 回目 総論、各論(1)検案・解剖
2 回目 各論(2):死体現象
3 回目 各論(3):歯科医師に必要な法医学的知識
4 回目 各論(4):法医学における物体検査
5 回目 各論(5):歯科医師に必要な法医学的知識
6 回目 各論(6):シミュレーション実習(歯科所見を用いた個人識別)
7 回目 各論(7):シミュレーション実習(死亡診断書)
8 回目 地域における嘱託歯科医の社会活動について

キーワード	法医学、歯科法医学、死体現象、死因究明制度、個人識別、虐待
教科書・教材・参考書	教科書: 特に指定しない 参考書:歯科検視マニュアル、法歯科医学(永末書店)、学生のための法医学(南山堂)
成績評価の方法・基準等	筆記試験、レポート、出席状況等を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	歯科医師として必要な法医学及び歯科法医学の知識を習得し、その社会的役割について理解を深めて下さい。

実務経験のある教員による授業科目	・山下　裕美／剖検、検案時及び生体鑑定における実務経験／法医学分野で行われている剖検・検案時における歯科所見採取や歯科治療痕を用いた個人識別、生体鑑定等の実務経験を生かして歯科法医学に必要な知識について解説する。 ・池松　和哉／剖検、検案時及び生体鑑定における実務経験／剖検・検案、生体鑑定等の実務経験から歯科医師に必要な法医学的知識について解説する。 ・田中　靖彦／警察嘱託歯科医活動における実務経験／警察嘱託歯科医活動の実務経験を踏まえて地域での歯科医師の社会貢献として、どのような事を提供できるか、又は求められているのかを解説する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	2	月	5	総論 各論(1)検案・解剖	山下裕美	薬学部 講義室1C (C棟1階)
2回	12	9	月	5	各論(2)死体現象	山下裕美	薬学部 講義室1C (C棟1階)
3回	12	16	月	5	各論(3)歯科医師に必要な法医学的知識 法医学総論、溺死、焼死等	池松和哉	講義室3A
4回	12	23	月	5	各論(4)法医学における物体検査 最新の犯罪捜査における物体検査法について	櫻田宏一	講義室3A
5回	1	6	月	5	各論(5)歯科医師に必要な法医学的知識 損傷、虐待等	池松和哉	講義室3A
6回	1	20	月	5	各論(6) シミュレーション実習:歯科所見を用いた個人識別	山下裕美	講義室3A
7回	1	20	月	6	各論(7) シミュレーション実習:死亡診断書	山下裕美	講義室3A
8回	1	27	月	5	地域における嘱託歯科医の社会活動について	田中靖彦	講義室3A

口腔生命科学各論Ⅱ（3 年次生、4 年次生、5 年次生）

（1）衛生学及び同実習　(3 年)・・・・・・・・・・・・122
（2）予防歯科学及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・126
（3）歯科矯正学及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・131
（4）小児歯科学　(4 年)・・・・・・・・・・・・137
（5）小児歯科学実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・139
（6）保存修復学　(4 年)・・・・・・・・・・・・141
（7）保存修復学実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・144
（8）歯内治療学　(4 年)・・・・・・・・・・・・147
（9）歯内治療学実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・150
(10) 歯周病学　(4 年)・・・・・・・・・・・・153
(11) 歯周病学実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・156
(12) 冠橋義歯学及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・159
(13) 有床義歯補綴学及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・163
(14) 口腔外科学Ⅰ及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・167
(15) 口腔外科学Ⅱ及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・170
(16) 歯科放射線学及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・172
(17) 歯科麻酔学及び同実習　(4 年)・・・・・・・・・・・・175
(18) 高齢者歯科学　(4 年)・・・・・・・・・・・・178
(19) 障害者歯科学　(4 年)・・・・・・・・・・・・182
(20) 災害口腔医学　(4 年)・・・・・・・・・・・・185
(21) 口腔インプラント学　(5 年)・・・・・・・・・・・・188
(22) 摂食嚥下リハビリテーション学　(5 年)・・・・・・・・・・・・191
(20) 社会歯科学　(5 年)・・・・・・・・・・・・194

年度 2024　学期 4Q	曜日・校時　木・3～6	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034301 DNGD33011990 衛生学及び同実習/(Hygieiology & Public Health)		
対象年次　3 年次	講義形態　講義・実習形式	教室　講義室 3A、実習室 5A	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
五月女さき子/sakiko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教員室/095-819-7663(内 7663)/随時

担当教員(オムニバス科目等)	五月女さき子、川下由美子、佐藤俊太朗(長崎大学病院)、佐藤美穂(熱帯医学)　高島美和栄養士(長崎大学病院)、寺﨑　敬太:長崎県職員(長崎県環境部)

授業の概要
環境衛生学、公衆衛生学、口腔衛生学、社会歯科学、予防医学など「疾患の予防」に基づく幅広い分野を学ぶ。
個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識を理解、習得させ且つ問題解決に必要な態度と能力を養う。
健康、疾患と社会の関連、予防医学の重要性を理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識、態度、および能力を養う。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.疾病予防と健康増進の考え方を説明できる。	B-1), B-3)
2.衛生学の基本的知識、生活環境と健康、廃棄物とその処理、環境保全と環境対策を説明できる。	B-2-4), B-3)
3.人口問題と疾病統計、高齢者の現状を説明できる。	B-2-2), B-4-2)
4.医師・歯科医師の責務と医療倫理について説明できる。	A-1), B-2-1)
5.感染症の疫学と感染予防を説明できる。	B-3)
6.環境保健について説明できる	B-2-4)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義及び実習

授業内容
1 回目: 衛生学、社会歯科学概論 1 (川下)
2 回目: 疫学① (佐藤俊)
3 回目: 疫学② (佐藤俊)
4 回目: 食中毒(五月女)
5 回目: 感染症① (川下)
6 回目: 感染症② (川下)
7 回目: 社会と保健医療の仕組み (五月女)
8 回目: 地域保健 (五月女)
9 回目: 母子保健 (川下)
10 回目: 学校保健 (川下)
11 回目: 障害者福祉 (五月女)
12 回目: 成人保健 (五月女)
13 回目: 産業保健 (川下)
14-16 回目: 特別講義① (北村)
17 回目: 自習
18-21 回目: 特別講義② (寺﨑)
22 回目: 精神保健医療福祉 (川下)
23 回目: 国際保健 (佐藤美)
24 回目: 高齢者保健 (五月女)
25 回目: 栄養 (高島美和栄養士)
26 回目: 自習
27-29 回目: 衛生学実習　水質検査 (五月女・川下)
30 回目: まとめと振り返り

キーワード	衛生、健康、疾患、予防、栄養、疫学、感染、環境、社会

教科書・教材・参考書	新編　衛生学・公衆衛生学 （医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合がある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席することとする。欠席した学生は必ず連絡を取ること。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。
実務経験のある教員による授業科目	・五月女　さき子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・川下　由美子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・佐藤　俊太朗／統計専門家としての経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・佐藤　美穂／海外での経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・栄養士／としての経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	28	木	3	衛生学、社会歯科学概論	川下	講義室3A
2回	11	28	木	4	疫学①	佐藤(俊)	講義室3A
3回	11	28	木	5	疫学②	佐藤(俊)	講義室3A
4回	11	28	木	6	食中毒	五月女	講義室3A
5回	12	5	木	3	感染症①	川下	講義室3A
6回	12	5	木	4	感染症②	川下	講義室3A
7回	12	5	木	5	社会と保健医療の仕組み	五月女	講義室3A
8回	12	5	木	6	地域保健	五月女	講義室3A
9回	12	12	木	3	母子保健	川下	講義室3A
10回	12	12	木	4	学校保健	川下	講義室3A
11回	12	12	木	5	障害者福祉	五月女	講義室3A
12回	12	12	木	6	成人保健	五月女	講義室3A
13回	12	19	木	3	産業保健	川下	講義室3A
14回	12	19	木	4	健康増進法と健康日本21	北村	講義室3A
15回	12	19	木	5	政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計　1	北村	講義室3A
16回	12	19	木	6	政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計　2	北村	講義室3A
17回	12	19	木	7	自習		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
18回	1	9	木	3	衛生学特別講義-環境保健　1	寺﨑	講義室3A
19回	1	9	木	4	衛生学特別講義-環境保健　2	寺﨑	講義室3A
20回	1	9	木	5	衛生学特別講義-環境保健　3	寺﨑	講義室3A
21回	1	9	木	6	衛生学特別講義-環境保健　4	寺﨑	講義室3A
22回	1	16	木	3	精神保健医療福祉	川下	講義室3A
23回	1	16	木	4	国際保健	佐藤(美)	講義室3A
24回	1	16	木	5	高齢者保健	五月女	講義室3A
25回	1	16	木	6	栄養	学内栄養士 (高島)	講義室3A
26回	1	23	木	3	自習		
27回	1	23	木	4	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	五月女 川下 中村・中松・今給黎	実習室5A
28回	1	23	木	5	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	五月女 川下 中村・中松・今給黎	実習室5A
29回	1	23	木	6	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	五月女 川下 中村・中松・今給黎	実習室5A
30回	1	23	木	7	自習		

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 月・4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034302 DNGD33021990 予防歯科学及び同実習/ (Preventive Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
五月女さき子/sakiko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教員室/095-819-7663(内 7663)/随時

担当教員(オムニバス科目等)	五月女さき子、川下由美子、佐藤美穂 非常勤講師:花田信弘(鶴見大学)、草野洋介(西九州大学)、北村雅保、(長崎大学)

授業の概要
予防は医学の原点である。特に口腔疾患については効率のよい予防が可能であることが分かってきた。口腔疾患の予防について個人的アプローチと集団的、社会的アプローチを理解し、口腔の健康を保持・増進するために必要な知識、態度、能力を養う。

授業到達目標
一般目標 GIO:
口腔疾患を予防するための個人的アプローチと集団的、社会的アプローチを理解し、口腔の健康を保持・増進するために必要な知識、態度、能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.主な口腔疾患(う蝕、歯周疾患)の予防を説明できる。	B-3-2)-①, E-3-2)
2.口腔疾患の疫学と指標について説明できる。	B-4-1)-③
3.う蝕予防におけるフッ化物について説明できる。	B-3-2)-②
4.個人および集団レベルでの予防と健康管理を説明できる。	B-3-2), F-3-2)
5.地域歯科保健、母子歯科保健、学校歯科保健、成人歯科保健、老人歯科保健、産業歯科保健を説明できる。	B-3-2)-④, ⑥, F-3-2)
6.健康づくりと食生活、栄養、口腔疾患と全身の健康について説明できる。	B-1)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義及び実習

授業内容
1 回目: 予防歯科学概論(五月女)
2 回目: う蝕の病因論(五月女)
3 回目: 歯周病の病因論(五月女)
4 回目: 自習
5 回目: 口腔保健の指標(川下)
6 回目: 口腔保健と疫学(川下)
7 回目: 口臭と口臭予防(五月女)
8 回目: 国民の口腔保健状況(五月女)
9 回目: 地域口腔保健序論(川下)
10 回目: 自習
11 回目: プラークコントロール 1(川下)
12 回目: プラークコントロール 2(川下)
13 回目: 口腔と全身の健康(五月女) 自習
14 回目: 成人歯科保健(五月女)自習
15 回目: 高齢者・有病者の口腔保健(五月女)
16 回目: 自習
17 回目: う蝕の特異的予防(川下)
18 回目: 母子保健(川下)
19 回目: う蝕の予防法(五月女)
20 回目: 歯周病の予防法(五月女)
21 回目: フッ素と歯科保健(五月女)
22 回目: 国際口腔保健(佐藤)
23 回目: 学校歯科保健(川下)
24 回目: 産業歯科保健(川下)

25 回目：特別講義①-1 26 回目：特別講義①-2 27 回目：口腔の機能（川下） 28 回目：特別講義①-3 29 回目：特別講義①-4 30 回目：障害児・者の口腔保健（川下） 31 回目：特別講義②-1 32 回目：特別講義②-2 33 回目：行動科学と健康教育（川下） 34 回目：特別講義③-1 35 回目：特別講義③-2 36 回目：特別講義③-3 37-39 回目：予防歯科実習①口腔診査法 40-42 回目：予防歯科実習②プラークコントロール（五月女・川下） 43-45 回目：予防歯科実習③う蝕活動性試験（五月女・川下）	
キーワード	う蝕、歯周疾患、予防、保健、フッ化物、プラークコントロール、地域
教科書・教材・参考書	口腔保健・予防歯科学（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合もある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席すること。欠席した学生は必ず連絡を取ること。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。 ZOOM 等によるオンラインの可能性もあるので、LACS にて確認してください。
実務経験のある教員による授業科目	・五月女　さき子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・川下　由美子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・佐藤　美穂／海外での経験を生かした実践的な情報・知識の提供

予防歯科学及び同実習日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	月	4	予防歯科学概論 予防歯科学は個人を対象とした分野と集団や社会を対象とした分野に大別され、衛生学、社会歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学、予防医学など幅広い分野と重なる。	五月女	講義室6A
2回	4	1	月	5	う蝕の病因論 う蝕進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について理解する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても理解する。	五月女	講義室6A
3回	4	1	月	6	歯周病の病因論 歯周病の発病、進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について理解する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても理解する。	五月女	講義室6A
4回	4	8	月	4	自習		講義室6A
5回	4	8	月	5	口腔保健の指標ならびに歯科疾患実態調査の概要と最新の結果について学ぶ。	川下	講義室6A
6回	4	8	月	6	口腔保健と疫学	川下	講義室6A
7回	4	15	月	4	口臭と口臭予防 口臭の分類や測定方法、指導方法について学ぶ。	五月女	講義室6A
8回	4	15	月	5	国民の口腔保健状況 口腔保健の統計調査からみた国民・長崎県民の健康と栄養の現状を学ぶ。	五月女	講義室6A
9回	4	15	月	6	地域口腔保健序論	川下	講義室6A
10回	4	22	月	4	自習		講義室6A
11回	4	22	月	5	プラークコントロール1 口腔バイオフィルム形成と病原体	川下	講義室6A
12回	4	22	月	6	プラークコントロール2 プラークコントロールはう蝕と歯周病の最も基本的な予防法であるが、単に歯磨きを示すものではない。プラークコントロールの概念と実際の方法、生活習慣への組み込み方や指導方について学ぶ。	川下	講義室6A
13回	5	7	火	4	口腔と全身の健康 メタボリックシンドロームやフレイルなどの最新の知見を理解する。	五月女	講義室6A
14回	5	7	火	5	成人歯科保健	五月女	講義室6A
15回	5	7	火	6	高齢者・有病者の口腔保健	五月女	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	13	月	4	自習		講義室6A
17回	5	13	月	5	う蝕の特異的予防として砂糖について理解を深める。	川下	講義室6A
18回	5	13	月	6	母子歯科保健(1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査等)について学ぶ。	川下	講義室6A
19回	5	20	月	4	う蝕の予防方法について理解する。	五月女	講義室6A
20回	5	20	月	5	歯周病の予防方法について理解する。	五月女	講義室6A
21回	5	20	月	6	フッ素と歯科保健 フッ化物の応用方法	五月女	講義室6A
22回	5	27	月	4	国際口腔保健	佐藤	講義室6A
23回	5	27	月	5	学校歯科保健(学童の健康管理と保健教育、学校歯科医の職務等)について学ぶ。	川下	講義室6A
24回	5	27	月	6	産業歯科保健 歯の酸蝕症と産業歯科保健事業について学ぶ。	川下	講義室6A
25回	6	3	月	4	特別講義①-1 う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ。	花田	講義室6A
26回	6	3	月	5	特別講義①-2	花田	講義室6A
27回	6	3	月	6	口腔の機能 唾液の性状とその機能について学ぶ。	川下	講義室6A
28回	6	10	月	4	特別講義①-3	花田	講義室6A
29回	6	10	月	5	特別講義①-4	花田	講義室6A
30回	6	10	月	6	障害児・者の口腔保健	川下	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
31回	6	17	月	4	特別講義②-1 「日本人の食事摂取基準」からみたエネルギーおよび各栄養素の摂取量の基準、栄養欠乏と過剰症について学ぶ。	五月女	講義室6A
32回	6	17	月	5	特別講義②-2	五月女	講義室6A
33回	6	17	月	6	行動科学と健康教育	川下	講義室6A
34回	6	24	月	4	特別講義③-1 フッ化物の安全性	北村	講義室6A
35回	6	24	月	5	特別講義③-2 歯科と食品保健①（代用甘味料について理解を深める。）	北村	講義室6A
36回	6	24	月	6	特別講義③-3 歯科と食品保健①（特定保健用食品について理解を深める。）	北村	講義室6A
37回	7	1	月	4	予防歯科学実習1 口腔診査法（う蝕、歯周病、その他）	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
38回	7	1	月	5	予防歯科学実習1 口腔診査法（う蝕、歯周病、その他）	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
39回	7	1	月	6	予防歯科学実習1 口腔診査法（う蝕、歯周病、その他）	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
40回	7	8	月	4	予防歯科学実習2 プラークコントロール	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
41回	7	8	月	5	予防歯科学実習2 プラークコントロール	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
42回	7	8	月	6	予防歯科学実習2 プラークコントロール	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
43回	7	22	月	4	予防歯科学実習3 う蝕活動性試験	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
44回	7	22	月	5	予防歯科学実習3 う蝕活動性試験	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B
45回	7	22	月	6	予防歯科学実習3 う蝕活動性試験	五月女 川下 中村・中松・今給黎	臨床実習室4B

年度 2024　学期　1・2Q	曜日・校時　月 1～3 校時, 火 1～2 校時	必修選択　必修	単位数　2 単位
授業コード 科目ナンバリング・コード 授業科目/(英語名)	25034303 DNGD33031988 歯科矯正学及び同実習/Orthodontics ＆ Orthodontic Practice		
対象年次　4年生	講義形態　講義及び実習	教室　講義室6A, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
講義:吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp /矯正医局 /TEL:095-819-7667/オフィスアワー:不在時を除き毎週金曜日 17:00 以降
実習:富永淳也/tomi226@nagasaki-u.ac.jp /教員研究室 /TEL:095-819-7669 /オフィスアワー:不在時を除き毎週金曜日 17:00 以降

担当教員 (オムニバス科目等)	吉田教明, 佛坂斉祉, 富永淳也, 森田幸子, 濱中僚, 小牧博也, 西井 康〔非常勤講師〕, 大谷 淳二〔非常勤講師〕, 井口修一郎〔非常勤講師〕

授業の概要: 講義では, 口腔・頭蓋・顔面領域における発生および成長発育の基礎知識を学び, 矯正治療の目的, 必要性, 臨床的意義を理解し, 異常に対する検査, 診断, 治療法を理解する。実習では, 矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を通して習得する。

一般目標 GIO:口腔・頭蓋・顔面領域における発生および成長発育について基礎知識を習得する。矯正治療の目的, 意義, 診断, 治療法等を理解し, また矯正臨床に必要な基礎的な技術を身に付ける。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1. 発生, 成長発育の概念, 正常咬合が説明できる。	E-2-2), E-2-3), E-2-4)
2. 不正咬合の種類, 原因, 病態, 予防法が説明できる。	E-2-2), E-2-3), E-2-4), E-4-1)
3. 矯正治療の目的と意義を理解し, 矯正診断と治療の流れ, 治療法が説明できる。	E-4-1)
4. 関連する力学が説明できる。	E-4-1)
5. 装置の種類と使用目的, 構造,作用機序,生体反応, 適応症および製作方法が説明できる。	E-4-1)
6. 矯正装置を製作できる。	E-4-1)
7. 矯正装置に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	E-4-1)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法): 講義, 実習, e-Learning
講義では, 学生の理解度を確認するため小テスト(pre, post)を逐次実施する。 e-Learning を利用して, 学生の予習・復習による自主的学習意欲を高めるため講義内容および実習資料を公開する。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)
概要:はじめに講義にて, 矯正治療の歴史的流れを理解し, 正常咬合とは何か, 顔貌の不正, 顎骨の異常形態および不正咬合の検査法, 診断法を理解する。同時に今後の矯正歯科学の新しい治療法について内容を深める。実習では, 各課題で作成する装置の構造, 機能, 理論, 適応症などについて, 配布した実習書に従って講義と実習を行い, 矯正装置の製作を行う。

授業内容
1回目:【講義 1】歯科矯正学の定義と歩み,矯正歯科治療の目的と意義
2 回目:【講義 2】治療目標・治療方針・治療計画の立案
3 回目:【講義 3】治療学概論
4 回目:【講義 4】咬合 ①
5 回目:【講義 5】咬合 ②
6 回目:【講義 6】成長発育
7 回目:【講義 7】診断,検査 ①
8 回目:【講義 8】診断,検査 ②
9 回目:【講義 9】頭部 X 線規格写真分析(1)
10 回目:【講義 10】頭部 X 線規格写真分析(2)
11 回目:【講義 11】頭部 X 線規格写真分析(3)
12 回目:【講義 12】頭部 X 線規格写真分析(4)
13 回目:【講義 13】頭部 X 線規格写真分析(5)
14 回目:【講義 14】不正咬合の原因と予防①
15 回目:【講義 15】不正咬合の原因と予防②
16 回目:【講義 16】矯正歯科治療における抜歯
17 回目:【講義 17】矯正歯科治療における固定①
18・19・20 回目:【実習 1】プライヤー貸出・確認, 自在ろう着・線屈曲
21・22・23 回目:【実習 2】舌側弧線装置(1)
24 回目:【講義 18】矯正歯科治療における固定②
25 回目:【講義 19】矯正歯科治療に伴う生体反応と矯正力
26・27・28 回目:【実習 3】舌側弧線装置(2)
29 回目:【講義 20】矯正装置 Ⅰ矯正装置の種類と特徴
30 回目:【講義 21】矯正装置 Ⅱ器械的矯正装置
31・32・33 回目:【実習 4】舌側弧線装置(3)
34 回目:【講義 22】矯正装置 Ⅲ機能的矯正装置 Ⅳその他
35 回目:【講義 23】矯正用材料の特性
36・37・38 回目:【実習 5】舌側弧線装置(4)
39 回目:【講義 24】矯正治療に必要な力学
40 回目:【講義 25】矯正用材料、矯正用器械、器具
41・42・43 回目:【実習 6】エッジワイズ装置(1)
44 回目:【講義 26】永久歯列期の治療①
45 回目:【講義 27】永久歯列期の治療②
46・47・48 回目: 【実習 7】エッジワイズ装置(2)
49 回目:【講義 28】永久歯列期の治療③
50 回目:【講義 29】永久歯列期の治療④
51・52・53 回目: 【実習 8】エッジワイズ装置(3)
54 回目:【講義 30】乳歯列期・混合歯列期の治療①
55 回目:【講義 31】乳歯列期・混合歯列期の治療②
56・57・58 回目:【実習 9】エッジワイズ装置(4)
59 回目:【講義 32】顎変形症の矯正歯科治療
60 回目:【講義 33】歯科矯正用アンカースクリュー
61・62・63 回目:【実習 10】エッジワイズ装置(5)
64 回目:【講義 34】保定・口腔衛生管理・偶発症・併発症
65 回目:【講義 35】口唇・口蓋裂の矯正歯科治療

キーワード	発生, 成長発育, 正常咬合, 不正咬合の種類, 原因, 矯正治療の目的, 矯正装置, 舌側弧線装置, エッジワイズ装置, 機能的矯正装置, 力学

教科書・教材・参考書	教科書：歯科矯正学（第 6 版），医歯薬出版，飯田順一郎，葛西一貴他編 参考書：歯科矯正マニュアル，南山堂，槇宏太郎他編　プロフィトの現代歯科矯正学，クインテッセンス出版，e-Learning にて実習書，講義での画像，実習デモの動画を提供する。
成績評価の方法・基準等	講義の評価と実習の評価で行う。いずれも 60 点以上のものを合格とする。講義の評価は，定期試験時の筆記試験で行い，LACS のテストの成績は講義の成績評価の参考とする。実習の評価は，各課題の製作物評価，実習態度，理解度，レポートにより総合評価を行う。
受講要件(履修条件)	定期試験は，本試験，再試験とする。出席率は学部規則に従って評価する。3/4 以上の出席で受験資格を得る。追試験，再試験は学部規則の範囲で行う。
備考（学生へのメッセージ）	講義の進行と実習内容を同調させるために，前半において講義を集中的に行うので予習復習が必要。 実習では実習書を各自印刷もしくはデータで閲覧できる状態で持参すること。実習内容は前日までに e-learning による予習を行い，LACS で実習デモの動画を必ず閲覧すること。LACS で連絡事項を掲示する。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田　教明／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・佛坂　斉祉／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・富永　淳也／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・森田　幸子／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・濵中　僚／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・小牧　博也／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・井口　修一郎／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・西井　康／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術を指導する。 ・大谷　淳二／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識，技術を指導する。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	担当者	教室
1回	4	1	月	1	【講義1】Ⅰ総論-1章 歯科矯正学の定義と歩み 2章 矯正歯科治療の目的と意義 歯科矯正学の歴史、目的と意義	吉田	講義室6A
2回	4	1	月	2	【講義2】Ⅱ診断学-11章 治療目標・治療方針・治療計画の立案 治療の流れ（上顎前突）診断から治療のプロセス	富永	講義室6A
3回	4	1	月	3	【講義3】Ⅲ治療学-12章 治療学概論 治療の流れ（下顎前突）診断から治療のプロセス	森田	講義室6A
4回	4	2	火	1	【講義4】Ⅰ総論-4章 咬合 ①	森田	講義室6A
5回	4	2	火	2	【講義5】Ⅰ総論-4章 咬合 ②	森田	講義室6A
6回	4	8	月	1	【講義6】Ⅰ総論-3章 成長発育	小牧	講義室6A
7回	4	8	月	2	【講義7】Ⅱ診断学-8章 診断 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査（Ⅰ・1～Ⅰ・6） Ⅱ機能検査（Ⅱ・1～Ⅱ・6）	富永	講義室6A
8回	4	8	月	3	【講義8】Ⅱ診断学-8章 診断 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査（Ⅰ・1～Ⅰ・6） Ⅱ機能検査（Ⅱ・1～Ⅱ・6）	富永	講義室6A
9回	4	9	火	1	【講義9】Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	佛坂	講義室6A
10回	4	9	火	2	【講義10】Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	佛坂	講義室6A
11回	4	15	月	1	【講義11】Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	佛坂	臨床実習室4B
12回	4	15	月	2	【講義12】Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	佛坂	臨床実習室4B
13回	4	15	月	3	【講義13】Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	佛坂	臨床実習室4B
14回	4	16	火	1	【講義14】Ⅰ総論-5章 不正咬合の原因① 6章 不正咬合の予防①	富永	講義室6A
15回	4	16	火	2	【講義15】Ⅰ総論-5章 不正咬合の原因② 6章 不正咬合の予防②	富永	講義室6A
16回	4	23	火	1	【講義16】Ⅱ診断学-10章 矯正歯科治療における抜歯①	吉田	講義室6A
17回	4	23	火	2	【講義17】Ⅱ診断学-10章 矯正歯科治療における抜歯② Ⅲ治療学-14章 矯正歯科治療における固定①	吉田	講義室6A
18回	5	7	火	1	【実習1】プライヤー貸出・確認，自在ろう着・線屈曲	富永	臨床実習室4B
19回	5	7	火	2			
20回	5	7	火	3			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	担当者	教室
21回	5	13	月	1	【実習2】舌側弧線装置(1)	富永	臨床実習室4B
22回	5	13	月	2			
23回	5	13	月	3			
24回	5	14	火	1	【講義18】Ⅲ治療学-14章 矯正歯科治療における固定②	吉田	講義室6A
25回	5	14	火	2	【講義19】Ⅰ総論-7章 矯正歯科治療に伴う生体反応 Ⅲ治療学-13章 矯正力	濱中	講義室6A
26回	5	20	月	1	【実習3】舌側弧線装置(2)	富永	臨床実習室4B
27回	5	20	月	2			
28回	5	20	月	3			
29回	5	21	火	1	【講義20】Ⅲ治療学-16章 矯正装置 Ⅰ矯正装置の種類と特徴	吉田	講義室6A
30回	5	21	火	2	【講義21】Ⅲ治療学-16章 矯正装置 Ⅱ器械的矯正装置	吉田	講義室6A
31回	5	27	月	1	【実習4】舌側弧線装置(3)	富永	臨床実習室4B
32回	5	27	月	2			
33回	5	27	月	3			
34回	5	28	火	1	【講義22】Ⅲ治療学-16章 矯正装置 Ⅲ機能的矯正装置 Ⅳその他の矯正装置	森田	講義室6A
35回	5	28	火	2	【講義23】Ⅲ治療学-15章 矯正用材料の特性	小牧	講義室6A
36回	6	3	月	1	【実習5】舌側弧線装置(4)	富永	臨床実習室4B
37回	6	3	月	2			
38回	6	3	月	3			
39回	6	4	火	1	【講義24】Ⅲ治療学-矯正治療に必要な力学	濱中	講義室6A
40回	6	4	火	2	【講義25】付録 矯正用材料、矯正用器械、器具	濱中	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	担当者	教室
41回	6	10	月	1	【実習6】エッジワイズ装置(1)	富永	臨床実習室4B
42回	6	10	月	2			
43回	6	10	月	3			
44回	6	11	火	1	【講義26】Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療（Ⅰ上顎前突Ⅱ下顎前突）	小牧	講義室6A
45回	6	11	火	2	【講義27】Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療（Ⅲ叢生 Ⅳ上下顎前突）	小牧	講義室6A
46回	6	17	月	1	【実習7】エッジワイズ装置(2)	富永	臨床実習室4B
47回	6	17	月	2			
48回	6	17	月	3			
49回	6	18	火	1	【講義28】Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療（Ⅴ過蓋咬合 Ⅵ開咬）	濱中	講義室6A
50回	6	18	火	2	【講義29】Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療 （Ⅶ交叉咬合 Ⅷ埋伏 Ⅸ外傷）	濱中	講義室6A
51回	6	24	月	1	【実習8】エッジワイズ装置(3)	富永	臨床実習室4B
52回	6	24	月	2			
53回	6	24	月	3			
54回	6	25	火	1	【講義30】Ⅲ治療学-17章 乳歯列期・混合歯列期の治療 （Ⅰ・1～Ⅱ・4）	吉田	講義室6A
55回	6	25	火	2	【講義31】Ⅲ治療学-17章 乳歯列期・混合歯列期の治療 （Ⅱ・4～Ⅱ・10）	吉田	講義室6A
56回	7	1	月	1	【実習9】エッジワイズ装置(4)	富永	臨床実習室4B
57回	7	1	月	2			
58回	7	1	月	3			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	担当者	教室
59回	7	2	火	1	【講義32】Ⅲ治療学-20章 チーム医療の中の矯正歯科治療 （Ⅱ 顎変形症の矯正歯科治療）	西井	講義室6A
60回	7	2	火	2	【講義33】歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療	大谷	講義室6A
61回	7	8	月	1	【実習10】エッジワイズ装置(5)，プライヤー返却・確認	富永	臨床実習室4B
62回	7	8	月	2			
63回	7	8	月	3			
64回	7	9	火	1	【講義34】Ⅲ治療学-19章 保定 Ⅲ治療学-21章 矯正歯科治療における口腔衛生管理 Ⅲ治療学-22章 矯正歯科治療に伴う偶発症・併発症	富永	講義室6A
65回	7	9	火	2	【講義35】Ⅲ治療学-20章 チーム医療の中の矯正歯科治療 （Ⅰ口唇・口蓋裂の矯正歯科治療）	森田	講義室6A

年度 2024　学期 通年	曜日・校時 2Q 水 1-2, 3・4Q 水 3-7	必修選択　必修	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034324 DNGD33041988 小児歯科学/(Pediatric Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・グループワーク	教室 講義室6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 II		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田上直美/t-naomi@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学医局/095-819-7674(内 7674)/水曜日 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	田上直美, 日高 聖, 川﨑華子, 佐藤恭子, 松尾 剛, 有田光太郎 新谷誠康(東京歯科大学), 福本 敏(九州大学), 星野倫範(明海大学)		

授業の概要
小児の口の健康を育むための, 知識, 技能, 態度を身につける.

授業到達目標

一般目標 GIO:
小児の口腔の健康を維持し, 健全な永久歯列を育成するために必要な知識, 技能, 態度を習得する。
小児と成人の相違に重点を置き、小児の特殊性を理解する。

個別行動目標 SBOs:
右欄の歯学教育コアカリキュラム参照のこと

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能
①歯の発生、発育および交換の過程と変化を説明できる。 ②歯種別の形態と特徴を説明できる。③遺伝的な歯の形成異常を説明できる。④歯(乳歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能および構成成分を説明できる。

E-4-2) 小児の歯科治療
①乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。 ②乳歯と幼若永久歯のう蝕の診察、検査と診断を説明できる。 ③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意点を説明できる。④歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。 ⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、手順と留意点および予後を説明できる。⑥小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。 ⑦咬合誘導の概念を説明できる。 ⑧保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。 ⑨小児患者の対応について説明できる。 ⑩小児の虐待の徴候と対応について説明できる。

E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
②代表的医科疾患・病態および歯科診療との関連について説明できる。 ③医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義, 実習, 調べ学習など

授業内容

1. 小児歯科概論	小児歯科の意義と目的
2. 小児の心身発育	成長概論, 身体発育の特徴, 精神的発育, 口腔機能の発達, 評価法
3. 頭蓋顔面顎の発育と異常	頭蓋の発育, 顎の発育
4. 歯の発育と異常	歯の形成, 歯の形成障害, 歯の異常, 歯の萌出と異常
5. 歯列咬合の発育と異常	発育段階の分類, 歯列および咬合の発育異常
6. 咬合誘導と保隙	意義と目的, 診査と診断, 保隙, 動的咬合誘導法, 口腔習癖と処置
7. 乳歯, 幼若永久歯の特徴	乳歯の形態と組織, 幼若永久歯の形態と組織
8. 小児の齲蝕と予防	乳歯や幼若永久歯の齲蝕, 心身に及ぼす影響, 口腔衛生指導, 薬物応用法, 裂溝填塞法
9. 小児の歯周疾患	健常な歯周組織, 小児歯周疾患の種類と特徴
10. 口腔管理計画	診査と診断, 診療計画, 患者指導, 定期健診
11. 小児の歯冠修復	乳歯の歯冠修復, 幼若永久歯の歯冠修復
12. 小児の歯内療法	乳歯歯髄炎の診査と診断, 乳歯歯髄炎の処置法, 幼若永久歯の歯内療法
13. 小児の歯の外傷	診査と診断, 外傷の処置法, 外傷の影響, 小児の虐待とその対応
14. 小児の外科処置,粘膜疾患	抜歯, 顎及び口腔軟組織の異常と疾患の処置, 薬物療法
15. 心身障害児の歯科的対応	定義と口腔管理の問題点, 種類と口腔所見, 歯科的対応
16. 小児疾患と歯科診療	各種全身疾患に関するグループ学習
特別講義 新谷誠康(非常勤講師)	歯質の形成障害
特別講義 福本 敏(非常勤講師)	歯の発生
特別講義 星野倫範 (非常勤講師)	小児の摂食嚥下機能

キーワード	小児，成長発達，口腔機能，齲蝕，咬合，外傷
教科書・教材・参考書	教科書：**小児歯科学（永末書店）第 3 版** 参考書：新小児歯科学（医歯薬出版）第 5 版，外傷歯の診断と治療（月星光博，クインテッセンス出版） Pediatric Dentistry 3rd Ed, (Wiley-Blackwell 2017)
成績評価の方法・基準等	1.小テストを 2-3 回行い，成績に反映させる。 2.授業時に Smart Clicker で行うポストアンケートは成績の評価としては用いない。 3.講義終了後，筆記試験を行い，成績評価とする。 4.授業への積極的な参加，レポートなども全体の20％以内を限度として、評価対象とする。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験条件として、出席率70％以上の出席が必要となる。
備考(学生へのメッセージ)	前期は講義中心，小児歯科学実習は後期に開始する。日程表に教科書の対応ページを示すので，予習しておくこと。講義予定，担当者は未定なので，詳細は追って連絡します。
実務経験のある教員による授業科目	・田上　直美／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・日高　聖／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・川﨑　華子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・佐藤　恭子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・松尾　剛／一般歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・有田光太郎／一般歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・新谷　誠康／東京歯科大学小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・福本　敏／九州大学，東北大学小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・星野　倫範／明海大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義

年度 2024　学期 通年	曜日・校時 2Q 水 1-2, 3・4Q 水 3-7	必修選択　必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034324 DNGD33041988 小児歯科学実習/(Pediatric Dentistry Practice)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式	教室 講義室6A, 実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類　口腔生命科学各論 II		

担当教員(科目責任者)/E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
田上直美/t-naomi@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学医局/095-819-7674(内 7674)/水曜日 12:00～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	＊近藤好夫, 日高 聖, 川﨑華子, 澤瀬萌々(TA)

授業の概要 / (500 文字)
マネキン, 模型上で小児の修復, 生活歯髄切断, 保隙装置製作等を行い, その基礎技術, 知識を習得する。

授業到達目標

一般目標(GIO)
小児歯科診療に必要な基本的技能, 知識, 態度をマネキン, 模型を用いて習得する。

行動目標(SBOs)
1.マネキン上でラバーダム防湿ができる。
2.模型上で乳歯の窩洞形成と支台歯形成ができる。
3.模型上で既製金属冠が作成できる。
4.模型上で乳歯のフィッシャーシーラントができる。
5.模型上で乳歯の生活歯髄切断ができる。
6.乳歯の歯型彫刻ができる。
7.保隙装置の作成ができる。

対応するディプロマポリシー
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
実習

授業内容

1. 実習概説	実習の概説
2.機材整備	模型や器材の配布, 点検
3.ラバーダム防湿法	マネキン, 模型上でのラバーダム防湿実習
4.窩洞形成	マネキン, 模型上でコンポジットレジン I 級窩洞, インレーII 級窩洞を形成する
5.乳歯既成金属冠	模型上で乳歯既製金属冠の支台歯形成, 適合調整を行う
6.フィッシャーシーラント	模型上で乳歯のフィッシャーシーラントを行う
7.乳歯生活歯髄切断	模型上で乳歯の生活歯髄切断を行う
8.クラウンループ	模型上でクラウンループの作成を行う
9.歯型彫刻	石膏棒を用いて, 乳歯の歯型彫刻を行う

○実習は後期に行います。
○日程はシラバス作成時時点では未定ですので, 授業開始時に追って連絡します。
また実習内容は, OSCE などにより対応するために, シラバス作成後に変更する可能性があります。

実習日に, その日の実習項目に関する小テストを行うことがあります。
結果は成績に含めるので実習帳内容等を予習してくること。

キーワード	乳歯, ラバーダム, 乳歯冠, 窩洞形成, 生活歯髄切断, クラウンループ
教科書・教材・参考書	事前に実習帳を電子データーで配布するので, 各人プリントアウトして用意すること。 指定の模型を購入し, 1 回目に持参すること
成績評価の方法・基準等	1.実習開始前に毎回行う実習帳に関する小テスト結果(30%) 2.ステップ毎の作成物の採点 3.インストラクターの個人評価(最大20%まで)
受講要件(履修条件)	実習は, 出席重視なので, 原則欠席は不可
備考(学生へのメッセージ)	購入した実習模型を持参すること. 器材などは貸与するが, 紛失, 破損のないよう注意すること(責任が明らかな紛失, 破損などに対しては, 実費弁償を求める)。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教科書ページ	教員名	教室
1回	5	29	水	7	オリエンテーション	1-8	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
2-3回	6	5	水	1～2	小児の心身発育	9—38	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
4-5回	6	12	水	1～2	頭蓋、顎、顔面の発育	39-70	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
6-7回	6	19	水	1～2	歯の発育と異常	71-100	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
8-9回	6	26	水	1～2	歯列、咬合の発育と異常	101-130	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
10-11回	7	3	水	1～2	乳歯，幼若永久歯	131-146	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
12-13回	7	10	水	1～2	小児の齲蝕 齲蝕の予防と進行抑制	147-160 205-222	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
14-15回	7	17	水	1～2	前期のまとめ（小テスト予定） 補講		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
16-20回	10	2	水	3～7	小児の歯周疾患 小児の診察・治療計画 小児への歯科的対応	161-178 191-204 179-190	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
21-25回	10	9	水	3～7	模型実習		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
26-30回	10	16	水	3～7	小児の歯冠修復 小児の歯内療法	223-246 247-280	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
31-35回	10	23	水	3～7	模型実習		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
36-40回	10	30	水	3～7	小児の外科 小児の外傷 （小テスト予定）	281-298 313-334	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
41-45回	11	6	水	3～7	模型実習		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
46-50回	11	13	水	3～7	模型実習		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
51-55回	11	20	水	3～7	顎骨と軟組織の疾患 特別講義　摂食機能の発達 唇顎口蓋裂	299-312 367-376	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
56-60回	11	27	水	3～7	唇顎口蓋裂 特別講義 咬合誘導	 335-365	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
61-65回	12	4	水	3～7	模型実習		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
66-70回	12	11	水	3～7	模型実習		田上他	講義室6A・臨床実習室4B
71-74回	12	18	水	3～6	児童虐待 特別講義 心身障害児	431-437 387-404	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
75-79回	1	8	水	3～7	小児疾患と歯科診療	405-430	田上他	講義室6A・臨床実習室4B
80-82回	1	15	水	3～5	前期のまとめ（小テスト予定） 小テスト追試 補講		田上他	講義室6A・臨床実習室4B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 火 3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034307 DNGD33051984 保存修復学/ (Restorative Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式(対面)	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 平 曜輔/yohsuke@nagasaki-u.ac.jp/保存修復学部門医局/095-819-7677(内 7677)/16:30～17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	平 曜輔、山田志津香、介田 圭、江越貴文、大原直子(非常勤講師)、渥美克幸(非常勤講師)		

授業の概要および位置づけ

歯の硬組織疾患に対する診査(検査)、診断、治療、予防、管理(維持)の原理、原則を学ぶ。予防、健康増進と関連した早期発見、早期管理および MI(Minimal Intervention) Dentistry の概念を理解する。さらに、齲蝕ならびに歯質欠損に対するMIに基づいた歯冠修復の方法と臨床的意義に関する知識を身に付ける。

授業到達目標

一般目標 GIO:

齲蝕および歯の硬組織疾患の病因と病態を理解し、治療の進め方の基本を修得する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 齲蝕その他の歯の硬組織疾患の病因と病態を説明できる。(知識;想起)	E-3-2)
2. 齲蝕その他の歯の硬組織疾患の症状、検査法、診断および処置法を説明できる。(知識;想起)	E-3-2), E-3-3)-(1)
3. MIに基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
4. 修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
5. 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
6. 歯髄保護の意義、種類と方法を説明できる。(知識;想起)	E-3-3)-(1)
7. 窩洞形成の意義と方法を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
8. 仮封の意義、種類及び特徴を説明できる。(知識;想起)	E-3-3)-(1)
9. 修復後の管理の目的と方法を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)

対応するディプロマポリシー

DP 2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP 5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

教科書を基本に、スライドや板書での講義と必要に応じてプリントを配付する。

授業内容

1 回目 序論、保存修復学の目的と変遷、歯の構造、齲蝕、修復材料の所要性質
2 回目 齲蝕のリスクファクター、齲蝕の識別と処置法、診療姿勢、器具の持ち方、滅菌・消毒、感染予防対策
3 回目 検査、診断、治療方針、診療設備、回転切削器械、回転切削器具、レーザー他
4 回目 齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化、窩洞の分類、窩洞各部の名称、窩洞の具備条件
5 回目 修復法の種類、特徴、適応、修復物の形態と面の性質、除痛法、隔壁法、術野隔壁、歯肉排除法、歯間分離法
6 回目 メタルインレー修復(1):概要、鋳造用合金、窩洞形成、印象採得、咬合採得、仮封、間接法模型
7 回目 メタルインレー修復(2):ろう型調整、埋没、鋳造、試適、研磨、合着・接着、予後
8 回目 歯髄障害・歯髄保護、歯科保存修復の研究分野と大学における臨床
9 回目 コンポジットレジン修復(1):マトリックスレジン、フィラー、コンポジットレジンの分類、光照射器
10 回目 コンポジットレジン修復(2):接着システム、適応症、修復手順
11 回目 一般開業医での包括的歯科診療における保存修復処置の役割、社会に対する歯科の責務と可能性、生涯学習
12 回目 コンポジットレジンインレー修復、セラミックインレー修復、CAD/CAM
13 回目 歯の漂白、ラミネートベニア修復
14 回目 グラスアイオノマーセメント修復、アマルガム修復、高齢者の保存修復
15 回目 修復歯の予後、補修修復、カリオロジー、MI Dentistry、アンケート

キーワード	硬組織疾患、予防、診査、診断、処置、管理
教科書・教材・参考書	教科書：保存修復学21（第六版）（永末書店） 参考書：保存修復クリニカルガイド（第二版）（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う（再試までとする）。
受講要件(履修条件)	口腔生命科学各論（基礎科目）の復習を必要に応じて各自で行う。
備考(学生へのメッセージ)	歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。
実務経験のある教員による授業科目	・平　曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・山田志津香／大学病院および兼業先診療所における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・介田　圭／大学病院および歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・江越貴文／大学病院および兼業先歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・大原直子／大学病院および兼業先歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・渥美克幸／歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	火	3	序論 保存修復学の目的と変遷、歯の構造 齲蝕、修復材料の所要性質	平	講義室6A
2回	4	9	火	3	齲蝕のリスクファクター、齲蝕の識別と処置法 診療姿勢、器具の持ち方、滅菌・消毒、感染予防対策	介田	講義室6A
3回	4	16	火	3	検査、診断、治療方針 診療設備、回転切削器械、回転切削器具、レーザー他	江越	講義室6A
4回	4	23	火	3	齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化 窩洞の分類、窩洞各部の名称、窩洞の具備条件	平	講義室6A
5回	4	30	火	3	修復法の種類、特徴、適応 修復物の形態と面の性質 除痛法、隔壁法、術野隔壁、歯肉排除法、歯間分離法	介田	講義室6A
6回	5	14	火	3	メタルインレー修復(1): 概要、鋳造用合金、窩洞形成、印象採得、咬合採得、仮封、間接法模型	平	講義室6A
7回	5	21	火	3	メタルインレー修復(2): ろう型調整、埋没、鋳造、試適、研磨、合着・接着、予後	平	講義室6A
8回	5	28	火	3	歯髄障害・歯髄保護 歯科保存修復の研究分野と大学における臨床	大原	講義室6A
9回	6	4	火	3	コンポジットレジン修復(1): マトリックスレジン、フィラー、コンポジットレジンの分類、光照射器	江越	講義室6A
10回	6	11	火	3	コンポジットレジン修復(2): 接着システム、適応症、修復手順	平	講義室6A
11回	6	18	火	3	一般開業医での包括的歯科診療における保存修復処置の役割 社会に対する歯科の責務と可能性、生涯学習の大切さ	渥美	講義室6A
12回	6	25	火	3	コンポジットレジンインレー修復 セラミックインレー修復 CAD/CAM	平	講義室6A
13回	7	2	火	3	歯の漂白 ラミネートベニア修復	平	講義室6A
14回	7	9	火	3	グラスアイオノマーセメント修復 アマルガム修復 高齢者の保存修復	平	講義室6A
15回	7	16	火	3	修復歯の予後、補修修復 カリオロジー、MI Dentistry、アンケート	山田	講義室6A

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 火・4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034308 DNGD33061984 保存修復学実習/ (Practice of Restorative Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式(対面)	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 平 曜輔/yohsuke@nagasaki-u.ac.jp/保存修復学部門医局/095-819-7677(内 7677)/16:30～17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	平 曜輔、山田志津香、介田 圭、江越貴文、川久保 敦(非常勤講師)、他		

授業の概要および位置づけ

・基礎実習は、講義において説明された学理を理解するために行われる。
・マネキンを用いるが、実際に患者さんを治療している状態を想定し、正しい治療姿勢ならびに技術の修得を図る。
・病んでいる患者さんを診るにあたっての心構えなどを身につける。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科医師としてのプロフェッショナリズムおよび齲蝕その他の硬組織疾患の保存修復処置に関する知識、技能ならびに態度を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 手用切削器具、および高・低速切削器具を安全に操作する。(技能、態度)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-2-2)
2. 水平歯科診療姿勢を実施する。(技能、態度・習慣)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1)
3. 清潔に配慮した操作ができる.(技能、態度・習慣)	F-1-2), F-2-1)
4. 齲蝕除去および窩洞形成を行う。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3)
5. 歯髄保護を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3)
6. コンポジットレジン修復を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-2), F-3-3)
7. メタルインレー修復を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3)
8. グラスアイオノマーセメント修復を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3), F-3-7)
9. 歯科材料の使用説明書に従って、操作する。(技能、態度)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1)

対応するディプロマポリシー
DP 2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP 3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP 5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

原則、実習形式で行う。実習前にインストラクターによる各回の実習内容に関する説明を行う。
口頭による説明では理解しにくい手技等については、実習前にインストラクターによるデモを行う。各ステップで受講生の理解度を確認するとともに、実習 15 回目の実技試験により総括的評価を行う。

授業内容	
1 回目　器具整備、顎模型の確認、ルーペの使用法 2 回目　歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去、覆髄、裏層 3 回目　診療姿勢、プレパレーションプレートを用いた切削練習 4 回目　インレー窩洞形成（1）：スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞形成 5 回目　インレー窩洞形成（2）：Ⅱ級セラミック(コンポジットレジン）インレー窩洞形成 6 回目　インレー窩洞の印象採得、咬合採得、仮封 7 回目　CR 修復・Ⅴ級 8 回目　CR 修復・Ⅰ級、前回の CRⅤ級修復の仕上げ研磨 9 回目　CR 修復・Ⅲ級、前回の CRⅠ級修復の仕上げ研磨 10 回目　CR 修復・Ⅱ級、前回の CRⅢ級修復の仕上げ研磨 11 回目　CR 修復・Ⅳ級、前回の CRⅡ級修復の仕上げ研磨 12 回目　CR 修復・Ⅵ級、前回の CRⅣ級修復の仕上げ研磨 13 回目　CR 補修修復、前回の CRⅥ級修復の仕上げ研磨 14 回目　グラスアイオノマーセメント修復、CR 補修修復の仕上げ研磨 15 回目　実技試験、前回のグラスアイオノマーセメント修復の研磨、器具の点検・回収	
キーワード	硬組織疾患修復法、各種修復材料、歯質保存的修復、歯髄保護
教科書・教材・参考書	実習帳を使用する：LACS からファイルをダウンロードして印刷またはモバイル端末で閲覧 参考書：保存修復学21（第六版）（永末書店）
成績評価の方法・基準等	・平常時の作品｛作品毎に評価する（A から D までの 4 段階、D は不可）、実習態度、理解度などから判定する。 ・作品の点数のみならず、実習態度、理解しながら行っているかなども重要な判定基準である。
受講要件(履修条件)	出席 3/4 以上（原則として、やむを得ない場合を除き、欠席は認めない。）
備考(学生へのメッセージ)	・講義の進行と実習内容が同調しない項目があるので、十分な予習が必要である。 ・実習中に無断退室した場合、その回は未受講とする。 ・15 回目に行う実技試験を受けなかった場合、失格とする。
実務経験のある教員による授業科目	・平　曜輔／大学病院および兼業先歯科診療所における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的な知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・山田志津香／大学病院ならびに兼業先歯科診療所における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的な知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・介田　圭／大学病院および歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的な知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・江越貴文／大学病院および兼業先歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的な知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・川久保　敦／大学病院および歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的な知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	火	4～6	器具整備、顎模型の確認、ルーペの使用法 ・基本セット、バー、顎模型等のチェックを行う。 ・使用器具の名前を覚える。その際、類似の形態の物が多いので注意する。 ・歯科用ルーペの使用法を習得する。	平 介田 他	臨床実習室4B
2回	4	9	火	4～6	歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去、覆髄、裏層 ・歯科用ハンドピースや器材の把持法を習得する。 ・齲蝕の進行状態(齲蝕円錐)を考慮しながら罹患歯質の除去を行う。 ・染色液による齲蝕象牙質の判定法を習得する。	山田 他	臨床実習室4B
3回	4	16	火	4～6	診療姿勢、プレパレーションプレートを用いた切削練習 ・適切な診療姿勢を習得する。 ・プレパレーションプレートでタービンの操作に慣れる。	介田 他	臨床実習室4B
4回	4	23	火	4～6	インレー窩洞形成(1) ・スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞の形成を行う。 ・診療姿勢、ポジショニングに注意すること。	江越 他	臨床実習室4B
5回	4	30	火	4～6	インレー窩洞形成(2) ・Ⅱ級セラミック(コンポジットレジン)インレー窩洞の形成を行う。 ・メタルインレー窩洞との違いを理解する。	平 他	臨床実習室4B
6回	5	14	火	4～6	インレー窩洞の印象採得、咬合採得、仮封 ・上記の窩洞を完成させる。 ・スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞の印象採得、咬合採得、仮封を行う。	平 川久保 他	臨床実習室4B
7回	5	21	火	4～6	CR修復Ⅴ級 ・接着性コンポジットレジン修復用窩洞を形成し光重合型レジンで修復する。 ・接着性の意義、メカニズムを理解し、歯質の保存法を習得する。	介田 他	臨床実習室4B
8回	5	28	火	4～6	CR修復Ⅰ級 ・中心小窩の齲蝕が深部まで進行していると想定し、裏層を行う。 ・前回のCRⅤ級修復の仕上げ研磨を行う。	江越 他	臨床実習室4B
9回	6	4	火	4～6	CR修復Ⅲ級 ・唇側および舌側便宜拡大とプラスチック製隔壁を用いた修復を習得する。 ・前回のCRⅠ級修復の仕上げ研磨を行う。	山田 他	臨床実習室4B
10回	6	11	火	4～6	CR修復Ⅱ級 ・臼歯隣接面の修復に際し、マトリックス・リテーナーの使用法を習得する。 ・前回のCRⅢ級修復の仕上げ研磨を行う。	江越 川久保 他	臨床実習室4B
11回	6	18	火	4～6	CR修復Ⅳ級 ・前歯切縁の片側隅角を含んだ隣接面窩洞の修復を習得する。 ・前回のCRⅡ級修復の仕上げ研磨を行う。	山田 他	臨床実習室4B
12回	6	25	火	4～6	CR修復VI級 ・前歯切縁のシリコーンガイドを用いた修復を習得する。 ・前回のCRIV級修復の仕上げ研磨を行う。	山田 川久保 他	臨床実習室4B
13回	7	2	火	4～6	CR補修修復 ・CRを用いた補修修復法を修得する。 ・前回のCRVI級修復の仕上げ研磨を行う。	江越 他	臨床実習室4B
14回	7	9	火	4～6	グラスアイオノマーセメント修復 ・レジン添加型グラスアイオノマーセメントを用い、歯頸部齲蝕の修復を行う。 ・前回のCR補修修復の仕上げ研磨を行う。	介田 他	臨床実習室4B
15回	7	16	火	4～6	実技試験、グラスアイオノマーセメント修復の研磨、器具の点検・回収 ・総括的評価のため、実技試験を行う。 ・前回のレジン添加型グラスアイオノマーセメント修復の研磨を行う。 ・貸与器具であり、次年度の学生も使用するので、きれいに清掃して返却。	平 他	臨床実習室4B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25034309 DNGD33071984 歯内治療学/ (Endodontology)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp/歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利, 岩下未咲, 柳口嘉治郎, 坂本英次郎, 石崎秀隆, 庵原耕一郎(非常勤講師)

授業の概要

齲蝕、歯冠破折等による炎症性病変が歯髄･根尖歯周組織まで波及した場合、歯髄の保存療法、抜髄、感染根管治療等が行われる。これらに関する理論的裏付けと基本的事項を十分把握し、疾患の病態、検査(診査)法、診断、処置、経過に関する理解を深める。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯髄･根尖歯周組織に生じる疾患の原因、種類、症状を含む具体的内容を理解し、実際の検査、診断、治療法を説明できる能力を習得する。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	歯髄･根尖性歯周疾患の病因と病態、症状、検査法、診断および治療法を説明できる。	D-2-⑥, E-3-2)-②, E-3-3)-(2)-①
2.	歯痛の機序を説明できる。	E-3-2)-⑤
3.	歯髄保護の意義、種類と方法を説明できる。	E-3-3)-(1)-⑤
4.	根管充填の目的、時期および方法を説明できる。	E-3-3)-(2)-②
5.	偶発症について、種類、処置及び予防法を説明できる。	E-3-3)-(2)-③
6.	歯髄･根尖性歯周疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。	E-3-3)-(2)-④
7.	外科的歯内療法の種類と適応を説明できる。	E-3-3)-(2)-⑤
8.	失活歯の変色の原因、種類および処置法を説明できる。	E-3-3)-(2)-⑥
9.	歯根吸収の原因、症状、診断および処置法を説明できる。	E-3-3)-(2)-⑦

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基本的に教科書とスライドを用いた講義を行い、必要に応じてプリントを配付する。

授業内容

1 回目 序論:歯内治療の目的･概略を学習
2 回目 検査(診査)、診断:各種検査(診査)法、臨床診断名と臨床症状
3 回目 歯髄除去療法(1):抜髄(1)適応症、髄室開拡、根管長測定
4 回目 歯髄除去療法(2):抜髄(2)根管拡大･形成
5 回目 歯髄除去療法(3):抜髄(3)根管充填、術後経過
6 回目 歯髄保存療法:鎮痛消炎療法、間接･直接覆髄法、IPC 法、アペキソゲネーシス
7 回目 歯髄除去療法(4):生活歯髄切断法、歯髄創傷治癒過程
8 回目 歯髄除去療法(5):根管貼薬、根管洗浄、仮封
9 回目 歯根吸収、漂白:原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法
10 回目 感染根管治療(1):適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション
11 回目 感染根管治療(2):根管消毒、根管充填、術後経過
12 回目 偶発症、応急処置、外傷:原因、検査(診査)、処置･対応
13 回目 外科的歯内治療、歯内－歯周疾患:根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用
14 回目 高齢者の歯内治療:歯、歯髄および根尖歯周組織の一般的特徴、歯内治療における留意点
15 回目 (特別講義)歯髄由来幹細胞を用いた歯髄再生について(仮題)

キーワード	歯髄・根尖性歯周疾患、予防、診査、診断、処置、治癒機転
教科書・教材・参考書	教科書：エンドドンテイクス第6版 （永末書店） 教科書：歯内治療学第5版（医歯薬出版） 参考書：エンドドンテイクス21　歯内療法カラーアトラス（永末書店）
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う（再試までとする）。
受講要件(履修条件)	口腔生命科学基礎科目の復習を各自行う。
備考(学生へのメッセージ)	歯髄と根尖歯周組織に生じる疾患の概要と治療の進め方の基本を理解する。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・岩下　未咲／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・柳口　嘉治郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・坂本英次郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・石崎秀隆／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・庵原　耕一郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験・研究者として歯髄再生研究の実務経験／歯髄再生療法に関する臨床研究についてスライドや動画を用いて解説する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	3	序論： 歯内治療の目的と概略を学習	吉村	講義室6A
2回	4	10	水	3	検査(診査)、診断: 各種検査(診査)法、臨床診断名と臨床症状	岩下	講義室6A
3回	4	17	水	3	歯髄除去療法（１）： 抜髄(1)適応症、髄室開拡、根管長測定	柳口	講義室6A
4回	4	24	水	3	歯髄除去療法（２）： 抜髄(2)根管拡大・形成	石崎	講義室6A
5回	5	1	水	3	歯髄除去療法（３）： 抜髄(3)根管充填、術後経過	柳口	講義室6A
6回	5	8	水	2	歯髄保存療法： 鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC法、アペキソゲネーシス	吉村	講義室6A
7回	5	8	水	3	歯髄除去療法（４）： 生活歯髄切断法、歯髄創傷治癒過程	岩下	講義室6A
8回	5	15	水	2	歯髄除去療法（５）： 根管貼薬、根管洗浄、仮封	岩下	講義室6A
9回	5	15	水	3	歯根吸収、漂白： 原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法	坂本	講義室6A
10回	6	5	水	3	感染根管治療（１）： 適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション	柳口	講義室6A
11回	6	12	水	3	感染根管治療（２）： 根管消毒、根管充填、術後経過	柳口	講義室6A
12回	6	19	水	3	偶発症、応急処置、外傷： 原因、検査(診査)、処置・対応	坂本	講義室6A
13回	6	26	水	3	外科的歯内治療、歯内－歯周疾患: 根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用	坂本	講義室6A
14回	7	3	水	3	高齢者の歯内治療: 歯、歯髄および根尖歯周組織の一般的特徴、歯内治療における留意点	吉村	講義室6A
15回	7	10	水	3	特別講義 歯髄由来幹細胞を用いた歯髄再生	庵原	講義室6A

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 水･4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25034310 DNGD33081984 歯内治療学実習/(Endodontics practice)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp /歯周歯内治療学分野医局/095-819-7681(内 7681)/実習後			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、岩下未咲、坂本英次郎、尾崎幸生、松裏貴史、柳口嘉治郎		

授業の概要

齲蝕、歯冠破折等による炎症性病変が歯髄･根尖歯周組織まで波及した場合、抜髄、感染根管治療等が行われる。これらに関する基本的技術を、シミュレーション実習(模型実習･相互演習(実習))を通して習得する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯内治療に必要な検査法、診断および治療法を理解し、これらをシミュレーション実習(模型実習･相互演習(実習))を通して習得する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 歯科治療に必要な器材の準備、片付けができる。	F-3-1)-②
2. ラバーダム防湿ができる。	F-3-1)-③
3. 歯髄･根尖性歯周疾患の簡単な治療を実施できる。	F-3-3)-③
4. 根管長測定の必要性を患者に説明し、実施できる。	F-2-2)-⑦

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

髄腔歯牙模型を用いた模型実習を行う。また、歯髄診断法に関しては相互実習を行う。

授業内容

1 回目 オリエンテーション・器具整備・髄室開拡(1)
2 回目 髄室開拡(2)・ブローチ綿栓作製
3 回目 抜髄法(1)
4 回目 抜髄法(2)・根管長測定法
5 回目 抜髄法(3)
6 回目 抜髄法(4)・歯髄電気診(1)
7 回目 抜髄法(5)・歯髄電気診(2)
8 回目 根管充塡(1)・ラバーダム防湿法(1)
9 回目 根管充塡(2)・ラバーダム防湿法(2)
10 回目 感染根管治療(1)
11 回目 感染根管治療(2)
12 回目 根管充塡(3)・根管内細菌培養検査
13 回目 根管充塡(4)
14 回目 エックス線写真の読影・根管充塡材の除去・隔壁形成法
15 回目 総括的評価のための実技試験・器具整備

キーワード	抜髄、感染根管治療、根管充塡
教科書･教材･参考書	教材として、初回実習時に当教室で作成した「歯内治療学実習帳」を配布する。
成績評価の方法･基準等	実習態度、各実習項目における成果および総括的評価のための実技試験をもとに評価を行う。
受講要件(履修条件)	開講された実習の 4 分の 3 以上出席している者。
備考(学生へのメッセージ)	歯内治療学は歯科臨床の根幹をなす重要な分野であり、歯内治療の習熟なくして歯科治療の成功はなし得ない。実習に先立ち、配布する実習帳をよく読んで内容を予習しておくこと。

実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・岩下　未咲／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・坂本英次郎／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・尾崎　幸生／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・松裏　貴史／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・柳口嘉治郎／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	4～6	オリエンテーション・器具整備・髄室開拡(1) ・歯内実習用器具の貸出・点検 ・手持ちで上顎前歯・小臼歯(11, 14)の髄室開拡	教員5名	臨床実習室4B
2回	4	10	水	4～6	髄室開拡(2)・ブローチ綿栓作製 ・手持ちで上下顎大臼歯(16, 46)の髄室開拡 ・ブローチ綿栓の作成	教員5名	臨床実習室4B
3回	4	17	水	4～6	抜髄法(1) ・上顎前歯(11)の髄室開拡, およびスタンダード法で根管拡大・形成	教員5名	臨床実習室4B
4回	4	24	水	4～6	抜髄法(2)・根管長測定法 ・上顎前歯(11)の貼薬および仮封 ・電気的根管長測定法	教員5名	臨床実習室4B
5回	5	1	水	4～6	抜髄法(3) ・スタンダード法で上顎臼歯(14, 26)の抜髄	教員5名	臨床実習室4B
6回	5	8	水	4～6	抜髄法(4)・歯髄電気診(1) ・Ni-TiファイルによるJ字ブロックの根管拡大・形成(1, 2, 3班) ・歯髄電気診(相互実習; 4, 5班)　・第5回実習の続き	教員5名	臨床実習室4B
7回	5	15	水	4～6	抜髄法(5)・歯髄電気診(2) ・Ni-TiファイルによるJ字ブロックの根管拡大・形成(4, 5班) ・歯髄電気診(相互実習; 1, 2, 3班)　・第5回実習の続き	教員5名	臨床実習室4B
8回	5	22	水	4～6	根管充塡(1)・ラバーダム防湿法(1) ・上顎前歯・小臼歯(11, 14)の根管充塡 ・下顎小臼歯のラバーダム防湿法(1,2班)	教員5名	臨床実習室4B
9回	5	29	水	4～6	根管充塡(2)・ラバーダム防湿法(2) ・上顎大臼歯(26)の根管充塡 ・下顎小臼歯のラバーダム防湿法(3,4,5班)	教員5名	臨床実習室4B
10回	6	5	水	4～6	感染根管治療(1) ・ステップバック法で下顎小臼歯(45)の感染根管治療 ・ステップバック法で上顎大臼歯(26)の感染根管治療	教員5名	臨床実習室4B
11回	6	12	水	4～6	感染根管治療(2) ・ステップバック法で下顎大臼歯(36)の感染根管治療	教員5名	臨床実習室4B
12回	6	19	水	4～6	根管充塡(3)・根管内細菌培養検査 ・下顎小臼歯(45)の根管充塡　・第10回実習の続き ・根管内細菌培養検査(デモのみ)	教員5名	臨床実習室4B
13回	6	26	水	4～6	根管充塡(4) ・下顎大臼歯(36)の根管充塡 ・上顎大臼歯(26)の根管充塡	教員5名	臨床実習室4B
14回	7	3	水	4～6	X線写真読影・根管充塡材除去・隔壁形成法 ・X線写真読影　・GPソルベントを用いた根管充塡材の除去 ・フロアブルレジンを用いた隔壁形成法	教員5名	臨床実習室4B
15回	7	10	水	4～6	総括的評価のための実技試験・器具整備 ・上顎小臼歯(14) ・歯内実習用器具の点検・回収	教員5名	臨床実習室4B

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 月 1～2	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25034321 DNGD33091989 歯周病学/(Lecture of Periodontology)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp/長崎大学病院 8 階歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、岩下未咲、柳口嘉治郎、坂本英次郎、西村英紀(非常勤講師)、金子高士(非常勤講師)、吉永泰周(非常勤講師)		

授業の概要

歯周病学と歯周治療学の理解を高める。歯周疾患の特徴を知り、その治療法について学ぶ。歯周組織の正常と異常、歯周疾患の分類、歯周疾患の原因、歯周基本治療、歯周外科、歯周再生治療、メインテナンスについての講義を行う。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯周疾患の原因、種類、症状を含む具体的内容を理解し、実際の検査、診断、治療法を説明できる能力を習得する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1.歯周組織の正常と異常の相違を説明できる。	E-3-2)-③、 E-3-3)-(3)-②
2.歯周疾患の原因を説明できる。	E-3-2)-③、 E-3-2)-④
3.歯周疾患の治療法を説明できる。	E-3-3)-(3)-③、 E-3-3)-(3)-④
4.歯周疾患の予防法を説明できる。	E-3-3)-(3)-⑤
5.歯周疾患と全身疾患の関連を説明できる。	E-3-3)-(3)-①

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基本的にスライドを用いた講義を行い、必要に応じてプリントを配付する。

授業内容

1 回目 歯周病学総論･正常歯周組織と病的歯周組織
2 回目 歯周疾患の原因
3 回目 歯周組織検査
4 回目 プラークコントロール(1)
5 回目 プラークコントロール(2)
6 回目 歯周病と全身疾患･リスクファクター
7 回目 スケーリング･ルートプレーニング(1)
8 回目 スケーリング･ルートプレーニング(2)
9 回目 咬合調整･固定
10 回目 歯周疾患の分類･特殊な歯周疾患
11 回目 歯周外科(1)
12 回目 歯周外科(2)
13 回目 歯内歯周病変･根分岐部病変の処置
14 回目 歯周病と全身疾患･リスクファクター
15 回目 MTM･歯周補綴･メインテナンス

キーワード	歯周病、歯周疾患、歯周治療
教科書・教材・参考書	教科書:ザ・ペリオドントロジー 第 3 版 （永末書店）、 臨床歯周病学 第 3 版 （医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	学期末に選択または記述式の試験を行い評価する。
受講要件(履修条件)	開講された講義の3分の2以上に出席している者
備考(学生へのメッセージ)	歯周病学は歯科医療の根幹をなし、また歯科における再生医療の中核ともいえる分野である。 また近年の学問領域の発展は目覚ましい。生物学に基づいた最新の歯周病学を修得するためにも 基礎科目（口腔領域）の知識は必須であるので、復習しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・岩下未咲／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・柳口嘉治郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・坂本英次郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・西村英紀／九州大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・金子高士／福岡歯科大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・吉永泰周／福岡歯科大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	1～2	歯周病学総論・正常歯周組織と病的歯周組織	吉村	講義室6A
2回	9	30	月	4～6	歯周疾患の原因	坂本	講義室6A
3回	10	7	月	1～2	歯周組織検査	吉村	講義室6A
4回	10	21	月	1～2	プラークコントロール(1)	岩下	講義室6A
5回	10	28	月	1～2	プラークコントロール(2)	柳口	講義室6A
6回	11	5	火	1～2	歯周病と全身疾患・リスクファクター	柳口	講義室6A
7回	11	11	月	1～2	スケーリング・ルートプレーニング(1)	岩下	講義室6A
8回	11	18	月	1～2	スケーリング・ルートプレーニング(2)	吉村	講義室6A
9回	11	25	月	1～2	咬合調整・固定	金子	講義室6A
10回	12	2	月	1～2	歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患	坂本	講義室6A
11回	12	9	月	1～2	歯周外科(1)	吉村	講義室6A
12回	12	16	月	1～2	歯周外科(2)	吉村	講義室6A
13回	12	23	月	1～2	歯内歯周病変・根分岐部病変の処置	吉永	講義室6A
14回	1	6	月	1～2	歯周病と全身疾患・リスクファクター	西村	講義室6A
15回	1	20	月	1～2	MTM・歯周補綴・メインテナンス	吉村	講義室6A

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 月･4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25034322 DNGD33101989 歯周病学実習/(Basic Training of Periodontology)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B･スキルスラボセンター	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp /長崎大学病院 8 階歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、岩下未咲、柳口嘉治郎、坂本英次郎、尾崎幸生、松裏貴史		

授業の概要

歯周病学の知識に基づいて、病因の解析、歯周疾患の診断･治療･予防に関する手技を修得する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯周治療に必要な歯周検査、口腔衛生指導、歯周外科を理解し、その手技を
シミュレーション実習(模型実習･相互演習(実習))を通して習得する。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	歯周疾患の検査法を説明、実施できる。	E-3-3
2.	プラーク染め出し、口腔衛生指導が実施できる。	E-3-3
3.	歯周疾患の簡単な処置(スケーリング･ルートプレーニング)を実施できる。	F-2-2, F-3-3
4.	模型上で暫間固定や歯周外科を行える。	E-3-3, F-3-3

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
歯周組織の診査、歯周基本治療(口腔清掃指導、スケーリング･ルートプレーニング、咬合調整)、歯周外科に関して、顎模型を用いた実習と相互実習を行う。

授業内容

1 回目 歯周組織検査 (1)
2 回目 歯周組織検査 (2)
3 回目 歯周組織検査 (3)
4 回目 プラークコントロール･モチベーション (1)
5 回目 プラークコントロール･モチベーション (2)
6 回目 スケーリング･ルートプレーニング (1)
7 回目 スケーリング･ルートプレーニング (2)
8 回目 スケーリング･ルートプレーニング (3)
9 回目 スケーリング･ルートプレーニング (4)
10 回目 咬合診査と咬合調整 (1)
11 回目 咬合診査と咬合調整 (2)
12 回目 暫間固定
13 回目 歯周外科 (1)
14 回目 歯周外科 (2)
15 回目 歯周外科 (3)

キーワード	歯周治療学
教科書･教材･参考書	教科書は特に使用しない。参考書は授業開始時に適当なものを紹介する。 歯周病学基礎実習動画(日本歯周病学会監修)を実習前に確認しておくこと。 (http://www.perio.jp/news/basic_practice.shtml)
成績評価の方法･基準等	各実習項目の成果とレポートを参考に判定する。

受講要件(履修条件)	開講された実習の4分の3以上出席している者。
備考(学生へのメッセージ)	歯周治療は歯科医療の根幹をなす重要な分野であり、歯周治療の習熟なしでは歯科医療の成功はなしえない。本実習では、歯周治療の基本である口腔清掃指導、SRP などの処置法を修得する。実習に先立って行われる歯周病学の講義を復習しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・岩下　未咲／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・柳口　嘉治郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・坂本　英次郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・尾崎　幸生／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・松裏　貴史／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	7	月	4～6	歯周組織検査 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
2回	10	21	月	4～6	歯周組織検査 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
3回	10	28	月	4～6	歯周組織検査 (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
4回	11	5	火	4～6	プラークコントロール・モチベーション (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
5回	11	11	月	4～6	プラークコントロール・モチベーション (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
6回	11	18	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
7回	11	25	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
8回	12	2	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
9回	12	9	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (4)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
10回	12	16	月	4～6	咬合診査と咬合調整 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
11回	12	23	月	4～6	咬合診査と咬合調整 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
12回	1	6	月	4～6	暫間固定	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
13回	1	20	月	4～6	歯周外科 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
14回	1	27	月	1～2	歯周外科 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
15回	1	27	月	4～6	歯周外科 (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ

年度 2024 学期 通年	曜日・校時 木・4～7	必修選択 必修	単位数 4
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034313 DNGD33111985 冠橋義歯学及び同実習/ (Fixed Prosthodontics)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 前期 講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学分野教授室/095-819-7685(内 7685)/8:00～8:50、12:10～13:00

担当教員	澤瀬 隆、吉田圭一、尾立哲郎、右藤友督、非常勤講師、他 TA

授業の概要

本科目は，冠橋義歯学のイントロであり，5年，6年へとその内容をより高度に，より臨床的にシフトさせながら卒業までの3年間かけてマスターしてもらう。中途にバリヤーとして設定されている CBT や OSCE にも対応できるように留意しており，国試への対策も念頭に置いている。また，必修化された1年間の卒後研修にも，スムーズに移行できるように配慮している。
最終学年では担当した患者のクラウンとブリッジは自分で製作しなければならない。そのためには知識のみならず，基本的手技の習得も必要である。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部欠損に対する補綴治療の臨床的意義と方法を理解する.　【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	咬合の正常像と咬合・咀嚼障害を説明する.	E-3-4)-(1) ①
2.	CrBrの意義，要件，種類、特徴，臨床成績を説明できる.［知識］	E-3-4)-(1) ①
3.	CrBrの治療計画を立案するための医療面接，診察，検査，診断を説明する.［知識］	E-3-4)-(1) ①
4.	CrBrの感染予防，医療安全，医療倫理を説明できる. ［知識］	E-3-4)-(1) ①
5.	CrBrの製作法(CAD/CAM を含む)を説明できる.［知識］	E-3-4)-(1) ②，⑧，⑨
6.	CrBrの臨床操作を説明できる(前処置，支台築造，支台歯形成，プロビジョナルレストレーション，印象採得，顎間関係の記録(咬合採得)，患者情報の記録と伝達，装着，術後管理).［知識］	E-3-4)-(1) ③～⑦，⑩～⑬
7.	CrBrによる補綴治療の各基本的操作を実施できる(支台築造，プロビジョナルレストレーション，精密印象採得，咬合採得). ［技能］	F-3-4) ②，③，⑤，⑥，⑧

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法):講義と実習の進行を並行して行い，知識に基づく基本的な手技をマスターする。

授業内容:講義;対応するコアカリ項目

1:クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績;E-3-4)-(1) ①
2:咬合・咀嚼障害;E-3-4)-(1) ①
3:診察と診断と感染予防;E-3-4)-(1) ①
4:治療を左右する因子・クラウンブリッジの要件;E-3-4)-(1) ②
5:クラウンの種類;E-3-4)-(1) ②
6:ブリッジの種類と構成;E-3-4)-(1) ②
7:クラウンブリッジの設計;E-3-4)-(1) ②
8:インフォームドコンセント・前処置;E-3-4)-(1) ①②
9:支台歯形成;E-3-4)-(1) ③④
10 支台築造;E-3-4)-(1) ③④
11:印象採得;E-3-4)-(1) ⑤⑥
12:プロビジョナルレストレーション・患者情報の記録;E-3-4)-(1) ⑤⑥
13:咬合採得;E-3-4)-(1) ⑤⑦⑨
10:作業模型の製作;E-3-4)-(1) ⑧
11:ワックスパターン形成;E-3-4)-(1) ②
12:埋没・鋳造・熱処理・研磨;E-3-4)-(1) ②
13:CAD/CAM によるクラウンブリッジの製作;E-3-4)-(1) ①②⑧⑨
14:装着・術後管理・装着後に発生する問題と対応;E-3-4)-(1) ⑩⑪⑫
15:レジン前装冠・コンポジットレジンジャケット冠;E-3-4)-(1) ②
16:陶材焼付冠・連結法(p292);E-3-4)-(1) ②
17:オールセラミックスクラウン;E-3-4)-(1) ②
17:オーラルアプライアンス・高齢者要介護者の CrBr 補綴;E-5-1)-①⑤
18:歯周病患者・顎関節症患者のクラウンブリッジ補綴;E-5-1)-①⑤

:実習;F-3-4) ②，③，⑤，⑥，⑧
1:ドローイング・カービング
2:全部鋳造冠支台歯形成
3:レジン前装鋳造冠支台歯形成
4:築造窩洞形成・印象・ワックスアップ
5:クラウン精密印象，作業模型，咬合器付着
6:クラウンワックスアップ
7:クラウン埋没・鋳造・研磨
8:ブリッジ支台歯形成
9:個人トレー作製
10:ブリッジ精密印象・作業模型・咬合器付着
11:ブリッジワックスアップ
12:ブリッジ埋没・鋳造・研磨
13:ブリッジろう着
14:レジン前装，研磨
15:制作物提出・器具返却

キーワード	クラウンブリッジ、歯冠修復、欠損補綴、固定性補綴
教科書・教材・参考書	[講義]クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)[実習]クラウンブリッジテクニック(医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	講義の成績評価は，前期、後期定期試験で合否を判定する．60 点に満たない場合は，再試験を一回行う．実習は実習態度、成果物を基に評価を行う．60 点に満たない場合は，追加課題を課す．試験，実習いずれも 60 点以上獲得した者を本科目の合格者とする．
受講要件(履修条件)	規定通り
備考(学生へのメッセージ)	授業時間だけでは，消化しきれない内容が含まれているので予め教科書を読んでおき，1年間，欠かさず出席してほしい。
実務経験のある教員による授業科目	・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・吉田　圭一／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・尾立　哲朗／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・右藤　友督／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・張　暁旭／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・小堤　涼平／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・金子　遙／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・佐々木　猛／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／一般歯科臨床における包括的歯科医療の中での歯周補綴治療について教示する ・武田　孝之／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／一般歯科臨床における包括的歯科医療の中での欠損補綴治療について教示する

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	木	4～7	Ⅳ,Ⅴ講義:クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績 Ⅵ,Ⅶ実習:ドローイング・カービング	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
2回	4	11	木	4～7	Ⅳ講義:咬合・咀嚼障害 Ⅴ講義:診察と診断と感染予防 Ⅵ,Ⅶ実習:全部金属冠支台歯形成	澤瀬 尾立 吉田他	講義室6A 講義室6A 臨床実習室4B
3回	4	18	木	4～7	Ⅳ講義:治療を左右する因子・クラウンブリッジの要件 Ⅴ講義:クラウンの種類 Ⅵ,Ⅶ実習:レジン前装冠支台歯形成	尾立 澤瀬 吉田他	講義室6A 講義室6A 臨床実習室4B
4回	4	25	木	4～7	Ⅳ講義:ブリッジの種類と構成1 Ⅴ-Ⅶ実習:暫間被覆冠の製作	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
5回	5	2	木	4～7	Ⅳ講義:ブリッジの種類と構成2 Ⅴ-Ⅶ実習:築造窩洞形成・精密印象・作業模型	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
6回	5	16	木	4～7	Ⅳ講義:クラウンブリッジの設計 Ⅴ-Ⅶ実習:メタルコアワックスアップ	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
7回	5	23	木	4～7	Ⅳ講義:インフォームドコンセント・前処置 Ⅴ-Ⅶ実習:クラウン精密印象・作業模型1	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
8回	5	30	木	4～7	Ⅳ講義:支台歯形成 Ⅴ-Ⅶ実習:クラウン精密印象・作業模型2	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
9回	6	6	木	4～7	Ⅳ講義:支台築造 Ⅴ-Ⅶ実習:クラウン咬合器装着	右藤 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
10回	6	13	木	4～7	Ⅳ講義:印象採得 Ⅴ-Ⅶ実習:クラウンワックスアップ1	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
11回	6	20	木	4～7	Ⅳ講義:プロビジョナルレストレーション・患者情報の記録と伝達 Ⅴ-Ⅶ実習:クラウンワックスアップ2	右藤 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
12回	6	27	木	4～7	Ⅳ講義:顎間関係の記録(咬合採得) Ⅴ-Ⅶ実習:クラウンワックスパターン埋没	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
13回	7	4	木	4～7	Ⅳ講義:咬合器の種類・調節 Ⅴ-Ⅶ実習:クラウン鋳造	張 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
14回	7	11	木	4～7	Ⅳ,Ⅴ講義:特別講義(非常勤講師) Ⅵ,Ⅶ実習:クラウン咬合調整・研磨, 製作物提出	武田 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
15回	7	18	木	4～7	Ⅳ-Ⅶ実習:ブリッジ支台歯形成	吉田他	臨床実習室4B

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	10	3	木	4～7	Ⅳ講義：作業用模型の製作 Ⅴ-Ⅶ実習：マネキンを使ったCAD/CAM冠支台歯形成	吉田 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
17回	10	10	木	4～7	Ⅳ講義：ワックスアップ Ⅴ-Ⅶ実習：個人トレー製作	吉田 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
18回	10	17	木	4～7	Ⅳ講義：埋没・鋳造・熱処理・研磨 Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ精密印象・作業模型1	吉田 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
19回	10	24	木	4～7	Ⅳ講義：CAD/CAMによるクラウンブリッジの製作 Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ精密印象・作業模型2	右藤 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
20回	10	31	木	4～7	Ⅳ講義：口腔内試適と装着・術後管理・装着後に発生する問題とその対応 Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ咬合器装着	尾立 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
21回	11	7	木	4～7	Ⅳ講義：レジン前装冠・ハイブリッド型コンポジットクラウン Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジワックスアップ1	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
22回	11	14	木	4～7	Ⅳ講義：高強度コンポジットレジンブリッジ・接着ブリッジ Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジワックスアップ2	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
23回	11	21	木	4～7	Ⅳ講義：陶材焼付冠 Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジワックスアップ3	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
24回	11	28	木	4～7	Ⅳ講義：オールセラミックスクラウン Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジワックスアップ4	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
25回	12	5	木	4～7	Ⅳ講義：ブリッジ（従来型ブリッジ） Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジワックスパターン埋没	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
26回	12	12	木	4～7	Ⅳ講義：口腔インプラント支台のクラウンブリッジ Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ鋳造1	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
27回	12	19	木	4～7	Ⅳ講義：オーラルアプライアンス，高齢者・要介護者におけるCrBr Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ鋳造2	尾立 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
28回	1	9	木	4～7	Ⅳ講義：歯周病患者・顎関節症患者におけるCrBr Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ咬合調整・研磨	張 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
29回	1	16	木	4～7	Ⅳ，Ⅴ講義：特別講義（非常勤講師） Ⅵ,Ⅶ実習：ブリッジレジン前装1	佐々木 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
30回	1	23	木	4～7	Ⅳ-Ⅶ実習：ブリッジレジン前装2・研磨，製作物提出，器材返却	吉田他	臨床実習室4B

年度 2024 学期 通年	曜日・校時 金・4～7	必修選択 必修	単位数 4
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034325 DNGD33121985 有床義歯補綴学及び同実習/(Plate Denture Prosthodontics)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A, 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
村田比呂司/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/金曜 17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	講義:村田比呂司, 原田佳枝, 鳥巣哲朗, 西村正宏(非常勤講師), 二川浩樹(非常勤講師) 実習:吉田和弘, 原田佳枝, 鳥巣哲朗, 岡﨑ひとみ, 森 智康, 野黒美麻由子, 叶井里歩

授業の概要
歯科医師として有床義歯の臨床に必要な基礎的知識と技術を習得する。そのため授業では部分床義歯補綴学および全部床義歯補綴学の理論を考究する。また実習では義歯の基本的な製作法を学び, 技術を習得する。

授業到達目標

一般目標 GIO:有床義歯の臨床に必要な基礎的知識と技術を習得する。 個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
歯の欠損, 顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。	E-3-4)-(2)-①
有床義歯の種類, 目的, 意義, 特徴及び適応症を説明できる。	E-3-4)-(2)-②, ③
有床義歯の構成要素と支持, 把持, 維持の機構並びに設計原則を説明できる。	E-3-4)-(2)-④, ⑤
有床義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明でき, 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑥, ⑦
調節性咬合器の基本的操作方法, フェイスボウトランスファー, チェックバイト法を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑧
有床義歯の咬合様式とその意義を説明でき, 人工歯の選択を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑨, ⑩
有床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法および製作過程を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑪, ⑫
有床義歯の装着, 調整, メインテナンス及び修理を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑬, ⑭

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義は教科書の内容を中心に, パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い, 講義資料は LACS にあげておく。実習ではステップごとにその概説があり, 主要な項目は教員がデモ示説する。非常勤講師による特別講義も計画している。

授業内容
全部床義歯補綴学ついで部分床義歯補綴学の講義を行う。同時に義歯製作の実習も進行する。

1 回目 P-1:FD 概形印象
2 回目 P-2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着
3 回目 P-3:FD 人工歯排列
4 回目 P-4:FD 人工歯排列
5 回目 L-F1～4:総論1～4
6 回目 L-F5～8:治療1～4
7 回目 P-5:歯肉形成, 下顎義歯埋没
特別講義(補綴領域からの顎骨再生医療の基礎と未来)
8 回目 P-6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合
9 回目 P-7:上顎義歯重合, 割り出し
10 回目 L-F9～12:治療 5～8
11 回目 P-8:リマウント, 咬合調整, 研磨
12 回目 L-F13～16:治療 9～12
13 回目 L-F17～18:治療 13～1
特別講義(バイオフィルム研究)
14 回目 P-9:咬合調整, 研磨
15 回目 P-10:作品提出, 器具チェック
16 回目 L-P1～4:総論1～4
17 回目 P-11:咬合調整, 研磨
18 回目 P-12:概形印象 診断用模型調整
19 回目 P-13:個人トレー, 補綴的前処置
20 回目 L-P5～8:総論 5～8
21 回目 L-P9～12:総論 9～10, 治療1～2
22 回目 P-14:印象 模型の調整, サベイング
23 回目 P-15:ブロックアウト, リリーフ
24 回目 P-16:耐火模型作製
25 回目 L-P13～16:治療 3～6
26 回目 L-P17～18:治療 7～8, P-17: ワックスアップ
27 回目 P-18:埋没, 咬合床作製
28 回目 L-FP1～4:種々の義歯 1～4
29 回目 P-19:鋳造, 研磨, 咬合採得
30 回目 P-20:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック

[注:講義 ・・・ L-F:全部床義歯, L-P:部分床義歯, L-FP:全部床義歯,部分床義歯共通, P:実習]
(実習・講義の進行等により授業の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。)

キーワード	部分床義歯補綴学，全部床義歯補綴学，咀嚼機能，咬合
教科書・教材・参考書	教科書： 無歯顎補綴治療学 第4版（市川哲雄他 編；医歯薬出版），歯学生のパーシャルデンチャー 第6版（赤川安正他 編；医歯薬出版） 参考書： コンプリートデンチャーテクニック 第 6 版（細井紀雄他 編；医歯薬出版），パーシャルデンチャーテクニック 第6版（大久保力廣他 編；医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験（前期 1 回，後期 1 回）と実習の評価をあわせて，総合的に評価する。それぞれの評価比率は，定期試験 80%（前期，後期それぞれ 40%），実習 20%とする。また授業への貢献度も評価の対象とする。ただし前期試験，後期試験，実習の評価のうち，4割未満がひとつでもあると，総評価が6割以上でも，再試験の対象となる。再試験は前期と後期の全範囲とする。
受講要件(履修条件)	前期，後期，それぞれ総授業時間の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	教科書の内容は基本となるので，最低限理解する必要がある。教科書は必ず所持すること。 実習室を使用後は整理整頓し，きれいに清掃すること。
実務経験のある教員による授業科目	・村田　比呂司／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・原田佳枝／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・鳥巣　哲朗／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・吉田　和弘／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・岡﨑ひとみ／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・森　智康／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・野黒美麻由子／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・二川　浩樹／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・西村　正宏／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・叶井里歩／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	4～7	[P-1:FD概形印象]実習説明，概形印象採得，診断用模型作製，作業用模型(ゴム枠)作製	吉田・鳥巣・森・叶井・野黒美	臨床実習室4B
2回	4	12	金	4～7	[P-2:FD精密印象，咬合床作製，咬合採得，咬合器付着] 個人トレー作製(印象採得は説明のみ),咬合床作製，咬合採得，咬合器付着	吉田・鳥巣・森・叶井・野黒美	臨床実習室4B
3回	4	19	金	4～7	P-3:FD人工歯排列]人工歯排列(上顎前歯部，下顎前歯部)	吉田・鳥巣・森・野黒美	臨床実習室4B
4回	4	26	金	4～7	[P-4:FD人工歯排列]人工歯排列(下顎臼歯部，上顎臼歯部)	吉田・鳥巣・森・野黒美	臨床実習室4B
5回	5	10	金	4～7	[L-F1:総論1]　全部床義歯，無歯顎の病因と病態 [L-F2:総論2]　全部床義歯，無歯顎の病因と病態 [L-F3:総論3]　加齢に伴う変化，補綴装置としての全部床義歯 [L-F4:総論4]　全部床義歯装着者にみられる主要症候等	村田 村田 鳥巣 鳥巣	講義室6A
6回	5	17	金	4～7	[L-F5:治療1]　医療面接とインフォームドコンセント [L-F6:治療2]　診察，検査，診断 [L-F7:治療3]　治療計画の立案，前処置 [L-F8:治療4]　印象採得，(フレンンジ)	吉田 吉田 鳥巣 鳥巣	講義室6A
7回	5	24	金	4～7	[P-5:歯肉形成，下顎義歯埋没]人工歯排列(上顎臼歯部)，下顎歯肉形成，下部埋没;金属フラスク使用(加熱重合レジン) (特別講義) 補綴領域からの顎骨再生医療の基礎と未来	吉田・原田・鳥巣・森・野黒美 西村	臨床実習室4B
8回	5	31	金	4～7	[P-6:上顎義歯埋没，下顎義歯重合]上顎歯肉形成，上顎スプルーイング，上部埋没;ゴムフラスク使用(流し込み重合レジン)，下顎流蝋，分離剤の塗布，下顎加熱重合，徐冷	吉田・原田・鳥巣・森・野黒美	臨床実習室4B
9回	6	7	金	4～7	[P-7:上顎義歯重合，割り出し]上顎流蝋，リリーフ，ポストダム，分離材の塗布，流し込みレジン重合，上下顎義歯割り出し	吉田・原田・鳥巣・森・野黒美	臨床実習室4B
10回	6	14	金	4～7	[L-F9 :治療5]　顎間関係の記録 [L-F10:治療6]　顎間関係の記録2 [L-F11:治療7]　下顎運動の記録と咬合器装着 [L-F12:治療8]　咬合器	村田 村田 鳥巣 鳥巣	講義室6A
11回	6	21	金	4～7	[P-8:リマウント，咬合調整，研磨]リマウント，選択削合(中心咬合位・偏心位)，自動削合，研磨	吉田・原田・鳥巣・森・野黒美	臨床実習室4B
12回	6	28	金	4～7	[L-F13:治療9]　人工歯，人工歯排列1 [L-F14:治療10]　人工歯排列2，フレンジ [L-F15:治療11]　歯肉形成，ろう義歯，埋没 [L-F16:治療12]　重合，咬合器再装着	鳥巣 鳥巣 原田 原田	講義室6A
13回	7	12	金	4～7	[L-F17:治療13]　咬合調整等，研磨 [L-F18:治療14]　義歯の装着，患者指導，義歯装着後の経過観察等 (特別講義)バイオフィルム研究	原田 村田 二川	講義室6A
14回	7	17	水	4～7	[P-9:咬合調整，研磨]自動削合，研磨	吉田・原田・鳥巣・森・野黒美	講義室6A 臨床実習室4B
15回	7	19	金	4～7	[P-10:作品提出，器具チェック]自動削合，研磨，作品提出，器具チェック	吉田・原田・鳥巣・森・野黒美	臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	10	4	金	4～7	[L-P1:総論1] 部分床義歯，咀嚼系の構造，機能運動 [L-P2:総論2] 咬合の不調和，歯の欠損による継発する症状等 [L-P3:総論3] 部分床義歯の構成要素，症型分類 [L-P4:総論4] 部分床義歯の構成要素，症型分類	村田 村田 未定1 未定1	講義室6A
17回	10	11	金	4～7	[P-11:咬合調整，研磨]自動削合，研磨	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
18回	10	18	金	4～7	[P-12:概形印象 診断用模型調整]診断用模型作製，サベイング（予備測定），ガイドプレーンとレストシートの形成練習，義歯床・トレーの外形線記入，人工歯の植え換え	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
19回	10	25	金	4～7	[P-13:個人トレー，補綴的前処置]個人トレー製作，模型咬合位の確認，ガイドプレーン・レストシート形成	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
20回	11	1	金	4～7	[L-P5:総論5] 支持，把持の考え方 [L-P6:総論6] 維持の考え方，サベイング [L-P7:総論7] 材料，連結子1 [L-P8:総論8] 材料，連結子2	鳥巣 鳥巣 村田 村田	講義室6A
21回	11	8	金	4～7	[L-P9:総論9] 支台装置（クラスプ等）1 [L-P10:総論10] 支台装置（クラスプ等）2 [L-P11:治療1] 診察と治療計画，臨床ステップ [L-P12:治療2] 前処置，印象採得	村田 村田 未定1 未定1	講義室6A
22回	11	15	金	4～7	[P-14:印象 模型の調整，サベイング]印象採得，作業模型・ 対合模型調整，サベイング(本測定)	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
23回	11	22	金	4～7	[P-15:ブロックアウト，リリーフ]メタルフレーム（鉤・連結子）の外形線記入，ブロックアウト，リリーフ，複印象と埋没材注入（耐火模型作製）	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
24回	11	29	金	4～7	[P-16:耐火模型作製]埋没材注入（耐火模型作製），耐火模型への外形線記入，メタルフレームワックスアップ	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
25回	12	6	金	4～7	[L-P13:治療3] （サベイイング），設計の考え方 [L-P14:治療4] 咬合採得，人工歯の種類，咬合器装着 [L-P15:治療5] 人工歯排列，ろう義歯，埋没，重合，リマウント，削合，完成 [L-P16:治療6] 義歯の装着，患者指導，経過観察，義歯管理，修理	村田 村田 未定1 未定1	講義室6A
26回	12	13	金	4～7	[L-P17:治療7] 前処置，前処置としての咬合調整，部分床義歯の印象 [L-P18:治療8] フレームワーク，咬合 [P-17: ワックスアップ]メタルフレームワックスアップ	鳥巣 鳥巣 吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	講義室6A 臨床実習室4B
27回	12	20	金	4～7	[P-18:埋没，咬合床作製]スプルーイング，埋没，咬合床作製	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
28回	1	10	金	4～7	[L-FP1:種々の義歯1] 暫間，即時，移行，診断用，治療用義歯，金属床義歯 [L-FP2:種々の義歯2] オーバーデンチャー [L-FP3:種々の義歯3] インプラント義歯，顎義歯 [L-FP4:種々の義歯4] 複製義歯，訪問	未定1 未定1 村田 村田	講義室6A
29回	1	17	金	4～7	[P-19:鋳造，研磨， 咬合採得]鋳造（デモ），研磨（デモ），咬合採得，咬合器付着	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B
30回	1	31	金	4～7	[P-20:人工歯排列，作品提出，器具チェック]人工歯排列，歯肉形成，作品提出，器具チェック	吉田・鳥巣・森・未定1・未定2	臨床実習室4B

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時 火・4～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034326 DNGD33131987 口腔外科学Ⅰ及び同実習/ (Oral and Maxillofacial Surgery Ⅰ and Practice)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内 7698)/随時

担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘、川﨑五郎、鳴瀬智史、三浦桂一郎、森下廣太、大森景介、原 昌士 夏目長門(愛知学院大学)、柳本惣市(広島大学)、坂本由紀(関西医科大学)

授業の概要

口腔外科では、口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に生じる疾患のうち、う蝕や歯周病、義歯、ブリッジ、歯列不正などの歯科疾患を除くすべての疾患を取り扱う。具体的には智歯周囲炎、顎炎、顎骨周囲の蜂窩織炎などの炎症性疾患、顎の骨折や歯・軟組織の外傷、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、嚢胞性疾患、神経性疾患、耳下腺を除く唾液腺疾患、口腔腫瘍などである。さらに、歯科インプラントに関連する埋入手術や骨増量手術、さまざまな全身疾患を有する患者の抜歯を始めとする侵襲的歯科治療なども口腔外科で行っている。口腔やその周囲に病気が発生すると、審美的な異常だけではなく、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害も生じうるが、治療により口腔・顎・顔面の形態や機能を回復させ、健康的な美しさを取り戻すことができる。その知識、技術を紹介しこれからの歯科医療を先端で担う歯科医師を育成することを目的とする。

授業到達目標

一般目標 GIO:

口腔外科疾患の病因、病態、治療、予想される経過について、基本的な説明ができるようになる。	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs:	
・全身状態について基本的な診察ができる。	A-3)
・病歴聴取, 現症についての診察, 必要な臨床検査, インフォームドコンセント, 処方箋の書き方についての基本を理解する。	E-1-1), E-1-3)
・抜歯をはじめとする口腔外科小手術を理解する。	E-1-5)
・口腔の先天異常, 外傷, 炎症, 嚢胞, 腫瘍, 顎関節疾患, 唾液腺疾患, 神経性疾患, 口腔に症状を現す全身疾患について説明できる。	E-2-4), E-5-3)

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基礎的知識、臨床的知識、症例の実際を実践的に講義する。

授業内容

1. 口腔外科総論
2. 先天異常と後天異常
3. 嚢胞性疾患
4. 炎症性疾患
5. 口腔粘膜疾患
6. 良性腫瘍と腫瘍類似疾患
7. 口腔癌の統括的治療、顎変形症の手術法
8. 悪性腫瘍
9. 悪性腫瘍
10. 中間試験
11. 血液疾患
12. 全身管理と歯科治療
13. 顎口腔に症状を呈する疾患
14. 採血・静脈路確保 実習
15. 切開と縫合 実習

キーワード	口腔外科学、口腔がん

教科書・教材・参考書	教科書:口腔外科学(第5版)(医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	期末定期試験および実習の到達度を鑑み総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	口腔外科は臨床歯科医学の根幹をなし、一番ダイナミックな分野であると考える。 学生諸君にはその一端を示し、将来に役立ててもらいたい。 教科書等で予習をしておくと理解が深まる。 非常勤講師の都合によりシラバス内容が変更になることもあるが、第一回講義の際に最終決定のシラバスを配布する。
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・川﨑　五郎／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・鳴瀬　智史／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・三浦　桂一郎／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・森下　廣太／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・大森　景介／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・原　昌士／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。

日程表（口腔外科Ⅰ・Ⅱ共通）

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	4～6	口腔外科総論 医療倫理 診断法基本	山田 Ⅰ	講義室6A
2回	10	4	金	1～3	先天異常と後天異常	山田 Ⅰ	講義室6A
3回	10	8	火	4～6	手術基本手技 周術期管理・感染予防	三浦 Ⅰ	講義室6A
4回	10	11	金	1～3	嚢胞性疾患 睡眠歯科	三浦 Ⅱ	講義室6A
5回	10	15	火	4～6	口腔粘膜疾患	鳴瀬 Ⅱ	講義室6A
6回	10	18	金	1～3	自習 特別講義（顎顔面外傷等）	管野貴浩 （島根大）	講義室6A
7回	10	22	火	4～6	血液疾患	森下 Ⅱ	講義室6A
8回	10	25	金	1～3	炎症性疾患	森下 Ⅱ	講義室6A
9回	10	29	火	4～6	良性腫瘍と腫瘍類似疾患	川崎 Ⅱ	講義室6A
10回	11	1	金	1～3	自習 特別講義（口唇口蓋裂）	夏目長門 （愛知学院大）	講義室6A
11回	11	8	金	1～3	顎変形症	山田 Ⅰ	講義室6A
12回	11	12	火	4～6	神経疾患と心因性疾患	川崎 Ⅰ	講義室6A
13回	11	15	金	1～3	自習 特別講義（顎関節疾患）	大井一弘 （金沢大）	講義室6A
14回	11	19	火	4～6	悪性腫瘍①	鳴瀬 Ⅱ	講義室6A
15回	11	22	金	1～3	（口腔外科学会総会） 小テスト①	未定	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	11	26	火	4～6	悪性腫瘍②	鳴瀬 Ⅱ	講義室6A
17回	11	29	金	1～3	自習 特別講義（睡眠歯科）	坂本由紀 （関医）	講義室6A
18回	12	3	火	4～6	唾液腺疾患	大森 Ⅱ	講義室6A
19回	12	6	金	1～3	歯・歯槽および周囲組織の外科	三浦 Ⅰ	講義室6A
20回	12	10	火	4～6	顎顔面の外傷 顎関節疾患	山田 Ⅰ	講義室6A
21回	12	13	金	1～3	自習 特別講義（口腔癌）	柳本惣市 （広島大学）	講義室6A
22回	12	17	火	4～6	口腔に症状を呈する全身疾患	川崎 Ⅱ	講義室6A
23回	12	20	金	1～3	全身管理と歯科治療 臨床検査	原 Ⅰ	講義室6A
24回	12	24	火	4～6	小テスト②	三浦	講義室6A
25回	1	7	火	4～6	手洗いとガウンテクニック実習	福嶋 Ⅰ	臨床実習室4B
26回	1	10	金	1～3	切開と縫合 実習	大森 Ⅱ	臨床実習室4B
27回	1	14	火	4～6	抜歯実習	原 Ⅰ	臨床実習室4B
28回	1	17	金	1～3	採血・静脈路確保 実習	福嶋 Ⅰ	臨床実習室4B
29回	1	28	火	4～6	予備日		
30回	1	31	金	1～3	予備日		

年度 2024　学期 3・4Q	曜日・校時　金・1～3	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034327 DNGD33141987 口腔外科学Ⅱ及び同実習/　(Oral and Maxillofacial Surgery Ⅱ and Practice)		
対象年次　4年次	講義形態　講義・実習形式	教室　講義室6A、臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院8階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内7698)/随時

担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘、川﨑五郎、鳴瀬智史、三浦桂一郎、森下廣太、大森景介、原　昌士 管野貴浩(島根大学)、大井一浩(金沢大学)

授業の概要
歯科医師として臨床現場において全人的治療を行うための基礎として、顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し診断を導く思考力および判断力を養い、全身疾患をも含めた治療方針を決定する能力を身につける。口腔・顎顔面領域に生じる先天性あるいは後天性疾患に関してその原因、症状、診断包および予後を学習し、これからの疾患の診断と、全身状態を考慮しながら治療方針を策定できる素養、及びこれからの疾患の予防に関する知識を学習する。

授業到達目標

一般目標GIO： 口腔・顎顔面領域に発症する疾患の特徴と病因および診断・治療を理解する。	【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標SBOs：	
１.全身状態の評価に基づいた口腔・顎顔面領域の診察ができる。口腔・顎顔面領域の疾患を正しく診断し、患者の立場を尊重した治療方針・治療計画を立案できる。	A-3,　F-2-2)
２.診察の基本（病歴聴取、現症の取り方、患者の心理）を説明できる。	E-1-1), E-1-3),
３.小手術に関わる基本（適応症、禁忌、偶発症、器具の用法と基本手技，清潔・不潔の区別）を説明できる。	E-1-5), E-1-6)
４.口腔・顎顔面領域に発症する疾患（先天異常、外傷、炎症、口腔粘膜疾患、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患、唾液腺疾患、神経疾患）の種類を列挙し、症状と治療法を説明できる。	E-2-4),E-5-3), E-6
５.口腔と医科疾患の関連の関連について説明することができる。	F-1-1)
６.単純な抜歯、軟組織の小手術、基本的な切開、縫合、抜糸を実施できる。	F-3-1),F-3-2) F-3-5),　G-1-2), G-3

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法（学習指導法）
スライド・ビデオを中心にすすめ、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。

授業内容
1. 口腔外科診療法と治療の基本
2. 先天異常と後天異常
3. 顎顔面の外傷
4. 口腔感染症
5. 口腔粘膜疾患
6. 悪性腫瘍
7. 顎骨良性腫瘍とのう胞性疾患
8. 顎関節疾患
9. 唾液腺疾患
10. 手術基本手技
11. 歯と歯槽の手術
12. 神経疾患と心因性疾患
13. 血液疾患
14. 症例検討
15. 症例検討

キーワード	口腔外科、診断、治療
教科書・教材・参考書	口腔外科学　宮﨑正監修　医歯薬出版 標準口腔外科学　内山健志　他　医学書院 口腔科学　抜歯手技　堀之内康文　クインテッセンス出版 歯科における薬の使い方　デンタルダイヤモンド社 ハーバードの医師づくり　田中まゆみ　医学書院
成績評価の方法・基準等	定期考査(筆記試験)により判断する(100 点満点中 60 点以上を合格とする)。 再試験は筆記試験によって合否を判断する。 授業中の小テストは合否の判断材料とはしない。 発表形式も授業を行うが、発表内容を採点し、定期考査に加点する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	教科書等で予習をしておくと理解が深まる。 非常勤講師の都合によりシラバス内容が変更になることもあるが、第一回講義の際に最終決定のシラバスを配布する。
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・川﨑　五郎／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・鳴瀬　智史／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・三浦　桂一郎／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・森下　廣太／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・大森　景介／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・原　昌士／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 木･1～3	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25034319 DNGD33151983 歯科放射線学及び同実習/ (Head and Neck Radiology)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義･実習形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角美佐/misa@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔診断･情報科学分野医局/095-819-7709(内 7709)/9:00～17:00 まで随時			
担当教員(オムニバス科目等)	角 美佐、片山 郁夫、佐々木 美穂、高木 幸則、榮田 智、江川 亜希子		

授業の概要
適切な歯科医療を提供するための歯科放射線学に関する知識を身につける。

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
一般目標 GIO:
適切な歯科医療を提供するための歯科放射線学に関する知識を身につける。
個別行動目標 SBOs:

1. 放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる	E-1-2)①
2. 放射線の人体への影響の特徴を説明できる	E-1-2)②
3. 放射線防護の基準と方法を説明できる	E-1-2)③
4. X 線画像の形成原理を説明できる。	E-1-2)④
5. X 線装置の原理を説明できる。	E-1-2)⑤
6. 口内法 X 線撮影の種類と適応およびパノラマ X 線撮影の適応を説明できる。	E-1-2)⑥
7. 口内法 X 線画像とパノラマ X 線画像の読影ができる。	E-1-2)⑦
8. 頭部 X 線撮影の種類及び適応を説明できる。	E-1-2)⑧
9. 造影検査法、超音波検査法、CT、歯科用コンビーム CT, MRI, および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	E-1-2)⑨
10. 口腔乾燥の原因、診察、検査、診断および治療方針を説明できる。	E-2-4)-(11)⑤
11. 口内法デンタル X 線検査の必要性を患者に説明できる。	F-2-2)⑤
12. 振動と波動現象の特徴及び光と音の基本的性質を説明できる。	C-1-2)②
13. 医療機器に応用される電磁現象を説明できる。	C-1-2)③
14. 口腔･顎顔面領域の疾患の特徴と病因及び診断･治療の基本的概念を理解する	E-2-4)-(1)～(11)

対応するディプロマポリシー
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
主にスライドを用いた講義を行い、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。教材は当日配布するか、事前に LACS にアップロードする場合もある。LACS の教材は事前にダウンロードしておくこと。

授業内容
1 回目 オリエンテーション、放射線物理学(1)
2 回目 放射線物理学(2)
3 回目 放射線生物学, 放射線防護
4 回目 X 線撮影法
5 回目 CT, 歯科用コーンビーム CT の原理と特徴
6 回目 MRI の原理と特徴(1)
7 回目 MRI の原理と特徴(2)
8 回目 MR, CT 画像解剖 / MRI 診断
9 回目 顎骨の画像診断(1)
10 回目 顎骨の画像診断(2) / 唾液腺の画像診断
11 回目 超音波検査法の原理と特徴 / 自己免疫疾患
12 回目 顎関節の画像診断 / リンパ節の画像診断
13 回目 核医学検査法の原理と特徴
14 回目 放射線治療
15 回目 胸部 X 線画像 / 全身疾患

キーワード	放射線、X 線、CT、MRI、超音波、核医学、PET/CT、放射線治療
教科書・教材・参考書	歯科放射線学　第 7 版 （医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	出席、小テスト、授業への取り組み、定期試験により成績を評価する。合計点が 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	出席が 3/4 に達しない場合、成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	教材として配付された資料がある場合は確実に予習・復習して授業に臨むこと。
実務経験のある教員による授業科目	・角　美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・片山　郁夫／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・高木　幸則／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・榮田　智／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・佐々木　美穂／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・江川　亜希子／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義を行う

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	木	1～3	オリエンテーション / 放射線物理学(1)	角/片山	講義室6A
2回	10	10	木	1～3	放射線物理学(2)	片山	講義室6A
3回	10	17	木	1～3	放射線生物学, 放射線防護	片山	講義室6A
4回	10	24	木	1～3	X線撮影法	片山	講義室6A
5回	10	31	木	1～3	CT, 歯科用コーンビームCTの原理と特徴	角	講義室6A
6回	11	7	木	1～3	MRIの原理と特徴(1)	角	講義室6A
7回	11	14	木	1～3	MRIの原理と特徴(2)	角	講義室6A
8回	11	21	木	1～3	MR, CT画像解剖 / MRI診断	角	講義室6A
9回	11	28	木	1～3	顎骨の画像診断(1)	榮田	講義室6A
10回	12	5	木	1～3	顎骨の画像診断(2) / 唾液腺の画像診断	榮田/角	講義室6A
11回	12	12	木	1～3	超音波検査法の原理と特徴 / 自己免疫疾患	高木	講義室6A
12回	12	19	木	1～3	顎関節の画像診断 / リンパ節の画像診断	角	講義室6A
13回	1	9	木	1～3	核医学検査法の原理と特徴	佐々木	講義室6A
14回	1	16	木	1～3	放射線治療	江川	講義室6A
15回	1	23	木	1～3	胸部X線画像 / 全身疾患	角	講義室6A

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時　金・1～3	必修選択 必修	単位数 1.5
授業コード 授業科目/(英語名)	25034320 歯科麻酔学及び同実習 (Dental Anesthesiology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 倉田眞治/kura@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔分野研究室/819−7714/月～金曜日 午後5時～6時			
担当教員(オムニバス科目等)	倉田眞治、境徹也、岡安一郎、山下和範、関野元裕、達 聖月、尾崎 由、非常勤講師;鮎瀬卓郎		

授業の概要

安心・安全・快適な歯科治療を全ての患者に提供するために、3年次までに習得した基礎医学を整理して理解し、他職種で共有できる医学知識を体系的に応用しようとする態度および問題解決志向に対する理解を深める。
正確に全身状態を観察・評価するための、知識、態度、技術を身につける。歯科治療に欠かせない局所麻酔について十分な知識をもち、歯科治療時の全身的偶発症の対処法、予防法を身につける。

一般目標 GIO:
安心・安全・快適な歯科治療を全ての患者に提供するための、基礎医学の重要性を理解し、他職種で共有できる共通言語を体系的に応用できる能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 身体を構成する組織と器官を説明できる。 呼吸・循環生理と病因と呼吸障害と循環障害の病態を説明できる。	C-3-4)-(4) 、 C-5-4)
2. 全身評価に必要な臨床検査法を説明できる。	E-1-1) 、 E-1-3) 、 E-1-4)-(1)～(4)
3. 全身評価を行うための診察の基本を説明できる。	E-1-6)
4. 歯科医療に必要な麻酔管理法を説明できる。	E-2-1)
5. 救急蘇生法について説明できる。	E-2-4)
6. 疼痛の発生機序および鎮痛法について説明できる。	E-5-1)～3)
7. 局所麻酔の方法について説明できる。	E-5-3)
8. 高齢者・障害者の歯科治療について説明できる。	F-2-2)
9. 精神・心身医学的疾患患者の歯科治療について説明できる。	F-3-1) 、 F-3-7)

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)
概要
全身麻酔、局所麻酔、鎮静法、心肺蘇生法、疼痛治療を通して安全で痛くない歯科治療の原則と救急時の対処法を学ぶ。
授業内容
1 回目 歯科麻酔学概論
2 回目 呼吸・循環の生理
3 回目 代謝・神経の生理
4 回目 疼痛の発生機序と鎮痛方法について
5 回目 麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法について
6 回目 麻酔管理に用いる装置・器具について
7 回目 高度な全身管理:ICU・救急部での呼吸・循環管理について
8 回目 麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用について
9 回目 高度な呼吸管理について
10 回目 局所麻酔薬および局所麻酔法について
11 回目 周術期管理の実際について
12 回目 高度な全身管理:様々な合併疾患と周術期管理のポイント
13 回目 鎮静法がなぜ有効か？吸入鎮静法と静脈内鎮静法について
14 回目 歯科治療中に起こる合併症について
15 回目 歯科治療時の心肺蘇生法について
16 回目 定期考査

キーワード	全身管理 局所麻酔 全身偶発症の予防

教科書・教材・参考書	歯科麻酔学 （第7版　医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	基礎医学の内容理解度確認小テストや予習復習レポート課題など（10 点×4 回＝計40 点） 定期試験（60 点） 4項目の成績評価を合計して 100 点とし、60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	講義への出席が 2/3 以上、かつ 2 回までの遅刻・早退を満たすものが受講できる。
備考(事前・事後学習の内容、家庭学習方法について)	事前・事後学習の内容：生理学、薬理学の復習をしておくこと。必ず翌週の講義内容について予習をすること. 講義では、質疑応答を通して、講義を進めていく. 毎回の予習復習課題として動画視聴・文献資料などを読んだ後に LACS 掲示板でのコメントを求めます。
実務経験のある教員による授業科目	・倉田　眞治／大学病院における診療経験（全身管理・麻酔管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・岡安　一郎／大学病院における診療経験（ペインクリニックなどの疼痛治療）／大学病院における診療経験を元にペインクリニックなどの疼痛治療に関する講義を行う。 ・山下　和範／大学病院における診療経験（全身管理・救急医療）／大学病院における診療経験を元に全身管理・救急医療に関する講義を行う。 ・境　徹也／大学病院や市中病院における診療経験（ペインクリニックなどの疼痛治療）／大学病院における診療経験を元にペインクリニックなどの疼痛治療に関する講義を行う。 ・関野　元裕／大学病院における診療経験（全身管理・集中治療管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・集中治療管理に関する講義を行う。 ・達　聖月／大学病院における診療経験（全身管理・麻酔管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・尾崎　由／大学病院における診療経験（全身管理・麻酔管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・鮎瀬卓郎／大学病院をはじめとする診療経験（全身管理・麻酔管理）／診療経験に基づく全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	1～3	歯科麻酔学概論（歯科麻酔学の歴史、学ぶ意義） 歯科麻酔学のが歴史を通して歯科医学の中の位置づけを考える （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
2回	4	12	金	1～3	呼吸,循環の生理について 麻酔管理、全身評価に必要な呼吸と循環の臨床生理学を学ぶ （教材）歯科麻酔学、DVDなどを用いた呼吸音、心音の体感	倉田眞治	講義室6A
3回	4	19	金	1～3	代謝・神経の生理について 麻酔管理、全身評価に必要な代謝・神経の臨床生理学を学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
4回	4	26	金	1～3	疼痛の発生機序と鎮痛方法について 歯科における急性痛および難治性疼痛の発症機序と治療法を学ぶ （教材）歯科麻酔学	岡安一郎（1,3） 境　徹也（2）	講義室6A
5回	5	10	金	1～3	麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法について バイタルサインの評価およびモニタリング機器について学ぶ （教材）歯科麻酔学、実際の生体モニターの取り扱いについて学ぶ	鮎瀬卓郎（1－3）倉田眞治（3）	講義室6A
6回	5	17	金	1～3	麻酔管理に用いる装置・器具について 全身麻酔および静脈麻酔に用いる装置・器具等について学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
7回	5	24	金	1～3	高度な全身管理：ICU・救急部での呼吸・循環管理について 歯科治療と領域を共有する歯科麻酔管理の特殊性を学ぶ（口腔咽頭部の解剖を学ぶ） （教材）歯科麻酔学	山下和範（1） 倉田眞治（2） 関野元裕（3）	講義室6A
8回	5	31	金	1～3	麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用について 全身麻酔、静脈麻酔等に使用する麻酔薬の薬理作用を学ぶ （教材）歯科麻酔学	倉田眞治	講義室6A
9回	6	7	金	1～3	高度な呼吸管理について 麻酔中の上気道開通性について～基礎から臨床まで～ （教材）歯科麻酔学、プリント	鮎瀬卓郎	講義室6A
10回	6	14	金	1～3	局所麻酔薬および局所麻酔法について 局所麻酔の作用機序、麻酔薬の薬理作用と解剖、血管収縮薬について学ぶ （教材）歯科麻酔学、注射器などを用いて実際の局所麻酔法を学ぶ	倉田眞治	講義室6A
11回	6	21	金	1～3	周術期管理の実際について 創傷治癒まで考慮した全身管理方法について学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
12回	6	28	金	1～3	高度な全身管理：様々な合併疾患と周術期管理のポイント 小児・障害者・高齢者・全身疾患を有する患者の周術期管理などについて学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	達　聖月 尾崎　由	講義室6A
13回	7	5	金	1～3	鎮静法がなぜ有効か？吸入鎮静法と静脈内鎮静法について 鎮静法に用いる装置、薬剤、それぞれの鎮静法の利点、欠点 （教材）歯科麻酔学、プリント	鮎瀬卓郎	講義室6A
14回	7	12	金	1～3	歯科治療中に起こる合併症について 歯科治療中に起こりうる全身的、局所的合併症について学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
15回	7	19	金	1～3	歯科治療時の心肺蘇生（歯科医師に必要な基本的救急蘇生：BLS）について 歯科治療時に起こる全身的偶発症とその対処法を学ぶ （教材）歯科麻酔学、マネキンを用いての実習	倉田眞治	講義室6A

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時 水 1～2	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034330 DNGD33501990 高齢者歯科学/(Geriatric Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
鳥巣哲朗/ torisu@nagasaki-u.ac.jp /歯科補綴学分野研究室/095-819-7692(内 7692)/月曜 17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	小澤寛樹(精神神経科学)、会田薫子(学外非常勤講師)、島田明子(非常勤講師)、村田比呂司、住田吉慶、五月女さき子、久松徳子、介田圭、歯科医師会(学外非常勤講師)、吉田和弘、岡﨑ひとみ、森智康、玉田泰嗣 実習:鳥巣哲朗、吉田和弘、岡崎ひとみ、森智康

授業の概要

高齢者歯科学は、歯科医療を通して高齢者の健康増進を図ることを目的とした臨床科目である。老化という誰も避けて通れない生理的な生命現象を理解した上で、高齢者に対する歯科的取り組みを学習する。超高齢社会となったわが国において、高齢者歯科への需要はますます増加することが予想される。高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.老化の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。	E-5-1)-①⑪
2.老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。	E-5-1)-③④
3.高齢者に多く見られる疾患を説明できる。	E-5-1)-②
4.高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。	E-5-1)-⑤
5.高齢者に対して基本的な歯科治療を説明できる。	E-5-1)-⑥
6.要介護者の歯科治療を説明できる。	E-5-1)-⑥⑦⑩
7.摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	E-5-1)-⑧⑨⑩

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

専門の異なる学内外の教員、非常勤講師によって講義は教科書の内容を中心に，パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い，必要に応じてプリントを配布する。実習ではステップごとにその概説があり，主要な項目は教員がデモ示説する。非常勤講師による特別講義も計画している。

授業内容

1,2 回目 高齢者歯科学総論
3,4 回目 高齢者のための社会保障制度
5,6 回目 加齢の科学、全身および口腔における加齢変化、医学的背景、高齢者に多い全身疾患①
7,8 回目 高齢者歯科学(認知症のいろは)
9 回目 医学的背景、高齢者に多い全身疾患②
10 回目 高齢者の終末期、高齢者に多い口腔疾患(歯・歯周病、欠損への対応)
11 回目 臨床死生学 特論
12 回目 高齢者に多い口腔疾患(軟組織、硬組織、神経疾患)
13,14 回目 有病高齢者患者の歯科治療の注意点① 高齢者の一般歯科診療に対する考慮点
15,16 回目 有病高齢者患者の歯科治療の注意点② 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点
17,18 回目 口腔機能管理・口腔衛生管理 高齢者の口腔機能評価・口腔ケア
19,20 回目 補綴(有床義歯)診療
21,22 回目 摂食嚥下障害
23 回目 高齢者の口腔ケア
24 回目 訪問歯科診療の実際
25 回目 診療環境、高齢者と栄養
26 回目 訪問診療、在宅歯科診療 病診連携システム 地域包括ケア
27,28 回目 在宅歯科医療・病診連携システム、口腔ケア・口腔機能維持
29 回目 それぞれのステージにおける歯科の役割
30,31 回目 実習① 口腔機能評価・認知機能
32,33 回目 実習② 高齢者疑似体験・介護基本・嚥下手技

キーワード	高齢者、加齢、摂食・嚥下
教科書・教材・参考書	教科書:老年歯科医学(医歯薬出版) 参考書:よくわかる高齢者歯科学(永末書店)
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	質問は遠慮なく各担当教員にすること。なお、講義の内容や順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。

実務経験のある教員による授業科目	・村田比呂司／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・鳥巣哲朗／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・吉田和弘／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・岡﨑ひとみ／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・森　智康／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・玉田泰嗣／大学病院および関連施設等における摂食・嚥下を主体とした歯科治療および在宅歯科診療／高齢者を対象とした臨床および在宅診療の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・住田吉慶／大学病院および関連施設等における口腔外科を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・久松徳子／大学病院および関連施設等における摂食・嚥下を主体とした歯科治療および訪問歯科診療／高齢者を対象とした臨床および訪問診療の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・五月女さき子／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・介田　圭／大学病院および関連病院における保存歯科を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	水	1	高齢者歯科学総論 社会的背景	島田明子	講義室6A
2回	10	2	水	2	高齢者歯科学総論 社会的背景	島田明子	講義室6A
3回	10	9	水	1	高齢者のための社会保障制度 高齢者福祉施策、介護保険	五月女 さき子	講義室6A
4回	10	9	水	2	高齢者のための社会保障制度 高齢者福祉施策、介護保険	五月女 さき子	講義室6A
5回	10	16	水	1	加齢の科学 全身および口腔における加齢変化	森智康	講義室6A
6回	10	16	水	2	医学的背景 高齢者に多い全身疾患①	森智康	講義室6A
7回	10	23	水	1	高齢者歯科学 内容：認知症のいろは	小澤寛樹	講義室6A
8回	10	23	水	2	高齢者歯科学 内容：認知症のいろは	小澤寛樹	講義室6A
9回	10	30	水	1	医学的背景 高齢者に多い全身疾患②	森智康	講義室6A
10回	10	30	水	2	高齢者の終末期 高齢者に多い口腔疾患（歯・歯周病、欠損への対応）	吉田和弘	講義室6A
11回	11	6	水	1	臨床死生学 特論	会田薫子 （非常勤）	講義室6A
12回	11	6	水	2	高齢者に多い口腔疾患（軟組織、硬組織、神経疾患）	鳥巣哲朗	講義室6A
13回	11	13	水	1	有病高齢者患者の歯科治療の注意点① 全身的疾患との関連、高齢者の一般歯科診療に対する考慮点	吉田和弘	講義室6A
14回	11	13	水	2	有病高齢者患者の歯科治療の注意点① 全身的疾患との関連、高齢者の一般歯科診療に対する考慮点	吉田和弘	講義室6A
15回	11	20	水	1	有病高齢者患者の歯科治療の注意点② 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点	住田吉慶	講義室6A
16回	11	20	水	2	有病高齢者患者の歯科治療の注意点② 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点	住田吉慶	講義室6A
17回	11	27	水	1	口腔機能管理・口腔衛生管理 高齢者の口腔機能評価・口腔ケア	岡崎 ひとみ	講義室6A
18回	11	27	水	2	口腔機能管理・口腔衛生管理 高齢者の口腔機能評価・口腔ケア	岡崎 ひとみ	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
19回	12	4	水	1	補綴（有床義歯）診療 高齢者の有床義歯補綴の概要と実際、必要な口腔機能の評価	村田 比呂司	講義室6A
20回	12	4	水	2	補綴（有床義歯）診療 高齢者の有床義歯補綴の概要と実際、必要な口腔機能の評価	村田 比呂司	講義室6A
21回	12	11	水	1	摂食嚥下障害	久松徳子	講義室6A
22回	12	11	水	2	摂食嚥下障害	久松徳子	講義室6A
23回	12	18	水	1	高齢者の口腔ケア	介田圭	講義室6A
24回	12	18	水	2	訪問歯科診療の実際	歯科 医師会 松谷康平	講義室6A
25回	1	8	水	1	診療環境（診療所、入院下、在宅、施設） 高齢者と栄養	玉田泰嗣	講義室6A
26回	1	8	水	2	訪問診療 在宅歯科医療・病診連携システム・地域包括ケア	玉田泰嗣	講義室6A
27回	1	15	水	1	在宅歯科医療・病診連携システム 口腔ケア・口腔機能維持	五月女 さき子	講義室6A
28回	1	15	水	2	在宅歯科医療・病診連携システム 口腔ケア・口腔機能維持	五月女 さき子	講義室6A
29回	1	22	水	1	それぞれのステージにおける歯科の役割	鳥巣哲朗	講義室6A
30回	1	22	水	2	実習①認知機能・口腔機能評価	2補綴 講座員	講義室6A PBL室
31回	1	22	水	3	実習①認知機能・口腔機能評価	2補綴 講座員	講義室6A PBL室
32回	1	22	水	4	実習②高齢者疑似体験・介護基本・嚥下手技	2補綴 講座員	講義室6A 臨床実習室4A スキルスラボ
33回	1	22	水	5	実習②高齢者疑似体験・介護基本・嚥下手技	2補綴 講座員	講義室6A 臨床実習室4A スキルスラボ

年度 2024　学期 1･2Q	曜日･校時　木 1～2	必修選択　必須	単位数　1
授業コード 科目ナンバリング･コード 授業科目/(英語名)	25034331 DNGD 33511990 障害者歯科学 （Special Care Dentistry）		
対象年次　4 年次	講義形態　講義	教室　講義室6A	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
田上直美/t-naomi@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学医局/095-819-7674(内 7674)/水曜日 12:00～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	田上直美、鮎瀬てるみ、切石健輔、山口香織

授業の概要及び位置づけ

障害者を含めてスペシャルニーズのある人に対する支援を、歯科診療という視点から理解を深める。併せて、他職種と連携して QOL を守るという歯科医師の役割について考察する。

一般目標 GIO:
障害者の特徴、口腔疾患および口腔機能に対する歯科からの健康支援について理解し、口の健康を通じて QOL を守るという歯科医師の役割を果たすための能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:
1. 地域医療における歯科医療の連携を説明できる。
2. 保健・医療・福祉・介護の制度について説明できる。
3. 障害者の口腔・顎顔面領域の疾患について説明できる。
4. 高齢者･障害者の歯科治療の要点を説明できる。
5. 精神・心身医学的疾患患者の歯科治療の要点を説明できる。
6. 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査について説明できる。
7. 歯科治療に必要な行動調整を列挙できる。
8. 医療安全・感染対策について説明できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
A-7-1) 地域医療への貢献
B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度
E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患
E-5-1) 高齢者の歯科治療
E-5-2) 障害者の歯科治療
E-5-3) 精神・心身医学的疾患
F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査
F-3-7) 高齢者・障害者等患者への治療
G-1-2) 医療安全・感染対策

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

1～2回目は障害者歯科の基本的な概念を学習する。3～8、13回目は各論として様々な障害について学習する。9～12、14回目は実際の障害者歯科診療について学習する。15回目に小テストを実施する。

授業の進行を考慮し、内容が前後の回に移行することがある。

授業内容
1 回目　序論
2 回目　スペシャルニーズと社会保障
3 回目　精神発達・心理的発達と行動の障害、神経・運動障害、感覚障害、音声言語障害
4 回目　　〃
5 回目　　〃
6 回目　　〃
7 回目　精神および行動の障害
8 回目　歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅱ・Ⅲ
9 回目　行動調整
10 回目　〃
11 回目　スペシャルニーズのある人の健康支援
12 回目　スペシャルニーズのある人の歯科治療
13 回目　歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅰ
14 回目　リスク評価と安全管理
15 回目　小テスト

キーワード	スペシャルニーズ、障害、行動調整、安全管理
教科書・教材・参考書	教科書: スペシャルニーズデンティストリー　障害者歯科 第2版 （日本障害者歯科学会　編　医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験により主たる評価を行う。試験問題は国家試験の過去問あるいは教科書より出題し、解答については、現在は教科書と異なる事柄があっても教科書の内容を正解とする。 そのほか、スマートクリッカーによる出席確認テスト、最終日の小テスト、授業態度（オンライン授業の場合はレポート）、出席率を加味して総合的に評価を行う。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験条件として、出席率70％以上の出席が必要となる。
備考(学生へのメッセージ)	教科書中心に授業を進めるため、教科書を必携すること。歯学となじみのない用語が多く、予習するほうが、理解が容易である。基本的に講義形式とする。ただし、双方向コミュニケーションを促すため質問は随時受け、学生の要望によりテーマ内容を掘り下げることがある。実地研修は臨床特別実習時において行う。
実務経験のある教員による授業科目	・田上　直美／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。 ・鮎瀬　てるみ／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。 ・切石　健輔／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。 ・山口　香織／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	木	1	総説（序論） 歯科医療におけるスペシャルニーズ、QOLとノーマライゼーション、 社会的および心理的問題、障害者歯科医療の理念と倫理	田上	講義室6A
2回	4	4	木	2	総説（スペシャルニーズと社会保障） 障害者の医療，福祉の仕組み、地域における障害者歯科、 チーム医療の役割および関連職種	田上	講義室6A
3回	4	11	木	1	スペシャルニーズ各論 精神発達・心理的発達と行動の障害 知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症　など	山口	講義室6A
4回	4	11	木	2	神経・運動障害 脳性麻痺、関節リウマチ、Parkinson病、脳血管障害、てんかん　など	山口	講義室6A
5回	4	18	木	1	感覚障害、音声言語障害 視覚障害、聴覚障害など	山口	講義室6A
6回	4	18	木	2		山口	講義室6A
7回	4	25	木	1	スペシャルニーズ各論 精神および行動の障害 統合失調症、うつ病、不安症、心身症、認知症など	鮎瀬て	講義室6A
8回	4	25	木	2	スペシャルニーズ各論 歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅱ、Ⅲ 症候群、難病	鮎瀬て	講義室6A
9回	5	2	木	1	スペシャルニーズのある人の歯科医療 行動調整 コミュニケーション法、行動療法、薬物的行動調整、体動の調整法など	切石	講義室6A
10回	5	2	木	2		切石	講義室6A
11回	5	9	木	1	スペシャルニーズのある人の歯科医療 スペシャルニーズのある人の健康支援	切石	講義室6A
12回	5	9	木	2	スペシャルニーズのある人の歯科医療 スペシャルニーズのある人の歯科治療	切石	講義室6A
13回	5	16	木	1	スペシャルニーズ各論 歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅰ 先天性心疾患、感染性心内膜炎、抗血栓療法	鮎瀬て	講義室6A
14回	5	16	木	2	スペシャルニーズのある人の歯科医療 リスク評価と安全管理	鮎瀬て	講義室6A
15回	5	23	木	1	小テスト	田上直美	講義室6A

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時 水 1～2	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034333 DNGD33531992 災害口腔医学/(Disaster Oral Medicine)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 川下由美子(口腔保健学), 白石千秋(口腔管理センター・災害医療支援室), 山下和範(非常勤講師・災害医療支援室), 山添淳一(非常勤講師・九州大学), 吉田浩二(非常勤講師・原子力災害対策戦略本部), 安藝敬生(非常勤講師・災害医療支援室), 中久木康一(非常勤講師・東京医科歯科大学), 太田秀人(非常勤講師・福岡県歯科医師会)

授業の概要
大規模災害・事故が多発している現在，歯科医師として災害現場での特殊な対応・行動を認識し，さらには災害時のチーム医療としての実働や，歯科医師もしくは人として行うことの出来る後方支援を理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
災害時に歯科医師として適切に行動するために必要な知識、技能及び態度を修得する。
個別行動目標 SBOs:
1. 災害時の医療システムを説明する。
2. 災害対策の目標を説明する。
3. 被災者の気持ちに寄り添える。
4. 災害時の地域保健医療体制と連携した歯科の役割を説明する。
5. 災害時と平常時の歯科治療ニーズの違いを説明する。
6. 災害時の口腔ケアの特徴と方法について説明する。
7. 災害時を想定したシミュレーションに参加する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-4-2) 患者と歯科医師の関係
A-5-1) 患者中心のチーム医療
A-7-1) 地域医療への貢献
B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度

対応するディプロマポリシー
DP8 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10 離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)
輪講形式。スライドおよび配付資料を用いた講義を行う。実習はグループ学習および発表討論を行う。

授業内容

第 1 回 災害医療(概説)
第 2 回 東日本大震災における長崎大学病院の役割
第 3 回 急性期病院における歯科の災害医療への関わり
第 4 回 長崎大学の災害医療への取り組み 1
第 5 回 長崎大学の災害医療への取り組み 2
第 6 回 災害拠点病院の歯科の役割 1
第 7 回 災害拠点病院の歯科の役割 2
第 8 回 原子力災害医療
第 9 回 災害時の薬剤師の役割
第 10 回 災害時の法律
第 11 回 災害時の支援論
第 12 回 災害時のボランティア論
第 13 回 災害時におけるチーム医療 1
第 14 回 災害時におけるチーム医療 2
第 15 回 実習 DIG(Disaster Imagination Game) 災害図上訓練

キーワード	災害対策基本法・医療救護班・災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team＜DMAT＞)・災害拠点病院・トリアージ・災害医療コーディネーター

教科書・教材・参考書	災害歯科医学（槻木恵一・中久木康一　編　医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	講義への出席、講義内に行われる小テスト、実習への参加態度を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合，成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	歯科保健医療体制における歯科医師の役割の理解，災害関連死のなかで大きな割合を占める肺炎を早期から予防するための歯科医師・歯科衛生士の専門性の確立，平時からの歯科医師会さらには多職種連携強化を推進することの重要性を学んで欲しい。
実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝／大学病院における診療行為／自らの診療経験を元に，災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・川下由美子／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（予防歯科）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・白石千秋／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・山下和範／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・山添淳一／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（高齢者歯科・全身管理歯科）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・吉田浩二／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・安藝敬生／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・中久木康一／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（救急災害医学）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・太田秀人／診療所における診療行為／自らの診療経験を元に，災害医療の実際について講義・演習形式の授業を行っている

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	1	災害医療（概説）	角	講義室6A
2回	4	3	水	2	東日本大震災における長崎大学病院の役割	川下	講義室6A
3回	4	10	水	2	急性期病院における歯科の災害医療への関わり	白石	講義室6A
4回	4	17	水	1	長崎大学の災害医療への取り組み	山下	講義室6A
5回	4	17	水	2	長崎大学の災害医療への取り組み	山下	講義室6A
6回	4	24	水	1	災害拠点病院の歯科の役割	山添	講義室6A
7回	4	24	水	2	災害拠点病院の歯科の役割	山添	講義室6A
8回	5	8	水	1	原子力災害医療	吉田	講義室6A
9回	5	15	水	1	災害時の薬剤師の役割	安藝	講義室6A
10回	5	22	水	1	災害時の法律	中久木	講義室6A
11回	5	22	水	2	災害時の支援論	中久木	講義室6A
12回	5	22	水	3	災害時のボランティア論	中久木	講義室6A
13回	5	29	水	1	災害時におけるチーム医療	太田	講義室6A
14回	5	29	水	2	災害時におけるチーム医療	太田	講義室6A
15回	5	29	水	3	実習　DIG（Disaster Imagination Game）　災害図上訓練	太田	講義室6A

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時　　時間割を参照	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054617 DNGD33391986 口腔インプラント学/(Oral Inplantology)		
対象年次 5年次	講義形態 講義、実習	教室 講義室 6B, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学教授室/095-819-7685(内 7685)/毎日 8:00～8:50, 12:10～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	澤瀬 隆, 尾立哲郎, 右藤友督, 張 暁旭, 小堤涼平, 金子遙, TA 非常勤講師:柴原清隆,十河基文,米澤大地,

授業の概要/授業到達目標/授業方法(学習指導法) (500 文字)

概要:

一般目標(GIO)は,「患者に対し口腔インプラント治療について正しく説明するために, 必要な基礎知識と態度を習得する」とする。実際のインプラント臨床手技の修得には卒後教育が不可欠であるが, インプラントに触れる最初の機会として, ニュートラルでかつ正しい知識の習得を到達目標とする。

行動目標(SBOs)平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム E -3-4)- (3) デンタルインプラント

① デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。
② デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。
③ デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。
④ デンタルインプラントの治療計画, 治療手順を説明できる。
⑤ 埋入方法を説明できる。
⑥ デンタルインプラントの上部構造の印象採得と咬合採得を説明できる。
⑦ デンタルインプラントの上部構造の製作手順と装着方法を説明できる。
⑧ メインテナンスの重要性を説明できる。

授業方法:口腔インプラント学は歯科臨床の集学的科目といわれ、4年生までに履修するほとんど全ての科目がベースとなっている。授業形態は各科専門医からのオムニバス形式とし、講義による必要な知識の解説に加え, 外科系補綴系の実習によりインプラント特有の器具やその操作法を実習し, より具体的な理解の助けとする。

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)

概要:11 回のオムニバス形式の講義に加え, 術前治療計画、外科, 補綴のインプラント実習を行う。

授業内容	モデルコアカリキュラム該当項目
1 回目：インプラントの種類, 特徴, 目的, 意義、オッセオインテグレーション	E-3-4)-(3)①
2 回目：インプラントの基本構造, 成功率, 生存率	E-3-4)-(3)①
3, 4 回目：インプラントのための解剖学, 軟組織	E-3-4)-(3)①
5, 6 回目：インプラントに必要な診断と治療学	E-3-4)-(3)②, ③, ④
7 回目：インプラントの治療計画	E-3-4)-(3)④
8 回目：インプラント治療の実際；外科手術	E-3-4)-(3)②, ⑤
9 回目：インプラント治療の実際；前処置	E-3-4)-(3)②, ③, ④
10 回目：インプラント治療の実際；硬軟組織のマネジメント	E-3-4)-(3)②, ⑤
11, 12 回目：インプラント治療の実際；補綴術式	E-3-4)-(3)②, ⑥, ⑦
13 回目：インプラント治療の実際；無歯顎のインプラント補綴、顎顔面の再建	E-3-4)-(3)④, ⑦, ⑧
14 回目：インプラント周囲炎、メインテナンス	E-3-4)-(3)⑧
15 回目：インプラント画像検査	E-3-4)-(3)②, ③
16, 17 回目：シミュレーション実習	E-3-4)-(3)②, ④
18, 19 回目： インプラント外科模型実習	E-3-4)-(3)⑤
20 回目：インプラント補綴模型実習	E-3-4)-(3)⑥, ⑦

キーワード	
教科書・教材・参考書	教第3版よくわかる口腔インプラント学(医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	定期考査の60点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	講義の2／3, 実習は 3 回とも出席が試験の受験要件である。
備考	

実務経験のある教員による授業科目	・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・尾立　哲朗／大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・小堤　涼平／大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・張　暁旭／大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・小堤　涼平／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・金子　遙／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・柴原　清隆／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／歯科医院における冠橋補綴治療の経験を元に、口腔インプラント学に関する講義、実習を実施する。 ・十河　基文／インプラントシミュレーションソフトウェア会社社長／インプラント治療における画像診断，シミュレーションソフトウェアによる治療計画を教示する ・米澤　大地／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／一般歯科臨床における包括的歯科医療の中でのインプラント治療について教示する

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	月	1	インプラントの種類，特徴，目的，意義、オッセオインテグレーション	澤瀬	講義室6B
2回	4	1	月	2	インプラントの基本構造，成功率，生存率	澤瀬	講義室6B
3回	4	1	月	3	インプラントのための解剖学，軟組織1	尾立	講義室6B
4回	4	1	月	4	インプラントのための解剖学，軟組織2	尾立	講義室6B
5回	4	1	月	5	インプラントに必要な診断と治療学（画像検査、ガイドサージェリー除く）1	澤瀬	講義室6B
6回	4	1	月	6	インプラントに必要な診断と治療学（画像検査、ガイドサージェリー除く）2	澤瀬	講義室6B
7回	4	1	月	7	インプラントの治療計画	澤瀬	講義室6B
8回	4	1	月	8	インプラント治療の実際；前処置	米澤	講義室6B
9回	4	8	月	4	インプラント治療の実際；外科手術	柴原	講義室6B
10回	4	8	月	5	インプラント治療の実際；硬軟組織のマネジメント	柴原	講義室6B
11回	4	8	月	6	インプラント治療の実際；補綴術式（材料学含む）1	澤瀬	講義室6B
12回	4	8	月	7	インプラント治療の実際；補綴術式2	澤瀬	講義室6B
13回	4	8	月	8	インプラント治療の実際；上下無歯顎のインプラント補綴、顎顔面の再建	右藤	講義室6B
14回	4	15	月	4	インプラント周囲炎、メインテナンス	澤瀬	講義室6B
15回	4	15	月	5	インプラント画像検査	十河	講義室6B 臨床実習室4B
16回	4	15	月	6	シミュレーション実習	十河 尾立	臨床実習室4B
17回	4	15	月	7	シミュレーション実習	十河 尾立	臨床実習室4B
18回	4	22	月	1	インプラント外科模型実習	尾立 柴原他	臨床実習室4B
19回	4	22	月	2	インプラント外科模型実習	尾立 柴原他	臨床実習室4B
20回	4	22	月	3	インプラント補綴模型実習	尾立他	臨床実習室4B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時　時間割を参照	必修選択　必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054616 DNGD33381990 摂食嚥下リハビリテーション学/(Dysphagia Rehabilitation)		
対象年次 5 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 久松徳子/norinori@nagasaki-u.ac.jp/医療教育開発センター･総合歯科臨床教育学/095-819-7757/事前に連絡を			
担当教員(オムニバス科目等)	久松徳子		

授業の概要

摂食嚥下機能は，食物を認識し口腔に運び，咀嚼～嚥下にて食道･胃へと食物を送り込む一連の運動であり，経口より栄養を確保するための重要な機能である。また疾患の早期回復には良好な栄養状態の維持が必要であるため，近年では経口摂取の重要性が増している。このため，安全で円滑な経口摂取を行うためには多職種におけるチームアプローチが必要であり，多方面から摂食嚥下機能を理解し，障害の改善に向けた対応について学ぶ。摂食嚥下障害に関する知識や安全で円滑な経口摂取の対応方法の習得を目指す。

授業到達目標

一般目標 GIO:

摂食嚥下障害について理解し，対応方法を身につける．

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
１．摂食嚥下リハビリテーションを説明する。	E-5-1)， A-5-1)， E-2-1)
２．摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明する。	E-2-4)-(11)， E-5-1)， A-5-1)， E-2-1)
３．言語障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明する。	E-2-4)-(11)
４．栄養管理や食形態の調整を説明する。	E-5-1)
５．在宅医療（訪問歯科診療を含む）を説明する。	E-5-1)， A-5-1)

対応するディプロマポリシー

DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

DP10:離島へき地をはじめとする地域･国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

講義形式で行う。

授業内容

1 回～23 回予定。

摂食嚥下障害における、リハビリテーション医学、解剖、生理、原因、診査･診断、対応方法、口腔ケア、栄養、リスク管理、人生会議、緩和ケア、症例検討等々を、内容に合わせた時間配分にて、上記回数内で実施する。

講義内容により講義時間を調整するため、授業内容等をシラバスには記していないが、詳細は授業時間ごとに提示する。

日程表に授業内容を簡単に記載しているが、実施目安の参考として記載している。

キーワード	摂食嚥下障害，リハビリテーション，経口摂取，口腔ケア、最期までくちから食べる
教科書･教材･参考書	参考書　摂食嚥下リハビリテーション第3版 （医歯薬出版） 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学(医歯薬出版) 摂食･嚥下のメカニズム第2版 （医歯薬出版） 等
成績評価の方法･基準等	定期試験または課題レポートでの評価を行う。 出席，追試験，再試験等は学部規定に従う。
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。
備考(学生へのメッセージ)	基礎的知識や医科的な内容も含み，口腔のみならず、人生の最期までを見据えた内容である。自身や身近な人のこれからの人生や社会構造･社会情勢等も念頭に置きながら受講すると、身近なこととして受け止めやすく、理解が深まる内容であると思われる。
実務経験のある教員による授業科目	・久松　徳子／大学病院における診療経験（摂食嚥下リハビリテーション治療・補綴治療）／大学病院における診療経験をもとに摂食嚥下リハビリテーション治療に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	8	水	7	摂食嚥下障害　リハビリテーション、解剖、生理	久松	講義室6B
2回	5	9	木	4	摂食嚥下障害　リハビリテーション、解剖、生理	久松	講義室6B
3回	5	9	木	5	摂食嚥下障害　リハビリテーション、解剖、生理	久松	講義室6B
4回	5	9	木	6	摂食嚥下障害　小児	久松	講義室6B
5回	5	15	水	7	摂食嚥下障害　小児	久松	講義室6B
6回	5	16	木	4	摂食嚥下障害　原因疾患	久松	講義室6B
7回	5	16	木	5	摂食嚥下障害　原因疾患	久松	講義室6B
8回	5	16	木	6	摂食嚥下障害　診査・診断	久松	講義室6B
9回	5	22	水	7	摂食嚥下障害　診査・診断	久松	講義室6B
10回	5	23	木	4	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
11回	5	23	木	5	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
12回	5	23	木	6	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
13回	5	30	木	4	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
14回	5	30	木	5	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
15回	5	30	木	6	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	6	6	木	5	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
17回	6	6	木	6	摂食嚥下障害　対応方法	久松	講義室6B
18回	6	6	木	7	摂食嚥下障害　リスク管理	久松	講義室6B
19回	6	20	木	6	摂食嚥下障害　リスク管理	久松	講義室6B
20回	6	20	木	7	摂食嚥下障害　訪問	久松	講義室6B
21回	6	27	木	7	摂食嚥下障害　緩和ケア	久松	講義室6B
22回	7	11	木	6	摂食嚥下障害　人生会議	久松	講義室6B
23回	7	11	木	7	摂食嚥下障害　症例検討	久松	講義室6B

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054623 DNGD33441990 社会歯科学/(Social dentistry)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
五月女さき子/sakiko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学教員室/095-819-7663(内 7663)/随時

担当教員(オムニバス科目等)	五月女さき子、川下由美子

授業の概要
社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について学習する。

授業到達目標	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
一般目標 GIO: 社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について学び理解する。	B-2
個別行動目標 SBOs:	
1. 保健・医療施策を説明できる。	B-2-2)、B-3-2)
2. 医療保険制度と国民医療費を説明できる。	B-2-2)
3. 社会保障制度(社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生)を説明できる。	B-2-2)

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔科学に関する臨床的知識を身につけている

授業方法(学習指導法)
講義形式

授業内容
1 回目:社会保障 (五月女)
2 回目:社会保障と医療経済 (五月女)
3 回目:医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム (川下)
4 回目:医事衛生法規 1 (川下)
5 回目:医事衛生法規 2 (川下)
6 回目:衛生行政とその他の衛生法規 (川下)
7 回目:社会保障(社会福祉)(五月女)
8 回目:社会保障(公的扶助) (五月女)

キーワード	社会保障、医療経済、歯科関連の法律と制度
教科書・教材・参考書	国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ) 口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版) 衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	共用試験 CBT に合格することをもって修了認定とする. 評価は CBT の得点に出席やレポート点を加味して行う
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・五月女 さき子/現役歯科医師が大学病院における実務経験/社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について指導する。 ・川下 由美子/現役歯科医師が大学病院における実務経験/社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について指導する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	4	社会保障	五月女	講義室6B
2回	4	3	水	5	社会保障と医療経済	五月女	講義室6B
3回	4	10	水	4	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム	川下	講義室6B
4回	4	10	水	5	医事衛生法規1	川下	講義室6B
5回	4	17	水	4	医事衛生法規2	川下	講義室6B
6回	4	17	水	5	衛生行政とその他の衛生法規	川下	講義室6B
7回	5	29	水	1	社会保障(社会福祉)	五月女	講義室6B
8回	5	29	水	2	社会保障(公的扶助)	五月女	講義室6B

関連臨床医学（3 年次生）

（1）内科学総論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・197
（薬学部共修）
（2）外科学総論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
（薬学部共修）
（3）内科学各論　内科学１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
（薬学部共修）　内科学３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205
血液学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
（4）外科学各論　外科学１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
外科学２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
（5）隣接医学Ⅰ　皮膚科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・213
（薬学部共修）　眼科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
耳鼻咽喉科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
整形外科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・219
形成外科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
（6）隣接医学Ⅱ　小児科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
（薬学部共修）　産科婦人科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
泌尿器科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・227
精神神経科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・229
脳神経外科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・231
（7）隣接医学Ⅲ　人類遺伝学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・233

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 木・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084501 DNGD33171992 内科学総論/ (Internal Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
松島加代子/kmatsu@nagasaki-u.ac.jp/病院消化器内科医局/095-819-7481(内 7481)/10:00～16:00

担当教員(オムニバス科目等)	尾長谷 靖、石本 裕士、髙園 貴弘、行徳 宏、辻清和、三馬 聡、小澤 栄介、松島 加代子、橋口 慶一、福島真典、田中健之、柿内 聡志

授業の概要

歯科医・薬剤師として必要な内科学総論(呼吸器、消化器、腎臓分野、感染症学)

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科医・薬剤師として最低限必要な内科疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓疾患)に関する知識を習得する。
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:
内科学および下記の各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。
１呼吸器、２消化器、３腎・泌尿器
【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
プリント、スライドを使った講義が主体である。

授業内容

1 回目 感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について
2 回目 感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について
3 回目 ウイルス性肝疾患
4 回目 肝硬変と肝癌
5 回目 腎臓内科総論、腎臓の解剖と機能
6 回目 腎不全
7 回目 腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質性腎炎
8 回目 上部消化管疾患
9 回目 下部消化管疾患
10 回目 胆膵疾患
11 回目 間質性肺疾患
12 回目 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患
13 回目 呼吸器感染症
14 回目 肺癌

キーワード	
教科書・教材・参考書	(参考書として記載しますが、基本的には不要です) 教科書 わかりやすい内科学(第 5 版) 井村裕夫編集 (文光堂) 参考書 内科学書(改訂第 9 版):全 6 冊＋別巻(中山書店)
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて評価する。出題範囲は基本的に講義内容あるいは配布資料の範囲。 再試は1回行う。
受講要件(履修条件)	なし

備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・尾長谷 靖、石本 裕士、髙園 貴弘、行徳 宏／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（呼吸器疾患）について教授する。 ・小澤 栄介、三馬 聡、松島 加代子、橋口 慶一、福島 真典／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（消化器疾患）について教授する。 ・辻 清和／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（腎臓疾患）について教授する。 ・田中 健之、柿内 聡志／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（感染症学）について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	11	木	Ⅰ	感染症学 感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について	柿内　聡志	講義室3A
2回	4	18	木	Ⅰ	感染症学 感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について	田中　健之	講義室3A
3回	4	25	木	Ⅰ	消化器病学 ウイルス性肝疾患	三馬　聡	講義室3A
4回	5	2	木	Ⅰ	消化器病学 肝硬変と肝癌	福島　真典	講義室3A
5回	5	9	木	Ⅰ	腎臓病学 腎臓内科総論、腎臓の解剖と機能	辻 清和	講義室3A
6回	5	16	木	Ⅰ	腎臓病学 腎不全	辻 清和	講義室3A
7回	5	23	木	Ⅰ	腎臓病学 腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質性腎炎	辻 清和	講義室3A
8回	5	30	木	Ⅰ	消化器病学 上部消化管疾患	松島　加代子	講義室3A
9回	6	6	木	Ⅰ	消化器病学 下部消化管疾患	橋口　慶一	講義室3A
10回	6	13	木	Ⅰ	消化器病学 胆膵疾患	小澤　栄介	講義室3A
11回	6	20	木	Ⅰ	呼吸器病学 間質性肺疾患	石本　裕士	講義室3A
12回	6	27	木	Ⅰ	呼吸器病学 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患	尾長谷　靖	講義室3A
13回	7	4	木	Ⅰ	呼吸器病学 呼吸器感染症	高園 貴弘	講義室3A
14回	7	11	木	Ⅰ	呼吸器病学 肺癌	行徳　宏	講義室3A
15回	7	11	木	Ⅱ	内科学総論　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 金・1	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084502 DNGD33181992 外科学総論/(Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
野中 隆/tnonaka@nagasaki-u.ac.jp/病院 11 階腫瘍外科医局/095-819-7304(内 7304)/17:00～18:00 またはメールにて

担当教員(オムニバス科目等)	橋本泰匡、野中 隆、富永哲郎、松本桂太郎、宮崎拓郎、荒井淳一、大坪竜太、小畑智裕、山根裕介

授業の概要
外科学総論としての外科診断学、腫瘍学、創傷治癒、免疫学、感染学、栄養学の系統的講義を通じて、外科患者の診断、治療に対する理解を深める。

授業到達目標
一般目標 GIO:
外科の歴史、損傷と創傷治療、炎症と感染、腫瘍、外科栄養、免疫、体液変動、老人外科、小児外科の各分野について、基本的知識を習得し、理解する。
個別行動目標 SBOs:
1. 外科学の概念を説明できる。
2. 外科治療の中心である手術などの侵襲に伴う病態への対応を説明できる。
3. 現代外科学の主な対象である外傷・腫瘍の外科および先端にある臓器移植、また、老人外科、小児外科に関する概要を説明できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
E-6:医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

PC プレゼンテーションによる講義が中心となる。また理解を深めるため、必要に応じてプリントの配布も行うこともある。

授業内容

1 回目 外科と栄養:(1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養
血液凝固異常と輸血:血液製剤の種類と特徴
外科的侵襲と生体反応:(1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程
2 回目 腫瘍:(1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査
(5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学
3 回目 外科の歴史と外科医の立場:(1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見
4 回目 炎症と感染:(1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症
(5)外科的特殊感染症 (6)治療
5 回目 臓器移植・人工臓器:呼吸器系の移植と人工臓器
6 回目 外科と免疫:(1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染
7 回目 老人外科・小児外科の特徴:(1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理
(4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴
8 回目 損傷と創傷治療:(1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子
(5)創傷管理の実際
9 回目 体液と変動の輸液:(1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法

キーワード	外科、腫瘍学、免疫学、炎症、感染、栄養、創傷治癒
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布することあり。
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。再試は1回行う。 出席率も考慮する。
受講要件(履修条件)	なし

備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において役に立つ外科的な基礎知識を習得することを目的とします。
実務経験のある教員による授業科目	・富永　哲郎（第 1 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・野中　隆（第 2 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・橋本　泰匡（第 3 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・宮崎　拓郎（第 4 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・松本　桂太郎（第 5 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・小畑　智裕（第 6 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・山根　裕介（第 7 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・荒井　淳一（第 8 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・大坪　竜太（第 9 回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	1	外科と栄養 (1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血 (1)血液製剤の種類と特徴	富永哲郎	講義室3A
2回	4	12	金	1	腫瘍 (1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学	野中　隆	講義室3A
3回	4	19	金	1	外科の歴史と外科医の立場　問診と外科的診察法 (1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見	橋本泰匡	講義室3A
4回	4	26	金	1	炎症と感染 (1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療 外科的侵襲と生体反応 (1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程	宮崎拓郎	講義室3A
5回	5	10	金	1	臓器移植・人工臓器 呼吸器系の移植と人工臓器	松本桂太郎	講義室3A
6回	5	17	金	1	外科と免疫 (1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染	小畑智裕	講義室3A
7回	5	24	金	1	老人外科・小児外科の特徴 (1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴	山根裕介	講義室3A
8回	5	31	金	1	損傷と創傷治療 (1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際	荒井淳一	講義室3A
9回	6	7	金	1	体液の変動と輸液 (1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法	大坪竜太	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 日程表のとおり	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084511 DNGD33191992 内科学各論(内科学 1)/(Internal medicine,Spescial Lecture)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川上 純/atsushik@nagasaki-u.ac.jp/病院 9 階第一内科教授室/095-819-7260(内 7260)/金曜 午後			
担当教員(オムニバス科目等)	岩本直樹、堀江一郎、鎌田昭江、古賀智裕 辻野 彰、宮崎禎一郎		

授業の概要

内科学の基礎知識を理解することを目標とする。特に、以下のテーマに基づいて、歯科口腔症状所見との関連にも重点をおいて講義する。内科学について、代表的な疾患の理解や歯科口腔症状所見との関連に重点をおいて講義する。

授業到達目標	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
一般目標 GIO: 内科学の基礎知識を理解する。将来、実際の臨床の場で役立つような知識・判断力を身に付けさせる。	
個別行動目標 SBOs: 受講生がリウマチ性疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患の概念を理解し、その病態を説明できるようにする。	【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式にて行う。プリントの配布、スライド及び液晶プロジェクターを使用して講義する。

授業内容

1 回目 リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-1。

2 回目 内分泌疾患の基礎と臨床について、バセドウ病などの内分泌疾患の内科的知識を講義して、歯科領域の注意点などを理解させる。

3 回目 糖尿病の成因・治療について、糖尿病の内科的知識を講義して歯科領域の注意点などを理解させる。

4 回目 リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-2。

5 回目 臨床神経学概説1:歯科領域を中心に、脳神経の解剖・生理学をとうして、神経内科学の基礎知識を講義する。

6 回目 臨床神経学概説2:脳血管障害で使用される抗凝固剤、抗血小板剤の知識を深く理解させる。

キーワード	リウマチ性疾患、臨床神経学、糖尿病、内分泌疾患
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験(講義担当者が各々試験問題を作成)を実施する。出席率、追試験、再試験は学部規則の沿って厳格に行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	将来、実際の臨床の場で役立つような内科学の基礎知識が身につくことを心がけて講義します。
実務経験のある教員による授業科目	・古賀 智裕 (第 1 回目) ／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・堀江 一郎 (第 2 回目) ／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・鎌田 昭江 (第 3 回目) ／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・岩本 直樹 (第 4 回目) ／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・宮崎 禎一郎 (第 5 回目) ／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・辻野 彰 (第 6 回目) ／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-1	古賀智裕	講義室3A
2回	10	7	月	I	内分泌疾患 主な内分泌疾患の診断・治療について	堀江一郎	講義室3A
3回	10	21	月	I	糖尿病 糖尿病の成因・治療について	鎌田 昭江	医学部 第4講義室
4回	10	28	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-2	岩本直樹	講義室3A
5回	11	22	金	V	神経疾患 臨床神経学概説1：歯科領域の神経解剖	宮崎禎一郎	薬学部 講義室1C （C棟1階）
6回	11	29	金	V	神経疾患 臨床神経学概説2：脳血管障害について	辻野　彰	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 月Ⅰ、月Ⅳ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084512 DNGD33191992 内科学各論(内科学 3)/(Internal medicine,Cardiovascular disease)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 河野浩章/hkawano@nagasaki-u.ac.jp/循環器内科医局/095-819-7288(内 7288)/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤大輔、米倉剛、荒川修司、河野浩章、池田聡司		

授業の概要

歯学部学生にあっては、循環器疾患を理解し、循環器疾患を有する患者に歯科治療を行うとどのような影響があるのか、歯科診療に際して注意すべき点など、実際の歯科診療に必要な知識を学習して欲しい。薬学部にあっては、循環器疾患を理解し、治療薬として使われる薬剤の作用機序を理解し薬剤に対する理解を深めて欲しい。

授業到達目標	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
一般目標 GIO: 循環器内科学の医療従事者としての一般的な知識を習得することが第一の目標となる。循環器疾患を有する患者への歯科治療や投薬治療を行う際に、歯科医師・薬剤師として知っておくべき知識、注意が必要な点、治療薬物の薬効について習得する。	
個別行動目標 SBOs: 循環器、内科学、内科医療および加齢・老年病学の病態生理・疾患を理解し概説できる。	【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
基本的には板書およびパソコンにて講義するが、話り尽くせない分はプリントを活用する。

授業内容

1 回目 弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎

2 回目 虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞

3 回目 心電図・不整脈:期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD

4 回目 心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心不全

5 回目 高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症

キーワード	
教科書・教材・参考書	参考書 病気がみえる vol.2 循環器 医療情報科学研究所 (編集)
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて行う。内容は講義した内容で客観問題(五肢択一または複択形式)。 60 点以上を合格とする。再試験は 1 回行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・佐藤 大輔 (第 1 回目) ／長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・米倉 剛 (第 2 回目) ／長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・荒川 修司 (第 3 回目) ／長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・河野 浩章 (第 4 回目) ／長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・池田 聡司 (第 5 回目) ／長崎大学病院における診療業務／循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	18	月	Ⅰ	弁膜疾患・先天性心疾患：僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、 大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、 心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎	佐藤大輔	講義室3A
2回	11	25	月	Ⅳ	虚血性心疾患：狭心症、心筋梗塞	米倉剛	講義室3A
3回	12	2	月	Ⅰ	心電図・不整脈：期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、 人工ペースメーカー、ICD	荒川修司	講義室3A
4回	12	9	月	Ⅰ	心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全：心筋炎、肥大型心筋症、 拡張型心筋症、心不全	河野浩章	講義室3A
5回	12	16	月	Ⅰ	高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患：本態性高血圧症、肺高血圧症、 大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症	池田聡司	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 月・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084513 DNGD33191992 内科学各論(血液学)/(Internal medicine, Hematology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
安東 恒史/k-ando@nagasaki-u.ac.jp/原爆後障害医療研究所・血液内科/直通 095-819-7111、大学病院・血液内科/直通 095-819-7380/木曜日 13:00～16:00

担当教員(オムニバス科目等)	安東 恒史

授業の概要

1.血液の構成成分およびその機能、さらに骨髄における造血について理解する。
2.止血機構について理解する。
3.血液疾患の中心である、貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患について病態や治療を理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
1.歯科医(薬剤師)にとって診療上必要と考えられる血液学について理解する。
2.血液の構成成分とその機能について説明できる。止血機構について説明できる。
3.代表的血液疾患の病態について理解する。
個別行動目標 SBOs:
血液内科学分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式にて行う。プリントを配布し、スライドを用いて講義する。

授業内容

1 回目 造血のしくみ(造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能)
血球の種類と機能、貧血性疾患
2 回目 造血器悪性腫瘍 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)
3 回目 止血の仕組み、出血性疾患

キーワード	造血幹細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫、止血・凝固異常、化学療法、造血幹細胞移植
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 血液・造血器疾患学(小澤敬也ほか、メジカルビュー社) 2. カラーテキスト血液病学(木崎 昌弘ほか、中外医学社) 3. 血液学(三輪史朗ほか、文光堂) 講義資料を LACS に掲載する。
成績評価の方法・基準等	筆記試験による定期試験で評価する。 再試験は、提出されたレポートの評価による(1 回行う)。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	正常血球の種類とその機能について確認しておくと、症状や病態に関する理解が深まる。
実務経験のある教員による授業科目	・安東 恒史／長崎大学病院における診療業務／診療上必要な血液学及び血液疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点の理解を促す。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	23	月	I	造血のしくみ（造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能） 血球の機能、貧血性疾患	安東　恒史	講義室3A
2回	1	6	月	I	造血器悪性腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫） 病態・臨床的特徴・治療	安東　恒史	講義室3A
3回	1	20	月	I	止血の仕組み 出血性疾患の病態、疾患	安東　恒史	講義室3A
4回	1	27	月	I	内科学各論　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 月・4	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084521 DNGD33201992 外科学各論(外科学 1)/(Surgery detailed explanations, Surgical Oncology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 野中 隆/tnonaka@nagasaki-u.ac.jp/病院 11 階腫瘍外科医局/095-819-7304(内 7304)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	松丸一朗、中路 俊、土肥良一郎、宮崎拓郎、山根裕介、大坪竜太		

授業の概要

外科各論としての心蔵外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科について、その基本的な事項を学ぶ。

授業到達目標

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:
外科学の各分野の基本事項について理解すること

個別行動目標 SBOs:

1. 一般・消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外で扱う主な疾患に対する知識を説明できる。
2. 各疾患に対する診断方法、および外科的なアプローチの概要を説明できる。 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

PC プレゼンテーションによる講義が中心となる。また理解を深めるため、必要に応じてプリントの配布も行うこともある。

授業内容

1 回目 心蔵外科:先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療
2 回目 血管外科:急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療
3 回目 呼吸器外科(1):縦隔・胸壁の外科
4 回目 呼吸器外科(2): 肺・胸膜の外科
5 回目 小児外科:先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療
6 回目 呼吸器外科(3):肺移植外科
7 回目 乳腺外科:乳癌の診断と治療

キーワード	食道外科、心蔵外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布することあり。
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。 再試験は1回行う。 出席率も考慮する。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において知っておくべき外科的な疾患とその治療内容を習得することを目的とします。
実務経験のある教員による授業科目	・松丸一朗、中路 俊(第 1・2 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・土肥 良一郎(第 3・4 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・山根 裕介(第 5 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・宮崎拓郎(第 6 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・大坪 竜太(第 7 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	4	心臓外科 先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療	松丸一朗	講義室3A
2回	10	7	月	4	血管外科 急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療	中路　俊	講義室3A
3回	10	21	月	4	呼吸器外科 縦隔・胸壁の外科	土肥良一郎	医学部 第4講義室
4回	10	28	月	4	呼吸器外科 肺・胸膜の外科	土肥良一郎	講義室3A
5回	11	5	月	4	小児外科 先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療	山根裕介	講義室3A
6回	11	11	火	4	呼吸器外科 肺移植外科	宮崎拓郎	講義室3A
7回	11	18	月	4	乳腺外科 乳癌の診断と治療	大坪竜太	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 月・4	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084522 DNGD33201992 外科学各論(外科学 2)/(Surgery detailed explanations, Gastrointestinal Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
江口 晋/ sueguchi@nagasaki-u.ac.jp/病院移植・消化器外科医局/095-819-7316(内 7316)/9:00～17:00

担当教員(オムニバス科目等)	今村一歩、木下綾華、小林慎一朗、村上俊介、井上悠介、原貴信、久芳さやか

授業の概要
外科治療の対象となる代表的な消化器疾患について講義する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
外科治療の対象となる代表的な消化器疾患を学習し、臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる一般的知識を習得する。臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる代表的な消化器系外科的疾患について、基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深める。消化器悪性腫瘍、特に食道、胃、大腸などの管腔臓器、ならびに肝臓、胆道、膵臓、甲状腺などの実質臓器に発生する腫瘍の病態を理解し、その診断・治療過程を学ぶ。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:
1)消化器系悪性腫瘍、特に胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌の診断と治療について理解し、説明できる。
2)臨床的に頻度の高い疾患である胆石症、消化性潰瘍、良性食道疾患の診断と治療について理解し、説明できる。

【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
各疾患についてプリント資料、スライド、および術式についてはビデオも用いながら総括的な講義を行う。

授業内容
1 回目 胆嚢・胆道疾患
2 回目 膵疾患
3 回目 食道疾患
4 回目 胃疾患
5 回目 肝疾患
6 回目 大腸・小腸疾患
7 回目 甲状腺疾患

キーワード	胆石症、胆道癌、膵炎、膵癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、肝移植、甲状腺
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(12 版、医学書院) 監修:北島政樹
成績評価の方法・基準等	講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。 再試験は1回行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	特になし
実務経験のある教員による授業科目	・今村 一歩(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・木下 綾華(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・小林 慎一朗(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・村上 俊介(第 4 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・原 貴信(第 5 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・井上 悠介(第 6 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・久芳 さやか(第 7 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	25	月	4	胆嚢・胆道疾患： 胆石と胆道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	今村一歩	講義室3A
2回	12	2	月	4	膵疾患： 膵炎と膵癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	木下　綾華	薬学部 講義室1C (C棟1階)
3回	12	9	月	4	食道疾患： 食道疾患、特に食道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林慎一朗	薬学部 講義室1C (C棟1階)
4回	12	16	月	4	胃疾患： 胃疾患、特に胃癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	村上俊介	講義室3A
5回	12	23	月	4	肝疾患： 肝癌や肝移植の適応となる疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	原　貴信	講義室3A
6回	1	6	月	4	大腸・小腸疾患： 大腸癌および小腸疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	井上悠介	講義室3A
7回	1	20	月	4	甲状腺疾患： 外科治療の対象となる甲状腺疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	久芳さやか	講義室3A
8回	1	27	月	4	外科学各論　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 水・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084531 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(皮膚科学)/(Relational medicine Ⅰ, Dermatology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
竹中 基/ m-take@nagasaki-u.ac.jp/病院皮膚科医局/095-819-7333(内 7333)/17:00～19:00 ※訪問の際は事前連絡すること。

担当教員(オムニバス科目等)	竹中 基、鍬塚さやか、小池雄太

授業の概要

歯科医師として必要な皮膚科疾患の知識の習得。

授業到達目標

一般目標 GIO:
皮膚疾患の本質を理解し、歯科医にとって重要な皮膚粘膜疾患についての知識を深めるために正常皮膚の機能を学習する。さらに発疹記載学、日常遭遇することの多い歯科領域に関連の深い皮膚粘膜疾患を中心に、病因、病態生理、臨床所見、治療法を理解する。

個別行動目標 SBOs:
1）正常皮膚の構造と機能を理解する。
2）皮膚粘膜疾患の皮疹、粘膜疹の記載方法を習得する。
3）歯科領域と関連の深い皮膚粘膜疾患について理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドによる講義。

授業内容

1 回目 歯科金属アレルギーと皮膚疾患
2 回目 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー
3 回目 膠原病、腫瘍、水疱症と口腔症状

キーワード	
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験 有
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・小池 雄太(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。 ・竹中 基(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。 ・鍬塚 さやか(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	水	I	皮膚病と口腔粘膜 歯科金属アレルギーと皮膚疾患	小池雄太	講義室3A
2回	10	9	水	I	アレルギー 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー	竹中　基	講義室3A
3回	10	16	水	I	皮膚腫瘍 膠原病、腫瘍、水疱症と口腔症状	鍬塚さやか	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 木・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084532 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(眼科学)/(Relational medicine Ⅰ, Ophthalmology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 上松 聖典 /uematsu@nagasaki-u.ac.jp/病院 10 階眼科医局/095-819-7345(内 7345)/水曜 14:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	上松 聖典		

授業の概要

視覚に関係する器官の解剖と生理を解説し、眼科領域の代表的な疾患を紹介する。

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

代表的な眼疾患について理解する。眼科救急疾患を理解する。

個別行動目標 SBOs:

眼科学の概要を身につける。 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

医療従事者として知っておくべき眼科疾患を習得する。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドによる講義。

授業内容

1 回目 眼球及び視覚伝達路の構造とその機能、前眼部疾患について修得する。
2 回目 眼の発生、網膜疾患について修得する。
3 回目 緑内障及びその他の代表的な眼疾患について修得する。

キーワード	眼、視覚、視路
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書1. 病気がみえる vol.12 眼科 医療情報科学研究所 2. 標準眼科学 第 14 版 医学書院 3. 現代の眼科学 第 13 版 金原出版
成績評価の方法・基準等	レポート評価の6割以上をもって合格とする。出席率、追試験、再試験は学部規則に沿って厳格に行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	ぜひ興味をもって受講して頂きたいと思います。
実務経験のある教員による授業科目	上松聖典／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な眼科疾患について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	12	木	Ⅰ	眼球及び視覚伝達路の構造とその機能、前眼部疾患について修得する。	上松聖典	講義室3A
2回	12	19	木	Ⅰ	眼の発生、網膜疾患について修得する。	上松聖典	講義室3A
3回	1	9	木	Ⅰ	緑内障及びその他の代表的な眼疾患について修得する。	上松聖典	講義室3A
4回	1	16	木	Ⅰ	隣接医学Ⅰ　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 水・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084533 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(耳鼻咽喉科学)/(Relational medicine Ⅰ, Otorhinolaryngology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 熊井良彦/ ykumai426@nagasaki-u.ac.jp/病院耳鼻咽喉科医局/095-819-7349(内 7349)/火曜 19:30			
担当教員(オムニバス科目等)	大野純希、髙島寿美恵、前田耕太郎		

授業の概要

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の解剖および生理、疾患に対する理解を深め、将来の歯科医師・薬剤師になどの医療従事者として着任した際に役に立つ基礎としての医学知識を構築することを目標とする。

授業到達目標

一般目標 GIO:

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の解剖および生理、疾患に対する理解を深め、将来の歯科医師・薬剤師になどの医療従事者として着任した際に役に立つ基礎としての医学知識を構築することを目標とする。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

個別行動目標 SBOs:

1. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の解剖についてひととおり説明することができる。
2. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の生理についてひととおり説明することができる。
3. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の疾患について学習し、適切な場で耳鼻咽喉科医に対し適切な症例に関するコンサルテーションを行うことができる。
4. 耳鼻咽喉科の領域について広範囲であるということを認識することができる。
5. 耳鼻咽喉科の内科的側面および外科的側面について講義を通じて掴む事ができる。
6. 耳鼻咽喉科と歯科との連携について、講義を通じて考えることができる。
7. 耳鼻咽喉科と薬剤師との連携について、講義を通じて考えることが得きる。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

資料はプリントの配布。講義はスライド、ビデオなどを供覧し行う。

授業内容

1 回目 耳の構造と聞こえのしくみ・疾患
2 回目 鼻、副鼻腔の構造と疾患
3 回目 頭頸部がんの診断と治療

キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 STEP 耳鼻咽喉科学(海馬書房)・新耳鼻咽喉科学(南山堂)
成績評価の方法・基準等	授業に対する積極的な取組状況30点、レポート70点
受講要件(履修条件)	学務に一任する。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・大野 純希(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。 ・髙島 寿美恵(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。 ・前田 耕太郎(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	23	水	I	耳の構造ときこえの仕組み・疾患	大野純希	医学部 第3講義室
2回	10	30	水	I	鼻、副鼻腔の構造と疾患	高島寿美恵	講義室3A
3回	11	6	水	I	頭頸部がんの診断と治療	前田耕太郎	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 水Ⅰ、月Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084534 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(整形外科学)/(Relational medicine Ⅰ, Orthopedics)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松林昌平/bayazarov@gmail.com/病院整形外科医局/095-819-7321(内 7321)/16:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	松林 昌平、白石 和輝、青木 龍克		

授業の概要

主要整形外科疾患の病態の把握。骨・関節の疾患の病態の把握。

授業到達目標

一般目標 GIO:

運動器疾患の正確な診断と理解を深める。

個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

１）整形外科が扱う疾患を理解する。 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

２）それぞれの疾患の治療法を理解する。

３）未来の人口動態より自分たちの置かれている状況を想像する。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドを使用して行う。

授業内容

1 回目 運動器疾患の総論 (松林)
2 回目 上肢の主要な外傷と疾患の解説 (青木)
3 回目 下肢の主要な外傷と疾患の解説 (白石)

＊担当教員は変更の可能性あり

キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 標準整形外科学:医学書院 井樋栄二他監修
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験は1回行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	LACS に掲載されている資料を勉強して下さい。
実務経験のある教員による授業科目	・松林 昌平(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／主要な整形外科疾患の病態や診断について教授する。 ・青木 龍克(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／主要な整形外科疾患の病態や診断について教授する。 ・白石 和輝(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／主要な整形外科疾患の病態や診断について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	13	水	I	整形外科総論 運動器疾患の総論	松林	講義室3A
2回	11	20	水	I	上肢の障害 上肢の主要な外傷と疾患の解説	青木	講義室3A
3回	11	25	月	I	下肢の障害 下肢の主要な外傷と疾患の解説	白石	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 水・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084535 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(形成外科学)/(Relational medicine Ⅰ, Plastic and Reconstructive Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 樫山 和也/ kkashiyama@nagasaki-u.ac.jp /病院形成外科医局/095-819-7327(内 7327)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	樫山 和也、岩尾 敦彦		

授業の概要

身体外表の異常を機能的・形態的に再建し、患者の社会復帰を促すという形成外科治療についての理解を深めさせる。第1回目では創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料について講義する。第2回目では形成外科概論、形態と機能との関わり組織移植の基礎と応用について講義を行う。

授業到達目標

一般目標 GIO:

形態異常のハンディキャップとしての特殊性をよく理解し、どのようなものが形態異常の原因となりうるのかを理解する。また、創傷治癒と再生医療の基礎と形成外科における臨床への応用、また、組織移植術に対する基礎的知識の理解とその応用、医療材料の特徴と問題点などについて深い知識の習得を目的とする。

個別行動目標 SBOs:

１）形成外科学の概念を理解し、各自の専門分野に繋げる。

２）形成外科の対象疾患と治療法を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
E-6

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

レジュメを LACS に掲載し、パワーポイントを用いた講義を行う。

授業内容

1 回目 創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料

2 回目 形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用

キーワード	
教科書・教材・参考書	標準形成外科学 第 7 版:平林慎一・鈴木茂彦・岡崎 睦 編集、医学書院 TEXT 形成外科学 第 3 版:波利井清紀 監修、 南山堂
成績評価の方法・基準等	出席率及びレポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・樫山 和也(第1回目)／長崎大学病院における診療業務／創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料について教授する。 ・岩尾 敦彦(第2回目)／長崎大学病院における診療業務／形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	4	水	I	創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料	樫山	講義室3A
2回	12	11	水	I	形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用	岩尾	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 月・Ⅳ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084541 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(小児科学)/(Relational medicine Ⅱ, Pediatrics)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊達木澄人/ sdateki1@nagasaki-u.ac.jp /病院小児科医局/095-819-7298(内 7298)/			
担当教員(オムニバス科目等)	伊達木澄人(だてき すみと)、橋本邦生(はしもと くにお)		

授業の概要

小児は身体が単に小さいだけでなく、様々な生理的な特徴を持っています。その小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようになることを目標とします。

授業到達目標

一般目標 GIO:

小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようになることを目標とします。

個別行動目標 SBOs:

小児の特徴がわかり、救急処置について理解する。

小児の成長のメカニズムと成長障害について理解できる。

小児によく診られる感染症、染色体異常(ダウン症など)、骨系統疾患などの疾患について理解できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

プリントと PC プロジェクターを用いて解説を行う。

授業内容

1 回目 小児の身体的特徴、成長と発達について理解を深める。
2 回目 子どもの救急対応について理解を深める。
3 回目 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、染色体異常症、骨系統疾患について学ぶ。

キーワード	小児の特徴、救急処置、成長、発達、ダウン症、感染症
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準小児科学(医学書院)
成績評価の方法・基準等	3回の講義について筆記試験もしくはレポートで評価する。再試験は1回のみ行う。 出席率、追試験、は学部規則に沿って行う。 再試験は1回のみ行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	小児を診るうえで重要な項目であるので復習をしっかりすることが望ましい。
実務経験のある教員による授業科目	・伊達木澄人 (第 1、3回目)／長崎大学病院における診療業務／小児の身体的特徴、成長、発達、小児疾患(感染症、染色体異常症、骨系統疾患)について教授する。 ・橋本邦生(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／小児の救急対応について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	Ⅳ	こどもの特徴・成長発達 小児の身体的特徴、成長と発達について理解を深める。	伊達木澄人	講義室3A
2回	10	7	月	Ⅳ	こどもの救急 子どもの救急対応について理解を深める。	橋本邦生	講義室3A
3回	10	21	月	Ⅳ	こどもの疾患 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、染色体異常症、 骨系統疾患について学ぶ。	伊達木澄人	医学部 第4講義室

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 月・Ⅳ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084542 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(産科婦人科学)/(Relational medicine Ⅱ, Obstetrics and Gynecology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 三浦清徳/kiyonori@nagasaki-u.ac.jp/病院産婦人科医局/095-819－7363(内 7363)/平日 9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	梶村慈、小松菜穂子、川下さやか、三浦生子		

授業の概要

産科婦人科学は、生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍学および女性医学の 4 領域に大別される。本科目では、それぞれの領域における「基本的知識」の学習に主眼をおく。

○生殖医学

受精と着床に関する基本的知識を修得し、不妊治療を含む生殖補助医療の最新の話題も含めて学習する。

○周産期医学

妊娠・分娩のプロセスを理解し、その異常について学習する。

○婦人科腫瘍医学

女性性器の発生に関する基本的知識を修得し、各腫瘍における疫学、組織像について最近の話題を含めて学習する。

○女性医学

女性のライフステージの中で起こりうる疾患を理解し、健康管理に必要な知識(予防医学)を学習する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍医学、および女性医学についての基本的知識を修得する。

個別行動目標 SBOs:

1) 女性生殖器の解剖ならびに生理を理解する
2) 性周期、卵子の発育から妊娠の成立過程を理解する
3) 妊娠経過、正常分娩とその異常について理解する
4) 婦人科疾患、特に婦人科腫瘍について理解する
5) 女性のライフステージとヘルスケアについて理解する

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式で行う。スライドを中心に講義し、適宜プリントの配布等を行う。

授業内容

1 回目 婦人科腫瘍医学
女性性器の発生学とその異常(良性腫瘍、悪性腫瘍)

2 回目 周産期医学
妊娠から分娩までのプロセスとその異常

3 回目 生殖医学
受精、着床のプロセスとその異常

4 回目 女性医学
女性のライフステージとヘルスケア

キーワード	受精、着床、不妊症、妊娠、分娩、胎児、腫瘍、病理像、女性のヘルスケア
教科書・教材・参考書	特に指定しない。
成績評価の方法・基準等	筆記試験を実施する。 100 点満点で 60 点未満を不合格とする。 再試験は 1 回のみ行う。
受講要件(履修条件)	特にない。
備考(学生へのメッセージ)	生命の誕生からその終焉までを診る学問である。生殖や妊娠には倫理的問題が関わる場合も少なくない。新聞などのニュースでこれらの問題について触れ、そのことについて自分なりに考えることが重要である。
実務経験のある教員による授業科目	・川下さやか(第 1 回目)/長崎大学病院における診療業務/腫瘍医学に関する基本的知識を教授する。 ・小松菜穂子(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／周産期医学に関する基本的知識を教授する。 ・梶村慈(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／生殖医学に関する基本的知識を教授する。 ・三浦生子(第 4 回目)／長崎大学病院における診療業務／女性医学に関する基本的知識を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	28	月	Ⅳ	婦人科腫瘍学 女性性器の発生とその異常（良性腫瘍、悪性腫瘍）	川下さやか	講義室3A
2回	11	5	火	Ⅳ	周産期医学 妊娠から分娩までのプロセスとその異常	小松菜穂子	講義室3A
3回	11	11	月	Ⅳ	生殖医学 受精、着床のプロセスとその異常	梶村慈	講義室3A
4回	11	18	月	Ⅳ	女性医学 女性のライフステージとヘルスケア	三浦生子	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 木・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084543 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(泌尿器科学)/(Relational medicine Ⅱ, Urology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
大庭康司郎/ ohba-k@nagasaki-u.ac.jp /病院泌尿器科医局/095-819－7340(内 7340)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	大庭康司郎、中西裕美、中村裕一郎

授業の概要及び位置づけ

腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。まず、1 回目は総論として腎・泌尿器の解剖と機能および症候と検査法について講義する。2回目は一般的な泌尿器科疾患として、頻度の高いものを講義する。3回目は泌尿器科で特に主要な疾患である泌尿器腫瘍の診断と治療について講義する。これらを通じて、泌尿器科診療の概要と実際を学び、最終的に泌尿器科学の重要性を理解し、説明できるようになることをめざす。

授業到達目標
一般目標 GIO:
腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。
個別行動目標 SBOs:
1.腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる。
2.腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。
3.腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。
4.主要疾患の治療法を概説できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドとプリントを使った講義。

授業内容

1 回目 泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法)
・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる。
2 回目 腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など)
・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。
3 回目 泌尿器腫瘍の診断および治療
・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる。

キーワード	泌尿器科学、泌尿器科腫瘍、腎・尿路
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 泌尿器科学(メジカルビュー社) 2. 標準泌尿器科学(医学書院)
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。 評価で不可の場合は再度のレポート提出または口頭試問とする。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	できるだけ歯学や薬学の領域でも役に立つ講義内容にします。
実務経験のある教員による授業科目	・中村 裕一郎(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。 ・中西 裕美(第 2 回目／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。 ・大庭 康司郎(第 3 回目／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	21	木	I	泌尿器科学総論（腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法） ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる	中村裕一郎	講義室3A
2回	11	28	木	I	腫瘍以外の主な泌尿器科疾患（尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など） ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。	中西裕美	講義室3A
3回	12	5	木	I	泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる	大庭康司郎	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 水Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084544 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(精神神経科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neuropsychiatry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部・薬学部		科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小澤寛樹/ozawa07@nagasaki.-u.ac.jp/大学病院 12 階精神神経科教授室/095-819－7293(内 7293)/水曜 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小澤寛樹、今村 明		

授業の概要

プライマリケアでも重要で歯科領域において認められやすい精神と行動の障害に関する症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて学ぶ。(不安、うつ、統合失調症、認知症、小児・思春期における精神障害など)

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科領域にとって必要な精神科疾患の概要を紹介し、疾患及び罹患した患者への理解を深める。
個別行動目標 SBOs:
1) 精神現象の複雑さを知り、患者との十分な心のふれあいの大事さを理解する。
2) プライマリケアにおける精神医学的症状の把握に必要な情報を知り、精神障害への理解を深め、偏見・差別の軽減に努める。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドや VTR などを利用しながら講義を行うが、受講学生の授業への積極的参加を期待して討論を行う。

授業内容

1回目 「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」
メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説
統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療

2回目 「子どもにみられる精神障害」
小児・思春期における精神障害を中心に、症候や診断、治療について解説する

キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. ICD-10「精神・行動の障害」マニュアル(中根充文、岡崎祐士著、医学書院、1994) 2. 標準精神医学(野村総一郎、樋口輝彦著、医学書院)
成績評価の方法・基準等	出席とレポートにより評価する。 再試験:無
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	具体的な症例を挙げながら、精神科と歯科、薬科がどのように結びついてくるのか考察を深めていきます。
実務経験のある教員による授業科目	・今村 明(第2回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する。 ・小澤 寛樹(第1回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	18	水	I	「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」 メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説 統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療	小澤寛樹	講義室3A
1回	1	8	水	I	「子どもにみられる精神障害」 小児・思春期における精神障害を中心に症候や診断、治療について解説する	今村　明	講義室3A
1回	1	15	木	I	隣接医学Ⅱ　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2024 学期 4Q	曜日・校時 水・V	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084545 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(脳神経外科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neurosurgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
松尾 孝之/takayuki@nagasaki-u.ac.jp/病院 10 階脳神経外科医局 095-819-7375(内線 7375)/17:30～18:30

担当教員(オムニバス科目等)	吉田光一、氏福健太

授業の概要

歯科診療に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患に関して概説し、歯科、口腔外科領域に隣接する頭頸部の外傷、脳卒中、腫瘍、疼痛性疾患の病態、診断、治療法を学び、鑑別診断ができる能力を養う。

授業到達目標
一般目標 GIO:
頭部外傷、脳卒中などの脳神経外科的救急疾患についての基本的知識を得る。 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs:
1)頭頸部の腫瘍につき理解する。 【E-6】医師と連携するために必要な医学的知識
2)三叉神経痛に対する脳外科治療について理解する。

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

主として PC プレゼンテーションにて行う。

授業内容

1 回目 頭部外傷、脳卒中など脳神経救急疾患について概説する。
2 回目 三叉神経痛に対する脳外科治療について概説する。

キーワード	
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	出席率、レポート等により行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	急患等の対応のため、講義担当者が変更になることがある。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田 光一(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科領域に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患について病態、診断、治療法を教授する。 ・氏福 健太(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科領域に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患について病態、診断、治療法を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	27	水	V	頭部外傷 頭部外傷、脳卒中など脳神経外科救急疾患について概要する。	吉田光一	講義室3A
2回	12	4	水	V	三叉神経痛 三叉神経痛に対する脳神経外科治療について概説する。	氏福健太	講義室3A

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時　時間割を参照	必修選択　必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084551 DNGD33231992 隣接医学Ⅲ(人類遺伝学)/(Relational medicine Ⅲ, Human Genetics)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)　歯学部		科目分類　関連臨床医学	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
吉浦 孝一郎/ kyoshi@nagasaki-u.ac.jp / 原爆後障害医療研究所 /095―819―7118/月～金 9:00-17:00 (要アポイントメント)

担当教員(オムニバス科目等)	吉浦 孝一郎

授業の概要

歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。
(分子)遺伝学は，メンデルにより導入された抽象的な概念としての遺伝因子(メンデルのいう要素)が導入され，その具体的物質的基盤である分子の正体(DNA など)が判明することにより爆発的に発展した。遺伝学は，ゲノム情報の違いや変化(多様性、変異、進化)，遺伝情報の伝え方(伝達、形式)，遺伝情報の働き方(現象)などを扱う。これらは生命現象の基本であるため，遺伝学の素養を身につけることは生物学やその応用としての医学や歯学を学ぶためには必須である。また，ゲノム情報は医療に利用される時代が到来しており，医師・歯科医師に必須の知識となっている。ゲノム，DNA，遺伝子の構造から遺伝の仕組み，遺伝形式，遺伝子変異と疾患，多因子疾患の特徴およびゲノム医学について学ぶ。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。　【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:
1.遺伝子の概念やゲノムの概念について説明できる。　【C-2-2】遺伝子と遺伝
2.遺伝学がどのような学問であるのかについて説明できる。　【C-5-1】病因論と先天異常
3.遺伝学的疾患分類について説明できる。
4.遺伝子の構造と遺伝子発現システムについて説明できる。
5.遺伝の原理について説明できる。
6.遺伝子変異や多型についての概略やそれらを説明できる。
7.多因子疾患について概略を説明できる。
8.ミトコンドリア遺伝やエピジェネティクスについて説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
教科書は指定せず，授業計画に沿った説明やプリント、スライドで授業を進める。

授業内容
1 回目　分子遺伝学の基礎，メンデル遺伝の基礎
2 回目　メンデル遺伝病
3 回目　染色体異常，ミトコンドリア病，エピジェネティックスとその異常
4 回目　遺伝性疾患の分子病理 1
5 回目　遺伝性疾患の分子病理 2
6 回目　集団遺伝学の基礎
7 回目　多因子疾患
8 回目　まとめ

キーワード	ゲノム，ミトコンドリア，遺伝形式，遺伝子変異，多因子疾患，多様性
教科書・教材・参考書	教科書の指定はない。但し，参考書として以下を推薦する。 遺伝医学(羊土社，渡邊 淳 (著))，遺伝医学への招待 (改訂第6版，南江堂)
成績評価の方法・基準等	筆記試験で評価する。点数が 60 点以上を合格とする。再試(1 回)あり。 8 回の講義のうち，3 回欠席すれば自動的に失格とする。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	基本的知識は必要だが，その背景にある論理を理解してほしい。授業で説明した内容は，その都度復習しておくこと。高校生物未履修者は，該当分野を自習しておくこと。用語を覚えることだけでは，試験に合格することは難しいと考えられる。最も効率的な勉強法は，授業をよく聞いておくことである。 授業の進行具合に応じては，授業内容が変更されることもあるが，その都度指示する。
実務経験のある教員による授業科目	吉浦　孝一郎／病院での診療経験／診療経験を活かし，遺伝学に関する講義を実施する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	木	1	分子遺伝学の基礎，メンデル遺伝の基礎	吉浦	講義室3A
2回	10	8	火	6	メンデル遺伝病	吉浦	講義室3A
3回	10	17	木	1	染色体異常，ミトコンドリア病，エピジェネティックスとその異常	吉浦	講義室3A
4回	10	24	木	1	遺伝性疾患の分子病理1	吉浦	講義室6B
5回	10	31	木	1	遺伝性疾患の分子病理2	吉浦	講義室3A
6回	11	7	木	1	集団遺伝学の基礎	吉浦	講義室3B
7回	11	14	木	1	多因子疾患	吉浦	講義室3A
8回	11	19	火	6	隣接医学Ⅲ　まとめ	吉浦	講義室6B

統合科目（4 年次生、5 年次生）

（1）臨床解剖学　(4 年)・・・・・・・・・・・・・236
（2）スポーツ歯学　(4 年)・・・・・・・・・・・・・239
（3）総合歯科学Ⅰ　(4 年)・・・・・・・・・・・・・241
（4）総合歯科学Ⅱ　(5 年)・・・・・・・・・・・・・243
（5）臨床歯科器材・薬剤学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・245
（6）臨床薬理学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・248
（7）デジタルデンティストリー　(5 年)・・・・・・・・・・・・・250
（8）齲蝕・歯周病学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・252
（9）接着歯学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・255
(10) 顎口腔機能・解析学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・258
(11) 成育歯学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・261
(12) 口腔腫瘍学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・265
(13) 唾液腺疾患と障害　(5 年)・・・・・・・・・・・・・268
(14) 周術期口腔機能管理学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・271
(15) 生活習慣病と口腔　(5 年)・・・・・・・・・・・・・274
(16) 睡眠障害と疾患　(5 年)・・・・・・・・・・・・・276
(17) 離島歯科医学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・279
(18) 医療面接　(5 年)・・・・・・・・・・・・・282
(19) 医療倫理・プロフェッショナリズム論　(5 年)・・・・・・・・・・・・・285
(19) 急性期医療　(5 年)・・・・・・・・・・・・・288
(21) 在宅介護医療　(5 年)・・・・・・・・・・・・・290
(22) 統合医療学　(5 年)・・・・・・・・・・・・・292

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時 火 1～3	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054601 DNGD33241901 臨床解剖学/(Applied Anatomy)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室・医学部解剖実習室・講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	吉田教明 nori@、鳴瀬智史 naruse12@、山田朋弘 t-yamada@、鳥巣哲朗 torisu@、久松徳子 norinori@、角美佐 misa@、倉田眞治 kura@、三浦桂一郎 kei-miura@、小山田常一 oyamada@

授業の概要及び位置づけ

臨床に必要な局所解剖学的知識について、御遺体を用いて形態・構造および機能を理解し、臨床手技を解剖学的に理論化して把握することにより、臨床の現場における種々の問題に適切に対応できる能力を育成することを目的とする。

授業到達目標

一般目標 GIO:

臨床手技を解剖学的に理論化して把握するため、各系統解剖学の知識を統合することによって、臨床に必要な局所解剖学的知識を3次元的に理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(1) 頭蓋骨の観察及び計測ができる。	C-3-4)-(2)-①, E-2-1)-②・③・⑤・⑥, E-2-2)-①・④
(2) 神経ブロックの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(3)-③, C-3-4)-(5)-①～④, C-3-4)-(6)-①・③, E-2-1)-②～⑤, E-2-2)-⑨
(3) 気道確保、気管内挿管、および心臓マッサージの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(4)-②, C-3-4)-(8)-①, E-2-1)-①・④, E-2-2)-①～③・⑦
(4) 頸部郭清、唾液腺切除、顎切除の手技について解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(2)-①, C-3-4)-(3)-③, C-3-4)-(4)-②, C-3-4)-(5)-①～④, C-3-4)-(6)-①・③, C-3-4)-(7)-①
(5) 顎関節疾患について、解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-②・③・⑥
(6) 摂食・嚥下障害について、解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(3)-③, C-3-4)-(7)-①, E-2-1)-①・③～⑤・⑪・⑫, E-2-2)-①～③・⑧

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医学を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)

オムニバス方式で講義、実習を行う。実習は学生6～7人に御遺体1体を用いる。またパソコンや iOS アプリ等を用いた実習も同様に行う。教室作成の冊子を配付する。適宜、プリント、スライド等を使用する。遺体実習の際は、帽子、マスク、白衣、手袋、専用の上履きを必要とする。

授業内容

1-2 回目 臨床解剖学の目的と意義ならびにスケジュール紹介
3 回目 顎の成長:顎の成長と顎切り術の適応の講義
4 回目 全身管理:循環器の確保、気道確保の講義
5 回目 唾液腺等の切除:唾液腺の切除の適応と方法の講義
6 回目 頸部郭清の講義
7 回目 顎関節の運動:顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義及び実習
8 回目 摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造及び機能の講義
9 回目 頭頸部領域の画像解剖
10-11 回目 神経ブロック:三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの遺体実習
12-14 回目 唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遺体実習
15-17 回目 頸部郭清の遺体実習
18-20 回目 側頭下窩・顎関節周辺の遺体実習
21-23 回目 摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造の遺体実習
24-29 回目 臨床解剖学的に頭蓋骨を観る(1)～(2)

キーワード	マルチンの骨計測、神経ブロック、術式、緊急時の蘇生術、顎関節
教科書・教材・参考書	教科書等：歯科学生のための臨床解剖学ノート（教室作成編）、担当教員による配付資料 参考書：口腔解剖学全5巻（上條雍彦）等
成績評価の方法・基準等	課題レポートの評価に加えて、骨学実習や遺体実習への取り組みと理解度について総合的に評価を行い、成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。
受講要件(履修条件)	講義・実習には毎回出席し、ノートや記録を取ること。2年次の解剖学で修得した知識について復習して、遺体実習に望むこと。質問は講義実習中に随時受け付けるがオフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分に予習を行っておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田　教明／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・鳴瀬智史／歯科医師として大学病院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。 ・山田朋弘／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・鳥巣　哲朗／歯科医師として大学病院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。 ・久松　徳子／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・角　美佐／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・倉田眞治／歯科医師として大学病院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。 ・三浦桂一郎／歯科医師として大学病院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。 ・小山田　常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に実習指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	10	1	火	1～2	臨床解剖学の目的と意義ならびにスケジュール紹介	小山田常一	講義室6A
				3	顎の成長 顎の成長と顎切り術の適応の講義	吉田教明	講義室6A
4,5回	10	8	火	1	全身管理 循環器の確保、気道確保の講義	鳴瀬智史	講義室6A
				2	唾液腺等の切除 唾液腺（顎下腺・耳下腺）の切除の適応と方法の講義	鳴瀬智史	講義室6A
6～8回	10	15	火	1	頸部郭清の講義	山田朋弘	講義室6A
				2	顎関節の運動 顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義	鳥巣哲朗	講義室6A
				3	摂食・嚥下障害 摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造及び機能の講義	久松徳子	講義室6A
9～11回	10	22	火	1	頭頸部領域の画像解剖	角美佐	講義室6A
				2～3	神経ブロック 三叉神経等の神経ブロックの遺体実習	倉田眞治 小山田常一	解剖実習室（医）
12～14回	10	29	火	1～3	唾液腺（顎下腺・耳下腺）の切除の遺体実習	鳴瀬智史 三浦桂一郎 小山田常一	解剖実習室（医）
15～17回	11	12	火	1～3	頸部郭清の遺体実習	鳴瀬智史 三浦桂一郎 小山田常一	解剖実習室（医）
18～20回	11	19	火	1～3	側頭下窩・顎関節周辺の遺体実習 （顎動脈の枝、下顎神経の枝、舌骨上筋群）	鳥巣哲朗 小山田常一	解剖実習室（医）
21～23回	11	26	火	1～3	摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造の遺体実習 （舌・咽頭・喉頭の剖査）	小山田常一	解剖実習室（医）
24～26回	12	3	火	1～3	臨床解剖学的に頭蓋骨を観る(1) 下顎骨を含む頭蓋骨を臨床的意義を考慮しながら解剖学的に確認する	小山田常一	解剖実習室（歯）
27～29回	12	10	火	1～3	臨床解剖学的に頭蓋骨を観る(2) 下顎骨を含む頭蓋骨を臨床的意義を考慮しながら解剖学的に確認する	小山田常一	解剖実習室（歯）

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 月・3	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054626 DNGD33551990 スポーツ歯学/(Sports Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
鎌田幸治 / kamada@nagasaki-u.ac.jp /口腔管理センター /095-819-7679(内 7679)/月、火曜日 16:30-17:30

担当教員(オムニバス科目等)	鎌田幸治、原 昌士

授業の概要
歯と口腔の健康管理、顎口腔領域におけるスポーツ障害の予防、安全対策に対する知識を身につける。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科医学領域からスポーツ支援のあり方を理解するために、歯と口腔の健康管理、顎口腔領域におけるスポーツ障害の予防, 安全対策の知識を身につける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
スポーツのためのデンタルチェックを説明できる。	B1-②
スポーツ傷害およびその安全対策を説明できる。	E-2-4)-(2)-①
マウスガードの目的と効果を説明できる。	D1-1-③

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
スライドを用いた講義

授業内容

1 回目 スポーツ歯科医学とスポーツ医・科学の概要
2 回目 顎顔面領域のスポーツ傷害
3 回目 スポーツでの安全対策
4 回目 マウスガード
5 回目 スポーツのためのデンタルチェック、咬合と全身の関わり

キーワード	スポーツ歯学
教科書・教材・参考書	要説 スポーツ歯科医学第2版(医学情報社)
成績評価の方法・基準等	筆記試験またはレポートで評価する。
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	• 鎌田幸治／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における補綴治療の経験を元に、スポーツ歯学に関する講義を実施する。 • 原 昌士／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における口腔外科の経験を元に、スポーツ歯学に関する講義を実施する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	3	スポーツ歯科医学とスポーツ医・科学の概要	鎌田	講義室6A
2回	10	7	月	3	顎顔面領域のスポーツ傷害	原	講義室6A
3回	10	21	月	3	スポーツでの安全対策	鎌田	講義室6A
4回	10	28	月	3	マウスガード	鎌田	講義室6A
5回	11	11	月	3	スポーツのためのデンタルチェック、咬合と全身の関わり	鎌田	講義室6A

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 月･3	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054633 DNGD33801992 総合歯科学Ⅰ/(Integrative dentistryⅠ)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	永田康浩, 筑波隆幸, 小山田常一, 松下祐樹, 中村 渉, 伊藤公成, 藤田修一, 内藤真理子, 渡邊郁哉		

授業の概要

基礎系講義が一通り終了し, 臨床系講義もほぼ終了した時点で,

1) これまでの復習とまとめを歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準と関連づけて整理する.

2) 臨床実習に向けての知識の整理を行う

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

一般目標 GIO:

臨床実習に必要な基礎系及び臨床系知識を整理する. A～E 領域全ての範囲

個別行動目標 SBOs:

歯学教育コアカリキュラムを理解する

CBT の仕組みについて理解する

歯科医師国家試験出題基準を理解する

対応するディプロマポリシー

DP1 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

DP2 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義, グループ学習

授業内容

1 回目: 高学年次共修授業(医歯薬保)

2 回目: 高学年次共修授業(医歯薬保)

3 回目: 基礎系歯科学講義(薬理)

4 回目: 基礎系歯科学講義(解剖)

5 回目: 基礎系歯科学講義(組織)

6 回目: 基礎系歯科学講義(生理)

7 回目: 基礎系歯科学講義(生化)

8 回目: 基礎系歯科学講義(病理)

9 回目: 基礎系歯科学講義(細菌)

10 回目: 基礎系歯科学講義(理工)

キーワード	多職種連携, 歯学教育モデル･コア･カリキュラム, 共用試験, 歯科医師国家試験出題基準
教科書･教材･参考書	
成績評価の方法･基準等	課題の提出, 授業中の小テスト, 出席状況などを総合的に評価する
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	詳細は, 授業開始時に説明の予定。講義順が入れ替わることがあるため注意すること。
実務経験のある教員による授業科目	永田康浩／大学病院において現役医師として医療行為を行う／大学病院に勤務しつつ地域包括ケア教育センター長として多職種協働を教授している。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	11	月	V	高学年次共修授業(医歯薬保)	永田	講義室3A他
2回	11	18	月	V	高学年次共修授業(医歯薬保)	永田	講義室3A他
3回	11	25	月	3	基礎系歯科学講義(薬理)	筑波	講義室6A
4回	12	2	月	3	基礎系歯科学講義(解剖)	小山田	講義室6A
5回	12	9	月	3	基礎系歯科学講義(組織)	森石	講義室6A
6回	12	16	月	3	基礎系歯科学講義(生理)	中村	講義室6A
7回	12	23	月	3	基礎系歯科学講義(生化)	伊藤	講義室6A
8回	1	6	月	3	基礎系歯科学講義(病理)　※ 病理組織像を用いた演習の実施	藤田	実習室5B
9回	1	20	月	3	基礎系歯科学講義(細菌)	内藤	講義室6A
10回	1	27	月	3	基礎系歯科学講義(理工)	渡邊	講義室6A

※　１回目及び２回目は、医歯薬保の共修授業（90分）を実施します。

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054634 DNGD33811992 総合歯科学Ⅱ/(Integrative dentistry2)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 小山田常一, 藤田修一, 阿部薫明, 吉村篤利, 倉田眞治, 近藤好夫他

授業の概要

基礎, 臨床講義が一通り終了した時点で,
1) これまでの復習とまとめを歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準と関連づけて整理する.
2) 臨床実習に向けての知識の整理を行う

授業到達目標
一般目標 GIO:
臨床実習に必要な知識を整理する.
個別行動目標 SBOs:
歯学教育モデル・コア・カリキュラムを理解する
歯科医師国家試験出題基準を理解する
CBT の仕組みについて理解する

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A～E 領域全ての範囲

対応するディプロマポリシー
DP1 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
講義, グループ学習

授業内容

1 回目: 概要説明, 歯学教育コアカリキュラム, 国家試験出題基準について
2 回目: 総合問題演習 1
3 回目: 総合問題演習 2
4 回目: 総合問題演習 3
5 回目: 総合問題演習 4
6 回目: 総合問題演習 5
7 回目: 総合問題演習 6
8 回目: 総合問題演習 7

キーワード	歯学教育モデル・コア・カリキュラム, 共用試験, 歯科医師国家試験出題基準
教科書・教材・参考書	
成績評価の方法・基準等	共用試験 CBT に合格することをもって修了認定とする. 評価は CBT の得点に出席やレポート点を加味して行う
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	詳細は, 授業開始時に説明の予定
実務経験のある教員による授業科目	・角 忠輝/長崎大学病院における歯科臨床/大学病院における診療行為（総合歯科）を元に臨床実習必要な知識について講義形式の授業を行っている ・吉村篤利/大学病院における診療行為（歯周治療）を元に臨床実習必要な知識について講義形式の授業を行っている ・倉田眞治/大学病院における診療行為（歯科麻酔）を元に臨床実習必要な知識について講義形式の授業を行っている ・近藤好夫/大学病院における診療行為（小児歯科）を元に臨床実習必要な知識について講義形式の授業を行っている

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	8	月	1	概要説明，歯学教育コアカリキュラム，国家試験出題基準について	角	講義室6B
2回	5	17	金	4	総合問題演習1	未定	講義室6B
3回	5	17	金	5	総合問題演習2	小山田	講義室6B
4回	5	24	金	4	総合問題演習3	藤田	実習室5B
5回	5	24	金	5	総合問題演習4	阿部	講義室6B
6回	5	29	水	3	総合問題演習5	吉村	講義室6B
7回	5	31	金	4	総合問題演習6	倉田	講義室6B
8回	5	31	金	5	総合問題演習7	近藤	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054602 DNGD33251985 臨床歯科器材・薬剤学/(Clinical Dental Apparatus & Pharmacy)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司 /hmurata@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/火曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	阿部薫明, 右藤友督, 江越貴文, 大森景介, 尾崎幸生, 川下由美子, 黒木唯文, 五月女さき子, 田上直美, 原 昌士, 柳口嘉治郎, 吉田圭一, 渡邊郁哉, 村田比呂司		

授業の概要

歯科臨床において歯科器材と薬剤の占める比重は大きく, 市場には新製品や改良品が輩出している。多種多様な製品の中から個々の症例に有用なものを選択するためには, 正確な知識の蓄積と冷静な判断力が必要となる。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯科治療に必要な歯科器材と薬剤について, その選択法や最適な使用方法を理解し、臨床実習直前において最新の知識と今後の変化・発展に対して柔軟に対応できる判断力を身に付ける。

個別行動目標 SBOs: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

1. 感染予防を説明できる A-6-1)-⑥、 A-6-3)-③
2. 歯内療法材料を説明できる D-2-⑥
3. 修復・補綴用材料を説明できる D-2-①②
4. 歯周治療用材料を説明できる D-1-①③、 E-3-3)-(3)-②
5. 歯科用レーザーを説明できる D-1-①③
6. 在宅歯科診療用ポータブルユニット、器材を説明できる D-1-①③
7. 医薬品医療機器等関連法制を説明できる B-2-1)－④

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP4:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)

パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い、必要に応じてプリントを配布する。

授業内容

1 回目 修復・補綴用 (1)印象材の特徴, 印象採得法
2 回目 歯周治療用 (1)局所的治療薬, 全身的治療薬
3 回目 修復・補綴用 (2)硬質レジン, 床用レジン
4 回目 修復・補綴用 (3)合着用セメント, 仮着材
5 回目 感染予防用 (1)術者の感染予防, 手術野の消毒
6 回目 感染予防用 (2)診療室での感染対策
7 回目 歯内療法用 覆髄剤, 根管消毒薬, 根管長測定器
8 回目 修復・補綴用 (4)インプラント治療のための各種器材・材料(手術用器具, 印象パーツ, 使用される金属など含む)
9 回目 歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー
10 回目 歯周治療用 (2)プラークコントロール・オーラルケアの指導法、使用器具について
11 回目 医薬品医療機器等関連法制
12 回目 修復・補綴用 (5)エアータービン, 研磨材
13 回目 修復・補綴用 (6)咬合・適合診査材, リライン材
14 回目 修復・補綴用 (7)義歯安定剤、義歯洗浄剤
15 回目 在宅歯科診療用ポータブルユニット、器材
16 回目 歯周治療用 (3)外科処置用器材, 処理後のパック

キーワード	歯科器材 歯科薬剤 臨床術式
教科書・教材・参考書	特に指定しない。
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。

備考(学生へのメッセージ)	今まで，まとまった形では聞くことのできなかった話を，オムニバス形式で専門家によって分りやすく講義するので，先ずは出席することを心がけて欲しい．数年前に聞いて忘れかけているかもしれない細菌学，薬理学，歯科理工学などの知識も頭の中で再構築され，目前に迫った臨床実習に必ず役に立つはずである．なお講義の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。
実務経験のある教員による授業科目	・右藤友督／大学病院および関連病院におけるインプラント補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・江越　貴文／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・大森景介／大学病院および関連病院における口腔外科を主体とした治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・尾崎　幸生／大学病院および関連病院における歯内歯周治療を主体とした歯科治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・川下由美子／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・黒木唯文／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・五月女さき子／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・田上　直美／大学病院および関連病院における歯冠補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・原　昌士／大学病院および関連病院における口腔外科を主体とした治療／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・柳口　嘉治郎／大学病院および関連病院における保存修復を主体とした歯科治療／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・吉田　圭一／大学病院および関連病院における歯冠補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・渡邊　郁哉／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・村田　比呂司／大学病院および関連病院における有床義歯補綴を主体とした歯科治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	3	月	1	修復・補綴用 (1)印象材の特徴，印象採得法：鋳造修復物を製作するためには各種印象材の特性を理解した上での精度の良い印象採得法が必須である。印象方法により注意すべき点が異なるので熟知すること。	江越貴文	講義室6B
2回	6	3	月	2	歯周治療用 (1)局所的治療薬，全身的治療薬：局所的治療薬はポケット内細菌叢の変化を目的とするのか、あるいは消炎を目的とするのか、その目的に応じた薬剤を選択する。	尾崎幸生	講義室6B
3回	6	3	月	3	修復・補綴用 (2)硬質レジン，床用レジン：硬質レジンの種類は多く、それぞれの特色を知って使うことが大切である。床用レジンにも常温重合型など多種類があり、目的に応じて使い分ける。	田上直美	講義室6B
4回	6	4	火	1	修復・補綴用 (3)合着用セメント，仮着材：歯髄保護のためには辺縁封鎖性の優れた接着性レジンが望ましいが，操作性は従来型セメントとはやや異なる。仮着材はカルボン酸系のものが扱い易い。	吉田圭一	講義室6B
5回	6	4	火	2	感染予防用 (1)術者の感染予防，手術野の消毒：術者の予防として感染源と感染経路に配慮する。手術野の消毒には組織刺激性、殺菌力、効果の持続性を目安に薬剤を選ぶ。	大森景介	講義室6B
6回	6	4	火	3	感染予防用 (2)診療室での感染対策：滅菌器と消毒薬、防護用具が感染対策として使用される。それらの対象物、対象菌、特性、用法、安全性などを概説する。	原 昌士	講義室6B
7回	6	10	月	1	歯内療法用 覆髄剤，根管消毒薬，根管長測定器：根管充填剤は術前、術中の臨床症状、根管の形態・状態に応じて適切に選択/適応する必要がある。アレルギーや薬剤過敏症の患者も増加傾向にあるので注意。	柳口 嘉治郎	講義室6B
8回	6	10	月	2	修復・補綴用 (4)インプラント治療では多くの器材や材料を使用する。インプラント体自体も材料となるため，インプラントに利用される金属の特徴，埋入のための器材，印象のために利用する部品（材料）と実際の印象法について解説する。	右藤友督	講義室6B
9回	6	10	月	3	歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー：歯科用レーザーの用途は多種類あり、主に歯周治療や歯内治療、保存修復、外科治療、補綴技工に使用されるレーザーの種類やレーザー機器の原理・使用法を理解することは重要である。	渡邊郁哉	講義室6B
10回	6	11	火	4	歯周治療用 (2)プラークコントロール・オーラルケアの指導法、使用器具について	川下 由美子	講義室6B
11回	6	11	火	5	医薬品医療機器等関連法制：口腔保健と歯科医療における「医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律」，「麻薬及び向精神薬取締法」 などを概説する。	五月女 さき子	講義室6B
12回	6	11	火	6	修復・補綴用 (5)エアータービン，研磨材：歯科臨床においては，窩洞形成や支台歯形成，修復物の作製工程などで切削や研磨の機会が多い。エアタービンの構造，切削・研磨の理論，各種の切削材や研磨材の特徴について話す。	阿部薫明	講義室6B
13回	6	17	月	1	修復・補綴用 (6)咬合・適合診査材，リライン材：補綴物装着時の咬合や適合チェックの診査材は正しい選択が必要である。リライン材、ティッシュコンディショナーは各材料の特徴を把握することが重要である。	村田 比呂司	講義室6B
14回	6	17	月	2	修復・補綴用 (7)義歯安定剤、義歯洗浄剤：義歯安定剤、義歯洗浄剤についての患者への適切な指導が重要である。	村田 比呂司	講義室6B
15回	6	17	月	3	在宅歯科診療用ポータブルユニット、器材：要介護高齢者に潜在する歯科治療ニーズは高く、臨床現場では軽量でコンパクトなパッケージの開発が求められる。最新の往診用機器・器材を解説する。	黒木唯文	講義室6B
16回	6	18	火	7	歯周治療用 (3)外科処置用器材，処理後のパック：外科用器材には正確に目的を達成できるものを選ぶ。使い易く消毒に耐えることも必要である。パックは成分や貼用方法、除去時期を知って使う。	尾崎幸生	講義室6B

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054610 DNGD33331982 臨床薬理学/(Clinical Pharmacology)		
対象年次 5 年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 PBL 室・講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 坂井詠子/eiko-s@nagasaki-u.ac.jp/A 棟 5 階歯科薬理学研修室/095-819-7654(内 7654)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	PBL:坂井詠子, 山口優, 藤山理恵, 他 講義:倉田眞治		

授業の概要

PBL 形式により、臨床で用いる薬剤に関する題材の中で, 問題点を見出し, その解決策を見つける方法を身につける。

授業到達目標

一般目標 GIO:

臨床で用いる薬剤を題材にとりあげ、副作用や他の薬剤との併用によって起こり得る問題を、他者との良好なコミュニケーションをとりながら、学生が自ら解決策を見つけ出す能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.課題シナリオから重要な項目を抽出できる。	A-2-1)
2.理論的に分析し、仮説の設定・検証ができる。	A-2-1)
3.学習項目に応じた情報収集ができる。	A-2-2)
4.調べてきた内容をわかりやすく発表できる。	A-2-2)
5.他者の考えを尊重し理解できる。	A-2-1)
6.薬物の作用機序・相互作用を説明できる。	C-6-2), C-6-3)
7.薬物の副作用と有害作用を説明できる。	C-6-4), E-1-4)
8.医科疾患合併患者および妊産婦の歯科医療時の注意点を説明できる。	E-6)
9.救急処置を説明できる。	E-1-6)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

約 8 名のグループに分かれ PBL 方式をとる。シナリオを読み, それに対して討論を行いながら問題点を指摘し, 仮説を設定する。その仮説に対して検証を行う。最後に救急処置についての講義がある。

授業内容

1, 2 回目 (4/12 金) グループセッション:グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し, 仮説を設定する。仮説を検証するための学習項目を設定する。(担当者 坂井詠子、山口優、藤山理恵、他)

3 回目 (4/12 金) 自主学習:各自学習項目について調べる。

4,5,6,7 回目 (4/12 金) 自主学習または講義:生理学・薬理学領域の解説 (担当者 藤山理恵、坂井詠子)

8,9 回目 (4/19 金) グループディスカッション:調べてきた学習項目について発表し仮説を検証する。ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し, それを解明する。(担当者 坂井詠子、山口優、藤山理恵、他)

10 回目 (4/19 金) まとめ及び自己・他者評価。(担当者 坂井詠子、山口優、藤山理恵、他)

11 回目 (4/19 金) 講義:救急時の対処法及び薬物の使用法 (担当者 倉田眞治)

キーワード	薬物, バイタルサイン, 救急治療薬, PBL
教科書・教材・参考書	今まで用いてきた教科書(現代歯科薬理学)およびノート
成績評価の方法・基準等	ファシリテーターによる学生の評価(50%)と定期テスト(50%)により判定する。定期テストは国家試験形式で薬理学全般から出題し、合計 100 点のうち 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	進行方法等しっかりと頭に入れて臨み, 積極的に発言すること。
実務経験のある教員による授業科目	倉田眞治／大学病院における実務経験／麻酔科の歯科医師としての経験に基づき、救急の現場でどのような処置を行うかを講義する。藤山理恵/大学病院での味覚外来における診療経験／味覚外来での臨床経験を生かした実践的な情報提供を行う。山口優/一般開業医での歯科医師としての診療経験/臨床経験を生かした情報提供を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	12	金	1	グループセッション: グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	坂井, 他	PBL室
2回	4	12	金	2	グループセッション: グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	坂井, 他	PBL室
3回	4	12	金	3	自主学習: 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井, 他	PBL室
4回	4	12	金	4	生理学・薬理学領域の解説	藤山 坂井	PBL室
5回	4	12	金	5	生理学・薬理学領域の解説	藤山 坂井	PBL室
6回	4	12	金	6	自主学習: 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井, 他	講義室6B
7回	4	12	金	7	自主学習: 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井, 他	講義室6B
8回	4	19	金	4	グループディスカッション: 調べてきた学習項目について発表を行い、前回立てた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。	坂井, 他	PBL室
9回	4	19	金	5	グループディスカッション: 調べてきた学習項目について発表を行い、前回立てた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。	坂井, 他	PBL室
10回	4	19	金	6	まとめおよび評価: まとめおよび自己・他者の評価	坂井, 他	PBL室
11回	4	19	金	7	緊急時の対処法: 緊急時に必要な処置、および薬物に関する知識を講義する。	倉田	講義室6B

年度 2024 学期 1Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054625 DNGD33541985 デジタルデンティストリー/(Digital Dentistry)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
村田比呂司/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/金曜 17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	村田比呂司、角 美佐、右藤友督、尾立哲郎、金澤 学(非常勤講師)

授業の概要
近年、急速にコンピューター等を応用したデジタルデンティストリーが進歩し、臨床に応用されつつある。今後ますます歯科医療の臨床に応用されると予測される。本講義ではデジタルデンティストリーの基礎と応用について解説する。

授業到達目標
一般目標 GIO :
デジタルデンティストリーの基礎と臨床応用について理解する。 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs :

1.	デジタルデンティストリーの概要を説明できる。	D-1①③
2.	画像診断における AI の応用を説明できる。	E-1-2)
3.	補綴修復治療のデジタルデンティストリーを説明できる。	E-3-4)-(1)②
4.	インプラント治療のデジタルデンティストリーを説明できる。	E-3-4)-(3)③④
5.	有床義歯補綴治療のデジタルデンティストリーを説明できる。	E-3-4)-(2)⑪⑫

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)
パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い、必要に応じてプリントを配布する。

授業内容

1回目 デジタルデンティストリーの概要
2 回目 画像診断における AI 応用
3 回目 補綴修復治療のデジタルデンティストリー
4 回目 (特別講義)有床義歯補綴のデジタル化
5 回目 インプラント治療のデジタルデンティストリー

キーワード	デジタルデンティストリー
教科書・教材・参考書	特に指定しない。
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	今まで，まとまった形では聞くことのできなかった話を，オムニバス形式で専門家によって分りやすく講義する。講義の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。
実務経験のある教員による授業科目	・角 美佐／長崎大学病院での画像診断実務経験に基づき、画像診断における AI の応用について解説する。 ・右藤友督／長崎大学病院での補綴修復治療実務経験に基づき、補綴修復治療におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 ・尾立哲郎／長崎大学病院でのインプラント治療実務経験に基づき、インプラント治療におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 ・金澤 学／東京医科歯科大学病院での有床義歯補綴実務経験に基づき、有床義歯補綴治療におけるデジタルデンティストリーについて解説する。 ・村田比呂司／長崎大学病院での補綴治療実務経験に基づき、デジタルデンティストリーの概要について解説する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	7	火	2	総論　デジタルデンティストリーの概要について解説する。	村田比呂司	講義室6B
2回	5	7	火	3	画像診断におけるAI応用	角　美佐	講義室6B
3回	5	14	火	1	補綴修復治療のデジタルデンティストリー	右藤友督	講義室6B
4回	5	14	火	2	（特別講義）有床義歯補綴のデジタル化	金澤　学	講義室6B
5回	5	14	火	3	インプラント治療のデジタルデンティストリー	尾立哲郎	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054603 DNGD33261989 齲蝕・歯周病学/(cariology, periodontology)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義・演習形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 柳口嘉治郎/yanagi@nagasaki-u.ac.jp /歯周歯内治療学分野准教授・講師室/095-819-7682(内 7682)/			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、田上直美、柳口嘉治郎、尾崎幸生 他数名		

授業の概要

歯及び歯周組織の健康を生涯にわたって維持・増進することによって患者様のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献できる歯科医師になるために、4年次までに学んだ個々の知識を基盤にして、これらを齲蝕・歯周病学として再構築し、個々の症例に対し細かく分析していくことで問題発見・解決能力を深めることを目標にしている。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯髄・根尖性歯周炎及び歯周疾患の病因と病態を理解し、診断と治療方針をたてる能力を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。	E-3-2),F-2-2)
2.歯内療法用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる	E-3-3)-(2)
3.歯周疾患の病因と病態を説明できる。	D-2
4.歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。	E-3-2),F-2-2)
5.口腔細菌、歯垢及び歯石について説明できる。	E-3-3)-(3)

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

(1)講義形式(4 回目)
(2)グループ討議(1～3、5～15 回目)小グループごとに症例が提示される。学生は症例分析・治療計画の立案を行い、グループ間で討議後、全体発表を行う。

授業内容

1 回目:歯周治療学1(グループ討議)
2 回目:歯周治療学2(グループ討議)
3 回目:歯周治療学3(グループ討議)
4 回目:小児の齲蝕(講義)
5 回目:歯周治療学4(グループ討議)
6 回目:歯周治療学5(グループ討議)
7 回目:歯周治療学6(グループ討議)
8 回目:歯周治療学7(グループ討議)
9 回目:齲蝕学1(グループ討議)
10 回目:齲蝕学2(グループ討議)
11 回目:齲蝕学3(グループ討議)
12 回目:齲蝕学4(グループ討議)
13 回目:齲蝕学5(グループ討議)
14 回目:齲蝕学6(グループ討議)
15 回目:齲蝕学7(グループ討議)
16 回目:総括

キーワード	歯内治療学、歯周治療学
教科書・教材・参考書	保存修復学、歯内治療学、歯周治療学、小児歯科学の教科書・参考書を用いる。

成績評価の方法・基準等	観察記録とレポートの総合点で判定される。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	(1)4年次までに学習した知識を基盤とする基礎－臨床縦断型の科目である。従って、疑問や不明な点を感じた場合は、該当科目の復習が必要となる。 (2)問題発見・解決能力を深めることがねらいなので、学生には主体的、積極的姿勢で取り組むことが求められる。 都合により講義の内容及び順番等が変更になる場合は事前に連絡する。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・岩下　未咲／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・坂本英次郎／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・尾崎　幸生／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・松裏　貴史／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・柳口嘉治郎／歯科保存治療室での勤務経験／保存治療室で主に担当する齲蝕・歯周病の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。 ・田上　直美／小児歯科治療室での勤務経験／小児歯科治療室で主に担当する齲蝕の症例に対する分析及び治療計画の立案の仕方の指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	30	火	6	歯周治療学概論及び実習ガイダンス キーワード：歯周病、歯周治療、治療計画	尾崎	講義室6B
2回	4	30	火	7	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案 キーワード：歯周検査、咬合診査、エックス線検査、歯周外科、メインテナンス	尾崎	講義室6B
3回	4	30	火	8	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	尾崎	講義室6B
4回	5	2	木	4	小児における齲蝕細菌の感染と齲蝕発生 キーワード：母子感染、ミュータンスレンサ球菌、プラークバイオフィルム	田上	講義室6B
5回	5	2	木	5	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	尾崎	講義室6B
6回	5	13	月	7	治療計画の発表と討論	尾崎	講義室6B
7回	5	13	月	8	治療計画の発表と討論、レポート作成	尾崎	講義室6B
8回	5	20	月	2	メインテナンス治療 キーワード：歯周検査、咬合診査、エックス線検査	尾崎	講義室6B
9回	5	20	月	3	齲蝕学概論及び実習ガイダンス キーワード：保存修復学、歯内治療学、治療計画	柳口	講義室6B
10回	5	21	火	7	症例分析と治療計画の立案	柳口	講義室6B
11回	5	21	火	8	症例分析と治療計画の立案	柳口	講義室6B
12回	5	28	火	8	症例分析と治療計画の立案	柳口	講義室6B
13回	5	29	水	7	治療計画の発表と討論	柳口	講義室6B
14回	5	29	水	8	治療計画の発表と討論	柳口	講義室6B
15回	6	3	月	7	レポート作成	柳口	講義室6B
16回	6	3	月	8	齲蝕・歯周病学について総括する	未定	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054604 DNGD33271986 接着歯学/(Adhesive Dentistry)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義・演習形式	教室 講義室 6B・臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田圭一/keiichi@nagasaki-u.ac.jp/歯学部本館 C 棟オープンラボ 17/095-819-7686(内 7686)/12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	阿部薫明, 添野光洋, 平 曜輔, 吉田圭一 (50 音順)		

授業の概要

種々の歯冠修復用材料と歯質間の接着や被着材間の接着, 材料表面への細胞の接着など, 歯科領域における接着現象に焦点を当てる。接着の基本的メカニズムを学習した後, 小児歯科学, 保存学, 補綴学の各領域における接着の具体的事例や各種のテクニックを学ぶとともに, 実習によって, 接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能を修得する。さらに, 歯科生体材料表面への細胞の接着についても概説する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
包括的な歯科医療を実施できる歯科医師になるため, 接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能, 細胞の歯科材料における接着を修得する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の物理的, 化学的, 生物学的性質とその評価法を説明する。(知識・想起)	D-1, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)
2. 成形修復, 歯冠修復, 接着・合着用材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操作方法を説明する。(知識・想起)	D-2, E-3-3)-(1), E-3-4)-(1)
3. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的, 種類, 適応症, 手順及び留意点説明する。(知識・想起)	E-3-1), E-4-2), F-3-4)
4. 接着治療の各基本的操作を実施できる。(技能)	F-3-4)

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP3:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

1.講義はスライド, 液晶プロジェクターなどを用いて行う。
2.実習は接着ブリッジの設計, 形成と接着操作を模型上で行う。

授業内容

1 回目:小児歯科領域を含む接着(1)
2 回目:小児歯科領域を含む接着(2)
3 回目:歯科材料における接着(1)
4 回目:歯科材料表面への細胞の接着
5 回目:保存領域における接着
6 回目:接着ブリッジ実習関連講義
7 回目:接着ブリッジ実習(1)
8 回目:接着ブリッジ実習(2)
9 回目:接着ブリッジ実習(3)
10 回目:歯科材料における接着(2)
11 回目:補綴領域における接着(1)
12 回目:補綴領域における接着(2)

キーワード	接着，機械的嵌合力，プライマー，ボンディング材，エナメル質，象牙質，接着ブリッジ
教科書・教材・参考書	1．楳本貢三ほか編集：スタンダード歯科理工学，学建書院 2．日本接着歯学会編：接着歯学第 2 版，医歯薬出版，2015 年 3．吉田圭一：補綴臨床別冊　文献と歯科材料学に基づいた補綴装置と歯面の正しい前処理＆接着，医歯薬出版，2022 年 ※教材として授業中にプリントを配付することがある。
成績評価の方法・基準等	筆記試験（80%），実習（20%）の総合評価とする。 それぞれの評価点の中には授業中の課題に対する積極的な取り組み状況も含まれている。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	接着歯学が基礎系および臨床系の諸科学に立脚した学問分野であることを認識し，講義と実習を通じて上記の到達目標が達成できるよう，自覚と積極的な勉学を期待する。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田　圭一／長崎大学病院での診療／診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・平　曜輔／長崎大学病院での診療／診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。 ・添野　光洋／長崎大学病院での診療／診療に必要な知識や臨床術式に関する教育を行っている。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	8	月	2	小児歯科領域を含めた接着(1) レジンの接着性およびシーラントを解説する。	添野	講義室6B
2回	4	8	月	3	小児歯科領域を含めた接着(2) レジンの接着性およびシーラントを解説する。	添野	講義室6B
3回	4	9	火	2	歯科材料における接着(1) 被着材の表面処理法，プライマー，レジンセメントなどを解説する。	吉田	講義室6B
4回	4	9	火	3	歯科材料表面への細胞の接着 生体材料の表面状態と細胞接着との関係について解説する。	阿部	講義室6B
5回	4	16	火	2	保存領域における接着 接着の利点，接着性修復材料に対する接着術式の変遷と接着機構を解説する。	平	講義室6B
6回	4	16	火	3	接着ブリッジ実習関連講義 接着ブリッジによる補綴の歴史，特徴などを実習に関連づけて解説する。	平	講義室6B
7回	4	22	月	4	接着ブリッジ実習(1) 接着操作の実習を行う。	教員5名	臨床実習室4B
8回	4	22	月	5	接着ブリッジ実習(2) 上顎前歯部の接着ブリッジの設計，形成の実習を行う。	教員5名	臨床実習室4B
9回	4	22	月	6	接着ブリッジ実習(3) 上顎臼歯部の接着ブリッジの設計，形成の実習を行う。	教員5名	臨床実習室4B
10回	4	23	火	4	歯科材料における接着(2) 被着材の表面処理法，プライマー，レジンセメントなどを解説する。	吉田	講義室6B
11回	4	23	火	5	補綴領域における接着(1) 補綴領域における接着性材料(金属，セラミックスおよびコンポジットレジンの接着，接着性レジンセメントなど)を解説する。	吉田	講義室6B
12回	4	23	火	6	補綴領域における接着(2) 補綴領域における接着を活かした臨床術式を紹介する。	吉田	講義室6B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054605 DNGD33281985 顎口腔機能･解析学/(Functional Analysis of Stomatognathic System)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義･実習形式	教室 講義室 6B･臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
鳥巣哲朗/torisu@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教員室/095-819-7693(内 7693)/16:00～17:00

担当教員(オムニバス科目等)	鳥巣哲朗、吉田和弘、森智康、叶井里歩 他4名

授業の概要および位置づけ

顎口腔機能を生命･生体現象として捉え基礎科目と臨床科目との関連を考慮しつつ総合的に学習を進める。顎口腔系の正常機能を理解し，その構成要素である咬合の診査･診断･治療に関する知識を習得することを目指す。はじめに顎口腔系の構造および機能に関する講義を行い、基礎･臨床科目で学習した知識を再確認する。次に相互実習で下顎運動や咬合の診査と咬合器上での再現を体験しグループ討論を行う。最後に咬合と顎機能障害の関連性について解説する。

授業到達目標

一般目標 GIO:顎口腔領域の構造および機能を理解し、顎口腔機能の診査･診断･治療する能力を習得することを目指す。

個別行動目標 SBOs：	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1. 顎関節の構造と機能を説明できる。(知識；想起)	E-2-1)
2. 下顎の随意運動と反射を説明できる。(知識；想起)	E-2-1)
3, 咀嚼の意義と制御機構を説明できる。(知識；想起)	E-2-1)
4. 歯列と咬合を説明できる。(知識；想起)	E-2-2)
5. 咬合異常による障害と咀嚼障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。(知識；想起)	E-1-1), E-2-4)-(11)
6. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。(知識；想起)	E-3-4)-(1)
7. 歯の欠損した歯列での下顎位･下顎運動の記録法を説明できる。(知識；想起)	E-3-4)-(2)
8. 平均値・調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明でき、基本操作を実施できる。(知識；技能)	D-1, E-1-1), E-3-4)-(2),
9. 口腔内状態および顎口腔機能に関する患者情報を収集、分析でき、必要な診察、検査を説明できる。(知識；技能)	F-1-1), F-2-2), F-3-4), G-1-1),
10. 口腔機能・口腔内状態の診察及び検査結果を正確に診療録に記載できる。(知識；技能)	F-2-2)
11. 咬合採得と平均値咬合器装着の各基本的操作を実施できる。(知識；技能)	F-3-4)
12. 口腔機能、咀嚼機能検査の必要性を患者に説明し、基本的な操作を実施できる。(知識；技能)	F-2-2), F-3-4)

対応するディプロマポリシー

ＤＰ１： 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
ＤＰ２:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
ＤＰ３:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義と実習を組み合わせて行う。講義では顎口腔機能と咬合との関連、咬合理論や顎機能障害に関する考え方の変遷等について解説する。実習では、顎機能および咬合の診査、ゴシックアーチ描記、咬合器の調節を体験し、グループ討議を通して知識の定着をはかる。

授業内容

1･2･3回目	L1:かむということ／かむとは動作学的に／咀嚼系の構成／顎運動の調節／下顎の基本位と性質／下顎基本運動／下顎限界運動／下顎機能運動／歯の接触／顎運動検査法
4･5･6回目	P1:咬合診査／下顎運動時の顎関節および顎筋の働き／印象採得／石膏注入／模型調整
7･8･9回目	P2:フェイスボートランスファー／(咬合採得)／咬合器付着／チェックバイト記録／顆路計測
10･11･12･13 回目	P3:ゴシックアーチ描記装置の製作／ゴシックアーチとタッピングポイントの記録
14･15･16 回目	P4:症例提示／グループディスカッション(実習項目に関する検討)／各班プレゼンテーション
17･18 回目	P5:グループディスカッション(咬合採得方法)／各班プレゼンテーション
19･20･21 回目	L2:顎機能障害の病態／咬合との関わり／古典的咬合論／ナソロジーと中心位／生理学的咬合論／まとめ

(L:講義 P:実習)

キーワード	咬合，顎位調節，ゴシックアーチ，調節性咬合器，顎機能障害
教科書・教材・参考書	教科書：無歯顎補綴治療学（市川哲雄ら編　医歯薬） 歯学生のパーシャルデンチャー（赤川安正ら編　医歯薬）， 基礎歯科生理学（中村嘉男，岩田幸一ら編　医歯薬） 参考書：新編　顎関節症　改訂版　（日本顎関節学会編集　永末書店）
成績評価の方法・基準等	定期試験時の筆記試験（70 点），実習に対する取り組み方（10 点），随時出題レポート（20 点）
受講要件(履修条件)	総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	これまでに基礎・臨床科目で系統的に教授されてきた内容を関連づけて復習し，咬合・顎機能への理解を深めること、将来の臨床における補綴／咬合治療の指標となることを期待する。
実務経験のある教員による授業科目	・鳥巣　哲朗／顎口腔機能障害患者の診断・治療および顎口腔機能に関する研究／治療および研究の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・吉田　和弘／大学病院における診療経験／治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・森　智康／大学病院における診療経験／治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供 ・叶井里歩／大学病院における診療経験／治療の経験から得られた実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	1	講義1:顎口腔系の機能と構成 かむということ／かむとは動作学的に／咀嚼系の構成／顎運動の調節／	鳥巣	講義室6B
2回	4	3	水	2	講義1:顎口腔系の機能と構成 下顎の基本位と性質／　下顎基本運動／下顎限界運動	鳥巣	講義室6B
3回	4	3	水	3	講義1:顎口腔系の機能と構成 下顎機能運動／歯の接触／顎運動検査法	鳥巣	講義室6B
4回	4	10	水	1	実習1:顎機能および咬合接触状態、顎筋／顎関節の診査, 実習2:印象採得(上下顎)／石膏注入／模型調整	教員8名	臨床実習室4B
5回	4	10	水	2	実習1:顎機能および咬合接触状態、顎筋／顎関節の診査, 実習2:印象採得(上下顎)／石膏注入／模型調整	教員8名	臨床実習室4B
6回	4	10	水	3	実習1:顎機能および咬合接触状態、顎筋／顎関節の診査, 実習2:印象採得(上下顎)／石膏注入／模型調整	教員8名	臨床実習室4B
7回	4	17	水	1	実習3:フェイスボートランスファー／咬合採得／咬合器付着	教員8名	臨床実習室4B
8回	4	17	水	2	実習4:チェックバイト／顆路計測／咬合器調節	教員8名	臨床実習室4B
9回	4	17	水	3	実習4:チェックバイト／顆路計測／咬合器調節	教員8名	臨床実習室4B
10回	4	24	水	1	実習5:ゴシックアーチ描記装置製作	教員8名	臨床実習室4B
11回	4	24	水	2	実習5:ゴシックアーチ描記装置製作	教員8名	臨床実習室4B
12回	4	24	水	3	実習6:ゴシックアーチとタッピングポイントの描記	教員8名	臨床実習室4B
13回	5	1	水	1	実習6:ゴシックアーチとタッピングポイントの描記(つづき)	教員8名	臨床実習室4B
14回	5	1	水	2	実習7-1 グループディスカッション(実習項目) 実習項目に関する検討 咬合採得を行う症例の提示	教員8名	臨床実習室4B
15回	5	1	水	3	実習7-1 グループディスカッション(実習項目) 実習項目に関する検討	教員8名	臨床実習室4B
16回	5	8	水	1	実習7-1:各班発表 実習項目に関する検討結果	教員8名	臨床実習室4B
17回	5	8	水	2	実習7-2:グループディスカッション 提示症例の咬合採得方法を検討	教員8名	臨床実習室4B
18回	5	8	水	3	実習7-2:各班発表 咬合採得方法の検討結果	教員8名	臨床実習室4B
19回	5	15	水	1	講義2:咬合理論の変遷／顎口腔機能障害患者への対応／総括 実習のまとめ／顎運動と咬合器	鳥巣	講義室6B
20回	5	15	水	2	講義2:咬合理論の変遷／顎口腔機能障害患者への対応／総括 顎機能障害の病態／咬合との関わり方	鳥巣	講義室6B
21回	5	15	水	3	講義2:咬合理論の変遷／顎口腔機能障害患者への対応／総括 ナソロジーと中心位／生理学的咬合論	鳥巣	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054609 DNGD33321988 成育歯学/(Pediatric and Orthodontic Dentistry)		
対象年次 5 年次	講義形態 PBL・講義	教室 PBL 室, 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp/歯科矯正学/819-7669, 小児歯科学/819-7672, 口腔保健学/819-7663,
不在時をのぞき 17:00 以降

担当教員(オムニバス科目等)	講義担当―吉田教明, 日高 聖, 川下由美子, 斉宮康寛(非常勤講師) PBL 担当―森田幸子, 小牧博也

授業の概要及び位置づけ
4年次までに既に学習した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学などの基礎知識を学生自ら総合的に再構築し, 成育歯学としてこどものライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理ができるように検査, 診断, 治療, メインテナンスについて総合的理解を深める。

授業到達目標
(1) 自ら問題を発見し, その問題解決のため積極的に行動し結果を説明できる。
(2) ライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理の重要性が理解できる。
(3) 正常な発生, 成長発育および加齢による形態的・機能的特徴が説明できる。
(4) 成長発育の異常や不正咬合の種類, 原因および予防法が列挙できる。
(5) 成長発育の異常や不正咬合の治療の必要性, 適切な治療開始時期, 予後を説明できる。
(6) 成長発育の異常や不正咬合の検査, 診断, 治療計画, 治療法が 説明できる。
(7) 矯正治療による医原性障害とその処置と予防を説明できる。
(8) 唇顎口蓋裂, 先天異常, 顎変形症に対する診断, 管理, 治療の流れが説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)
PBL チュートリアル形式(21 回)と講義形式(7 回)合計 28 回実施。

授業内容
(概要)21 回はシナリオを使ってのPBL形式の授業を行い, 7 回は講義形式の授業を行う。
講義は「成育歯科」のPBL型授業を通して, 学生自らが顎顔面口腔領域におけるこどもの成長発育に関する知識を統合させ, ライフスタイルに応じた口腔保健管理, 咬合管理について学習したことをベースに, より専門性の高い知識を提供することを目的とする。
(内容)
1 回目 PBL チュートリアルケース1
2 回目 PBL チュートリアルケース1
3 回目 PBL チュートリアルケース1
4 回目 ケース1自学自習
5 回目 ケース1自学自習
6 回目 ケース1自学自習
7 回目 ケース1自学自習
8 回目 PBL チュートリアルケース1セッション
9 回目 PBL チュートリアルケース1セッション
10 回目 PBL チュートリアルケース 2
11 回目 ケース 2 自学自習
12 回目 ケース 2 自学自習
13 回目 ケース 2 自学自習
14 回目 ケース 2 自学自習
15 回目 PBL チュートリアルケース 2 セッション
16 回目 PBL チュートリアルケース 2 セッション
17 回目 ケース1, 2 学習後の自己・相互評価
18 回目 プレゼンテーション資料作成自学自習
19 回目 プレゼンテーション(グループごとに)
20 回目 プレゼンテーション(グループごとに)

21 回目 プレゼンテーション(グループごとに) 22 回目 講義 1 「う蝕予防管理」 川下由美子 23 回目 講義 2 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」 日高 聖 24 回目 講義 3 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常 1」 日高 聖 25 回目 講義 4 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常 2」 日高 聖 26 回目 講義 5 「不正咬合の成り立ち」 吉田 教明 27 回目 講義 6 「先端矯正歯科治療」 斉宮 康寛 28 回目 講義 7 「自主学習 (レポート作成)」 吉田 教明	
キーワード	ライフサイクル, 発生, 成長発育, う蝕, 歯髄炎, 不正咬合, 原因, 予防, 診断, 治療
教科書・教材・参考書	口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学で掲載しているもの
成績評価の方法・基準等	PBL形式授業は**出席, 態度, 討議内容, 自学自習の結果の発表**などを各担当のファシリテータが総合的に評価。定期考査は, レポート提出とする。点数の配点は, 時間数に応じてPBL評価と提出レポートとで総合評価し 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	出席率は学部規則に従って評価する。3/4 以上の出席で受験資格を得る。
備考(学生へのメッセージ)	ライフサイクルを考慮した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学についての自己学習は必須。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田 教明／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に矯正歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・日高 聖／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に小児歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・川下由美子／現役歯科医師の大学病院における実務経験／成育歯学臨床 (特に予防歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・斉宮 康寛(非常勤講師)／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／成育歯学臨床 (特に矯正歯科) に必要な基本的知識, 技術を指導する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	1	PBLチュートリアルケース1	教員6名	PBL室
2回	4	5	金	2	PBLチュートリアルケース1	教員6名	PBL室
3回	4	5	金	3	PBLチュートリアルケース1	教員6名	PBL室
4回	4	5	金	4	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
5回	4	5	金	5	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
6回	4	5	金	6	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
7回	4	5	金	7	ケース1自学自習	教員6名	PBL室
8回	4	18	木	1	PBLチュートリアルケース1セッション	教員6名	PBL室
9回	4	18	木	2	PBLチュートリアルケース1セッション	教員6名	PBL室
10回	4	18	木	3	PBLチュートリアルケース2	教員6名	PBL室
11回	4	18	木	4	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
12回	4	18	木	5	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
13回	4	18	木	6	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
14回	4	18	木	7	ケース2自学自習	教員6名	PBL室
15回	4	26	金	1	PBLチュートリアルケース2セッション	教員6名	PBL室
16回	4	26	金	2	PBLチュートリアルケース2セッション	教員6名	PBL室
17回	4	26	金	3	ケース1，2学習後の自己・相互評価	教員6名	PBL室
18回	4	26	金	4	プレゼンテーション資料作成自学自習	教員6名	PBL室
19回	4	26	金	5	プレゼンテーション（グループごとに）	教員6名	講義室6B

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
20回	4	26	金	6	プレゼンテーション（グループごとに）	教員6名	講義室6B
21回	4	26	金	7	プレゼンテーション（グループごとに）	教員6名	講義室6B
22回	6	5	水	6	講義1　リソースセッション 「う蝕予防管理」	川下	講義室6B
23回	6	10	月	7	講義2　リソースセッション 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」	日高	講義室6B
24回	6	17	月	7	講義3　リソースセッション 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常1」	日高	講義室6B
25回	6	17	月	8	講義4　リソースセッション 「口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常2」	日高	講義室6B
26回	6	24	月	7	講義5　リソースセッション 「不正咬合の成り立ち」	吉田	講義室6B
27回	7	8	月	7	講義6　リソースセッション 「先進矯正歯科治療」	斉宮	講義室6B
28回	7	8	月	8	講義7　リソースセッション 自主学習（レポート作成）	吉田	講義室6B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054606 DNGD33291987 口腔腫瘍学/(Oral Oncology)		
対象年次 5 年次	講義形態 PBL･講義形式	教室 PBL 室･講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川﨑五郎/gkawa@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔腫瘍治療学分野医局/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	川崎、福嶋、三浦、山田		

授業の概要

口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の概要を理解し，診断･治療の進め方を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
腫瘍の診断と治療について理解し、その内容を説明できる。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
1.腫瘍の種類と特徴を説明できる。	E-2-4)
2.腫瘍の診断と治療法を説明できる。	E-2-4)

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

PBL および講義を行う。PBL では，口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の症例に関して，臨床像をより具体的に供覧し，コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を高めるようにする。講義では,口腔腫瘍学における最新の知見及び PBL で得られた知識の確認が行えるようにする。

授業内容

1 回目 PBL 症例 part1 シナリオの提示，事実の抽出および仮説の設定(担当:各ファシリテータ)
2 回目 PBL 症例 part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ)
3 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
4 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
5 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
6 回目 PBL 症例 part1 セッション(担当:各ファシリテータ)
7 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
8 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
9 回目 PBL 症例 part2 シナリオの提示，事実の抽出，仮説，学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ)
10 回目 PBL 症例 part2 仮説に基づいた学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ)
11 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
12 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
13 回目 PBL 症例 part2 セッション、PBL 自己評価および相互評価(担当:各ファシリテータ)
14 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
15 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ)
16 回目 プレゼンテーション
17 回目 プレゼンテーション
18 回目 プレゼンテーション
19 回目 予備
20 回目 予備

キーワード	口腔癌，歯原性腫瘍，非歯原性腫瘍，非歯原性悪性腫瘍，
教科書･教材･参考書	特に指定せず
成績評価の方法･基準等	PBL での討議および発表を評価 60%，テスト(客観試験)40%

受講要件(履修条件)	規定の通り
備考(学生へのメッセージ)	口腔腫瘍の診断・治療は大変重要な分野です。十分な学習をされることを期待します。
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／大学病院にて臨床に携わっている／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・川﨑　五郎／大学病院にて臨床に携わっている／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・三浦　桂一郎／大学病院にて臨床に携わっている／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	木	1	PBL症例part1 シナリオの提示，事実の抽出および仮説の設定	各ファシリテータ	PBL室
2回	4	4	木	2	PBL症例part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	PBL室
3回	4	4	木	3	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
4回	4	4	木	4	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
5回	4	4	木	5	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
6回	4	4	木	6	PBL症例part1 セッション	各ファシリテータ	PBL室
7回	4	4	木	7	PBL症例part1 プレゼンテーション資料作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
8回	4	4	木	8	PBL症例part2 プレゼンテーション資料作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
9回	4	11	木	1	PBL症例part2 シナリオの提示，事実の抽出および仮説の設定	各ファシリテータ	PBL室
10回	4	11	木	2	PBL症例part2 仮説に基づいた学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	PBL室
11回	4	11	木	3	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
12回	4	11	木	4	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成（自学自習）	各ファシリテータ	PBL室
13回	4	11	木	5	PBL症例part2 セッション	各ファシリテータ	PBL室
14回	4	11	木	6	プレゼンテーション資料作成（自学自習）	各ファシリテーター	PBL室
15回	4	11	木	7	プレゼンテーション資料作成（自学自習）	各ファシリテーター	PBL室
16回	4	24	水	4	プレゼンテーション	三浦	講義室6B
17回	4	24	水	5	プレゼンテーション	三浦	講義室6B
18回	4	24	水	6	プレゼンテーション	三浦	講義室6B
19回	4	25	木	4	予備日	川﨑	講義室6B
20回	4	25	木	5	予備日	川﨑	講義室6B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時　時間割を参照	必修選択　必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054635 DNGD33441987 唾液腺疾患と障害/(Salivary Gland Diseases and Disorders)		
対象年次 5 年次	講義形態　PBL･講義形式	教室　PBL 室･講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類　統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
井隆司/ i-takashi@nagasaki-u.ac.jp /先進口腔医療開発学/095-819-7706(内 7706)/月曜 14:00～15:00

担当教員(オムニバス科目等)	住田吉慶、井隆司、筑波隆幸、片瀬直樹、小山田常一、高木幸則、山田朋弘、梅田雅孝

授業の概要及び位置づけ
唾液腺疾患と障害の基本知識を理解し、習得する。唾液腺疾患の診断･治療の進め方を考え、臨床における判断力を習得する。PBL 方式を導入し、症例を基に必要な検査･診断･治療法を学生自ら提示し、それを解決する意欲･態度を養い、知識･自主性を身につける。

授業到達目標
一般目標 GIO:
唾液腺疾患と障害における症状･病態を理解する。唾液腺における自己免疫疾患、腫瘍、炎症を理解する。唾液腺疾患の概念、発症機序及び病理的特徴を理解し、加えて薬理学的･解剖学的知識に基づいた治療方針の提示ができる。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1. 唾液腺の構造、機能及び分泌調整機序を説明できる。	E-2-2)
2. 唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	E-2-4)
3. 唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	E-2-4)
4. 唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	E-2-4)
5. Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	E-2-4)
6. 口腔･顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫異常の症状を説明できる。	E-2-4)

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)
PBL形式を採用し、併せて講義形式で行う。シナリオに基づきグループごとに学生自らが問題を発見し、解釈、解決する自学･自習を基本とした学習形態を整える。学生が自学自習で得た知識を自ら確認できるように、講義において解説を行う。

授業内容
1 回目　シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担
2 回目　問題点抽出、調査項目決定
3 回目　各自調査、自習
4 回目　各自調査、自習
5 回目　グループごとに討論、まとめ、レポート提出
6 回目　グループごとに討論、まとめ、レポート提出
7 回目　唾液腺疾患の診断
8 回目　唾液腺疾患(嚢胞･炎症･唾石)
9 回目　口腔乾燥症(改善薬)の薬理
10 回目　唾液腺腫瘍の病理
11 回目　唾液腺と周囲組織の解剖
12 回目　シェーグレン症候群
13 回目　唾液腺疾患(良性腫瘍)
14 回目　唾液腺疾患(悪性腫瘍)
15 回目　IgG4 関連疾患

キーワード	唾液腺疾患
教科書･教材･参考書	口腔外科学　白砂兼光 他　医歯薬出版/標準口腔外科学　瀬戸皖一 他　医学書院/ 歯科における薬の使い方　デンタルダイヤモンド社
成績評価の方法･基準等	発表、討論態度　50%　試験　50% 到達目標の理解度の評価
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席、授業中の態度、積極性
備考(学生へのメッセージ)	これまでの講義で培った知識のアウトプットをすることで知識のブラッシュアップを図ります。
実務経験のある教員による授業科目	・井　隆司／長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・口腔外科学についての講義 ・住田　吉慶／名古屋大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／唾液腺疾患の診断についての講義

	・片瀬　直樹／長崎大学の病院における病理診断業務の経験、歯科医学研究の実務／唾液腺腫瘍の病理についての講義 ・高木　幸則／長崎大学の病院歯科放射線科・口腔乾燥外来における診察の経験、歯科医学研究の実務／シェーグレン症候群についての講義 ・山田　朋弘／九州大学・長崎大学の病院口腔外科における診察の経験、歯科医学研究の実務／唾液腺腫瘍についての講義 ・梅田　雅孝／長崎大学の病院リウマチ・膠原病内科における診察の経験、医学研究の実務／IgG4 関連疾患についての講義

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	火	1	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	PBL室
2回	4	2	火	2	問題抽出、調査項目決定	井	PBL室
3回	4	2	火	3	各自調査、自習	井	PBL室
4回	4	2	火	4	各自調査、自習	井	PBL室
5回	4	9	火	4	まとめ、レポート提出	井	PBL室
6回	4	9	火	5	まとめ、レポート提出	井	PBL室
7回	5	21	火	1	唾液腺疾患の診断	住田	講義室6B
8回	5	21	火	2	唾液腺疾患（嚢胞・炎症・唾石）	井	講義室6B
9回	5	21	火	3	口腔乾燥症（改善薬）の薬理	筑波	講義室6B
10回	5	27	月	1	唾液腺腫瘍の病理	片瀬	講義室6B
11回	5	27	月	2	唾液腺と周囲組織の解剖	小山田	講義室6B
12回	5	27	月	3	シェーグレン症候群	高木	講義室6B
13回	5	28	火	1	唾液腺疾患（良性腫瘍）	山田	講義室6B
14回	5	28	火	2	唾液腺疾患（悪性腫瘍）	山田	講義室6B
15回	5	28	火	3	IgG4関連疾患	梅田	講義室6B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時　時間割を参照	必修選択　必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054627 DNGD33561987 周術期口腔機能管理学/Professional management of oral function in perioperative period)		
対象年次 5 年次	講義形態　PBL形式 講義形式	教室　PBL 室、講義室 6B	
対象学生(クラス等)　5 年生		科目分類　統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
鵜飼 孝/ ukai@nagasaki-u.ac.jp /口腔管理センター/095-819-7707(内 7707)/月曜 13:00～14:00

担当教員(オムニバス科目等)	鵜飼 孝、黒木唯文、吉松昌子、中尾紀子

授業の概要
周術期口腔機能管理に関しての講義を行う。
学生が症例を基に患者の病態を理解し、治療法を考えグループで問題を提起し、それを解決する意欲･態度を養い、知識･自主性を身につける。

授業到達目標　【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
一般目標 GIO:
周術期口腔管理において必要な治療を選択できる知識を身に付ける。
個別行動目標 SBOs:

1.診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。	E-1-1), E-1-2), E-1-3)
2.歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。	E-1-3), E-5-1)
3.各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。	E-1-3), E-6
4.各情報から患者の病態を理解し、治療法を計画できる力を身に付ける。	A-3

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断し、治療計画を立案できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

主に講義形式で行い、一部 PBL形式を採用する。PBL では症例に基づきグループごとに学生自らが問題を発見、解釈、解決する学習形態で実施する。

授業内容

1 回目：周術期口腔機能管理とは
2 回目：医科歯科連携
3 回目：心臓手術患者の口腔管理
4 回目：がん手術患者の口腔管理
5 回目：幹細胞、臓器移植患者の口腔管理
6 回目：誤嚥性肺炎
7 回目：往診口腔管理
8 回目：化学療法･放射線治療患者の口腔管理
9 回目：骨吸収抑薬使用患者の口腔管理
10 回目：歯周組織管理
11 回目：緩和ケア
12 回目：義歯･咬合管理
13 回目：症例提示、計画立案、発表、討論
14 回目：症例提示、計画立案、発表、討論
15 回目：症例提示、計画立案、発表、討論

キーワード	臨床検査

教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	・レポート 50%、発表・討論態度 50% ・到達目標の理解度で評価する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席、授業への取り組み状況、各グループでの討論での積極性などを重視します。
備考(学生へのメッセージ)	これからの歯科医療において重要な分野となりますのでしっかりと理解してください。
実務経験のある教員による授業科目	・鵜飼　孝、黒木唯文、吉松昌子、中尾紀子／長崎大学病院口腔管理センター診療に従事／診療経験を基に歯科診療に必要な知識について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	30	火	1	周術期口腔機能管理とは	鵜飼	講義室6B
2回	4	30	火	2	医科歯科連携	鵜飼	講義室6B
3回	4	30	火	3	心臓手術患者の口腔管理	吉松	講義室6B
4回	5	1	水	4	がん手術患者の口腔管理	黒木	講義室6B
5回	5	1	水	5	幹細胞、臓器移植患者の口腔管理	黒木	講義室6B
6回	5	1	水	6	誤嚥性肺炎	鵜飼	講義室6B
7回	5	2	木	1	往診口腔管理	中尾	講義室6B
8回	5	2	木	2	化学療法・放射線治療患者の口腔管理	鵜飼	講義室6B
9回	5	2	木	3	骨吸収抑薬使用患者の口腔管理	鵜飼	講義室6B
10回	5	30	木	7	歯周組織管理	鵜飼	講義室6B
11回	5	30	木	8	緩和ケア	鵜飼	講義室6B
12回	6	19	水	4	義歯・咬合管理	黒木	講義室6B
13回	6	26	水	4	症例提示、計画立案、発表、討論	鵜飼・黒木・他	講義室6B, PBL室
14回	6	26	水	5	症例提示、計画立案、発表、討論	鵜飼・黒木・他	PBL室
15回	6	26	水	6	症例提示、計画立案、発表、討論	鵜飼・黒木・他	講義室6B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054628 DNGD 33571992 生活習慣病と口腔/(Life-Style Related Disease and Oral Environment)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義･e-learning 形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
近藤 好夫/yosioji@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7757(内 7757)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	近藤 好夫, 西村英紀(非常勤講師 九州大学)

授業の概要

生活習慣病等への対策･ヘルスプロモーションにおける「口腔･全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。歯学と医学そして行政との融合を理解する。

なおこの講義は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の一環として行われる。

授業到達目標

一般目標 GIO:

生活習慣病等への対策･ヘルスプロモーションにおける「口腔･全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。

個別行動目標 SBOs:

1.食生活、栄養、口腔疾患と全身の健康について説明できる。

2.健康増進に寄与する歯科医学について説明できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

E-3-3)-(3)-①,

F-3-2)-⑤

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義及び e-learning を用いた講義による。

授業内容

1 回目: 講義シリーズ1(e-learning 1) 認知症と生活習慣病
2 回目: 講義シリーズ1(e-learning 2) 運動器リハビリテーション概説
3 回目: 講義シリーズ1(e-learning 3) 口腔の健康が出産へ及ぼす影響－歯周病と早産･低体重児出産の関連－
4 回目: 講義シリーズ1(e-learning 4) 生活習慣病に対する栄養学的アプローチ
5 回目: 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連 1(仮題)
6 回目: 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連 2(仮題)
7 回目: 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連 3(仮題)
8 回目: 講義シリーズ1(e-learning 5) 睡眠時無呼吸症候群の概要と歯科的アプローチ

キーワード	
教科書･教材･参考書	指定無し
成績評価の方法･基準等	講義受講および e-learning 受講後に実施される確認テストおよび受講後のレポートにより評価する。
受講要件(履修条件)	予定されるすべての e-learning の確認テストに合格し、同 e-learning のレポートが提出されていること。 対面講義を欠席した場合は e-learning を追加する。
備考(学生へのメッセージ)	対面講義と e-learning が混在するため注意すること。かなり現場に近い講義シリーズになるが、自らが歯科医師としてどのように関わるかを想像しながら聴講していただきたい。対面講義においては講師に対し礼を失しないよう振る舞うこと。
実務経験のある教員による授業科目	・近藤 好夫／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に生活習慣病と口腔に関する基礎を教授する。 ・西村 英紀／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に生活習慣病と口腔に関する健康科学について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	水	7	講義シリーズ1(e-learning 1) 認知症と生活習慣病	菱川 望	講義室6B
2回	4	10	水	7	講義シリーズ1(e-learning 2) **運動器リハビリテーション概説**	築山 尚司	講義室6B
3回	4	17	水	7	講義シリーズ1(e-learning 3) **口腔の健康が出産へ及ぼす影響－歯周病と早産・低体重児出産の関連－**	長谷川 梢	講義室6B
4回	4	24	水	7	講義シリーズ1(e-learning 4) 生活習慣病に対する栄養学的アプローチ	長谷川 祐子	講義室6B
5回	5	10	金	4	健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連1(仮題)	西村英紀	講義室6B
6回	5	10	金	5	健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連2(仮題)	西村英紀	講義室6B
7回	5	10	金	6	健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連3(仮題)	西村英紀	講義室6B
8回	5	10	金	7	講義シリーズ1(e-learning 5) 睡眠時無呼吸症候群の概要と歯科的アプローチ	水口　一	講義室6B

年度 2024　学期 1・2Q	曜日・校時　時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
授業コード 科目ナンバリング・コード 授業科目/(英語名)	25054618 DNGD33401987 睡眠障害と疾患/(Sleep related breathing Disorder)		
対象年次 5年次	講義形態 講義	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
中村 渉:wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A 棟 4 階 25 号室/095-819-7636(内 7636)/16:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	中村渉、柳本惣市(広島大学), 内村直尚(久留米大学), 遠藤拓郎(慶應義塾大学) 加藤隆史(大阪大学), 江崎和久(久留米大学), 江川哲治, 砂川玄志郎(理化学研究所)

授業の概要

睡眠障害が引き起こす, さまざまな歯科的な疾患の病態を理解し, 歯科的な治療法を用いる場合の, 臨床的な注意点を学習する。そのために, 睡眠に関する生理学的な機能を理解する。また, 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療方法の実際を, 勉強する。

授業到達目標/

一般目標 GIO:

・睡眠障害が関連する歯科的疾患の病態と治療方法を理解する。

個別行動目標 SBOs:

・睡眠時無呼吸の原因、診察、検査、診断及び治療方針を概説できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
E-2-4)-(11)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義ではスライドを中心に、プリントの配付と板書を使用する。また、PBL 形式で病態の理解を深め睡眠障害の病態生理機構を学ぶ。

授業内容

講義

1 回目:	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法 (医科的な治療方法について)	担当 内村
2 回目:	睡眠学概論(自然睡眠の生理学的な役割と睡眠障害の病態生理について)	担当 遠藤
3 回目:	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法 (歯科的な治療方法について)	担当 江崎
4 回目:	人工冬眠の臨床応用に向けて	担当 砂川
5 回目:	口腔生理学から生涯歯科学へ“Timing is Everything”	担当 中村渉
6 回目:	アスリートからみたスポーツ歯学	担当 江川
7 回目:	閉塞型睡眠時無呼吸の長崎大学での歯科的治療の診断・治療上の注意点を学ぶ	担当 柳本
8 回目:	睡眠時ブラキシズムの病態 (睡眠時ブラキシズムの病態生理について)	担当 加藤
9,10 回目:	睡眠障害と疾患問題演習	担当 中村渉

キーワード	閉塞型睡眠時無呼吸症候群, ブラキシズム、サーカディアンリズム
教科書・教材・参考書	1. 一般医のための睡眠臨床ガイドブック 菱川泰夫 監修 医学書院 2. 図解雑学 睡眠のしくみ 鳥居鎮夫 監修 ナツメ社 3. 睡眠のメカニズム 井上昌次郎 編 朝倉書店 4. ヒトはなぜ眠るのか 井上昌次郎 編 筑摩書房 5. 危険ないびきが生活習慣病を招く! 鈴木俊介, 小学館文庫 6. 意外とこわい睡眠時無呼吸症候群 成井浩司 講談社 7. NHK スペシャル 病の起源 NHK出版
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度・積極的取り組みを重視。講義レポートにより成績評価を行う。
受講要件(履修条件)	既に学習した基礎科目の知識を基盤とした臨床科目という観点から捉える必要がある。従って, 疑問を感じた場合は, 随時・適宜基礎科目の復習が必要となる。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・内村 直尚／歯科医院における診療経験(精神医学) ／大学病院における診療経験を元に精神医学に関する講義を行う。 ・加藤 隆史／大阪大学医学部附属病院における診療経験(睡眠障害治療) ／診療経験を元に睡眠障害治療に関する講義を行う。 ・江崎 和久／現役歯科医師が歯科医院における実務経験(睡眠障害治療) ／自院での診療経験を元に睡眠障害治療に関する講義を行う。

	・中村　渉　／大学病院における診療経験（睡眠障害治療）／診療経験を元に睡眠障害治療に関する講義を行う。 ・柳本　惣市／広島大学病院における診療経験（口腔外科学・周術期管理）／大学病院における診療経験を元に口腔外科学・周術期管理に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	7	1	月	1～2	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的な治療法について	内村直尚	講義室6B
2回	7	1	月	2～3	睡眠学概論 自然睡眠の生理学的な役割（サーカディアンリズム）と睡眠障害の病態生理について	遠藤拓郎	講義室6B
3回	7	2	火	4～5	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療法について	江崎和久	講義室6B
4回	7	2	火	5～6	人工冬眠の臨床応用に向けて ～能動的低代謝を体温管理療法に応用できるか？～	砂川玄志郎	講義室6B
5回	7	8	月	1～2	サーカディアンリズムと睡眠調節機構の最新知見 “Timing is Everything”	中村渉	講義室6B
6回	7	8	月	2～3	アスリートからみたスポーツ歯学	江川哲治	講義室6B
7回	7	9	火	4～5	「大学病院における閉塞型睡眠時無呼吸症候群治療の実際」	柳本惣市	講義室6B
8回	7	9	火	5～6	睡眠時ブラキシズムの病態生理	加藤隆史	講義室6B
9回	7	12	金	4～5	睡眠学PBL① 睡眠障害と関連疾患に関する病態を問題演習形式で学習する	中村渉	講義室6B
10回	7	12	金	5～6	睡眠学PBL② 睡眠障害と関連疾患に関する病態を問題演習形式で学習する	中村渉	講義室6B

年度 2024 学期 2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054621 DNGD33431990 離島歯科医学/(Dentistry in remote island)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川下由美子/yumiko-t@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学医局/095-819-7663(内 7663)/木曜 17:00～			
担当教員(オムニバス科目等)	非常勤講師:梶原康宏、髙橋弘樹、楠本由美子(長崎大学病院)、西山 毅(鹿児島大学)、多田浩晃(歯学部)、野中文陽(医学部)、小牧憲明(こまき歯科医院)		

授業の概要

離島歯科保健医療実習について、その意義や目的を学ぶ。後期から始まる実習では介護や行政の仕事を実際に体験し、歯科医院実習では訪問歯科や小離島診療所ほか、離島ならではの診療の様子、求められる歯科のあり方を知ることができる。
長崎県は日本一離島が多い県である。離島における歯科医療、保健、福祉について学修する。
また、多職種連携についても学修する。

授業到達目標	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
一般目標 GIO: (離島)地域における医療、保健、福祉の実際を通して、地域包括ケアシステムや多職種連携の概念を理解する。	A-7
個別行動目標 SBOs:	
1. 地域社会(へき地・離島を含む)における歯科医療の現状を概説できる。	A-7-1)
2. 地域包括ケアシステムの概念、および多職種連携の在り方を理解する。	A-7-1)
3. かかりつけ歯科医等の役割を理解する。	A-7-1)
4. 地域における在宅医療、救急医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。	A-7-1)

対応するディプロマポリシー

DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意志を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

講義形式

授業内容

1 回目:多職種連携①理学療法士として (梶原)
2 回目:多職種連携②作業療法士として (高橋)
3 回目:多職種連携③言語聴覚士として (楠本)
4 回目:離島における歯科医療について (小牧)
5 回目:鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について (西山)
6 回目:離島歯科保健医療実習について (多田)
7 回目:離島の定義、特徴および離島医療について (野中)

キーワード	離島、地域医療、保健、福祉
教科書・教材・参考書	離島・へき地医療学講座、離島医療研究所ホームページ, http://ritouken.com
成績評価の方法・基準等	レポート
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	離島実習開始前に学務係から ID/PW を受け取りログインして実習開始前アンケートに応えること。 非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。 ※外部からの講師が多いため、日程の変更時には、ラックスならびに学務係を通じて事前にお知らせします。

実務経験のある教員による授業科目	・梶原　康宏／現役理学療法士が大学病院における実務経験／理学療法士と多職種連携の意義、取り組み方を説明する。 ・髙橋　弘樹／現役作業療法士が大学病院における実務経験／作業療法士と多職種連携の意義、取り組み方を説明する。 ・楠本　由美子／現役言語聴覚士が大学病院における実務経験／言語聴覚士と多職種連携の意義、取り組み方を説明する。 ・小牧　憲明／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／島嶼地域における歯科医院の取り組みについて説明する。 ・西山　毅／現役歯科医師が大学病院における実務経験／島嶼地域における歯科医療の意義、取り組みについて説明する。 ・多田　浩晃／現役歯科医師が大学病院における実務経験／島嶼地域における歯科医療の意義、取り組みについて説明する。 ・野中　文陽／現役医師が大学病院、五島中央病院における実務経験／島嶼地域における医療保健福祉の意義、取り組みについて説明する。

離島歯科医学日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	27	木	4	多職種連携①（理学療法士として）	梶原	講義室6B
2回	6	27	木	5	多職種連携②（作業療法士として）	髙橋	講義室6B
3回	6	27	木	6	多職種連携③（言語聴覚士として）	楠本	講義室6B
4回	6	28	金	8	離島における歯科医療について	小牧	講義室6B
5回	7	4	木	4	鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について	西山	講義室6B
6回	7	4	木	5	離島歯科保健医療実習について	多田	講義室6B
7回	7	4	木	6	離島の定義、特徴および離島医療について	野中	講義室6B

年度 2024 学期 2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054613 DNGD33361991 医療面接/(Medical Interview)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 各部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 俣木志朗(元東京医科歯科大学), 服巻豊(広島大学), 近藤好夫, 多田浩晃, 野中愛恵(元 JICA ジュニア専門員), 木村泰男(臨床教授), 鵜飼孝, 鎌田幸治, 山下利佳, 野上朋幸, 杉本浩司, 樋口賀奈子, 他協力教員

授業の概要

歯科疾患を抱える患者を全身的・全人的に捉える態度および問題解決志向に対する理解を深める。また, 信頼関係を確立するためのコミュニケーションの重要性を理解し, その能力を身に付ける。これらを通して, 歯科医師としての人格を涵養することの重要性を理解しなければならない。

授業到達目標

一般目標 GIO :患者との良好な人間関係の構築するために必要なコミュニケーションに関する知識, 態度, 技術を身に付ける。	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs :	
1. コミュニケーションの意義, 目的と技法(言語的・準言語的・非言語的)を説明する。(知識;想起)	A-1-1)③⑤, A-1-2), A-1-3), A-3①④⑤⑥, A-4-1), A-4-2)
2. 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを説明する。(知識;想起)	A-1-1)③⑤, A-1-2), A-1-3), A-5-1)①②③④⑤⑥, A-6-1), A-6-2), A-6-3)
3. 患者の社会的・心理的背景を考慮する。(態度・習慣)	A-1-2), A-3①④⑤⑥, A-4-2)
4. 患者の権利に配慮する。(態度・習慣)	A-1-2), A-3①④⑤⑥, A-4-2)
5. 保健, 医療に関する国際的課題について理解し, コミュニケーションをとる際に配慮する。(態度・習慣)	A-4-2), A-7-2)
6. 正確かつ必要十分な医療面接を行う。(技能)	A-1-1) ③⑤, A-1-2), A-1-3), A-3①④⑤⑥, A-4-1), A-4-2), A-5-1) ①②③④⑤⑥

対応するディプロマポリシー

DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

プリントとスライドを用いた講義, SGD 形式の学習, 模擬患者に対する医療面接実習およびビデオ学習。
はじめに, 医療面接に関する基礎知識とコミュニケーションの基本的技法を講義により学習する。次いで, 小グループ実習と模擬患者を用いたロールプレイ実習を行い, 形成的評価を繰返し受けることによって医療面接についての基本的態度, 技能および知識を修得する。さらに, 医療に携わる者としての人格の涵養に望ましい姿勢と態度を考える。

授業内容

1 回目: 医療面接の目的と総論
2 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 1
3 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 2
4 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 3
5 回目: 対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング 1
6 回目: 対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング 2
7 回目: 対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング 3
8 回目: 医療行動科学演習 (ビデオ学習;診療開始・診療中・診療後)
9 回目: SGD (医療面接実習評価シート作成), PLS (プロダクト発表)
10 回目: SGD (医療面接実習評価シート作成), PLS (プロダクト発表)
11 回目: グローバルコミュニケーション 1
12 回目: グローバルコミュニケーション 2
13 回目: ロールプレイ実習 1 (面接/評価トライアル)
14 回目: ロールプレイ実習 2 (面接/評価トライアル)

15 回目: SP シミュレーション実習 1（初診時医療面接） 16 回目: ロールプレイ実習 3（面接／評価トライアル） 17 回目: SP シミュレーション実習 2（初診時医療面接） 18 回目: SP シミュレーション実習 3（初診時医療面接）	
キーワード	コミュニケーション，敬語，プロフェッショナリズム，医療行動科学
教科書・教材・参考書	参考書：医療面接技法とコミュニケーションのとり方，福島統編，メジカルビュー社 よくわかる医療面接と模擬患者，鈴木富雄・阿部恵子編，名古屋大学出版会
成績評価の方法・基準等	医療行動科学は筆記試験またはレポートで評価する。医療面接実習は，学生の相互評価，模擬患者の評価およびファシリテーターの観察記録によって評価する。これらの平均点 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合，成績評価の対象とならない。 また，実習は必ず出席しなければならない。
備考(学生へのメッセージ)	他人の言葉から，必要な情報を引き出すことを学びます。人に心を開いてもらえるよう，言葉遣いだけでなく，表情，身だしなみにいたるまで，自分を磨いてください。
実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・俣木　志朗／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・服巻　豊／総合病院における臨床心理士業務／総合病院における臨床心理士としての経験を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・多田　浩晃／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・野中　愛恵／元国際協力事業団医療協力部第一課ジュニア専門員／JICA における経験を元に，国際医療支援活動について講義形式の授業を行っている ・木村　泰男／長崎大学病院における歯科診療行為 ／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・鵜飼　孝／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・鎌田　幸治／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・山下　利佳／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・野上　朋幸／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・杉本　浩司／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。 ・樋口　賀奈子／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に患者とのコミュニケーションに必要な基本的技法などを教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	12	水	6	医療面接の目的と総論	角　忠輝	講義室6B
2回	6	18	火	4	医療コミュニケーションをとるための技法 1	俣木志朗	講義室6B
3回	6	18	火	5	医療コミュニケーションをとるための技法 2	俣木志朗	講義室6B
4回	6	18	火	6	医療コミュニケーションをとるための技法 3	俣木志朗	講義室6B
5回	6	21	金	4	対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング1 －自己理解と他者理解の視点を育む－	服巻　豊	講義室6B
6回	6	21	金	5	対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング2 －自己理解と他者理解の視点を育む－	服巻　豊	講義室6B
7回	6	21	金	6	対人場面をスムーズにする課題解決ロールプレイング3 －自己理解と他者理解の視点を育む－	服巻　豊	講義室6B
8回	6	25	火	4	医療行動科学演習　(ビデオ学習;診療開始・診療中・診療後)	近藤好夫 /多田浩晃	講義室6B
9回	6	25	火	5	小グループ実習　医療面接実習評価シート作成 プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議	近藤好夫 /多田浩晃	講義室6B
10回	6	25	火	6	小グループ実習　医療面接実習評価シート作成 プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議	近藤好夫 /多田浩晃	講義室6B
11回	6	28	金	4	グローバルコミュニケーション	野中愛恵	講義室6B
12回	6	28	金	5	グローバルコミュニケーション	野中愛恵	講義室6B
13回	7	3	水	4	ロールプレイ実習1(面接／評価トライアル)	教員6	6教室
14回	7	3	水	5	ロールプレイ実習2(面接／評価トライアル)	教員6	6教室
15回	7	3	水	6	SPシミュレーション実習1(初診時医療面接)	教員6	6教室
16回	7	10	水	4	ロールプレイ実習3(面接／評価トライアル)	教員6	6教室
17回	7	10	水	5	SPシミュレーション実習2(初診時医療面接)	教員6	6教室
18回	7	10	水	6	SPシミュレーション実習3(初診時医療面接)	教員6	6教室

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054629 DNGD 33581990 医療倫理・プロフェッショナリズム論/(Medical Ethics and Professionalism)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義・e-learning 形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝、長谷 由紀子(非常勤講師)		

授業の概要

患者は歯科医師と言う職業に対する信頼を有することで、全く知らない歯科医師に自らの診療を許している。プロフェッショナリズムとは社会の信頼を得るための保証を生み出すものとして定義される。

授業到達目標

一般目標 GIO:

患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任を持って医療を実践するための態度、倫理観を有して行動できる。そのために、歯科医師としての自己を評価し生涯にわたって向上を図ることができる。

個別行動目標 SBOs:

1. 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動できる。
2. 法的責任・規範を遵守する。
3. 他者の尊厳を尊重し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。
4. 患者とその関係者の心理・社会的要因と異文化、社会的背景に関心を払い、その立場を尊重する。
5. 常に自己を評価・管理し、自分の知識、技能、行動に責任を持つことができる。
6. 医科歯科連携および多職種連携を実践できる。
7. 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学修により常に自己の向上を図ることができる。
8. 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを説明でき，患者の権利に配慮できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-1,
A-4-2)-⑥，⑦,
A-5-1)-⑤，⑦,
A-9

対応するディプロマポリシー

DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

さまざまな方向性の事例を提示し、グループディスカッションを行い、発表により全体討論を行う。

授業内容

1 回目:プロフェッショナリズム概論
2 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 1 SGD
3 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 1 発表
4 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 2 SGD
5 回目:プロフェッショナリズム演習 事例検討 2 発表
6 回目:多職種で考えるプロフェッショナリズム論(仮題)
7 回目:多職種で考えるプロフェッショナリズム論(仮題)
8 回目:医療倫理・プロフェッショナリズム論 試験

キーワード	医療倫理，プロフェッショナリズム
教科書・教材・参考書	教科書:特に指定しない 参考書:医師のためのパフォーマンス学入門 日経 BP 社 話を聞かない医師 思いが言えない患者 集英社
成績評価の方法・基準等	医療倫理・プロフェッショナリズム論は第 6 回目の授業中に筆記試験で評価する。プロフェッショナリズム演習は，学生の相互評価および観察記録によって評価する。これらの平均点 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合，成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	信頼を得るとはどう言うことか、について絶えず自問自答し自らを磨いてほしい。

実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に医療倫理・プロフェッショナリズムを教授する。 ・長谷　由紀子／大学病院における歯科診療、保健衛生業務／大学病院における診療行為を元に医療倫理・プロフェッショナリズムを教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	22	水	2	プロフェッショナリズム概論	角	講義室6B
2回	5	22	水	3	プロフェッショナリズム演習 事例検討1 SGD	角	講義室6B
3回	6	7	金	5	プロフェッショナリズム演習 事例検討1 発表	角	講義室6B
4回	6	7	金	6	プロフェッショナリズム演習 事例検討2 SGD	角	講義室6B
5回	6	24	月	3	プロフェッショナリズム演習 事例検討2 発表	角	講義室6B
6回	7	5	金	4	多職種で考えるプロフェッショナリズム論（仮題）	長谷	講義室6B
7回	7	5	金	5	多職種で考えるプロフェッショナリズム論（仮題）	長谷	講義室6B
8回	7	18	木	6	医療倫理・プロフェッショナリズム論 試験	角	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054630 DNGD 33591992 急性期医療/(Medical Care for an Acute Phase)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義・e-learning 形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
近藤 好夫/yosioji@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7757(内 7757)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	近藤 好夫

授業の概要

周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法など、急性期医療における「口腔・全身健康学」の知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。医学、看護学、栄養学との融合を図る。

なおこの講義は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の一環として行われる。

授業到達目標

一般目標 GIO:
周術期口腔機能管理、がん口腔支持療法など、急性期医療における「口腔・全身健康学」の知識を持ち、かつチーム医療の重要性を理解し実践するマインドを涵養する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.全身状態を観察する目を養い、適切な全身管理法を学ぶ。	E-1-4)-(4)-③,
2.歯科治療時の全身的偶発症の対処法、予防法を学ぶ。	E-1-5)-⑩,
	E-1-6)-①, E-6

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

主に e-learning を用いた講義による。

授業内容

1 回目:講義シリーズ2(e-learning 1)歯学生・歯科医療者が知っておくべき臨床腫瘍学総論
2 回目:講義シリーズ2(e-learning 2)頭頸部癌に対する放射線治療の実際と顎口腔領域の合併症について
3 回目:講義シリーズ2(e-learning 3)がん化学療法の実際と口腔内合併症への対策
4 回目:講義シリーズ2(e-learning 4)歯学生が知っておくべき集中治療の知識
5 回目:講義シリーズ2(e-learning 5)歯学生・歯科医師が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流
6 回目:講義シリーズ2(e-learning 6)歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期口腔管理・がん口腔支持療法の実際－総論－
7 回目:講義シリーズ2(e-learning 7)歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期看護
8 回目:講義シリーズ2(e-learning 8)周術期の栄養管理について

キーワード	全身管理 局所麻酔 全身偶発症の予防
教科書・教材・参考書	指定無し
成績評価の方法・基準等	講義受講後に実施される確認テストおよび受講後のレポートにより評価する。
受講要件(履修条件)	予定されるすべての講義の確認テストに合格し、すべての講義のレポートが提出されていること
備考(学生へのメッセージ)	かなり現場に近い講義シリーズになるが、自らが歯科医師としてどのように関わるかを想像しながら聴講していただきたい。
実務経験のある教員による授業科目	・近藤 好夫／大学病院における歯科診療行為／大学病院における診療行為を元に急性期医療に関する基礎を教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	17	金	7	講義シリーズ2(e-learning 1) 「歯学生・歯科医療者が知っておくべき臨床腫瘍学総論」	田端　雅弘	講義室6B
2回	5	24	金	7	講義シリーズ2(e-learning 2) 「頭頸部癌に対する放射線治療の実際と顎口腔領域の合併症について」	松﨑　秀信	講義室6B
3回	5	31	金	7	講義シリーズ2(e-learning 3) 「がん化学療法の実際と口腔内合併症への対策」	百合草　健圭志	講義室6B
4回	6	7	金	7	講義シリーズ2(e-learning 4) 「歯学生が知っておくべき集中治療の知識」	小林　求	講義室6B
5回	6	21	金	7	講義シリーズ2(e-learning 5) 「歯学生・歯科医師が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流」	森松　博史	講義室6B
6回	6	28	金	7	講義シリーズ2(e-learning 6) 「歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期口腔管理・がん口腔支持療法の実際－総論－」	曽我　賢彦	講義室6B
7回	7	5	金	7	講義シリーズ2(e-learning 7) 「歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期看護 」	足羽　孝子	講義室6B
8回	7	12	金	7	講義シリーズ2(e-learning 8) 「周術期の栄養管理について」	長谷川　祐子	講義室6B

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25054631 DNGD 33601992 在宅介護医療/(Home Medical Care)		
対象年次 5 年次	講義形態 講義	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 久松徳子/norinori@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7757(内 7757)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	久松徳子		

授業の概要

歯科医師の多くは開業医の医療提供体制で地域医療を担っているが、生活の自立度が比較的保たれた患者を診ることが多く、患者の終末期･死も含め、人の一生を見据える歯科医療の在り方を考える経験が少ない。患者の終末期･死も含め、人の一生を見据えた健康長寿社会の実現のために歯科医療がどうあるべきかを考え、貢献する歯科医師のマインドを醸成する。

なおこの講義は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の一環として行われる。

授業到達目標

一般目標 GIO:

回復期、慢性期医療および在宅医療における「口腔･全身健康学」の広い知識を持ち、かつチーム医療および在宅･訪問歯科診療の重要性を理解し実践する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
・患者中心のチーム医療の意義を説明できる。	A-5-1)
・地域医療・地域保健のあり方を説明できる。	A-7-1)
・保健・医療・福祉・介護について説明できる。	B-2-2)
・在宅医療について説明できる。	E-5-1), F-3-7)
・介護医療について説明できる。	E-5-1), F-3-7)
・ACP・緩和ケアについて説明できる。	A-5-1)-⑦

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10:離島へき地をはじめとする地域･国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

講義

授業内容

8 回予定。
在宅医療･介護医療における、地域医療、他職種との関わり、チーム医療、保健･医療･福祉･介護の連携、現状、人生の最期等について講義を行う。
講義内容の詳細は、都度提示する。

キーワード	回復期医療、慢性期医療および在宅医療
教科書･教材･参考書	指定無し
成績評価の方法･基準等	課題レポートでの評価を行う。 出席，追試験，再試験等は学部規定に従う。
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。
備考(学生へのメッセージ)	かなり現場に近い講義シリーズになるが、自らが歯科医師としてどのように関わるかを想像しながら聴講していただきたい。
実務経験のある教員による授業科目	・久松 徳子／大学病院における診療経験（摂食嚥下リハビリテーション治療・補綴治療）／大学病院における診療経験をもとに摂食嚥下リハビリテーション治療に関する講義を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	31	金	6	総論	久松	講義室6B
2回	6	19	水	5	臨床課題	久松	講義室6B
3回	6	19	水	6	治療技術	久松	講義室6B
4回	6	28	金	6	医学的管理	久松	講義室6B
5回	7	16	火	4	緩和ケア・ACP	久松	講義室6B
6回	7	16	火	5	小児	久松	講義室6B
7回	7	17	水	2	BCP	久松	講義室6B
8回	7	17	水	3	連携	久松	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054622 DNGD33341990 統合医療学/(Integrative Medicine)		
対象年次 5 年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 PBL 室・講義室 6B	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	和気裕之(非常勤講師), 岡安一郎, 松島加代子(非常勤講師), 今村 明(非常勤講師), 藤山理恵, 松尾朋博(非常勤講師), 坂井詠子, 三谷和男(非常勤講師), 常田洋平(非常勤講師), 川口 哲(非常勤講師), 角 忠輝

授業の概要

統合医療は医療システムの一つであり, 代替医療と同一ではない。すなわち, 近代西洋医学を前提として, これに代替医療や伝統医学等を組み合わせて, 更に QOL(Quality of Life:生活の質)を向上させる医療である。本講義の中ではそのすべてを修得することは困難であるが, まず, 歯科心身症について, 体系的に学ぼうとする態度および問題解決志向に対する理解を深める。さらに東洋医学の基礎理論から臨床応用まで幅広く学習することで得られた知識は歯科領域において今後発展性が期待できる分野である。

授業到達目標

一般目標 GIO:

安心・安全・快適な歯科治療を全ての患者に提供するための, 疼痛の発生機序を理解し, 口腔顎顔面痛の診断・治療法について他職種で共有できる共通言語を体系的に応用できる能力を身につける。また, 医科歯科連携における東洋医学の役割を理解し, 歯科臨床における重要性を認識する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 身体を構成する組織と器官, 神経系について説明できる。	C-3-4)-(5)神経系, C-3-4)-(6)感覚器系と感覚
2. 口腔顔面痛, 歯科心身症の診断に必要な診察の基本診察方法について説明できる。	E-1-1)診察の基本 E-2-4)口腔・顎顔面領域の疾患
3. 歯科医療に必要な麻酔と全身管理について説明できる。	E-5-3)精神・心身医学的疾患
4. 口腔・顎顔面領域の常態と疾患について説明でき, 診断・治療法について説明できる。	
5.東洋医学的診断法を説明できる。	C-6 生体と薬物
6.東洋医学の手技・手法を説明できる。	C-6-1) 薬物と医薬品
7.漢方処方について医科と対診できる。	C-6-2) 薬理作用
8.歯科臨床における漢方処方を理解できる。	C-6-3) 薬物の適用と体内動態
9.舌診を行うことができる。	C-6-4) 薬物の副作用と有害作用

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ, リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

PBL, 講義及び自己学習に加え実習を併用して学習する。

授業内容

1 回目: 歯科診療で必要な心身医学
2 回目: 歯科診療で必要な心身医学
3 回目: 口腔顔面領域の慢性の痛みに対する見方と対応
4 回目: 一般外来, 消化器内科外来での使用の実際
5 回目: 心身歯科
6 回目: 味覚へのアプローチ
7 回目: 泌尿器科領域と漢方
8 回目: 歯科漢方処方
9 回目: 舌診のすべて 1
10 回目: 舌診のすべて 2

11 回目: 漢方最前線 12 回目: 精神科臨床と漢方 13 回目: まとめ	
キーワード	歯科心身症, 心身医学, 精神医学, 東洋医学, 漢方, 医科歯科連携
教科書・教材・参考書	1) デンタルスタッフのための歯科心身症ガイドブック. 和気裕之, 澁谷智明, 目加田まり. 医歯薬出版, 東京, 2015. 2) サイコ・デンティストリー　歯科医のための心身医学・精神医学 第二版. 和気裕之. 砂書房,東京, 2015. 3) 口・あご・顔の痛みと違和感の対処法-原因がはっきりしないケースで困ったら. 和気裕之, 玉置勝司, 宮岡等. ヒョーロン, 東京, 2013. 4) 新・顎関節症はこわくない. 木野孔司, 杉崎正志, 和気裕之. 砂書房, 東京, 2011. 5) 歯科漢方医学. 歯科漢方医学教育協議会監修, 永末書店 6) 続今日からあなたも口腔漢方医. 王宝禮・王龍三編, 医歯薬出版 7) 入門歯科東洋医学(第 2 版). 日本歯科東洋医学会編 8) 舌診論[改訂増補版]新・臨床中医学舌診篇. 陳 勇著, 花乱社
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度を重視(40%)し, 第 13 回の授業中に実施する小テスト(60%)にて評価する.
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	2012 年 3 月, 長崎大学病院に,「オーラルペイン・リエゾン外来」が開設されて以来, 歯科心身症と口腔顔面痛の評価と管理は, 歯科と医科との緊密な医療連携(リエゾン診療を含む)の下で行われている. 一連の講義を通して, 口腔顔面痛にかかる歯科心身症に対する理解を深めて欲しい. また, 一連の漢方に関わる講義には, 実際の臨床につながるヒントが多く含まれている。臨床家に対して礼を失しないように。 講義日程が複雑なので注意すること。
実務経験のある教員による授業科目	・和気　裕之／歯科診療所における実務経験／診療経験を基に歯科診療に必要な心身医学について教授している ・岡安　一郎／大学病院における歯科診療行為／自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義形式の授業を行っている ・松島　加代子／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（消化器内科）を元に漢方医療の実際について講義形式の授業を行っている ・今村　明／大学病院における診療経験／大学病院における診療経験（精神医学）を元に精神医学に関する講義を行っている ・藤山　理恵／大学病院における歯科診療行為／自らの診療経験を元に, 味覚に関する基礎および臨床について講義・実習形式の授業を行っている ・松尾　朋博／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（泌尿器科）を元に漢方医療の実際について講義形式の授業を行っている ・三谷　和男／診療所における診療行為／自らの診療経験を元に, 舌診の有用性について講義形式の授業を行っている ・常田　洋平／研究職／製薬会社での研究職の経験を活かし, 漢方薬理の最新情報について講義形式の授業を行っている ・川口　哲／診療所における診療行為／自らの診療経験を元に, 精神科領域における漢方医療の実際について講義形式の授業を行っている ・角　忠輝／大学病院における歯科診療行為／自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	5	水	4	歯科診療で必要な心身医学	和気裕之	講義室6B
2回	6	5	水	5	歯科診療で必要な心身医学	和気裕之	講義室6B
3回	6	6	木	4	口腔顔面領域の慢性の痛みに対する見方と対応	岡安一郎	講義室6B
4回	6	7	金	4	一般外来，消化器内科外来での使用の実際	松島加代子	講義室6B
5回	6	12	水	4	心身歯科	今村　明	講義室6B
6回	6	12	水	5	味覚へのアプローチ	藤山理恵	講義室6B
7回	6	20	木	4	泌尿器科領域と漢方	松尾朋博	講義室6B
8回	6	20	木	5	歯科漢方処方	坂井詠子	講義室6B
9回	7	11	木	4	舌診のすべて1	三谷和男	講義室6B
10回	7	11	木	5	舌診のすべて2	三谷和男	講義室6B
11回	7	17	水	4	漢方最前線	常田洋平	講義室6B
12回	7	18	木	4	精神科臨床と漢方	川口　哲	講義室6B
13回	7	18	木	5	まとめ	角　忠輝	講義室6B

特別科目（6 年次生）

（1）歯科医療管理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・296
（2）基礎歯学輪講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・298
（3）高次口腔医療学　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・300

年度 2024 学期 3Q	曜日・校時 不定期・7-8	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25074071 DNGD44011990 歯科医療管理学/(Social Dentistry)		
対象年次 6 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 特別科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 五月女さき子/sakiko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教授室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	五月女さき子 非常勤講師:佐々木陽一、清水祐一、重政昭彦、木村省三(長崎県)、福田英輝(国立保健医療科学院)		

授業の概要

歯科医療や歯科保健を社会的な側面から考察する。そのため必要な医療関連法規や制度とその実際の適用について、また政策としての健康づくりや予防医学の基礎について解説する。制度や法律の変化に対応するため、6 年時に行う必要がある。歯科医療や歯科保健を社会的な側面から捉え理解する。そのため関連法規や制度とその実際の適用について学ぶ。歯科医師国家試験対策としても大いに役立ててもらいたい。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯科医療や歯科保健を社会的な側面から捉え理解する。また関連法規や制度とその実際の適用について身につける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.歯科医療、歯科保健に関連した法律や制度について説明できる。	B-2-1), B-2-2)
2.地域医療、地域保健を説明できる。	A-7-1), B-3-2)
3.歯科医療に関連した職種と職種間のコミュニケーションについて説明できる。	A-7-1)
4.医療安全について説明できる。	A-6-2)
5.社会保障制度、および社会福祉制度について説明できる。	B-2-2)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

スライドを用いた授業形式。併せて資料を補足するが教科書も必携。理解度の確認のため定期考査を実施する。

授業内容

1 回目:医療法と歯科医師法、医療安全
2 回目:医療機関のネットワークと情報、衛生学全般
3 回目:歯科口腔保健に関する動向と課題
4 回目:歯科口腔保健に関する動向と課題
5 回目:歯科関連の法律、制度、地域医療等

キーワード	医療、地域、社会、法律、制度
教科書・教材・参考書	教科書 口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版) 国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ)
成績評価の方法・基準等	筆記試験を行うが、講義によってはレポートを課することがある。
受講要件(履修条件)	非常勤講師による特別講義が多いので、礼節をわきまえること。また出席を重視する。
備考(学生へのメッセージ)	試験は国家試験に類似した形式で実施する。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意すること】

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	木	7-8	医療法と医師・歯科医師の責務について法令や規則をもとに理解する。 医療安全について法令や規則をもとに学ぶ。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意】	長崎県福祉保健部医療政策課 佐々木 陽一 馬郡　正昌	講義室3B
2回	10	10	木	7-8	医療機関のネットワークと情報、地域医療計画、地域医療・福祉の現状と地域医療連携の実際について、また診療ガイドラインについて学ぶ。また周術期口腔機能管理について学ぶ	五月女	講義室3B
3回	10	23	水	5-6	歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の達成状況を通して、わが国の歯科口腔保健に関する動向と課題を確認する。	国立保健医療科学院 福田　英輝	講義室6A
4回	10	23	水	7-8	歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の達成状況を通して、わが国の歯科口腔保健に関する動向と課題を確認する。	国立保健医療科学院 福田　英輝	講義室6A
5回	10	24	木	7-8	地域医療等について学ぶ。歯科医師の倫理、医療・保健・福祉の現状と関連法規、特に歯科医療、歯科保健に関連した法律や制度について学ぶ。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意】	長崎県国保・健康増進課 重政　昭彦 長崎県福祉保健部医療政策課 田本　遼	講義室6B

年度 2024 学期 1・2Q	曜日・校時 不定期・7	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25074702 DNGD44021990 基礎歯学輪講/(Basic Dental Science)		
対象年次 6 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 特別科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 門脇知子/tomokok@nagasaki-u.ac.jp/A 棟 2 階 201 号室/095-819-8504(内 8504)/10:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	阿部薫明 sabe_den@, 伊藤公成 itok@, 藤田修一 fujishu@, 庄子幹郎 m-shoji@, 森石武史 moriishi@, 山口優 yu-y@, 中村渉 wataru_nakamura@, 山下裕美 hiyamashita@, 小山田常一 oyamada@, 門脇知子 tomokok@		

授業の概要

最終学年での歯科の基礎を再履修することにより，歯学全般の知識を整理・確認する。国家試験の勉強を始めるにあたり、基本的な方向付けの手助けをする授業と位置づけられる。

授業到達目標

一般目標 GIO:

最終学年で歯科医学の基礎領域の知識を整理し、
臨床との関連性について理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.歯学基礎領域の知識を確認しまとめることができる。	C-1, C-2, C-3, C-4, C-5, C-6, D-1, D-2, E-2, E-3-1), E-3-2)
2.基礎と臨床との関連性について説明できる。	C-1, C-2, C-3, C-4, C-5, C-6, D-1, D-2, E-2, E-3-1), E-3-2)
3.国家試験対策として活用できる。	C-1, C-2, C-3, C-4, C-5, C-6, D-1, D-2, E-2, E-3-1), E-3-2)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各基礎分野から1名の担当教員による講義形式で行われ、概要または国家試験の過去問等を講義形式で解説する。

授業内容

1 回目(口腔病理学)
過去の国家試験問題を解答し、病理学・口腔病理学及び臨床問題に含まれる病理組織学的診断を包括的に解説する。

2 回目(口腔病原微生物学)
微生物学、口腔微生物学の知識を整理する。国家試験の既出題問題を解答し、解説する。

3 回目(細胞生物学)
組織学・口腔組織学・発生学を復習する。国家試験の過去問を解答し、要点を整理する。

4 回目(歯科法医学)
法医学・歯科法医学の知識を過去の国家試験問題を解きながら要点を整理する。

5 回目(分子腫瘍生物学)
生化学・分子生物学・細胞生物学関連分野の基礎知識を整理する。国家試験の過去問を解答し、解説する。

6 回目(歯科薬理学)
薬理学、歯科薬理学の基礎知識を整理する。国家試験に準じた問題を解答し、その解説およびその問題に付随する問題点を講義する。

7 回目(生体材料学)
歯科理工学に関する知識を整理する。過去の国家試験問題や国試に準じた問題を解きながら、歯科理工学の要点を再確認する。

8 回目(顎顔面解剖学)
解剖学・口腔解剖学の基礎的知識を整理する。過去の国家試験問題の出題傾向と対策について解説する。

9 回目(フロンティア口腔科学)
口腔生化学の知識を整理する。過去の国試問題を解きながら要点を理解する。

10 回目(加齢口腔生理学)
生理学・口腔生理学の要点を解説する。国家試験の過去問を解答し、解説する。

キーワード	解剖学、組織学、発生学、生理学、生化学、微生物学、病理学、薬理学、法歯学、歯科理工学
教科書・教材・参考書	参考書:今まで使用してきた教科書、参考書、プリント、ノート
成績評価の方法・基準等	5月下旬に試験を行い、60点以上で合格とする。
受講要件(履修条件)	
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に講義科目の知識についての予習をすること。また知識の定着の為に受講後に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。質問等は講義終了直後が望ましいが、後日でも可能なので直接担当教員の研究室を訪ねること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	7	（口腔病理学） 過去の国家試験問題を解答し、病理学・口腔病理学及び臨床問題に含まれる病理組織学的診断を包括的に解説する。	藤田修一	講義室3A
2回	4	8	月	7	（口腔病原微生物学） 微生物学、口腔微生物学の知識を整理する。国家試験の既出題問題を解答し、解説する。	庄子幹郎	講義室3A
3回	4	12	金	7	（細胞生物学） 組織学・口腔組織学・発生学を復習する。国家試験の過去問を解答しながら要点を整理する。	森石武史	講義室3A
4回	4	15	月	7	（歯科法医学） 法医学・歯科法医学の知識を過去の国家試験問題を解きながら要点を整理する。	山下裕美	講義室3A
5回	4	19	金	7	（分子腫瘍生物学） 生化学・分子生物学・細胞生物学関連分野の基礎知識を整理する。国家試験の過去問を解答し、解説する。	伊藤公成	講義室3A
6回	4	22	月	7	（歯科薬理学） 薬理学、歯科薬理学の基礎知識を整理する。国家試験に準じた問題を解答し、その解説およびその問題に付随する問題点を講義する。	山口優	講義室3A
7回	4	26	金	7	（生体材料学） 歯科理工学に関する知識を整理する。過去の国家試験問題や国試に準じた問題を解きながら，歯科理工学の要点を再確認する。	阿部薫明	講義室3A
8回	5	7	火	7	（顎顔面解剖学） 解剖学・口腔解剖学の基礎的知識を整理する。過去の国家試験問題の出題傾向と対策について解説する。	小山田常一	講義室3A
9回	5	10	金	7	（フロンティア口腔科学） 口腔生化学の知識を整理する。過去の国試問題を解きながら要点を理解する。	門脇知子	講義室3A
10回	5	17	金	7	（加齢口腔生理学） 生理学・口腔生理学の要点を解説する。国家試験の過去問を解答し、解説する。	中村渉	講義室3A

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25119901 DNGD44041990 高次口腔医療学/(Advanced Oral Medicine)		
対象年次 6 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)		科目分類 特別科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 近藤好夫, 多田浩晃, 藤山理恵, 久松徳子, 他協力教員

授業の概要

今まで身につけた知識を整理・統合し，歯科医師に必要な全般的知識を確固たるものとするため，チーム基盤型学習（Team-Based Learning，TBL）の形式により統合学習を行う。また，基礎系および臨床系各講座が重要項目について解説する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科医師法第9条に基づいて，臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して，歯科医師として具有すべき知識及び技能について，その知識および態度を修得する。

個別行動目標 SBOs:
1. 基礎および臨床の多分野にわたる歯科医学の統合的知識を基盤として，症例問題等の課題を解決できる。
2. グループに与えられた課題を効果的かつ効率的に解決するために，十分に準備して授業に臨み，他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる。

【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

（すべてのコアカリ領域をふまえた上で本講義は進められる。）

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ，リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し，先端的医療を実践するために，生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)

TBL 形式による相互討論および講義･演習形式による統合学習

授業内容

（日程については第Ⅰ期開始前に提示する。理解進度によって内容が変更されることがあるので指示には注意すること）
第Ⅰ期(11 月上旬予定)
高次口腔医療学 1～8:TaxonomyⅠ想起レベルの課題に取り組み，基本的知識の定着を図る。

第Ⅱ期
高次口腔医療学 9～16:TaxonomyⅡ解釈レベルの課題に取り組み，持てる知識の複合に努める。

第Ⅲ期
高次口腔医療学 17～24:TaxonomyⅢ問題解決レベルの課題に取り組み，知識の応用，統合を図る。

キーワード	歯科医師法，歯科医師国家試験
教科書･教材･参考書	特に指定しない
成績評価の方法･基準等	授業への出席およびグループ作業への取り組みを総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	臨床実習終了者
備考(学生へのメッセージ)	6 年間の総まとめとなる講義であり，互いを高め合うために積極的な取り組みおよび討議を期待する。医療人を目指す学習者として相応しい態度で学ぶことができる者に限る。(正当な理由なく欠席したり，他の学生の受講の妨げになる等の行動をする者は，評価の対象としないこともある。)
実務経験のある教員による授業科目	未定。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目･授業内容	教員名	教室
1回	11	11	月	1	高次口腔医療学1	未定	講義室3B
2回	11	13	水	1	高次口腔医療学2	未定	講義室3B
3回	11	13	水	2	高次口腔医療学3	未定	講義室3B
4回	11	15	金	1	高次口腔医療学4	未定	講義室3B
5回	11	15	金	2	高次口腔医療学5	未定	講義室3B
6回	11	18	月	1	高次口腔医療学6	未定	講義室3B
7回	11	20	水	1	高次口腔医療学7	未定	講義室3B
8回	11	20	水	2	高次口腔医療学8	未定	講義室3B
9回	11	25	月	1	高次口腔医療学9	未定	講義室3B
10回	11	27	水	1	高次口腔医療学10	未定	講義室3B
11回	11	27	水	2	高次口腔医療学11	未定	講義室3B
12回	11	29	金	1	高次口腔医療学12	未定	講義室3B
13回	11	29	金	2	高次口腔医療学13	未定	講義室3B
14回	12	2	月	1	高次口腔医療学14	未定	講義室3B
15回	12	4	水	1	高次口腔医療学15	未定	講義室3B
16回	12	4	水	2	高次口腔医療学16	未定	講義室3B
17回	12	9	月	1	高次口腔医療学17	未定	講義室3B
18回	12	11	水	1	高次口腔医療学18	未定	講義室3B
19回	12	11	水	2	高次口腔医療学19	未定	講義室3B
20回	12	13	金	1	高次口腔医療学20	未定	講義室3B
21回	12	13	金	2	高次口腔医療学21	未定	講義室3B
22回	12	16	月	1	高次口腔医療学22	未定	講義室3B
23回	12	18	水	1	高次口腔医療学23	未定	講義室3B
24回	12	18	水	2	高次口腔医療学24	未定	講義室3B

専門教養科目

（１）長崎大学歯学部グローカルインターンシップ・プログラム（2 年）・・・・・303
（２）実践臨床歯科英会話（4 年）・・・・・306

年度 2024 学期 3/4Q	曜日・校時 月曜・火曜 1～3 、水曜 2～3	必修選択 必修	単位数 6
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25094902 DNGD11161098 長崎大学歯学部グローカルインターンシップ・プログラム ／ Nagasaki University School of Dentistry Glocal Internship Program		
対象年次 2 年次	講義/演習形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 専門教養科目		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、藤田修一、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、阿部薫明、伊藤公成、門脇知子、佐藤啓子、住田吉慶、井隆司、五月女さき子、吉田教明、佛坂斉祉、田上直美、吉村篤利、岩下未咲、澤瀬隆、村田比呂司、平曜輔、山田志津香、山田朋弘、川﨑五郎、角美佐、高木幸則、倉田眞治、近藤好夫

授業の概要

基礎、臨床歯学各分野の研究室で行われている最先端の生命科学研究活動を理解し、歯科医学研究に関するリサーチマインドを涵養する。歯科医学に関連する国際的な最先端の医学に関連する研究を体験することで、3 年次より選択科目として開講される(長崎大学歯学部の特徴の一つである)歯学研究コースへの入門編として同コース(定員 20 名)へのリクルートをはかる。地球規模の視野で考え、地域視点で行動するグローカルリーダーを育成する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

1) 医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与する基礎的な知識、態度を概説する。
2) 広く歯学を理解できる国際人としての視野を広げ、異種文化を理解できるよう必要とされる知識・技能・態度を身につける。
3) 長崎大学が提唱する「グローカル:地球規模の視野で考え、地域視点で行動する(Think globally, act locally)を実践するための広い視野を身につける。

個別行動目標 SBOs:

1. 地球規模の視野で考え、地域視点で行動することの重要性を説明できる。
2. 歯科医療の継続的な改善の必要性と科学的研究の重要性を説明できる。
3. 歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理できる。
4. 国際共同研究による科学的研究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に積極的に参加する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-2 医学知識と問題対応能力
A-2-1)課題探求・解決能力
A-2-2)学修の在り方
A-7-2)国際医療への貢献
A-8 科学的探究
A-8-1)医学研究への志向の涵養
A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
A-9-1)生涯学習への準備

対応するディプロマポリシー

DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP10:離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

1) 歯学部の Principal Investigator (PI;主任研究者/教授・准教授)による最新研究知見のワークショップ(オムニバス講義)
2) 海外(短期)留学経験者による、学修認定報告会
3) 歯学研究コース履修者による研究成果報告会
4) 英語でのオンラインコースの受講(別紙参照)

授業内容

1) 歯学部の Principal Investigator (PI;主任研究者/教授・准教授)による最新研究知見のワークショップ(オムニバス講義)聴講
2) 海外(短期)留学経験者による、学修認定報告会への参加
3) 歯学研究コース履修者による研究成果報告会の聴講とプレゼン審査 (学生(2 年生)審査員による投票)
4) 推奨するオンラインコースから希望のコースを受講(20 時間以上の学習を要する)

キーワード	リサーチマインド
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材
成績評価の方法・基準等	講義内容に関するレポートと自習時間でのオンラインコースの受講修了証の提出で評価する
受講要件(履修条件)	総授業数の 2/3 以上の出席が必要
備考(学生へのメッセージ)	各教員に積極的に質問してください。

「長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム」 日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	1-3	(教務委員長) 長崎大学グローカルインターンシップ・プログラムについて	教務委員長	講義室6B
2回	10	1	火	1-3	(加齢口腔生理学) 日常生活の生理的タイミングを制御するサーカディアンリズムのメカニズムについて、加齢口腔生理学分野で取り組むChrono-Dentistryの視点から解説する。	中村　渉	講義室6B
3回	10	2	水	1-3	(口腔病理学) 人体病理学と研究倫理、病理学研究の事例 診断病理学の臨床への貢献　ーオーダーメイド医療とコンパニオン診断ー	藤田　修一	講義室6B
4回	10	7	月	1-3	(顎顔面解剖学) 歯の形態からみた形質人類学と歯の古病理学	小山田　常一	講義室6B
5回	10	8	火	1-3	(細胞生物学) 骨の幹細胞は骨の成長や再生に貢献すると同時にがんの起源にもなり得る。 ユニークな幹細胞を可視化し、その運命を追跡する最先端の研究を紹介する。	松下　祐樹	講義室6B
6回	10	9	水	1-3	予備日		講義室6B
7回	10	15	火	1-3	(口腔病原微生物学) 歯周病原細菌のゲノム解析研究について実例を用いて説明する。 さらにゲノム解析結果を応用した研究について解説を行う。	内藤　真理子	講義室6B
8回	10	16	水	1-3	(歯科薬理学) 細胞内小器官のリソソームの機能と病態について解説する	筑波　隆幸	講義室6B
9回	10	21	月	1-3	(生体材料学) 生体材料とは？　生体材料の諸性質と利用法等について 材料科学的手法に基づいて解説する。	渡邊　郁哉	講義室6B
10回	10	22	火	1-3	(生体材料学) 臨床応用を目指した新規な歯科用生体材料の設計・開発について、化学的な 観点からのアプローチについて紹介する。	阿部　薫明	講義室6B
11回	10	23	水	1-3	(分子硬組織生物学) 腫瘍の発症と悪性化を支配する転写因子の機能について，最新の知見を 紹介する。	伊藤　公成	講義室6B
12回	10	28	月	1-3	(フロンティア口腔科学) 細胞内分子輸送と免疫応答	門脇　知子	講義室6B
13回	10	29	火	1-3	(総合歯科臨床教育学) 小児の口腔機能の発達	近藤　好夫	講義室6B
14回	10	30	水	1-3	(先進口腔医療開発学) 口腔組織の再生医療研究について概説する。 臨床研究を概説し、再生医療の実用化研究について紹介する。研究留学の紹介。	住田　吉慶	講義室6B
15回	11	5	火	1-3	(先進口腔医療開発学) 唾液の機能、唾液腺とその疾患について概説する。 シェーグレン症候群に対する治療開発の先端的研究を紹介する。	井　隆司	講義室6B
16回	11	6	水	1-3	(口腔保健学) エビデンスに基づいた周術期口腔機能管理 台湾留学体験記	五月女さき子	講義室6B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
17回	11	11	月	1-3	予備日		講義室6B
18回	11	12	火	1-3	(歯科矯正学) 矯正力による生体の応答と歯の移動のメカニズム	佛坂　斉祉	講義室6B
19回	11	13	水	1-3	(小児歯科学) 小児・障害者・有病者の歯科治療における問題点とその解決法について 臨床的および臨床研究的観点から概説する。	田上　直美	講義室6B
20回	11	18	月	1-3	(歯周歯内治療学) 歯周病と全身との関わりについて	岩下　未咲	講義室6B
21回	11	19	火	1-3	(歯周歯内治療学) 世界的規模での歯周病学におけるトピックスと長崎・離島へき地における 地域的問題点について概説する。	吉村　篤利	講義室6B
22回	11	20	水	1-3	(口腔インプラント学) インプラント治療の歴史や臨床の実際について解説し，当分野が進めている 荷重環境下におけるインプラント周囲の骨質研究を紹介する.	澤瀬　隆	講義室6B
23回	11	25	月	1-3	(歯科補綴学) 義歯用材料の国内外の研究動向及びISO規格の重要性について解説する。 また歯科材料関係の留学について体験談をお話する。	村田　比呂司	講義室6B
24回	11	26	火	1-3	予備日		講義室6B
25回	12	2	月	1-3	(保存修復学部門) 新素材を利用した歯冠修復および接着性補綴に関する研究を紹介する	平　曜輔	講義室6B
26回	12	3	火	1-3	(保存修復学部門) 歯延命に向けた象牙質コラーゲンの役割と次世代型象牙質改質技術の展開	山田　志津香	講義室6B
27回	12	9	月	1-3	(口腔顎顔面外科学) 口腔外科分野におけるクリニカルクエスチョンとサイエンスによる解決	山田　朋弘	講義室6B
28回	12	10	火	1-3	(口腔顎顔面外科学) 1)口腔癌の臨床病理学的研究 2)環境汚染と人体の反応;カネミ油症研究を題材として	川﨑　五郎	講義室6B
29回	12	16	月	1-3	(口腔診断・情報科学) シェーグレン症候群を対象とした画像研究およびAIの応用研究について 概説する	高木　幸則	講義室6B
30回	12	17	火	1-3	(口腔診断・情報科学) 頭頸部腫瘍を対象としたMR機能画像解析研究およびAIの応用研究について 概説する	角　美佐	講義室6B
32回	12	23	月	7-8	(基礎)歯学研究成果報告会	教務委員長	講義室3A
31回	12	24	火	1-3	(歯科麻酔学) オピオイドの耐性形成・痛覚過敏の分子生物学的機序についての研究と 最近の知見について	倉田　眞治	講義室6B
33回	1	6	月	1-3	(フロンティア口腔科学) 病原細菌のタンパク質分泌機構と運動機構の概説します。	佐藤　啓子	講義室6B
34回	1	7	火	1	(教務委員長) 研究コース説明会	教務委員長	講義室6B
35回	1	14	火	1-3	(歯科矯正学) 矯正歯科医療～世界の潮流と未来展望	吉田　教明	講義室6B

年度 2024 学期 3・4Q	曜日・校時 火・7～8	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25094901 DNGD11062098 実践臨床歯科英会話/(Chair-side Dental English Communication)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 専門教養科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp/生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00

担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド・アリレザ、David Atwood (非常勤講師)、

授業の概要
基礎的な臨床歯科英会話の能力を身につける。歯科の各診療科で行われる診断や治療内容について、その専門歯科的な英語表現を習得し、シミュレーションに応じて患者にわかりやすく説明する。また、患者とのよりよいコミュニケーションを図るための日常会話を組み込み、会話を重点に置いた実践的な英会話レッスンを行う。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科英語用語をマスターする

個別行動目標 SBOs:
外国人患者に歯科に関する診査と診断、治療内容について英語で説明できるようになる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
該当なし

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各種歯科診療科のトピックスに合わせて、実践の英会話を外国人講師と行う。

授業内容
1 回目: Orientation: Overview the class schedule, grading, goals, and objectives for the course, introduce yourself Introduction to Web class and CALL system (check your log-in/password)
2 回目: Lesson 1. First Visit (初診)
3 回目: Lesson 2. Endodontics and Operative Dentistry (保存処置)
4 回目: Lesson 3. Periodontal Treatment (歯周処置)
5 回目: Lesson 4. Prosthodontic Treatments Using Crowns and Bridges (クラウン・ブリッジによる補綴処置)
6 回目: Lesson 5. Implant Therapy (インプラント治療について)
7 回目: Lesson 6. Removable Prosthodontic Treatment (可撤性義歯による処置)
8 回目: Lesson 7. Preventive Dentistry (歯科予防処置)
9 回目: Lesson 8. Treatment for Children (小児への処置)
10 回目: Lesson 9. Orthodontic Treatment (矯正処置)
11 回目: Lesson 10. Esthetic Dentistry (審美歯科)
12 回目: Lesson 11. Temporomandibular Joint Disorders (顎関節症)
13 回目: Lesson 12. Dysphagia Rehabilitation (摂食・嚥下リハビリテーション)
14 回目: Lesson 13. Special Dental Treatment (特殊な歯科処置)
15 回目: Lesson 14. Oral Surgical Treatment and Dental Anesthesia (口腔外科と歯科麻酔処置)

キーワード	歯科英単語、歯科英会話
教科書・教材・参考書	チェアーサイドの臨床歯科英会話, 加藤有三監修, 医歯薬出版 補助教材ハンドアウト
成績評価の方法・基準等	筆記試験 (毎回の小テスト)、英語での口頭試問、課題レポートの総合評価。定期試験時には、筆記試験ならびに各自、英語でのファイナルスピーチを行う。追試験 (特別な理由がある場合のみ) と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	２/３以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	歯科英語表現の基礎知識を習得する/日常英会話と組み合させて、外国人患者に英語で歯科診療について説明できるようになる。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	7～8	Orientation: Overview the class schedule, grading, goals, and objectives for the course, introduce yourself Introduction to Web class and CALL system (check your log-in/password)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
2回	10	8	火	7～8	Lesson 1. First Visit （初診）	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
3回	10	15	火	7～8	Lesson 2. Endodontics and Operative Dentistry (保存処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
4回	10	22	火	7～8	Lesson 3. Periodontal Treatment (歯周処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
5回	10	29	火	7～8	Lesson 4. Prosthodontic Treatments Using Crowns and Bridges (クラウン・ブリッジによる補綴処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
6回	11	12	火	7～8	Lesson 5. Implant Therapy (インプラント治療について)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
7回	11	19	火	7～8	Lesson 6. Removable Prosthodontic Treatment (可撤性義歯による処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
8回	11	26	火	7～8	Lesson 7. Preventive Dentistry (歯科予防処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
9回	12	3	火	7～8	Lesson 8. Treatment for an Infant (小児への処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
10回	12	10	火	7～8	Lesson 9. Orthodontic Treatment (矯正処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
11回	12	17	火	7～8	Lesson 10. Esthetic Dentistry (審美歯科)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
12回	12	24	火	7～8	Lesson 11. Temporomandibular Joint Disorders (顎関節症)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
13回	1	7	火	7～8	Lesson 12. Dysphagia Rehabilitation (摂食・嚥下リハビリテーション)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
14回	1	14	火	7～8	Lesson 13. Special Dental Treatment (特殊な歯科処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
15回	1	28	火	7～8	Lesson 14. Oral Surgical Treatment and Dental Anesthesia (口腔外科と歯科麻酔処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A

臨床実習（5 年次生，6 年次生）

臨床実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・309

年度 2024 学期 年度跨り	曜日・校時 月～金・Ⅰ～Ⅴ	必修選択 必修	単位数 43
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25044801 DNGD44031991 臨床実習/(Undergraduate clinical training of dental practice)		
対象年次 5・6 年次	講義形態 実習形式(一部講義形式)	教室 長崎大学病院他	
対象学生(クラス等) 第 5 学年前期～第 6 学年前期		科目分類 臨床実習	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	近藤好夫(臨床実習室副室長), 多田浩晃(総合歯科臨床教育学), 久松徳子(医療教育開発センター), 川下由美子(口腔保健学), 佛坂斉祉(歯科矯正学), 西口美由季(小児歯科学), 江越貴文(保存修復学部門), 松裏貴史(歯周歯内治療学), 右藤友督(口腔インプラント学), 吉田和弘(歯科補綴学), 川﨑五郎(口腔顎顔面外科学), 佐々木美穂(口腔診断情報科学), 倉田眞治(歯科麻酔学), 鮎瀬てるみ(特殊歯科総合治療部), 山下裕美(歯科法医学), 吉松昌子(口腔管理センター), 木村泰男(臨床教授)		

授業の概要

臨床実習は附属病院, その他の医療現場において, 実際に患者と接しながら, 指導医の指導・監督の下に実施すべき内容であり, 登院前の臨床開始前実習および実際に患者の診療を行う診療参加型臨床実習で構成される。臨床実習においては, 総合的な診療能力の基本としての知識, 技能及び態度を修得するために, 個々について独立して行うのではなく臨床実習全体を通して体系的に行わなければならない。また法令を遵守し, 社会制度や歯科医療関連法規に沿った診療を行うことを学ぶ。

臨床開始前実習では, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム に示される F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))に基づき, 診療行為全般に対しての準備教育を行う。

診療参加型臨床実習においては, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム に示される G 臨床実習に基づき, 基本的な診察や技能を修得し, 歯科医学・医療の進歩と改善に資するために, 臨床を通して研究意欲と基礎的素養を身に付け, 卒業後に歯科医師としての資質・能力を涵養することを目標とする。その達成のためには, できるだけ自験を行うことが必要であり, 別表(305～306 頁)にある「臨床実習の内容と分類」に記載した実習内容を参照し実習を行う。

授業到達目標

口腔の健康を通じて人の命と生活を守る歯科医師としての職責への自覚を高めるとともに, 患者およびその家族と良好な人間関係を構築する能力, 患者の全人的理解に基づく基本的歯科診療を実践する能力, そして自ら問題を発見して自己学習によってそれを解決する能力を培う。

各診療科等の一般目標(GIO)

1)良好な患者－歯科医師関係を築くとともに, 患者の情報を聴取し仮診断をして適切な診療科へ引き継ぐための知識, 技能および態度を修得する。
2)地域歯科保健活動を実践するために必要な基本的知識・技能および態度を修得する。
3)矯正模型分析に必要な基本的な技能を修得する。矯正診断と治療評価に必要な知識, 技能および態度を修得する。
4)小児歯科臨床に必要な知識, 技能および態度を修得する。
5)コンポジットレジン修復についての知識, 技能および態度を修得する。
6)根管治療についての知識, 技能および態度を修得する。
7)歯周疾患治療のために, 歯周基本治療についての知識, 技能および態度を修得する。
8)クラウンブリッジによる補綴歯科治療についての知識, 技能および態度を修得する。
9)患者を中心とした歯科医療の実践に必要な有床義歯治療の知識, 技能および態度を修得する。また摂食嚥下障害も含め, 口から食べることを歯科医師として理解する。
10)顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し, 診断を導く思考力および判断力を養い, 全身管理も含めた治療方針を決定する能力を身につける。
11)各種疾患の診断に必要な画像検査を選択し, 画像診断の方法を修得するとともに, 放射線防護の実践のための基本的知識, 技能を修得する。
12)患者の全身状態を把握する意義を学び, 全身状態に配慮した, 安全な歯科診療の基本を理解する。
13)障害者および有病者の診療に参加することにより, これらの患者に対する口腔管理を体得し, ノーマライゼーションの概念, 口腔管理の重要性を理解し, 「口の健康を通して人の生活の質(QOL)を守る」という歯科医師の役割を理解する。
14)災害, 事故, 犯罪等の身元不明死体における個人識別(身元確認)の重要性を理解する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))
F-1 診療の基本
F-1-1) 口腔内の診察・記録
F-1-2) 医療安全・感染対策
F-2 基本的診察法
F-2-1) 医療面接
F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査
F-3 基本的臨床技能
F-3-1) 共通事項
F-3-2) 歯科保健指導
F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の治療
F-3-4) 歯質と歯の欠損の治療
F-3-5) 小手術・口腔粘膜疾患の治療
F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療
F-3-7) 高齢者・障害者等患者への治療
G 臨床実習
G-1 診療の基本
G-1-1) 臨床診断・治療計画
G-1-2) 医療安全・感染対策
G-2 基本的診察法
G-3 基本的臨床技能
G-4 チーム医療・地域医療
G-5 患者中心の医療

授業方法(学習指導法) 臨床開始前実習(OSCE に合格している場合はその一部を免除することがある) 病院歯科外来および入院病棟における臨床実地全般 離島歯科医療・福祉・保健実習 歯科健診等地域医療実習 臨床歯学セミナー	
対応するディプロマポリシー DP3　歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。 DP4　歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP5　歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ，リサーチマインドを修得している。 DP6　多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し，先端的医療を実践するために，生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。 DP7　患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。 DP8　患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。 DP9　多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。	
授業内容 「臨床開始前実習の手引き」「臨床実習の手引き」参照	
キーワード	診療参加型臨床実習，歯学教育モデル・コア・カリキュラム
教科書・教材・参考書	特に指定しない
成績評価の方法・基準等	1．出席(実習であるため各分野実習全日程の 4 分の 3 以上が必要) 2．各分野が設定する到達目標をすべて達成すること 3．歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC PX)に合格すること 4．臨床知識理解度試験に合格すること 以上の点について総括的評価を行い，臨床教育委員会の承認を受け合否を判定する。
診療参加型臨床実習受講要件(履修条件)	第 5 学年前期までの全科目および共用試験(CBT，OSCE)に合格すること。
備考(学生へのメッセージ)	【臨床実習の手引き　序言より抜粋・改変】 歯学教育における卒前の臨床教育は、歯科医師としての考え方、知識、技術を修得するための最も重要な実習である。これまで諸君が経験してきた教育は学生と教員の共同作業であった。しかし、臨床実習はこの中に**患者という病んだ第三者が介在する全く新しい授業形態**である。諸君はまずこのことを心してほしい。加えて臨床実習は諸君の**勉学意欲の如何によって得るものの質と量に大差がつく**という危うさも持ち合わせている。諸君の積極的な学習を期待したい。 本学部における臨床実習の特徴は、個々の臨床実習生に患者を担当させ、実際に診療行為を行わせることである。これは、自分で**主体的**に行うことが生きた成果を獲得しやすく、意欲も沸いてくるという教育理念に基づくものである。しかし、現時点では歯科医師としての資格のない諸君が行うのであるから、インストラクターの監督下でしか許されないという制約があるのは当然である。見守るインストラクターの心労も察して欲しい。医療を学ぶ者として、また、次回も来院してもらうためにも、患者さんの信頼を失わない努力を心がける必要がある。 令和3年5月28日歯科医師法が一部改正され、臨床実習に対する社会の考え方が大きく変革されることとなった。以下に条文の一部を抜粋する。

	歯科医師法第 17 条 歯科医師でなければ歯科医業をなしてはならない。 歯科医師法第 17 条の2 大学において歯学を専攻する学生であって、当該学生が臨床実習を開始する前に修得すべき知識および技能を具有しているかどうかを評価するために大学が共用する試験として厚生労働省令で定めるものに合格したものは、前条の規定にかかわらず、当該大学が行う臨床実習において、歯科医師の指導監督の下に、歯科医師として具有すべき知識および技能の修得のために歯科医業（政令で定めるものを除く。次条において同じ。）をすることができる。なお、上記は令和 6 年 4 月 1 日より施行される。 社会はもはや諸君を学生では無く歯科医師として位置付け、知識、技能の修得に期待を寄せていると言うことである。裏返せば、社会は諸君にプロフェッショナルとしての態度、行動を求めていることに他ならない。 臨床実習は主として病院本館6階の歯科系診療部門内臨床実習室をホームグランドとして行われるが、これだけでは症例が限定される。そこで、少人数のグループ単位で各科へ出かける特別実習も組まれている。 さらに、これらの臨床実習が病院内における日常業務の一環として行われていることにも留意すべきである。カルテを出したり料金を受け取ったりする事務職員や、器材の整備、発注をする歯科衛生士、看護師など全職員の支援を受けて成り立っていることを忘れてはならない。
実務経験のある教員による授業科目	別冊「臨床実習の手引き」に記載の担当教員全員／長崎大学病院での歯科臨床経験／診療実務経験を活かし，診療能力としての基本的知識，技能，態度を修得するための指導を行う。

臨床実習の内容と分類

Gの項目		Ⅰ．指導者のもと実践する （自験を求めるもの）	Ⅱ．指導者のもとでの実践が望まれる （自験不可の場合は シミュレーション等で補完する）
1　診療の基本	臨床診断・治療計画	診断と治療計画の立案（咬合が安定している）	診断と治療計画の立案（咬合を安定させる処置が必要）
	病態写真・模型	口腔・顔面の写真撮影、研究用模型の製作	
	診療録・処方箋	診療録の作成、処方箋の作成、技工指示書の作成	
2　基本的診察法	医療面接	医療面接（成人）	医療面接（高齢者）
	バイタルサイン	血圧・脈拍・呼吸・体温の測定	
	頭頸部・口腔の診察	頭頸部・口腔の視診・触診・打診・聴診	
	画像検査	口内法エックス線撮影	パノラマエックス線撮影
	臨床検査		
		温度診、電気診、透照診	う蝕リスク検査
		根管長測定	根管内細菌培養検査
		歯周組織検査（歯の動揺度検査、歯周ポケット検査、プラーク指数測定、歯石指数測定、出血指数測定）	
		咬合検査	咀嚼能率検査
3　基本的臨床技能	共通	手洗い（衛生的・手術時）、滅菌手袋の装着、ガウンの装着	
		局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）	局所麻酔（伝達麻酔）
		中間技工物の製作（咬合床、トレー　他）	
		ポートフォリオの作成	症例報告資料の作成と実施
	口腔外科系	永久歯の単純抜歯	小膿瘍切開、縫合、抜糸
	保存系	コンポジットレジン修復（単純窩洞）、メインテナンス、象牙質知覚過敏処置	コンポジットレジン修復（複雑窩洞）、補修修復、メタルインレー修復（複雑窩洞）、グラスアイオノマーセメント修復
		ラバーダム防湿、感染根管治療（根管充填を含む：単根歯）	覆髄法（直接・間接）、暫間的間接覆髄法、歯髄鎮痛消炎療法、抜髄法、感染根管治療（根管充填を含む：複根歯）
		歯周基本治療（プラークコントロール指導、スケーリング・ルートプレーニング）、メインテナンス	歯周基本治療（咬合調整）、暫間固定（簡単なもの）
	補綴・リハビリ系	クラウンによる補綴治療（支台歯形成、但し支台築造を除く）、プロビジョナルレストレーション、メインテナンス	支台築造（メタルポストコア、レジンポストコア、ファイバーポストコア） 平行関係に問題のないブリッジの支台歯形成と補綴治療
		可撤性義歯による簡単な欠損補綴治療、可撤性義歯の簡単な修理・調整、メインテナンス	可撤性補綴装置による欠損補綴治療、補綴装置破損の修理・調整、メインテナンス
	予防・指導系	口腔清掃	フッ化物塗布、予防填塞
		セルフケアに対する動機づけ、口腔衛生指導	食事指導、食育指導、高齢者に対する栄養指導、生活習慣に関する指導、禁煙指導・支援
	小児・矯正系	診療の基本、予防・指導系に同じ	模型分析・頭部エックス線規格写真分析、診断、治療計画の立案
	高齢者・障害者		
4　チーム医療・地域医療		地域包括ケアシステムの体験	社会福祉施設等での歯科保健指導 地域歯科保健活動

※自験の定義：指導歯科医の管理・監督の下で、学習者が実際に歯科医行為を経験する実習

（「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告を踏まえた第3回フォローアップ調査まとめ（平成28年3月31日）」より抜粋）

Ⅲ. 指導者の介助をする	Ⅳ. 指導者のもとで見学・ 体験することが望ましい
診療情報提供書（医科診療所・病院・病院歯科・施設宛て等）の作成	手術記録・麻酔記録の作成
医療面接（小児・障害者等）	医療面接（救急処置の必要な場合）
	救急処置の治療
口外法エックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、歯科用CBCT	CT、MRI、超音波検査、造影検査
塗抹検査	採血、血液検査、免疫学的検査、生化学検査、一般細菌検査、心電図検査、呼吸機能検査、心理学的検査、止血機能検査、末梢神経機能検査
	根管内視鏡検査、実体顕微鏡による検査
	口臭検査
唾液分泌能検査、顎口腔機能検査、舌圧検査	金属アレルギー検査
	嚥下機能検査
	細胞診検査、病理組織学的検査
精神鎮静法と周術期管理	全身麻酔法と全身管理 入院患者管理
永久歯の複雑抜歯、小手術（埋伏歯の抜歯、歯根端切除術　他）	全身麻酔下での口腔外科手術
セラミックインレー修復、レジンインレー修復、ラミネートベニア修復、生活歯の漂白処置	レーザーによるう蝕除去
外傷歯の処置、失活歯の漂白処置、歯内−歯周病変の処置、断髄法、アペキシフィケーション、ヘミセクション	外科的歯内療法（歯根端切除等）、歯の再植と移植
暫間固定（複雑なもの）、歯周外科手術（歯周ポケット掻爬術　他）	永久固定、歯周外科手術（フラップ手術　他）
困難なクラウンブリッジの支台歯形成と補綴治療	可撤性支台装置による複雑な欠損補綴治療、デンタルインプラント、顎関節症治療、CAD/CAM法
困難な可撤性補綴装置による欠損補綴治療、複雑な補綴装置破損の修理・調整、摂食嚥下リハビリテーション	顎顔面欠損補綴治療
フッ化物洗口法の実施指導等	
学校歯科健康診断等での保健指導、小児等に対する歯科保健指導	
乳歯のう蝕治療、乳歯の単純抜歯、断髄法、簡単な装置の作成	行動変容法、咬合誘導、保隙処置、包括的矯正治療
障害者の歯科治療 口腔衛生指導 移乗	薬物的行動調整下での歯科治療 在宅医療 医療連携
在宅医療（口腔清掃を含む）	地域包括ケアシステムを踏まえた病診・病病連携、多職種連携によるチーム医療

研究科目（3 年次生、4 年次生、5 年次生、6 年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論　（3 年）・・・・・・・・・・・・・ 315
基礎歯学研究　（3・4 年）・・・・・・・・・・・・317
臨床歯学研究概論　（4 年）・・・・・・・・・・・・・ 320
歯学研究　（5・6 年）・・・・・・・・・・・・323

年度 2024 学期 1･2Q	曜日･校時 金･4～6 or 6～8	必修選択 選択	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25104901 DNDR33441993 基礎歯学研究概論/(The Outline of Basic Dentistry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学研究コース		科目分類 研究科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、藤田修一、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、佐藤啓子

授業の概要

各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介し、今後の研究活動の動機づけとする。
基礎歯学研究における配属先研究室を選択する。

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

一般目標 GIO:
本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。
個別行動目標 SBOs:
本大学院の基礎歯学分野の研究内容を説明できる。 A-8-1)

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各基礎系分野担当教員のオムニバス形式で講義を行う。

授業内容
1 回目 歯学研究コース概要、研究倫理に関する講義(角教務委員長)
2 回目 顎顔面解剖学:歯科人類学の基礎と応用
3 回目 細胞生物学:骨の幹細胞の運命追跡:骨の成長、再生、発がんに関わるユニークな幹細胞の研究について
4 回目 口腔病理学:病理学と病理診断について
5 回目 口腔病原微生物学:歯周病細菌の病原因子(プロテアーゼなど)について
6 回目 歯科薬理学:エンドソーム･リソソームの機能と病態および歯科への応用について
7 回目 生体材料学:歯科用生体材料の物性(機械的性質や物理的性質、化学的性質)について
8 回目 分子腫瘍生物学:遺伝子改変マウスを用いた腫瘍発症メカニズムの解析について
9 回目 フロンティア口腔科学:免疫応答と口腔疾患について
10 回目 加齢口腔生理学:体内時計の神経生理メカニズムに関する研究について

キーワード	
教科書･教材･参考書	なし
成績評価の方法･基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後 1 週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 2/3 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。
実務経験のある教員による授業科目	藤田 修一／長崎大学病院での病理診断実務経験／長病理診断科・病理部で行っている組織診断のための検体処理と病理組織試料を用いた研究について概説する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	金	4	(歯学研究コース概要・研究倫理について) 歯学研究コース履修に関する説明と質疑応答を行い、研究倫理に関する講義を行います。	角 教務委員長	別途掲示
2回	4	12	金	4～6	(顎顔面解剖学) 歯科人類学の基礎と応用、およびその成果の一部について紹介すると同時に、今後の実習内容について紹介する。	小山田	
3回	4	19	金	4～6	(細胞生物学) 骨の成長や再生、発がんに関わるユニークな骨の幹細胞について、最新の研究内容を紹介し、今後の実習内容について説明します。	松下	
4回	4	26	金	4～6	(口腔病理学) 口腔疾患の組織学的診断と基礎研究、及び口腔病理学でのコースの概要を説明します。	藤田	
5回	5	10	金	4～6	(口腔病原微生物学) 歯周病細菌の病原性に関するこれまでの当教室の研究内容を紹介し、コースワークでの今後の実験研究内容について紹介します。	内藤	
6回	5	24	金	6～8	(歯科薬理学) リソソームの機能とその疾患について、これまでの薬理学分野の研究内容の紹介、および今後の実習内容について紹介します。	筑波	
7回	5	31	金	6～8	(生体材料学) 歯科用生体材料の各種物性と臨床適応について、これまでの生体材料学分野の研究内容の紹介、および今後の実験研究について紹介します。	渡邊	
8回	6	7	金	6～8	(分子腫瘍生物学) 分子腫瘍学に関する最新の知見を紹介し、今後の実習内容について説明します。	伊藤	
9回	6	14	金	6～8	(フロンティアロ腔科学) 感染症やアレルギー疾患など免疫が関わる疾患について当分野の研究成果を紹介し、今後の実習内容について説明します。	門脇 佐藤	
10回	6	28	金	4～6	(加齢口腔生理学) サーカディアンリズムを制御する神経回路に関する研究を紹介し、今後の実験研究内容について説明します。	中村	

年度 2024 学期 通年	曜日・校時 3 年次/金・6～8 、 4 年次/月・7～8	必修選択 選択	単位数 5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104902 DNDR33451993 基礎歯学研究/(Basic Dental Reseach)		
対象年次 3 年次、4 年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系研究室	
対象学生(クラス等) 歯学研究コース		科目分類 研究科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、藤田修一、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、佐藤啓子、住田吉慶

授業の概要

配属先の基礎系研究室で研究を行う。積極的に活用して，歯学の最先端の研究活動に参加する機会とすること。
指導の一貫で，海外大学研究施設におけるフィールドワークや講義の聴講を実施することがある。

授業到達目標
一般目標 GIO: 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
配属先の基礎歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加する。
個別行動目標 SBOs:
配属先の基礎系研究室で歯学研究活動を行うことができる。 A-8-1)

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
各基礎系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。

授業内容
○ 3年次と4年次で実施日が以下のとおり異なるので留意すること。
3年次:前後期の金曜日 6～8 校時(基礎歯学研究概論受講後に開始)
4年次:前後期の月曜日 7～8 校時
※実験など内容によっては回数や時間数が変更になる場合もある。
○ 各コース内容に関しては次項の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。
(コース)
1.顎顔面解剖学研究:形質人類学における歯の形態学的アプローチについて学習する。
2..細胞生物学研究:発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨の発生、再生、がんに関する研究を行う。
3.加齢口腔生理学研究:体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。
4.口腔病理学研究:病理標本の作製実習、臨床症例の病理組織学的検討、疾患の分子生物学的解析を行う。
5.口腔病原微生物学研究:細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定
6.歯科薬理学研究:実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定
7.生体材料学研究:歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定
8.分子腫瘍生物学研究:遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。
9.フロンティア口腔科学研究:細胞生物学・分子生物学的手法、遺伝子改変動物を用いて、免疫・炎症に関する研究を行う予定。
10.硬組織疾患研究:口腔組織の再生医療について、細胞培養や移植実験などを通して幹細胞を用いたアプローチについて学習する。(R4年度より先進口腔医療開発学となるため新規受入予定なし)

キーワード	
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材
成績評価の方法・基準等	主に発表内容， レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。

受講要件(履修条件)	・学校推薦型選抜者以外で歯学研究コースの履修を希望する者は、2 年次後期の所定の期日までに学部長に履修希望届を提出し、許可を受けなければならない。 ・履修希望届の提出があった者に対して教務委員会が選抜のうえ学部長に推薦し、学部長が許可する。 ・基礎歯学研究概論を受講後に希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限が掛かる場合も有ります。 ・全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	藤田　修一／長崎大学病院での病理診断実務経験／病理診断科・病理部での検体処理の見学。同施設の症例を用いた標本作製と組織診断の体験。組織試料を用いた研究を行う。

コース表

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	形質人類学における人骨資料や生体資料からのデータ採取、解析、結果の解釈などについて学習する。 定員は1名の予定	3年次/金6～8 4年次/月7～8	小山田
2	細胞生物学研究	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1～2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は2名の予定		藤田 片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1～2名の予定		内藤 庄子
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 坂井 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 阿部 バラネザハド
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。 定員は2名の予定		伊藤 大谷
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。 定員は2名の予定		門脇 佐藤

※4年次について、11/11（月）及び11/18（月）は「総合歯科学Ⅰ」を受講すること。

年度 2024 学期 3･4Q	曜日･校時 木･8	必修選択 選択	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25104903 DNDR44041993 臨床歯学研究概論/(The Outline of Clinical Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室6A	
対象学生(クラス等) 歯学研究コース		科目分類 研究科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角 忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	川下由美子、吉田教明、田上直美、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、平 曜輔、山田朋弘、住田吉慶、角 美佐、倉田眞治

授業の概要

本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。
臨床歯学研究における配属先研究室を選択する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。 【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
個別行動目標 SBOs:
本大学院の臨床歯学分野の研究内容を説明できる。 A-8-1)

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各臨床系分野担当教員によるオムニバス講義を行い、各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介する。

授業内容

1 回目 口腔保健学:口腔と全身との関連性を見いだし、実験で機序を解明していく全体の流れについて
2 回目 小児歯科学:小児歯科における最新の研究トピックスについて
3 回目 歯周歯内治療学:歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について概説する
4 回目 口腔インプラント学:インプラントに関わる生物学的研究, 材料学的研究について概説する
5 回目 保存修復学部門:低侵襲性歯冠修復に関わる研究バイオインスパイアードサイエンスについて述べる
6 回目 歯科補綴学:義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究
7 回目 口腔顎顔面外科学:口腔外科疾患のクリニカルクエスチョンとその検証法について概説する
8 回目 先進口腔医療開発学:口腔疾患に対する再生医療のトランスレーショナル研究について概説する
9 回目 口腔診断･情報科学: MR 機能画像を用いた頭頸部病変の解析法および診断法について概説する
10 回目 歯科麻酔学:麻酔の周術期に、呼吸と循環生理の生体内調節機能が破綻すると、どのような病態が起こるかについて
11 回目 歯科矯正学:歯の移動の生物学的･生体力学的メカニズムや顎口腔系の機能と形態について

キーワード	
教科書･教材･参考書	なし
成績評価の方法･基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後 1 週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 2/3 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。

実務経験のある教員による授業科目	・川下　由美子／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・田上　直美／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・吉村　篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・村田　比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・平　曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・山田　朋弘／長崎大学病院における診療業務／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・住田　吉慶／長崎大学病院における診療業務／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・角　美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・倉田　眞治／大学病院における診療経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・吉田　教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	木	8	（口腔保健学） 口腔と全身との関連性について、これまでどのように解明されてきたか、その研究手法について、また当教室の研究内容について概説する。	川下	講義室6A
2回	10	10	木	8	（小児歯科学） 当小児歯科学分野で行われている研究の最新のトピックス（基礎的研究，乳歯，疾患，障害に関する臨床研究）について説明する.	田上	講義室6A
3回	10	17	木	8	（歯周歯内治療学） 歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について概説するとともに、どのような実験を行って発症のメカニズムを明らかにするのかを説明する。	吉村	講義室6A
4回	10	24	木	8	（口腔インプラント学） インプラントに関わる生物学的研究，材料学的研究について概説し，今後の実習内容について説明する。	澤瀬	講義室6A
5回	10	31	木	8	（歯科補綴学−保存修復学部門） 低侵襲性歯冠修復に関わる研究バイオインスパイアードサイエンスについて述べる。	平	講義室6A
6回	11	7	木	8	（歯科補綴学） 当教室が行っている義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究について紹介し、実習内容を説明します。	村田	講義室6A
7回	11	14	木	8	（口腔顎顔面外科学） 口腔癌や顎骨壊死、顎変形症など口腔外科疾患の診断・治療に関するクリニカルクエスチョンと、それに関する研究について概説する。	山田	講義室6A
8回	11	21	木	8	（先進口腔医療開発学） 新規治療開発に必要な臨床試験／医師主導治験について、当分野で実施している再生医療のトランスレーショナル研究から概説する。	住田	講義室6A
9回	11	28	木	8	（口腔診断・情報科学） MR機能画像を用いた頭頸部病変の解析法および診断法について概説する。	角	講義室6A
10回	12	5	木	8	（歯科麻酔学） 麻酔の周術期に、呼吸と循環生理の生体内調節機能が破綻すると、どのような病態が起こるかについて説明します。	倉田	講義室6A
11回	12	12	木	8	（歯科矯正学） 歯科矯正学:矯正力により、どのようにして歯が移動するのか？そのメカニズムに関する生物学的・生体力学的アプローチ、顎口腔における機能と形態の関連について当教室の研究を紹介し、今後の実験内容について説明します。	吉田	講義室6A

年度 2024 学期 通年	曜日・校時 5年次/(前)火・8 (後)水・7 6年次/(前)水・7	必修選択 選択	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104904 DNDR44051993 歯学研究/(Dental Research)		
対象年次 5年次、6年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系、臨床系研究室	
対象学生(クラス等) 歯学研究コース		科目分類 研究科目	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
角忠輝(教務委員長)/sumi@nagasaki-u.ac.jp /総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/当日に各担当者へ直接尋ねること。

担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、藤田修一、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子 住田吉慶、吉田教明、田上直美、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、山田朋弘、倉田眞治、平 曜輔、 山田志津香、角 美佐 他

授業の概要

本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究室で研究を行い、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とする。

授業到達目標
一般目標 GIO:
配属先の基礎・臨床歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加する。
個別行動目標 SBOs: 【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】A-8-1)
配属先の基礎系・臨床系研究室で歯学研究活動を行うことができる。

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各基礎、臨床系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。

授業内容
○ 5年次:前期火曜日8校時、後期の水曜日7校時(60分×30回)
6年次:前期の水曜日7校時(60分×15回)予定 ※実験など内容によっては回数や時間数が変更になる場合もある。
○ 各コース内容に関しては次頁の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。

(基礎系コース)
1.顎顔面解剖学:顎顔面領域形質の小進化について、解剖体や人骨資料をもとに解析を行う。
2.細胞生物学:発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨・軟骨生物学に関する研究を行う。
3.加齢口腔生理学:体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。
4.口腔病理学:病理標本の作製実習、臨床症例の病理組織学的検討、疾患の分子生物学的解析を行う。
5.口腔病原微生物学:細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定。
6.歯科薬理学:実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定。
7.生体材料学:歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定。
8.分子腫瘍生物学:遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。
9.フロンティア口腔科学:培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。

(臨床系コース)
11.口腔保健学:口腔と全身との関連性を見いだし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。
12.歯科矯正学:矯正力による歯の移動に関する基礎、臨床研究を行う。
13.小児歯科学:小児から齲蝕病原細菌の分離とその病原性についての遺伝子工学実験を行う。
14.歯周歯内治療学:歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々なリスク因子の評価法について学習する。
15.口腔インプラント学:生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。
16.歯科補綴学:補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究
17.口腔顎顔面外科学:口腔癌や薬剤関連顎骨壊死の臨床病理学的研究、及び顎変形症などの変形性疾患に対する臨床研究について概説する。
18.先進口腔医療開発学:口腔領域の再生医療に関するトランスレーショナル研究を学ぶ。
19.口腔診断・情報科学: 頭頸部腫瘍を対象に、MR機能画像を用いた臨床研究を行う。
20.歯科麻酔学:動物での基礎研究、人での臨床研究の手法を学ぶ。
21.歯科補綴学(保存修復学部門):歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。

キーワード	
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材
成績評価の方法・基準等	主に発表内容，レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。
受講要件(履修条件)	希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限がかかる場合もある。 全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	指導教員とよくディスカッションするように。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田　教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・田上　直美／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・吉村　篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・平　曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・村田　比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・山田　朋弘／長崎大学病院における診療業務／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・住田　吉慶／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・角　美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・倉田　眞治／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。 ・山田　志津香／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。

コース表

（基礎系コース）

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	顎顔面領域の形質の小進化について、解剖体資料や人骨資料からのデータ採取、解析、結果の解釈を行う。 定員は1名の予定	5年次/前期：火8 後期：水7 6年次/水7	小山田
2	細胞生物学研究	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1～2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は2名の予定		藤田 片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1～2名の予定		内藤 庄子
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 坂井 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 阿部 ﾊﾞﾗﾈｻﾞﾊﾄﾞ
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。 定員は2名の予定		伊藤 大谷
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ 定員は2名の予定		門脇 佐藤

コース表

（臨床系コース）

No.	コース	授業内容	日程	担当者
10	歯科矯正学研究	教員の指導のもと、矯正力による歯の移動や歯根吸収のメカニズムに関する基礎、臨床研究の手法を学ぶ。 定員は2～3名の予定	5年次/前期：火8 後期：水7 6年次/水7	吉田 佛坂 富永 濱中
11	小児歯科学研究	遺伝生化学的実験研究、あるいは小児・障害者を対象とした臨床研究を行う。 定員は1名の予定		田上
12	歯周歯内治療学研究	歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について、どのような方法でそれぞれのリスクを評価するのか学習する。 定員は2～3名程度の予定		吉村 岩下 柳口
13	口腔インプラント学研究	生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 定員は1～2名の予定		澤瀬 右藤
14	歯科補綴学研究	当教室が行っている補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究について概説します。これらの中から指導教官とテーマを決め、実験を行います。 定員は2～3名程度の予定		村田 原田 鳥巣
16	先進口腔医療開発学研究	顎骨や粘膜、唾液腺疾患に関する再生医療のトランスレーショナル研究に参加し、医師主導治験を含めた臨床試験の展開方法を学ぶ。 定員は1～2名の予定		住田 井 叶井
17	口腔診断・情報科学研究	頭頸部腫瘍を対象に、MR機能画像を用いた臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		角 高木
18	歯科麻酔学研究	教員の指導のもと、実験動物を用いた基礎研究の方法、人での臨床研究の方法、実験で得られた呼吸・循環系の測定値の評価について学ぶ。 定員は2～3名の予定		倉田 岡安
19	修復学研究（歯科補綴学）	教員の指導のもと、歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。 定員は1名の予定		平 山田 介田
20	口腔顎顔面外科学研究	口腔癌に関する基礎的，臨床的研究 顎変形症等に関する臨床的研究 定員は2名程度の予定		山田